



Solaris 8 のインストール (上級編)

Sun Microsystems, Inc.
901 San Antonio Road
Palo Alto, CA 94303
U.S.A. 650-960-1300

Part Number 806-2600-10
2000 年 3 月

Copyright 2000 Sun Microsystems, Inc. 901 San Antonio Road, Palo Alto, California 94303-4900 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

RESTRICTED RIGHTS: Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions of FAR 52.227-14(g)(2)(6/87) and FAR 52.227-19(6/87), or DFAR 252.227-7015(b)(6/95) and DFAR 227.7202-3(a).

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスクをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスクをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, Sun Enterprise, SunOS, Solaris JumpStart, AnswerBook2, JumpStart, NFS, OpenWindows, Ultra は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サン・のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社で開発されたソフトウェアです。(Copyright OMRON Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.)

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK8」は株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK8」にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政省が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 8 Advanced Installation Guide

Part No: 806-0957-10

Revision A



目次

- はじめに 15
- 1. **Solaris 8 のインストールについて 21**
 - システムタイプ: サーバーとスタンドアロン 21
 - Solaris ソフトウェアのインストール方法 22
- 2. ディスク容量の計画 25
 - 注意事項 25
 - ソフトウェアグループの推奨ディスク容量 26
- 3. **Solaris 8 CD の構成 27**
 - Solaris 8 用 CD 27
 - Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD の構成 33
 - SPARC: Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (SPARC) 33
 - IA: Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) 33
 - Solaris 8 SOFTWARE CD の構成 34
 - SPARC: Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) 34
 - IA: Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel) 36
 - Solaris 8 LANGUAGES CD の構成 38
 - Solaris 8 DOCUMENTATION ASIAN CD の構成 39
 - Solaris 8 DOCUMENTATION EUROPEAN CD の構成 41
- 4. システム構成情報の事前設定 43

事前設定の方法	44
sysidcfg ファイルによる事前設定	45
キーワードの種類: 依存型と非依存型	46
sysidcfg ファイルの構文規則	46
▼ sysidcfg 構成ファイルを作成する方法	51
ネームサービスによる事前設定	52
▼ NIS を使ってロケールを事前設定する方法	52
▼ NIS+ を使ってロケールを事前設定する方法	55
SPARC: 電源管理情報の事前設定	56
5. Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法	59
システムをアップグレードする	60
ディスクスペースを再配置してアップグレードする	60
アップグレードに関して頻繁に寄せられる質問	61
Solaris 8 または Solaris 8 Update からのアップグレード: パッチアナライザ	62
パッチの解析	62
SPARC: システムのアップグレード	65
▼ SPARC: 作業を始める方法	65
▼ SPARC: システムをバックアップする方法	67
▼ SPARC: アップグレードを計画する方法	69
SPARC: Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法	71
▼ SPARC: 作業を始める方法	71
▼ SPARC: システムを特定する方法	75
▼ SPARC: Solaris 8 ソフトウェアをインストールする方法	88
▼ SPARC: pkgadd によってソフトウェアパッケージを追加する方法	100
▼ SPARC: アップグレード後に整理する方法	101
IA: システムのアップグレード	102
▼ IA: 作業を始める方法	102
▼ IA: アップグレードを計画する方法	104

IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法	105
▼ IA: 作業を始める方法	105
▼ IA: システムを特定する方法	112
▼ IA: Solaris 8 ソフトウェアをインストールする方法	124
▼ IA: pkgadd によってソフトウェアパッケージを追加する方法	138
▼ IA: アップグレード後に整理する方法	139
6. カスタム JumpStart インストールの準備	141
カスタム JumpStart の概要	142
カスタム JumpStart インストール実行時の流れ	143
作業マップ: カスタム JumpStart インストールの準備	146
プロファイルサーバーの作成	148
▼ JumpStart ディレクトリをサーバー上に作成する方法	149
すべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにする	150
▼ すべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにする方法	151
プロファイルフロッピーディスクの作成	152
条件	153
▼ SPARC: プロファイルフロッピーディスクを作成する方法	153
▼ IA: プロファイルフロッピーディスクを作成する方法	155
rules ファイルの作成	158
rules ファイルとは	158
rules ファイルの構文	159
ルールの構文	159
ルールキーワードと値の説明	161
rules ファイル例の内容	166
▼ rules ファイルを作成する方法	167
プロファイルの作成	167
プロファイルとは	167
プロファイルの構文	168

- プロファイルキーワードとプロファイル値の説明 168
- スワップサイズを決定する方法 190
- システムのルートディスクを決定する方法 191
- ▼ プロファイルを作成する方法 192
 - サンプルプロファイル 193
- プロファイルのテスト 196
 - プロファイルのテスト方法 197
 - プロファイルのテストの概要 197
 - pfinstall の構文 198
- ▼ プロファイルをテストする方法 199
 - rules ファイルの妥当性を検査する 202
 - check の構文 202
 - ▼ rules ファイルの妥当性を検査する方法 203
- 7. カスタム **JumpStart** オプション機能の使用 205
 - begin スクリプトの作成 206
 - begin スクリプトとは 206
 - begin スクリプトの使用目的 206
 - begin スクリプトに関する注意事項 206
 - begin スクリプトによる動的プロファイルの作成 206
 - finish スクリプトの作成 207
 - finish スクリプトとは 207
 - finish スクリプトの使用目的 208
 - finish スクリプトに関する注意事項 208
 - finish スクリプトによるファイルの追加 208
 - ▼ finish スクリプトでファイルを追加する方法 208
 - finish スクリプトによるパッケージとバッチの追加 209
 - finish スクリプトによるルート環境のカスタマイズ 210
 - finish スクリプトによるシステムのルートパスワードの設定 211

- SPARC: ディスク構成ファイルの作成 213
 - ▼ SPARC: ディスク構成ファイルを作成する方法 213
- IA: ディスク構成ファイルの作成 215
 - ▼ IA: ディスク構成ファイルを作成する方法 215
- サイト固有のインストールプログラムの使用 219
- カスタム JumpStart の環境変数 220
- 8. カスタムルールおよびプローブキーワードの作成方法 223
 - プローブキーワード 223
 - プローブキーワードとは 223
 - プローブキーワードと値 224
 - カスタムキーワード 226
 - カスタムキーワードとは 226
 - custom_probes ファイルの作成 226
 - custom_probes ファイルとは 226
 - custom_probes ファイルの構文 226
 - custom_probes の関数名の構文 227
 - custom_probes ファイルの例 227
 - rules ファイルで使用されるカスタムプローブキーワードの例 228
 - ▼ custom_probes ファイルを作成する方法 229
 - custom_probes ファイルの妥当性検査 230
 - check の構文 230
 - ▼ custom_probes ファイルを妥当性検査する方法 231
- 9. ネットワーク上で **Solaris** ソフトウェアをインストールする準備 233
 - 作業マップ: ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備 234
 - ネットワークインストールに必要なサーバー 235
 - ネットワークインストールコマンド 237
 - インストールサーバーとブートサーバーの作成 239
 - ▼ インストールサーバーを作成する方法 239

- ▼ ブートサーバーをサブネット上で作成する方法 244
- ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定 248
- ▼ `add_install_client` を使用して、ネットワーク上でインストールするためにシステムを設定する方法 249
- 10. カスタム **JumpStart** インストールの実行 253
 - カスタム **JumpStart** による Solaris のインストール 253
 - ▼ SPARC: カスタム **JumpStart** インストールの実行手順 253
 - ▼ IA: カスタム **JumpStart** インストールの実行手順 258
- 11. カスタム **JumpStart** による **Solaris** ソフトウェアの設定とインストール例 263
 - サイトの設定例 264
 - インストールサーバーの作成 265
 - マーケティングシステム用のブートサーバーの作成 265
 - JumpStart** ディレクトリの作成 266
 - JumpStart** ディレクトリの共有 266
 - SPARC: エンジニアリンググループのプロファイルの作成 267
 - IA: マーケティンググループのプロファイルの作成 267
 - `rules` ファイルの更新 268
 - `rules` ファイルのチェック 269
 - SPARC: ネットワーク上でインストールするためのエンジニアリングシステムの設定 269
 - IA: ネットワーク上でインストールするためのマーケティングシステムの設定 270
 - SPARC: エンジニアリングシステムのブートと Solaris 8 ソフトウェアのインストール 271
 - IA: マーケティングシステムのブートと Solaris 8 ソフトウェアのインストール 271
- 12. 問題発生時の解決方法 273
 - ネットワークインストールの設定 273
 - システムのブート 274
 - エラーメッセージ 274

一般的な問題	276
ネットワーク上のシステムのブート	278
エラーメッセージ	278
一般的な問題	282
Solaris 8 のインストール (初期インストール)	283
Solaris 8 のインストール (アップグレード)	286
一般的な問題	286
A. プラットフォーム名とグループ	289
B. 言語とロケールの値	291
用語集	299
索引	309

表

表P-1	関連情報	17
表P-2	表記上の規則	19
表1-1	Solaris ソフトウェアをインストールするシステムのタイプ	21
表1-2	Solaris ソフトウェアのインストール方法	22
表2-1	推奨ディスク容量	26
表4-1	システム構成情報を事前設定するための方法	44
表4-2	sysidcfg キーワード	47
表5-1	analyze_patches のコマンド行オプション	64
表5-2	アップグレード前に変更が必要なソフトウェア	66
表5-3	完全バックアップコマンド	68
表5-4	作業マップ: 対話式インストールのためのシステムの設定	71
表5-5	インストールログの場所	99
表5-6	アップグレード前に変更が必要なソフトウェア	103
表5-7	作業マップ: 対話式インストールのためのシステムの設定	105
表5-8	インストールログの位置	138
表6-1	作業マップ: カスタム JumpStart インストールの準備	146
表6-2	ルールの構文	160
表6-3	ルールキーワードとルール値の説明	161
表6-4	プロファイルキーワード	169

表6-5	スワップのサイズの決定方法	190
表6-6	JumpStart がシステムのルートディスクを決定する方法 (初期インストールのみ)	191
表6-7	pfinstall コマンド引数の説明	198
表6-8	check スクリプトの流れ	202
表6-9	check スクリプト引数の説明	203
表7-1	インストール環境変数	220
表8-1	プローブキーワードの説明	224
表8-2	custom_probes に定義する関数のタイプ	226
表8-3	check を使用した場合の動作	230
表8-4	check スクリプトの引数の説明	230
表9-1	作業マップ: ネットワーク上で Solaris をインストールする準備	234
表9-2	ネットワークインストールコマンド	237
表10-1	作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定	253
表10-2	インストールログの保存場所	256
表10-3	作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定	258
表10-4	インストールログの保存場所	261
表A-1	プラットフォーム名とグループ	289
表B-1	ロケールの値	291



図3-1	Solaris 8 の主要 CD とフロッピーディスク	29
図3-2	Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (SPARC)	33
図3-3	Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel)	34
図3-4	Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)	35
図3-5	Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)	36
図3-6	Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)	37
図3-7	Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)	38
図3-8	Solaris 8 LANGUAGES CD	39
図3-9	Solaris 8 DOCUMENTATION ASIAN CD	40
図3-10	Solaris 8 DOCUMENTATION EUROPEAN CD	41
図6-1 例	カスタム JumpStart インストールの動作: ネットワークに接続されていないシステムの	144
図6-2 例	カスタム JumpStart インストールの動作: ネットワークに接続されているシステムの	145
図6-3	カスタム JumpStart インストール実行時の流れ	146
図9-1	ネットワークインストールサーバー	237
図11-1	サイトの設定例	264

はじめに

この『Solaris™ のインストール (上級編)』では、SPARC™ および IA (Intel Architecture) ベースの、ネットワークに接続されたシステムとネットワークに接続されていないシステムの両方に、Solaris 8 オペレーティング環境をインストールする方法を説明します。

注 - このマニュアルでは、「IA」という用語は、Intel 32 ビットのプロセッサアーキテクチャを意味します。これには、Pentium、Pentium Pro、Pentium II、Pentium III Xeon、Celeron、Pentium III、Pentium III Xeon の各プロセッサ、および AMD、Cyrix が提供する互換マイクロプロセッサチップが含まれます。

このマニュアルでは、Solaris 8 の対話式インストールプログラムである Solaris JumpStart™ と Solaris カスタム JumpStart を使用して、大規模な企業ネットワーク環境内の複数のシステムで Solaris のインストールを設定、自動化、カスタマイズ、および実行する方法を説明します。

ここでは Solaris Web Start を使用して、ローカルの CD-ROM ドライブから単一のシステムに Solaris 8 をインストールする方法については説明しません。このインストール方法については、『Solaris 8 インストールの手引き』と『Solaris 8 インストールガイド (SPARC 版)』または『Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)』で説明します。

このマニュアルには、システムハードウェアや周辺装置を設定する方法は記載されていません。

注 - Solaris オペレーティング環境は、SPARC と IA の 2 種類のハードウェア (プラットフォーム) で動作します。また、Solaris オペレーティング環境は、64 ビットと 32 ビットの 2 種類のアドレス空間で動作します。特別な章、節、注、リスト、図、表、例、またはコード例でない限り、このマニュアルの情報は両方のプラットフォームおよびアドレス空間に適用されます。

対象読者

このマニュアルは、Solaris オペレーティング環境のインストールを担当するシステム管理者を対象としています。ここで説明する概念と手順を理解するには、1~2 年以上の UNIX のシステム管理経験と、できればコンピュータサイエンスでの学位またはそれに相当する知識が必要です。

内容の紹介

このマニュアルは、次の章から構成されています。

第 1 章では、Solaris 8 をインストールする各種の方法の概要を示します。

第 2 章では、ディスク容量を計画する方法を説明します。

第 3 章では、Solaris 8 CD の構成を示します。

第 4 章では、インストールの構成情報の事前設定方法を説明します。

第 5 章では、Solaris 8 の対話式インストールプログラムを使用して、SPARC および IA ベースのシステムに Solaris をインストールしてアップグレードする方法を説明します。

第 6 章では、カスタム JumpStart インストールを設定して準備する方法を説明します。

第 7 章では、begin および finish スクリプトを作成する方法と、他の任意のカスタム JumpStart 機能を利用する方法を説明します。

第 8 章では、独自のカスタムルールと検証キーワードを作成するための情報と手順を示します。

第 9 章では、ネットワーク上で Solaris ソフトウェアのインストールを準備する方法を説明します。

第 10 章では、カスタム JumpStart インストールを実行する方法を説明します。

第 11 章では、カスタム JumpStart を設定して使用して、SPARC および IA ベースのシステムに Solaris ソフトウェアをインストールする方法の例を示します。

第 12 章では、インストール時に検出される問題を解決する方法を示します。

付録 A には、Solaris ソフトウェアのインストール先システムを準備するときに必要な、各種のハードウェアプラットフォームのプラットフォーム名とグループを示します。

付録 B には、プロファイルに locale キーワードを設定するために必要な値を示します。この値により、システムへの Solaris のインストール方法を定義します。

用語集では、このマニュアルで使用する用語について説明します。

関連情報

表 P-1 に、Solaris ソフトウェアをインストールする際に参考となる関連情報の一覧を示します。

表 P-1 関連情報

プラットフォーム	関連マニュアル	説明
SPARC/ IA	『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』	システムファイルのバックアップ方法が解説されています。
SPARC	『Solaris 8 インストールガイド (SPARC 版)』	Solaris をデスクトップシステムにインストールする手順を説明します。
	『Solaris 8 ご使用にあたって (SPARC 版)』	Solaris リリースに関する、バグ、既知の問題、サポートが中止されたソフトウェア、パッチなどが解説されています。
	『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』	サポートされるハードウェア情報を記載します。

表 P-1 関連情報 続く

プラットフォーム	関連マニュアル	説明
	『Solaris 移行ガイド』	Solaris をインストールする前に Solaris 1.x (SunOS™ 4.x) ファイルをバックアップする方法や、Solaris をインストールした後にファイルを復元する方法などを含む移行作業について説明します。
IA	『Solaris 8 デバイスの構成 (Intel 版)』	デバイスの構成情報を記載します。
	『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』	サポートされるハードウェア情報を記載します。
	『Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)』	Solaris をデスクトップシステムにインストールする手順を説明します。
	『Solaris 8 ご使用にあたって (Intel 版)』	Solaris リリースに関する、バグ、既知の問題、サポートが中止されたソフトウェア、パッチなどが解説されています。

Sun のマニュアルの注文方法

専門書を扱うインターネットの書店 Fatbrain.com から、米国 Sun Microsystems™, Inc. (以降、Sun™ とします) のマニュアルをご注文いただけます。

マニュアルのリストと注文方法については、<http://www1.fatbrain.com/documentation/sun> の Sun Documentation Center をご覧ください。

Sun のオンラインマニュアル

<http://docs.sun.com> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-2 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名称または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep `^#define` \</code> <code>XV_VERSION_STRING'</code>

ただし AnswerBook2™ では、ユーザーが入力する文字と画面上のコンピュータ出力は区別して表示されません。

コード例は次のように表示されます。

■ C シェルプロンプト

```
system% command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのプロンプト

```
system$ command y|n [filename]
```

- スーパーユーザーのプロンプト

```
system# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルで画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。

Solaris 8 のインストールについて

この章では、ネットワークでのシステムのインストールやインストールプロセスの自動化を含む、Solaris 8 ソフトウェアのインストールに最も適した方法を判断するために必要な情報を示します。また、Solaris ソフトウェアのインストール方法についても説明します。

- 21ページの「システムタイプ: サーバーとスタンドアロン」
- 22ページの「Solaris ソフトウェアのインストール方法」

注 - 『Solaris 8 インストールの手引き』と『Solaris 8 インストールガイド (SPARC 版)』または『Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)』には、ローカル CD-ROM から単一のシステムに Solaris をインストールする方法が記載されています。

システムタイプ: サーバーとスタンドアロン

Solaris オペレーティング環境をインストールできるシステムには、サーバーとスタンドアロンの 2 種類があります。

表 1-1 Solaris ソフトウェアをインストールするシステムのタイプ

システムのタイプ	説明
サーバー	ネットワークに接続されている他のシステムに各種のサービスや、ホームディレクトリやメールファイルといったファイルシステムなどを提供するシステムです。「OS サーバー」とは、ネットワーク上の他のシステムに Solaris ソフトウェアを提供するサーバーです。
スタンドアロンシステム	ローカルディスクに Solaris ソフトウェアがインストールされていて、OS サーバーからのサービスを必要としないシステムです。ネットワークに接続されているシステムとネットワークに接続されていないシステムのいずれの場合も、Solaris オペレーティング環境でスタンドアロンシステムとなることができます。

Solaris ソフトウェアのインストール方法

Solaris ソフトウェアをインストールするには、次の方法があります。

表 1-2 Solaris ソフトウェアのインストール方法

方法	説明
Solaris 8 対話式インストールプログラム	<p>このプログラムは、Solaris 8 ソフトウェアのインストール手順を順番に示します。このプログラムでは、製品に含まれているすべてのソフトウェア (Solaris ソフトウェアとその同梱ソフトウェア) をインストールするのではなく、Solaris ソフトウェアのインストールだけを行います。Solaris ソフトウェアをインストールした後で、ソフトウェア用のインストールプログラムを使って、同梱ソフトウェアをインストールする必要があります。</p>
JumpStart	<p>この方法を使うと、新しいシステムに Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を挿入してシステムの電源を入れるだけで、そのシステムに Solaris ソフトウェアを自動的にインストールできます。インストールされるソフトウェアは、システムの機種とディスクサイズに基づいて選択されるデフォルトのプロファイルによって自動的に指定されます。したがって、インストールするソフトウェアを選択する必要はありません。</p> <p>すべての新しい SPARC 搭載システムは、ブートディスクに JumpStart ソフトウェア (インストール済みブートイメージ) があらかじめインストールされています。ただし、re-preinstall (1M) コマンドを使えば、IA または既存の SPARC システムに JumpStart ソフトウェアをインストールできます。</p>
カスタム JumpStart	<p>この方法を使うと、いくつかのシステムを 1 つのグループとして自動的にかつ同時にインストールできます。この方法では、事前の準備をしないとシステムをインストールできませんが、大規模な企業サイトで Solaris ソフトウェアを自動的にインストールするためには、これが最もコスト効率のよい方法です。詳細は、第 6 章を参照してください。</p> <hr/> <p>注 - カスタム JumpStart インストールを使って新しいシステムをインストールする場合は、新しいシステムにすでにインストールされている JumpStart ソフトウェアを使用して、システムの電源を入れるとインストールを開始できます。ブートコマンドを指定する必要はありません。</p>

表 1-2 Solaris ソフトウェアのインストール方法 続く

方法	説明
ネットワーク上のインストール	<p>Solaris ソフトウェアは CD-ROM で提供されるので、インストールするにはシステムが CD-ROM ドライブにアクセスできる必要があります。ただし、ローカル CD-ROM ドライブをもたないシステムがたくさんある場合や、どのシステムの CD-ROM ドライブにも Solaris 8 CD (Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)) を挿入したくない場合は、リモートの Solaris CD イメージからインストールするようにシステムを設定できます。リモートの Solaris 8 CD イメージはインストールサーバーによって提供されなければならない、このサーバーのハードディスクに Solaris CD イメージがコピーされている必要があります。</p> <p>ネットワーク上でシステムをインストールするときは、上記のすべてのインストール方法が使用できます。ただし大規模なサイトの場合は、カスタム JumpStart を使ってネットワーク上でシステムをインストールすれば、インストール作業が集中化および自動化できるので便利です。</p> <p>ユーザーの介入なしにネットワーク上でシステムに Solaris 8 ソフトウェアをインストールするようにサイトを設定するには、あらかじめ次の作業を実行する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 各システムに対してネットワーク情報 (日付、時刻、地域、サイトサブネットマスク、使用言語など) をあらかじめ設定しておく必要があります。こうしておく、インストール作業中にシステムを特定するためのプロンプトに毎回答える必要がなくなります (詳細は、第 4 章を参照)。 ■ 各システムにカスタム JumpStart ファイルを設定しておく必要があります (詳細は、第 6 章を参照)。 ■ ネットワーク上でインストールするように、各システムを設定しておく必要があります (詳細は、第 9 章を参照)。
Solaris Web Start	<p>グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) を使用して、製品に含まれているすべてのソフトウェア (Solaris ソフトウェアと同梱ソフトウェア) を一度にインストールできます。デフォルトオプションを使ってすべてのソフトウェアをインストールすることも、カスタマイズオプションを使って必要なソフトウェアだけをインストールすることもできます。</p>

ディスク容量の計画

Solaris 8 ソフトウェアをインストールする前に、ディスク容量の計画を立てて、システムに十分なディスク容量があるかどうかを調べることができます。計画に多少の時間をかければ、インストールを開始する前でも (必要に応じて) システムにディスクを増やすことができます。

注意事項

ディスク容量の計画の立て方はユーザーによって異なりますが、下記のような注意事項があります。

- 選択する各言語 (たとえば、日本語、中国語、韓国語など) により追加のディスク容量を割り当てる。
- 印刷やメールをサポートする場合は、`/var` ファイルシステムに追加のディスク容量を割り当てる。
- クラッシュダンプ機能を使用する場合は、`/var` ファイルシステムにディスク容量を追加する (`savecore(1M)` のマニュアルページを参照)。
- サーバーが他のシステム上のユーザーに対してホームディレクトリファイルシステムを提供しようとする場合は、サーバーに追加のディスク容量を割り当てる (デフォルトでは、ホームディレクトリは通常 `/export` ファイルシステムにあります)。
- 十分なスワップ領域を割り当てる。表 6-5 に、システムに割り当てるスワップ領域について示します。

- インストールしたい Solaris ソフトウェアグループ用に容量を割り当てる。ソフトウェアグループの推奨ディスク容量については、26ページの「ソフトウェアグループの推奨ディスク容量」を参照してください。ディスク容量を計画する際は、Solaris 8 対話式インストールプログラムでソフトウェアグループから各ソフトウェアパッケージを選択して追加または削除できることを覚えておいてください。
- 最小数のファイルシステムを作成する。デフォルトでは、Solaris 8 対話式インストールプログラムは、/ およびスワップだけを作成します (OS サービスのためにディスク容量が割り当てられたときは /export も作成されます)。ファイルシステムを最小数にしておくと、個別のファイルシステムは、スライス境界によって制限されるため将来アップグレードやファイルシステムの拡張が容易にできます。
- 追加または Sun 以外のソフトウェア製品用に追加のディスク容量を割り当てる。

ソフトウェアグループの推奨ディスク容量

表 2-1 に、Solaris ソフトウェアグループと、各グループに推奨されるディスク容量 (M バイト単位) を示します。

表 2-1 推奨ディスク容量

ソフトウェアグループ	推奨ディスク容量
全体ディストリビューションと OEM サポート	2.4G バイト
全体ディストリビューション	2.3G バイト
開発者システムサポート	1.9G バイト
エンドユーザーシステムサポート	1.6G バイト

注 - スワップ空間は、ディスク容量の推奨値に含まれています。

Solaris 8 CD の構成

この章では、Solaris 8 のメディアキットに含まれる主な CD について説明します。

注 - このマニュアルではスライスという用語を使用しますが、一部の Solaris のマニュアルとプログラムでは、スライスをパーティションと呼んでいる場合があります。混同を避けるため、このマニュアルでは、Intel 版 Solaris でのみサポートされる fdisk パーティションと、スライスまたはパーティションと呼ばれる Solaris fdisk パーティション内の分割とを区別しています。

Solaris 8 用 CD

図 3-1 に、SPARC 版 Solaris 8 用の CD を示します。

Intel 版 Solaris 8 にも同等のセットが含まれています。Intel 版 Solaris 8 には、Solaris 8 Device Configuration Assistant (構成用補助) フロッピーディスクも含まれます (図 3-1 の最後の図を参照)。

このキットに含まれているメディアの内容と用途については、次の表を参照してください。

メディア	内容
Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL	Solaris 8 オペレーティング環境をインストールする 場合に使用する Solaris Web Start
Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2	<p>Solaris 8 ソフトウェア製品をインストールするのに 最低限必要なすべてのツール、ソフトウェア、およ び構成情報。以下を含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris コアおよびエンドユーザーシステムサ ポートソフトウェアグループ ■ Solaris 8 対話式インストールプログラム (Motif Installer または SunInstall と呼ばれる) ■ カスタム JumpStart <p>注 - Solaris 8 SOFTWARE CD には、マルチバイト ロケールを含む言語のテキストを入力・表示・印刷 することを可能にするソフトウェアが含まれていま す。</p>
Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2	<p>Solaris 開発者システムサポート、全体ディストリ ビューション、および全体ディストリビューション と OEM サポートソフトウェアグループ。</p> <p>アンバンドルおよび評価用ソフトウェア (EA サブ ディレクトリ内)</p>
Solaris 8 LANGUAGES	<p>各国化対応のインタフェースソフトウェア。日本 語、中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)、フランス 語、ドイツ語、イタリア語、韓国語、スペイン語、 スウェーデン語を含みます。</p>
Solaris 8 DOCUMENTATION ASIAN	<p>Solaris AnswerBook2 文書サーバー、および日本 語、中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)、韓国語版の Solaris 8 AnswerBook2 コレクションとその他マ ニュアル</p>

メディア	内容
Solaris 8 DOCUMENTATION EUROPEAN	Solaris AnswerBook2 文書サーバー、および英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、スウェーデン語版の Solaris 8 AnswerBook2 コレクションとその他マニュアル
Solaris 8 Device Configuration Assistant	Intel アーキテクチャ (IA) をベースとしたシステムのブートソフトウェア
	<p>注 - このフロッピーディスクは、IA をベースとしたシステムからブートできない場合のみ必要です。1997 年後半以降製造の IA マザーボードの BIOS は、大半が「El Torito」標準をサポートしていますので、CD-ROM をブートデバイスとして認識します。</p>





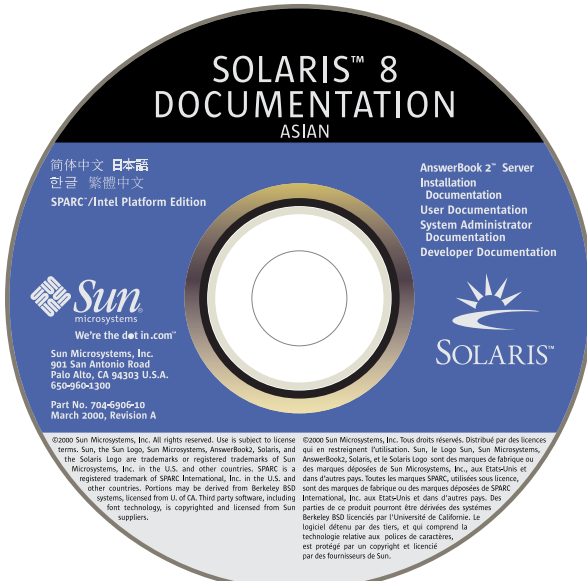




図 3-1 Solaris 8 の主要 CD とフロッピーディスク

Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD の構成

注 - 製品名は Solaris 8 ですが、コードと、パス名またはパッケージのパスは、Solaris_2.8 または SunOS_5.8 と示される場合があります。必ず記述どおりのコードまたはパスを使用してください。

SPARC: Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (SPARC)

図 3-2 は、Solaris 8 INSTALLATION というラベルが貼付された CD の構成を示しています。

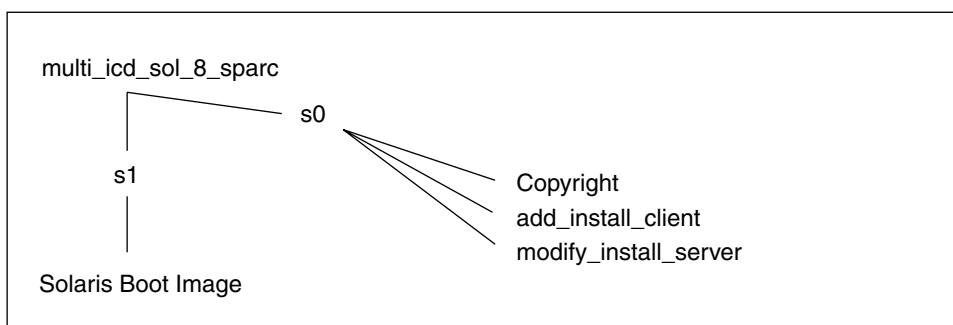


図 3-2 SPARC: Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (SPARC)

Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (SPARC) というラベルが貼付された CD 上のスライス 0 (s0) のファイルは、Solaris ソフトウェアをインストールするスクリプトです。これらのスクリプトには、add_install_client と modify_install_server があります。スライス 1 (s1) には、SPARC プラットフォーム版の Solaris 8 ミニルートが含まれます。

IA: Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel)

図 3-3 は、Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) というラベルが貼付された CD の構成を示しています。

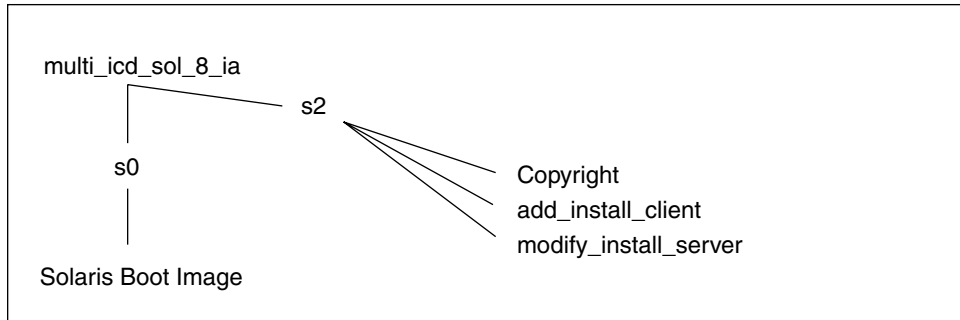


図 3-3 IA: Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel)

スライス 0 (s0) には、IA プラットフォーム版の Solaris 8 ミニルートが含まれます。Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) というラベルが貼付された CD のスライス 2 (s2) のファイルは、Solaris ソフトウェアをインストールするスクリプトです。これらのスクリプトには、`add_install_client` と `modify_install_server` があります。

Solaris 8 SOFTWARE CD の構成

注 - 製品名は Solaris 8 ですが、コードと、パス名またはパッケージのパスは、`Solaris_2.8` または `SunOS_5.8` と表示される場合があります。必ず記述どおりのコードまたはパスを使用してください。

SPARC: Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)

図 3-4 は、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) の構成を示しています。

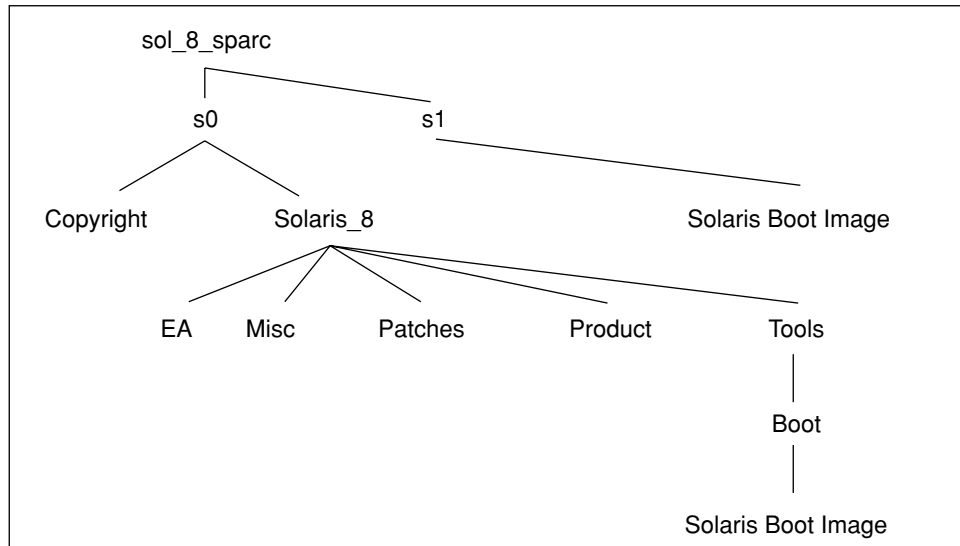


図 3-4 SPARC: Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) というラベルが貼付された CD 上のスライス 0 (s0) にある `solaris_8` ディレクトリには、Solaris コアシステムサポートとエンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループを含む、Solaris 8 ソフトウェアプロダクトをインストールするために必要な最低限のツール、ソフトウェア、および構成情報が入っています。ここには、次のディレクトリがあります。

- EA – Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) というラベルが貼付された CD を指示するテキストファイルが含まれます。
- Misc – `rules` ファイル、`check` スクリプト、`profile` ファイル、`begin` スクリプト、`finish` スクリプトなどの他の JumpStart ソフトウェアおよびファイルを含む、`jumpstart_sample` ディレクトリが含まれます。
- Patches – Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) の作成時点で入手可能なすべての Solaris 8 パッチが含まれます。
- Product – Solaris 8 パッケージと制御ファイルが含まれます。このディレクトリの形式は、以前の Solaris CD 上の製品ディレクトリ (たとえば、`Solaris_2.7`) と同じです。
- Tools – `add_install_client`、`dial`、`rm_install_client`、および `setup_install_server` を含む Solaris 8 インストールツールが含まれます。Tools ディレクトリには、Boot サブディレクトリも含まれ、ここには SPARC プラットフォーム用の Solaris 8 ミニルートが入っています。

スライス 1 (s1) には、SPARC プラットフォーム用の Solaris 8 ミニルートが入っています。

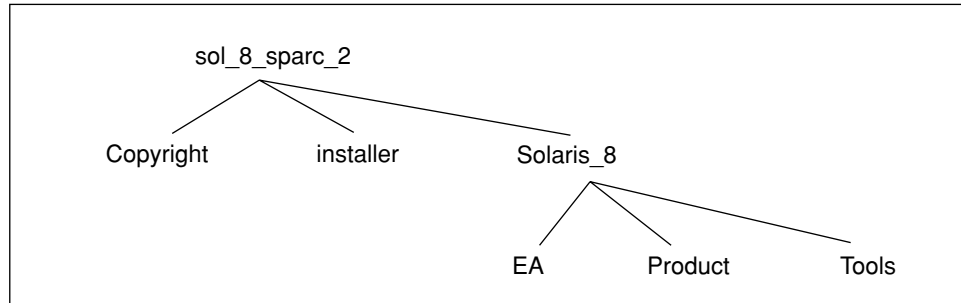


図 3-5 SPARC: Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)

Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) というラベルが貼付された CD には、基本的に Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) と同じサブディレクトリが含まれますが、Misc および Patches サブディレクトリも、Tools の下の Boot サブディレクトリも (したがってブートソフトウェアも) 含まれない点が異なります。EA サブディレクトリには、アンバンドルの事前評価用ソフトウェアが入っています。

Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) というラベルが貼付された CD には、開発者システムサポート、全体ディストリビューション、全体ディストリビューションと OEM サポートの各ソフトウェアグループが含まれます。

IA: Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel)

図 3-6 は、Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel) の構成を示しています。

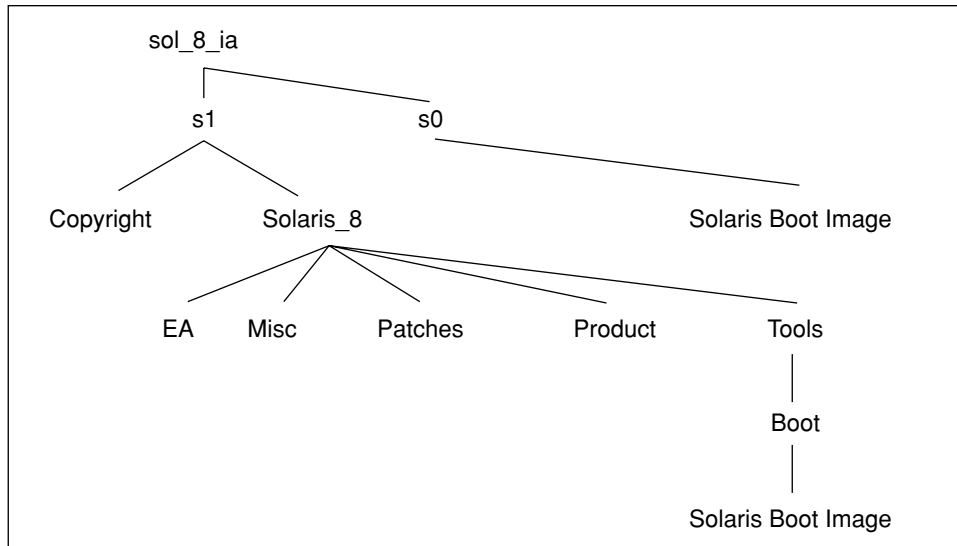


図 3-6 IA: Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) というラベルが貼付された CD 上のスライス 0 (s0) には、IA プラットフォーム用の Solaris 8 ミニルートが入っています。

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) というラベルが貼付された CD のスライス 1 (s1) にある `Solaris_8` ディレクトリには、Solaris コアシステムサポートとエンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループを含む、Solaris 8 ソフトウェアプロダクトをインストールするために必要な最低限のツール、ソフトウェア、および構成情報が入っています。ここには、次のディレクトリがあります。

- EA – Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) というラベルが貼付された CD を指示するテキストファイルが含まれます。
- Misc – rules ファイル、check スクリプト、プロファイル、begin スクリプト、finish スクリプトなどの他の JumpStart ソフトウェアおよびファイルを含む、jumpstart_sample ディレクトリが含まれます。
- Patches – Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) の作成時点で入手可能なすべての Solaris 8 パッチが含まれます。
- Product – Solaris 8 パッチと制御ファイルが含まれます。このディレクトリの形式は、以前の Solaris CD (たとえば Solaris_2.7) の Product ディレクトリと同じです。
- Tools – add_install_client、dial、rm_install_client、および setup_install_server を含む Solaris 8 インストールツールが含まれます。

す。Tools ディレクトリには、Boot サブディレクトリも含まれ、ここには IA プラットフォーム用の Solaris 8 ミニルートが入っています。

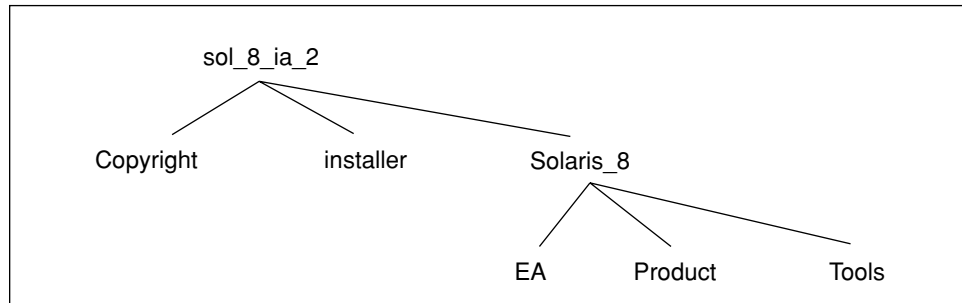


図 3-7 IA: Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)

Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) というラベルが貼付された CD には、基本的に Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) と同じサブディレクトリが含まれますが、Misc および Patches サブディレクトリも、Tools の下の Boot サブディレクトリも (したがってブートソフトウェアも) 含まれない点が異なります。EA サブディレクトリには、アンバンドルの事前評価用ソフトウェアが入っています。Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) というラベルが貼付された CD には、開発者システムサポート、全体ディストリビューション、全体ディストリビューションと OEM サポートの各ソフトウェアグループが含まれます。

Solaris 8 LANGUAGES CD の構成

注 - 製品名は Solaris 8 ですが、コードと、パス名またはパッケージのパスは、Solaris_2.8 または SunOS_5.8 と示される場合があります。必ず記述どおりのコードまたはパスを使用してください。

図 3-8 は、Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) と Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) の構成を示しています。

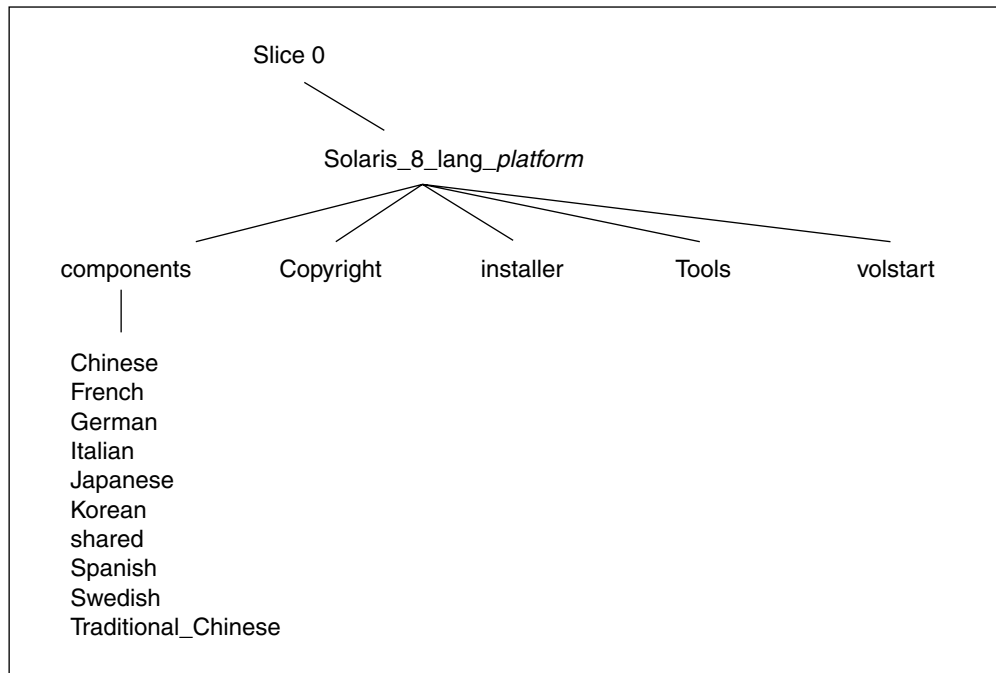


図 3-8 Solaris 8 LANGUAGES CD

Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) および Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) というラベルが貼付された CD 上のファイルは、Solaris の言語およびロケールソフトウェアをインストールするスクリプトです。これには、`components` ディレクトリにある日本語、中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、韓国語、スペイン語、スウェーデン語のロケールパッケージが含まれます。`components` ディレクトリには、ロケールで共有されるパッケージも含まれます。

Solaris 8 DOCUMENTATION ASIAN CD の構成

注 - 製品名は Solaris 8 ですが、コードと、パス名またはパッケージのパスは、`Solaris_2.8` または `SunOS_5.8` と示される場合があります。必ず記述どおりのコードまたはパスを使用してください。

DOCUMENTATION ASIAN CD には、日本語、中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)、韓国語の各翻訳マニュアルが入っています。

図 3-9 は、Solaris 8 DOCUMENTATION ASIAN CD の構成を示しています。

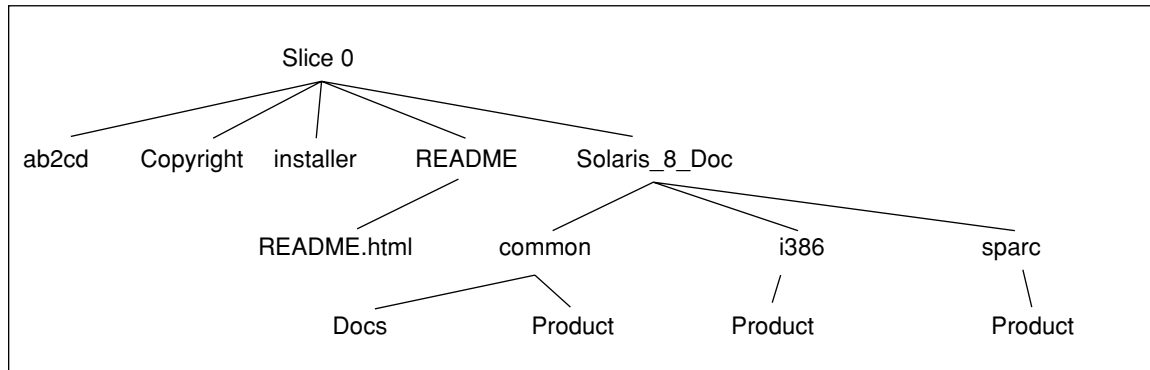


図 3-9 Solaris 8 DOCUMENTATION ASIAN CD

Solaris 8 DOCUMENTATION ASIAN CD というラベルが貼付された CD には、次のものが入っています。

- **ab2cd** – AnswerBook2 文書サーバーを実行して、CD から直接文書コレクションにアクセスできるようにします。
- **installer** – AnswerBook2 文書サーバーソフトウェアと文書コレクションのインストールに使用できる、ポイント&クリック式のインストールユーティリティです。
- **README** – Solaris 8 DOCUMENTATION ASIAN CD の内容の概要と、その内容にアクセスしてインストールする方法を説明する各言語版の README.html ファイルが入っています。
- **Solaris_8_Doc** – サブディレクトリ **sparc** および **i386** が含まれます。これらのサブディレクトリにはそれぞれ、SPARC および IA ベースの各システムへのインストール用 AnswerBook2 文書サーバーソフトウェアが含まれます。サブディレクトリ **common** には、各言語に翻訳された AnswerBook2、PDF、および HTML 形式のオンラインマニュアルが入っています。

Solaris 8 DOCUMENTATION EUROPEAN CD の構成

注 - 製品名は Solaris 8 ですが、コードと、パス名またはパッケージのパスは、Solaris_2.8 または SunOS_5.8 と示される場合があります。必ず記述どおりのコードまたはパスを使用してください。

DOCUMENTATION EUROPEAN CD には、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、スウェーデン語の各翻訳マニュアルおよび英語のマニュアルが入っています。

図 3-10 は、Solaris 8 DOCUMENTATION EUROPEAN CD の構成を示しています。

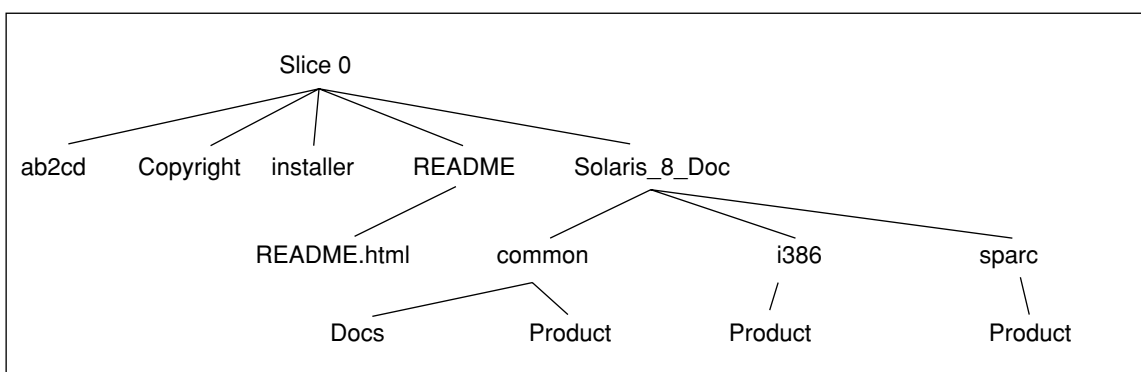


図 3-10 Solaris 8 DOCUMENTATION EUROPEAN CD

Solaris 8 DOCUMENTATION EUROPEAN CD というラベルが貼付された CD には、次のものが入っています。

- ab2cd - AnswerBook2 文書サーバーを実行して、CD から直接文書コレクションにアクセスできるようにします。
- installer - AnswerBook2 文書サーバーソフトウェアと文書コレクションのインストールに使用できる、ポイント&クリック式のインストールユーティリティです。
- README - Solaris 8 DOCUMENTATION EUROPEAN CD の内容の概要と、その内容にアクセスしてインストールする方法を説明する各言語版の README.html ファイルが入っています。

- Solaris_8_Doc - サブディレクトリ `sparc` および `i386` が含まれます。これらのサブディレクトリにはそれぞれ、SPARC および IA ベースの各システムへのインストール用 AnswerBook2 文書サーバーソフトウェアが含まれます。サブディレクトリ `common` には、各言語に翻訳された AnswerBook2、PDF、および HTML 形式のオンラインマニュアルが入っています。

システム構成情報の事前設定

この章では、`sysidcfg` ファイルとネームサービスデータベースの構成情報を事前設定して、Solaris をインストールするたびに情報を入力する手間を避ける方法について説明します。また、電源管理システムの構成情報を事前設定する方法についても説明します。

- 44ページの「事前設定の方法」
- 45ページの「`sysidcfg` ファイルによる事前設定」
- 52ページの「ネームサービスによる事前設定」
- 56ページの「SPARC: 電源管理情報の事前設定」

Solaris 8 対話式インストールプログラムまたはカスタム JumpStart を使用して Solaris 8 ソフトウェアをインストールするためには、システムに関する構成情報 (システムの周辺機器、ホスト名、インターネットプロトコル (IP) アドレス、ネームサービスなど) が必要です。どちらのインストールプログラムも構成情報を要求する前に、`sysidcfg` ファイルまたはネームサービスデータベースを (この順序で) 調べて情報を探します。

たとえば多数のシステムがあって、システムのどれかに Solaris 8 をインストールするたびに時間帯を尋ねられないようにするには、`sysidcfg` ファイルまたはネームサービスデータベースに時間帯を指定できます。この設定を行うと、Solaris 8 をインストールするときに、時間帯プロンプトは表示されません。

事前設定の方法

システム構成情報を事前設定するには2つの方法があります。情報は次のところに設定できます。

- `sysidcfg` ファイル (リモートシステム上またはフロッピーディスク)
- 自分のサイトで使用できるネームサービス

表 4-1 を使って、システム構成情報を事前設定するための方法を決定してください。

表 4-1 システム構成情報を事前設定するための方法

事前設定の対象	プラットフォーム	<code>sysidcfg</code> ファイルでの事前設定の可否	ネームサービスでの事前設定の可否
ネームサービス	SPARC/IA	可能	可能
ドメイン名	SPARC/IA	可能	不可
ネームサーバー	SPARC/IA	可能	不可
ネットワークインタフェース	SPARC/IA	可能	不可
ホスト名	SPARC/IA	可能 ¹	可能
IP アドレス	SPARC/IA	可能 ¹	可能
ネットマスク	SPARC/IA	可能	不可
DHCP	SPARC/IA	可能	不可
IPv6	SPARC/IA	不可	不可
root パスワード	SPARC/IA	可能	不可
セキュリティポリシー	SPARC/IA	可能	不可
インストールプログラムとデスクトップで表示する言語 (ロケール)	SPARC/IA	可能	可能
端末タイプ	SPARC/IA	可能	不可

表 4-1 システム構成情報を事前設定するための方法 続く

事前設定の対象	プラット フォーム	sysidcfg ファイルでの 事前設定の可否	ネームサービスでの事前 設定の可否
時間帯	SPARC/IA	可能	可能
日付と時刻	SPARC/IA	可能	可能
モニタータイプ	IA	可能	不可
キーボード言語、キーボード配置	IA	可能	不可
グラフィックスカード、カラー深度、 表示解像度、画面サイズ	IA	可能	不可
ポインティングデバイス、ボタン数、 IRQ レベル	IA	可能	不可
電源管理システム ²	SPARC	不可	不可

1. この情報はシステムに固有なため、各システム用に異なる sysidcfg ファイルを作成するよりも、ネームサーバーを編集してください。
2. このシステム構成情報は、sysidcfg ファイルまたはネームサービスでは事前設定できません。詳細は、56ページの「SPARC: 電源管理情報の事前設定」を参照してください。

sysidcfg ファイルによる事前設定

sysidcfg ファイルに一連のキーワードを指定すると、システムを事前設定できます。表 4-2 は、これらのキーワードを示しています。

異なる構成情報を必要とするシステムごとに、固有の sysidcfg ファイルを作成する必要があります。すべてのシステムに同じ時間帯を割り当てる場合は、同じ sysidcfg ファイルを使用して、一連のシステムに時間帯を事前設定することができます。ただし、これらの各システムに異なる root (スーパーユーザー) パスワードを事前設定する場合は、各システムに固有の sysidcfg ファイルを作成する必要があります。

sysidcfg ファイルは、共有 NFS™ ネットワークディレクトリ、または次のフロッピーディスクのルート (/) ディレクトリに置くことができます。

- UFS フロッピーディスク

■ PCFS フロッピーディスク

これらはシステムのフロッピーディスクドライブに挿入されます。

- 共有 NFS ネットワークディレクトリに `sysidcfg` ファイルを置く場合は、システムにネットワーク上のインストールを設定する際に `add_install_client(1M)` コマンドの `-p` オプションを使用して、Solaris のインストール時に `sysidcfg` ファイルが検索される場所を指定する必要があります。
- SPARC: `sysidcfg` ファイルをプロファイルフロッピーディスクに置く場合は、システムのブート時に、そのフロッピーディスクがシステムのフロッピーディスクドライブに挿入されていることを確認してください。
- IA: `sysidcfg` ファイルは、Solaris 8 Device Configuration Assistant (構成用補助) フロッピーディスクに入れてください。

注 - 1 つのディレクトリまたはフロッピーディスクには、1 つの `sysidcfg` ファイルだけを入れることができます。複数の `sysidcfg` ファイルを作成する場合は、各ファイルを異なるディレクトリまたは異なるフロッピーディスクに置く必要があります。

キーワードの種類: 依存型と非依存型

`sysidcfg` ファイルで使用するキーワードには、非依存型と依存型の 2 種類があります。依存型キーワードは、非依存型キーワード内でのみ固有であることが保証されています。つまり、依存型キーワードは、対応する非依存型キーワードによって識別される場合にのみ存在します。

次の例では、`name_service` が非依存型キーワードであり、`domain_name` と `name_server` が依存型キーワードです。

```
name_service=NIS {domain_name=marquee.central.sun.com
name_server=connor(129.152.112.3)}
```

`sysidcfg` ファイルの構文規則

以下に構文規則を示します。

構文規則	例
キーワードは任意の順序で指定可能	<code>pointer=MS-S display=ati {size=15-inch}</code>
キーワードは大文字と小文字のどちらでもよい	<code>TIMEZONE=US/Central terminal=PC Console</code>
関連する非依存型キーワードを結合するには、すべての依存型キーワードを中括弧 {} で囲む	<code>name_service=NIS {domain_name=marquee.central.sun.com name_server=connor(129.152.112.3)}</code>
値は単一引用符 (') または二重引用符 (") で囲んで指定可能	<code>network_interface='none'</code>
キーワードは 1 回だけ指定可能。キーワードを複数回指定した場合は最初のキーワードだけが有効	<code>network_interface=none network_interface=le0</code>

表 4-2 に、`sysidcfg` ファイルで使用できるキーワードを示します。

表 4-2 `sysidcfg` キーワード

構成情報	プラットフォーム	キーワード	使用例または設定値の書かれている場所
ネームサービス、ドメイン名、ネームサーバー	SPARC/ IA	name_service=NIS, NIS+, DNS, NONE	
		NIS と NIS+ 用オプション {domain_name=domain_name name_server=hostname(ip_address)}	name_service=NIS {domain_name=west.arp.com name_server=timber(129.221.2.1)} name_service=NIS+ {domain_name=west.arp.com name_server=timber(129.221.2.1)}

表 4-2 sysidcfg キーワード 続く

構成情報	プラットフォーム	キーワード	使用例または設定値の書かれている場所
		DNS 用オプション {domain_name=domain_name name_server=ip_address,ip_address, ip_address (最大 3 個) search=domain_name, domain_name,domain_name, domain_name,domain_name, domain_name (最大 6 個、合計の長 さが 250 文字以下)}	<pre>name_service=DNS {domain_name=west.arp.com name_server=10.0.1.10,10.0.1.20 search=arp.com,east.arp.com}</pre> <p>注 - name_service は 1 つの値だけを選択します。必要に応じて、domain_name と name_server キーワードのどちらか 1 つまたは両方を設定するか、あるいはどちらも設定しません。どちらのキーワードも使用しない場合、中括弧 {} は省略します。</p>
ネットワー クインタ フェース、ホ スト名、IP ア ドレス、ネッ トマスク、 DHCP、IPv6	SPARC/ IA	<pre>network_interface=NONE, PRIMARY, value</pre> <p>DHCP を使用する場合、次のよう に指定する。 {dhcp protocol_ipv6=yes_or_no}</p> <p>DHCP を使用しない場合、次 のように指定する。 {hostname=host_name ip_address=ip_address netmask=netmask protocol_ipv6=yes_or_no}</p>	<pre>network_interface=primary {dhcp protocol_ipv6=yes}</pre> <pre>network_interface=le0 {hostname=feron ip_address=129.222.2.1 netmask=255.255.0.0 protocol_ipv6=no}</pre> <p>注 - network_interface は、1 つの値 だけを選択します。必要に応じ て、hostname、ip_address、netmask キーワードのどれかを組み合わせて設定 するか、あるいはどれも設定しません。 どのキーワードも使用しない場合、中括 弧 {} は省略します。</p> <p>注 - DHCP を使用しない場 合、protocol_ipv6 は省略可能です。指 定する必要はありません。</p>

表 4-2 sysidcfg キーワード 続く

構成情報	プラットフォーム	キーワード	使用例または設定値の書かれている場所
root パスワード	SPARC/IA	<code>root_password=root_password</code>	<code>/etc/shadow</code> にある暗号化された文字列
セキュリティポリシー	SPARC/IA	<code>security_policy=kerberos, NONE</code> Kerberos 用オプション <code>{default_realm=FQDN admin_server=FQDN kdc=FQDN1, FQDN2, FQDN3}</code> FQDN は完全修飾ドメイン名です。 注 - 最大 3 つの鍵発行センターをリストできます。少なくとも 1 つは必須です。	<code>security_policy=kerberos {default_realm=Yoursite.COM admin_server=krbadmin.Yoursite.COM kdc=kdc1.Yoursite.COM, kdc2.Yoursite.COM}</code>
インストールプログラムとデスクトップで表示する言語	SPARC/IA	<code>system_locale=locale</code>	有効なロケール値が、 <code>/usr/lib/locale</code> ディレクトリまたは付録 B にある。
端末タイプ	SPARC/IA	<code>terminal=terminal_type</code>	有効な端末値が <code>/usr/share/lib/terminfo</code> ディレクトリのサブディレクトリにある。
時間帯	SPARC/IA	<code>timezone=timezone</code>	有効な時間帯値が <code>/usr/share/lib/zoneinfo</code> ディレクトリのサブディレクトリとファイルにある。時間帯値は <code>/usr/share/lib/zoneinfo</code> ディレクトリからの相対パス名です。たとえば、日本の時間帯値は <code>Japan</code> です。
日付と時刻	SPARC/IA	<code>timeserver=localhost, hostname, ip_addr</code>	<code>localhost</code> を指定した場合は、そのシステムの時刻が正しいものと見なされません。あるシステムの <code>hostname</code> または <code>ip_addr</code> を指定した場合 (ネームサービスを実行していない場合) は、そのシステムの時刻を使って時刻が設定されます。

表 4-2 sysidcfg キーワード 続く

構成情報	プラット フォーム	キーワード	使用例または設定値の書かれている場所
モニタータイ プ	x86	monitor= <i>monitor_type</i>	kdmconfig -d <i>filename</i> を実行すると、その出力が <i>sysidcfg</i> ファイルに追加されます。
キーボード言 語、キーボー ド配置	x86	keyboard= <i>keyboard_language</i> { <i>layout=value</i> }	kdmconfig -d <i>filename</i> を実行すると、その出力が <i>sysidcfg</i> ファイルに追加されます。
グラフィック スカード、カ ラー深度、表 示解像度、画 面サイズ	IA	display= <i>graphics_card</i> { <i>size=screen_size</i> <i>depth=color_depth</i> <i>resolution=screen_resolution</i> }	kdmconfig -d <i>filename</i> を実行すると、その出力が <i>sysidcfg</i> ファイルに追加されます。
ポインティン グデバイス、 ボタン数、IRQ レベル	IA	pointer= <i>pointing_device</i> { <i>nbuttons=number_buttons</i> <i>irq=value</i> }	kdmconfig -d <i>filename</i> を実行すると、その出力が <i>sysidcfg</i> ファイルに追加されます。

SPARC: sysidcfg ファイルの例

一連の SPARC 搭載システムのための *sysidcfg* ファイルの例を次に示します。(これらのシステムのホスト名、IP アドレス、およびネットマスクは、ネームサービスを編集することにより、すでに事前設定されています。) このファイルにはすべてのシステム構成情報が事前設定されているので、カスタム JumpStart プロファイルを使ってカスタム JumpStart インストールが実行できます。

```
system_locale=en_US
timezone=US/Central
terminal=sun-cmd
timeserver=localhost
name_service=NIS {domain_name=marquee.central.sun.com
                  name_server=connor(129.152.112.3)}
root_password=m4QPOWNY
```

IA: sysidcfg ファイルの例

一連の IA 搭載システムで、キーボード、グラフィックスカード、ポインティングデバイスがすべて同じ場合の sysidcfg ファイルの例を次に示します。これらのデバイス情報 (keyboard、display、および pointer) は、kdmconfig(1M) -d コマンドを実行して取得したものです。この例では、Solaris インストールプログラムで使用される言語 (system_locale) を選択するプロンプトがインストール前に表示されます。

```
keyboard=ATKBD {layout=US-English}
display=ati {size=15-inch}
pointer=MS-S
timezone=US/Central
timeserver=connor
terminal=ibm-pc
name_service=NIS {domain_name=marquee.central.sun.com
                  name_server=connor(129.152.112.3)}
root_password=URFUni9
```

▼ sysidcfg 構成ファイルを作成する方法

1. エディタを使って新しいファイルを開き、ファイル名を sysidcfg とします。

注 - 複数の sysidcfg ファイルを作成する場合は、それぞれのファイルを別のディレクトリまたはフロッピーディスクに格納しなければなりません。

2. 事前設定したいシステム構成情報の sysidcfg キーワードを入力します。
3. sysidcfg ファイルを保存します。
4. 次のディレクトリから sysidcfg ファイルがクライアントに対して使用できるようにします。
 - 共有 NFS ネットワークディレクトリ (add_install_client(1M) コマンドの -p オプションで指定するパス名)
 - 次のフロッピーディスクのルートディレクトリ
 - UFS フロッピーディスク

- PCFS フロッピーディスク

ネームサービスによる事前設定

注 **[SPARC]** - SPARC 搭載システムでは、ネームサービス (NIS または NIS+) を編集してシステム構成情報を事前設定します。

次の表は、実行すべき処置の概要を示しています。

設定項目	編集または生成する必要があるネームサービスデータベース
ホスト名と IP アドレス	hosts
日付と時刻	hosts (インストール対象のシステムに日付と時刻を提供するシステムのホスト名で timehost というホストの別名を持つマシンを使用)
時間帯	timezone
ネットマスク	netmasks

システムのロケールを事前設定する手順は、ネームサービスごとに異なります。52 ページの「NIS を使ってロケールを事前設定する方法」を参照してください。

▼ NIS を使ってロケールを事前設定する方法

1. ネームサーバー上でスーパーユーザーになって、/var/yp/Makefile ファイルを編集します。
2. エントリの後に、以下を追加します。

```
locale.time: $(DIR)/locale
    -@if [ -f $(DIR)/locale ]; then \
        sed -e "/^#/d" -e s/#.*$$// $(DIR)/locale \
        | awk '{for (i = 2; i<=NF; i++) print $$i, $$0}' \
        | $(MAKEDBM) - $(YPDBDIR)/$(DOM)/locale.byname; \
```

(続く)

続き

```
touch locale.time; \  
echo "updated locale"; \  
if [ ! $(NOPUSH) ]; then \  
    $(YPPUSH) locale.byname; \  
    echo "pushed locale"; \  
else \  
    ; \  
fi \  
else \  
    echo "couldn't find $(DIR)/locale"; \  
fi
```

3. 文字列 **all:** を検索し、変数リストの最後に locale という語を挿入します。

```
all: passwd group hosts ethers networks rpc services protocols \  
netgroup bootparams aliases publickey netid netmasks c2secure \  
timezone auto.master auto.home locale
```

4. 文字列 locale: locale.time をファイルの後方にある同じようなエントリの最後に追加します。

```
passwd: passwd.time  
group: group.time  
hosts: hosts.time  
ethers: ethers.time  
networks: networks.time  
rpc: rpc.time  
services: services.time  
protocols: protocols.time  
netgroup: netgroup.time  
bootparams: bootparams.time  
aliases: aliases.time  
publickey: publickey.time  
netid: netid.time  
passwd.adjunct: passwd.adjunct.time  
group.adjunct: group.adjunct.time  
netmasks: netmasks.time  
timezone: timezone.time  
auto.master: auto.master.time  
auto.home: auto.home.time
```

(続く)

続き

```
locale: locale.time
```

5. /etc/locale というファイルを作成し、ドメインまたは特定のシステムに対して1つのエントリを作成します。

```
locale domain_name
```

または

```
locale system_name
```

注 - 付録 B に、有効なロケールのリストを示します。

たとえば次の行は、worknet.com ドメインに対してデフォルト言語として日本語を指定しています。

```
ja worknet.com
```

たとえば次の行は、sherlock というシステムに対してデフォルトロケールとして日本語を指定しています。

```
ja sherlock
```

注 - ロケールは、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に入っています。

6. マップを作成します。

```
# cd /var/yp; make
```

これでドメインまたは locale マップで個別に指定したシステムは、デフォルトのロケールを使用するように設定されました。ここで指定したデフォルトのロケールは、インストール時に使用されるとともに、システムのリブート後のデスクトップでも使用されます。

▼ NIS+ を使ってロケールを事前設定する方法

この手順は、NIS+ ドメインが設定されていると仮定しています。NIS+ ドメインの設定方法は、『Solaris ネーミングの管理』で説明しています。

1. ネームサーバーに、スーパーユーザーまたは **NIS+ admin** グループのユーザーとしてログインします。
2. 次の nistbladm コマンドを入力します。

```
# nistbladm -D access=og=rmcd,nw=r -c locale_tbl name=SI,nogw= locale=,  
nogw= comment=,nogw= locale.org_dir.'nisdefaults -d'
```

locale テーブルが作成されます。

3. 次の nistbladm コマンドを入力して locale テーブルにエントリを追加します。

```
# nistbladm -a name=domain_name locale=locale comment=comment  
locale.org_dir.'nisdefaults -d'
```

<i>domain_name</i>	ドメイン名または特定のシステム名。これはデフォルトロケールを事前設定する対象となる
<i>locale</i>	システムにインストールし、システムのリブート後にデスクトップ表示で使用するロケール。使用できるロケール値のリストについては、付録 B を参照
<i>comment</i>	コメントフィールド。複数の単語を使ったコメントは、前後を二重引用符で囲むこと

注 - ロケールは、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に入っています。

これでドメインまたは locale テーブルで個別に指定したシステムは、デフォルトはロケールを使用するように設定されました。ここで指定したデフォルトのロケールは、インストール時に使用されるとともに、システムのリブート後のデスクトップでも使用されます。

SPARC: 電源管理情報の事前設定

Solaris の電源管理ソフトウェアを使用すると、システムが 30 分間アイドル状態になると自動的にシステム状態を保存し電源を切ることができます。sun4u SPARC システム (および EPA の省電力 (Energy Star) ガイドラインのバージョン 2 に準拠したすべてのシステム) に Solaris ソフトウェアをインストールするときは、デフォルトで電源管理ソフトウェアもインストールされ、インストール後のリブート時に、この電源管理ソフトウェアを有効または無効にするかを尋ねられます。

対話式インストールを実行している場合は、電源管理情報を事前設定してプロンプトを回避する方法はありません。カスタム JumpStart インストールでは、finish スクリプトを使ってシステムに /autoshtutdown または /noautoshtutdown ファイルを作成することで、電源管理情報を事前設定できます。システムのリブート時に、/autoshtutdown は電源管理ソフトウェアを有効にし、/noautoshtutdown ファイルは電源管理ソフトウェアを無効にします。

たとえば、finish スクリプトに次の行を入れておくと電源管理ソフトウェアが有効になり、システムリブート後のプロンプトを回避できます。


```
touch /a/autoshtdown
```

finish スクリプトの詳細は、207ページの「finish スクリプトの作成」を参照してください。

Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法

この章では、Solaris ソフトウェアをインストールまたはアップグレードするシステムで実行する、Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法について説明します。

- 60ページの「システムをアップグレードする」
- 60ページの「ディスクスペースを再配置してアップグレードする」
- 61ページの「アップグレードに関して頻繁に寄せられる質問」
- 62ページの「Solaris 8 または Solaris 8 Update からのアップグレード: パッチアナライザ」
- 65ページの「SPARC: システムのアップグレード」
- 71ページの「SPARC: Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法」
- 102ページの「IA: システムのアップグレード」
- 105ページの「IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法」

注 - 『Solaris 8 インストールの手引き』と『Solaris 8 インストールガイド (SPARC 版)』または『Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)』では、ローカル CD-ROM から単一のシステムに Solaris をインストールする方法について説明します。

システムをアップグレードする

既存の Solaris システム上に新バージョンの Solaris ソフトウェアをインストールするときは、Solaris ソフトウェアをディスクにコピーするための次のいずれかのオプションがインストールプログラムで選択できます。

- アップグレード—このオプションを選択すると、システムのディスク上にある既存のファイルに新バージョンの Solaris ソフトウェアがマージされます。旧バージョンの Solaris ソフトウェアに加えた変更は、できるだけそのまま維持されます。
- 初期インストーラー—このオプションを選択すると、システムのディスクが新バージョンの Solaris ソフトウェアによって上書きされます。このインストールを始める前には、旧バージョンの Solaris ソフトウェアに加えたローカルのすべての変更のバックアップをあらかじめとっておき、インストールが完了したらこのローカルの変更を復元する必要があります。

ディスクスペースを再配置してアップグレードする

Solaris 対話式インストールプログラムのアップグレードオプションには、アップグレードに十分なディスクスペースが現在のファイルシステムにない場合に、ディスクスペースを再配置する機能があります。デフォルトで自動配置機能が、アップグレードが成功するようにディスクスペースを再配置します。自動配置機能がディスクの再配置を決定できない場合は、どのファイルシステムを削除または変更するかを指定して、再度再配置機能を実行してください。

アップグレード用プロファイルを作成する際に、現在のファイルシステムにアップグレード用に十分なスペースがない場合、`backup_media` キーワードと `layout_constraint` キーワードを使用してディスクスペースを再配置できます。プロファイルで `backup_media` キーワードと `layout_constraint` キーワードを使用する例については、195ページの「アップグレード用ディスク領域の再割り当て」を参照してください。

アップグレードに関して頻繁に寄せられる質問

- すべてのシステムでアップグレードオプションが使用できますか

Solaris 2.5.1、2.6、または7がインストールされていれば、すべてのシステムでアップグレードオプションがサポートされています。システムに搭載されている Solaris ソフトウェアのバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
$ uname -a
```

- アップグレードオプションを使用する前にパッチを元に戻す必要がありますか
その必要はありません。

- カスタム JumpStart でアップグレードするにはどうすればいいですか

プロファイル内で `install_type upgrade` を指定する必要があります。

- Solaris 対話式インストールプログラムでアップグレードオプションが提供されていないのに、システムをアップグレードしなければならない場合はどうすればいいですか

詳細は、第 12 章を参照してください。

- アップグレードオプションを使用するように作成したプロファイルをテストするには、どうすればいいですか

`pfinstall -D` コマンドを使用すると、実際にアップグレードする前に、アップグレードオプションを使用するプロファイルをテストできます。特に、ディスク領域の再配置機能を伴うアップグレードを行うときには、このテストが役立ちます。

アップグレードプロファイルをテストするには、アップグレードしようとするシステム上で `pfinstall -D` コマンドを実行する必要があります。そのシステム上のディスク構成情報や現在インストールされているソフトウェアを用いて、プロファイルをテストしなくてはならないからです。ディスク構成ファイルを使ってアップグレードプロファイルをテストできません。詳細は、196ページの「プロファイルのテスト」を参照してください。

- 別のソフトウェアグループに自動的にアップグレードできますか

できません。たとえば、システム上にエンドユーザーソフトウェアグループをすでにインストールしている場合、アップグレードオプションを使って開発者ソフトウェアグループにアップグレードできません。ただし、アップグレード作業中

に、現在インストールされているソフトウェアグループの一部ではないソフトウェアをシステムに追加することはいつでも可能です。

- Solaris 8 対話式インストールプログラムは、アップグレードによって維持できなかったローカル変更の記録をどこに保存しますか
 - システムをリポートする前: /a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup
 - システムをリポートした後: /var/sadm/system/data/upgrade_cleanup
- Solaris 8 対話式インストールプログラムは、アップグレード作業中の記録をどこに保存しますか
 - システムをリポートする前: /a/var/sadm/system/logs/upgrade_log
 - システムをリポートした後: /var/sadm/system/logs/upgrade_log

Solaris 8 または Solaris 8 Update からのアップグレード: パッチアナライザ

Solaris 8 オペレーティング環境または各パッチを適用した Solaris 8 Update を実行している場合、Solaris 8 Update または最新の Solaris 8 Update へのアップグレードを行うと、パッチは次のようになります。

- 最新の Solaris 8 Update の一部として適用されたパッチが、システムに再適用されます。これらのパッチをバックアウトすることはできません。
- システムに既にインストールされていて、最新の Solaris 8 Update に組み込まれていないパッチはすべて削除されます。

削除、ダウングレード、置き換えられ削除されるパッチのリストを表示するには、次の項で説明するようにパッチアナライザを使用してください。

パッチの解析

パッチアナライザは、システム上で解析を実行し、Solaris 8 Update へのアップグレードを行うことで削除されるパッチがどれであることを判断します。パッチアナ

ライザは、スクリプトとして手動で実行することができ、また Solaris 8 対話式インストールプログラムの一部として使用することもできます。

- Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用してアップグレードする場合は、「パッチの解析 (Patch Analysis)」画面で「解析 (Analyze)」を選択して解析を実行します。この手順については、71ページの「SPARC: Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法」と105ページの「IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法」を参照してください。
- Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用しないでアップグレードを行う場合は、次の手順に従い、analyze_patches スクリプトを実行し、解析を行なってください。

analyze_patches スクリプトを実行するには

注 - analyze_patches スクリプトを実行するには、NFS またはローカルにマウントされた Solaris 8 Software Update CD 媒体上のスクリプトによって、インストールされたシステムおよび Solaris 8 Software Update CD (またはネットイメージ) にアクセスできなければなりません。

1. Misc ディレクトリに変更します。

- SPARC: イメージがローカルにマウントされた媒体にある場合は、次のように入力します。

```
# cd /cdrom/sol_8_Update_sparc/Solaris_8/Misc
```

ここで、Update は、実際の更新識別子 (たとえば、399、599、または maintenance_update_4) を示します。

- IA: イメージがローカルにマウントされた媒体にある場合は、次のように入力します。

```
# cd /cdrom/sol_8_Update_ia/s2/Solaris_8/Misc
```

ここで、Update は、実際の更新識別子 (たとえば、399、599、または maintenance_update_4) を示します。

- NFS を介してイメージを使用できる場合は、次のように入力します。

```
# cd /NFS_mount_directory/Solaris_8/Misc
```

2. analyze_patches スクリプトを実行します。

```
# ./analyze_patches
```

コマンド行には、表 5-1 に示すオプションを使用できます。

表 5-1 analyze_patches のコマンド行オプション

オプション	説明
-R <i>rootdir</i>	<i>rootdir</i> はインストールされたシステムのルートです。これは、デフォルトで / に設定されます。
-N <i>netdir</i>	<i>netdir</i> は、インストールされる OS イメージのルートへのパスです。デフォルトでは /cdrom/cdrom0 になります。これは、Solaris_8 ディレクトリを含むディレクトリを指していなければなりません。このオプションは、NFS マウントポイントから patch_analyzer を実行するときに使用する必要があります。
-D <i>databasedir</i>	スクリプトが OS イメージの Misc ディレクトリ以外のディレクトリから起動される場合、プログラムはパッチ解析に使用するデータベースを検索できません。-D オプションを使用して、データベースへのパスを指定してください。OS イメージの Solaris_8/Misc/database にあるこのデータベースがないと、スクリプトは正しく動作しません。

パッチアナライザの出力を調べるには

解析を実行したら、次の手順に従い出力を調べます。

1. analyze_patches スクリプトの出力を調べます。

- パッチアナライザからは、他のパッチによって削除、ダウングレード、置き換えられ削除されるパッチのリストが出力されます。パッチの置き換えはパッチのアップグレードに似ています。置き換えられるパッチは削除されて、新しいパッチによってその修正が適用されます。次のようなメッセージが表示されます。

パッチ 105644-03 を削除します。
パッチ 105925 を -02 から -01 へ移行 (ダウングレード) します。
パッチ 105776-01 は、パッチ 105181-05 によって置き換えられ削除されます。

- パッチアナライザからリストが出力されない場合は、既にシステムにインストールされているパッチに対する処理は何も行われません。

2. パッチの適用や削除を

- 実行する場合は、システムをアップグレードします。
システムのアップグレードについては、65ページの「SPARC: システムのアップグレード」と102ページの「IA: システムのアップグレード」を参照してください。
- 実行しない場合は、システムをアップグレードしないでください。
アップグレードの代わりに、Solaris 8 Maintenance Update を使用して、システムにパッチだけを適用できます。

注 - Solaris 8 Maintenance Update は、Solaris 8 Maintenance Update CD にあります。この CD は、Solaris 8 Update リリースに含まれています。パッチの適用方法は、Maintenance Update の『ご使用にあたって』に記載されています。

SPARC: システムのアップグレード

Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用して、SPARC ベースシステムで Solaris ソフトウェアをアップグレードするには、この項の指示に従ってください。Solaris ソフトウェアだけをインストールする場合は、71ページの「SPARC: Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法」に進んでください。

▼ SPARC: 作業を始める方法

1. 下記のマニュアルを調べます。

- 『Solaris 8 ご使用にあたって (SPARC 版)』と製造元のリリースノートで、使用しているソフトウェアが新しいリリースでもサポートされているかどうかを調べます。
- 『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』で、使用しているハードウェアがまだサポートされているかどうかを調べます。
- 使用しているシステムのマニュアルで、使用しているシステムとデバイスが新しいリリースでもサポートされているかどうかを調べます。
- 必要となるすべての入手可能なパッチを調べます。最新パッチリストは、<http://sunsolve.sun.com>にあります。
- 表 5-2 で既知の問題を確認します。このリストは完全なものではありません。製造元のソフトウェアマニュアルで、常に追加のアップグレード指示を確認するようにしてください。

表 5-2 SPARC: アップグレード前に変更が必要なソフトウェア

ソフトウェア	問題の要約
Prestoserve	init 0 を使用してシステムをシャットダウンしてアップグレード処理を開始する場合、データが失われる可能性があります。シャットダウンの方法については、Prestoserve のマニュアルを参照してください。

2. **Solaris** のアップグレードに使用する言語を指定します。次のどれかを選択できます。

- 日本語
- 英語
- 中国語 (簡体字)
- 中国語 (繁体字)
- 韓国語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- スペイン語

- スウェーデン語
3. 少なくとも次の **CD** があることを確認します。
 - Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) および Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)
 - Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC)

▼ SPARC: システムをバックアップする方法

注 - Solaris オペレーティング環境をアップグレードする前に、既存のファイルシステムをバックアップしてください。これらのシステムを取り外し可能媒体(テープなど)にコピーすると、データの損失、損傷、または破壊に対して安全になります。

バックアップ手順が手元にない場合は、次の指示に従って、ファイルシステムの完全バックアップを実行してください。システムのバックアップとスケジュールされたバックアップの設定については、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』で詳しく説明しています。

1. スーパーユーザーになります。
2. システムをシャットダウンします。

```
# init 0
```

3. シングルユーザーモードでシステムをブートします。

```
ok boot -s
```

4. ファイルシステムの整合性を

注 - ファイルシステムの整合性を検査すると、破壊されていないデータを確実にバックアップできます。たとえば、電源障害の場合など、ファイルは矛盾した状態になることがあります。

- 検査しない場合は、次の手順に進みます。

- 検査する場合は、`-m` オプションを付けて `fsck` コマンドを使用します。

```
# fsck -m /dev/rdsk/device-name
```

5. ファイルシステムをリモートテープドライブに

- バックアップしない場合は、68ページの手順6に進みます。
- バックアップする場合は、次の手順を実行します。
 - a. 次のエントリを、バックアップを起動するシステム (テープドライブが接続されているシステム) の `.rhosts` ファイルに追加します。

```
host root
```

- b. `host` にバックアップするホスト名を指定します。上記の `.rhosts` ファイルに追加したホストに、ローカル `/etc/inet/hosts` ファイルまたは **NIS** や **NIS+** ネームサーバー経由でアクセスできるかどうかを確認します。

6. テープドライブのデバイス名を確認します。

デフォルトのテープドライブは `/dev/rmt/0` です。

7. 書き込み保護されていないテープをテープドライブに挿入します。

8. 表 5-3 に示された `ufsdump` コマンドのいずれかを使用してファイルシステムのバックアップを行います。

表 5-3 SPARC: 完全バックアップコマンド

完全バックアップを行う媒体	使用するコマンド
ローカルカートリッジテープドライブ	<code>ufsdump 9ucf /dev/rmt files_to_backup</code>
リモートカートリッジテープドライブ	<code>ufsdump 0ucf remote_host:/ files_to_backup</code>

9. プロンプトが表示されたら、媒体を取り出し、次の媒体と交換します。
10. ボリューム番号、レベル、日付、システム名、およびファイルシステムを記入したラベルを媒体に貼付します。
11. Control-D キーを押します。
システムがレベル 3 で実行されます。
12. システムが正常にバックアップされたかどうかを確認します。

```
# ufsrestore -t
```

▼ SPARC: アップグレードを計画する方法

1. ネットワークを介してアップグレードするときに、システム構成情報を事前設定していない場合は、**Solaris** オペレーティング環境をアップグレードするシステムに関する次の情報を収集します。

情報	例	Solaris がインストールされたシステム上で情報を検索するために使用するコマンド
ホスト名	crater	<code>uname -n</code>
ホスト IP アドレス	129.221.2.1	<code>ypmatch system_name hosts</code> または <code>nismatch system_name hosts.org_dir</code>
サブネットマスク	255.255.255.0	<code>more /etc/netmasks</code>

情報	例	Solaris がインストールされたシステム上で情報を検索するために使用するコマンド
ネームサービスの種類 (DNS、NIS、またはNIS+)	<pre>passwd: files nis group: files nis hosts: xfn nis [NOTFOUND=return] files networks: nis [NOTFOUND=return] files protocols: nis [NOTFOUND=return] files rpc: nis [NOTFOUND=return] files ethers: nis [NOTFOUND=return] files netmasks: nis [NOTFOUND=return] files bootparams: nis [NOTFOUND=return] files publickey: nis [NOTFOUND=return] files netgroup: nis automount: files nis aliases: files nis services: files nis sendmailvars: files</pre>	cat /etc/nsswitch.conf
ドメイン名	lbloom.West.Arp.COM	domainname
ネームサーバーのホスト名	thor75	ypwhich
ネームサーバーのホスト IP アドレス	129.153.75.20	ypmatch nameserver_name hosts または nismatch nameserver_name hosts.org_dir

SPARC: Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法

▼ SPARC: 作業を始める方法

1. 表 5-4 を使用して、**Solaris 8** をインストールするシステムが、対話式インストールを実行する準備ができていることを確認します。

表 5-4 SPARC: 作業マップ: 対話式インストールのためのシステムの設定

作業	説明	参照箇所
既存の Solaris 1.x (SunOS 4.x) ファイルのバックアップをとる	Solaris 1.x リリース (SunOS 4.x) がシステムにインストールされている場合は、一部の Solaris 1.x ファイルを Solaris 8 ファイルに変換またはマージできます。begin スクリプトおよび finish スクリプトを使用して、ファイルを変換またはマージできます。	『Solaris 移行ガイド』
システムがサポートされているかどうかを確認する	ハードウェアのマニュアルで、Solaris 8 でシステムがサポートされているかどうかを調べます。	『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』
旧バージョンの Solaris がインストールされている場合は、システムをアップグレードする方法を決定する	システムに以前の Solaris リリースがインストールされている場合は、システムをどのようにアップグレードするかを決定する必要があります。システムをアップグレードする前と後で何をすべきかを明確にしておいてください。	65ページの「SPARC: システムのアップグレード」
Solaris 8 ソフトウェアをインストールするための十分なディスク容量がシステムにあるかどうかを確認する	(省略可能) ディスク容量の計画を立てるときには、どのソフトウェアグループをインストールするかなど、さまざまな考慮事項があります。	第 2 章

表 5-4 SPARC: 作業マップ: 対話式インストールのためのシステムの設定 続く

作業	説明	参照箇所
システム構成情報を事前設定する	(省略可能) <code>sysidcfg</code> ファイルまたはネームサービスを使用して、システムのインストール情報 (たとえばロケール) をあらかじめ設定できるため、インストール作業中にプロンプトに答えて毎回情報入力する手間が省けます。	第 4 章
ネットワーク上でインストールするようにシステムを設定する	ネットワーク上でのインストールの場合のみ リモートの Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC) イメージからシステムをインストールするには、インストールサーバーまたはブートサーバーからシステムをブートしてインストールを行うように設定する必要があります。	第 9 章

2. システムがネットワークの一部に組み込まれている場合は、**Ethernet** コネクタまたは類似のネットワークアダプタがそのシステムに接続されていることを確認します。

3. `tip(1)` ラインで接続されているシステムに **Solaris** ソフトウェアを

- インストールしない場合は、次の手順に進みます。
- インストールする場合は、ウィンドウ表示が横 80 桁、縦 24 行以上あることを確認します。

注 - `tip` ウィンドウの現在のサイズを調べるには、`stty(1)` コマンドを使用してください。

4. システムの **CD-ROM** ドライブを使用して、システムに **Solaris 8** のソフトウェアを

- インストールしない場合は、次の手順に進みます。

- インストールする場合は、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) をシステムの CD-ROM ドライブに挿入します。

5. システムをブートします。

システム	操作
新規 (梱包から取り出したばかり)	システムの電源を入れます。
既存	<p>スーパーユーザーで <code>halt</code> と入力するか、<code>Stop</code> キーと <code>A</code> キーを同時に押して <code>ok</code> プロンプトを表示します。システムのローカル CD-ROM ドライブからインストールする場合は、次のように入力します。</p> <pre>ok boot cdrom</pre> <p>ネットワーク上のインストールサーバーからインストールする場合は、次のように入力します。</p> <pre>ok boot net</pre>

次のような情報が表示されます。

```

Boot device: /sbus/espdma@e,8400000/esp@e,8800000/sd@6,0:f File and args:
SunOS Release 5.8 Version Generic 32-bit
Copyright 1983-2000 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Configuring /dev and /devices
Using RPC Bootparams for network configuration information.
le0: No carrier - cable disconnected or hub link test disabled?

```

数秒後、言語の選択メニューが表示されます。

6. プロンプト、メッセージ、および他のインストール情報を表示するための言語を示す番号を入力します。

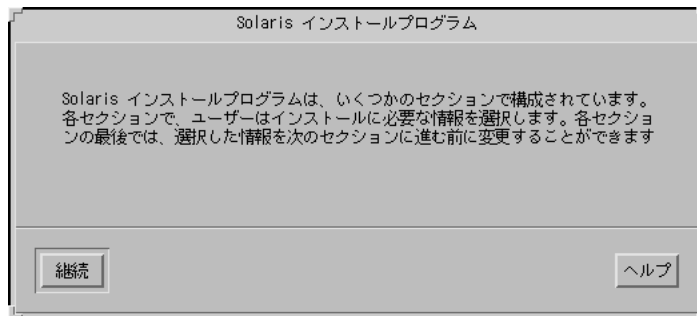
ロケールのメニューが表示されます。

7. インストールに使用するロケールを示す番号を入力します。

OpenWindows™ デスクトップが起動し、「Solaris インストールコンソール (Solaris Install Console)」ウィンドウには、次のメッセージが表示されます。

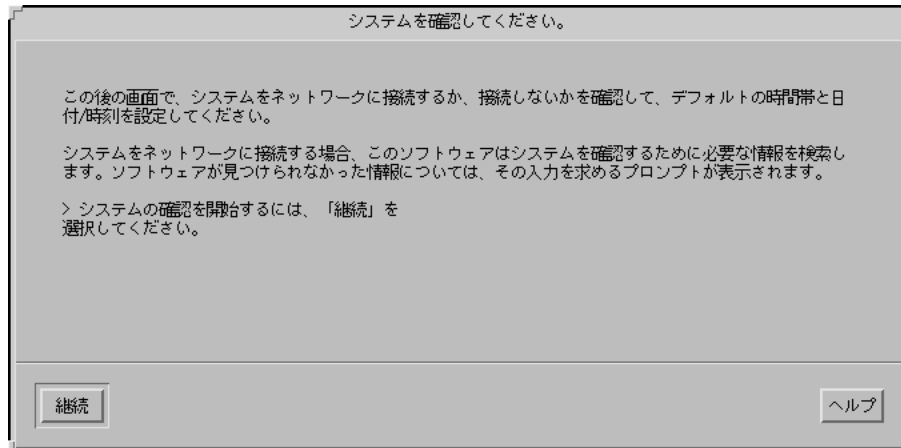
```
The system is coming up. Please wait.
```

「Solaris インストールプログラム (Solaris Installation Program)」画面が表示されます。



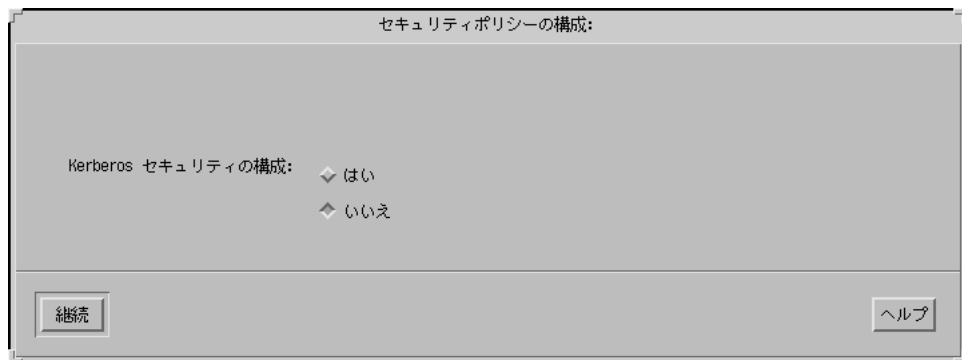
8. 「継続 (Continue)」をクリックします。

「システムを確認してください (Identify This System)」画面が表示されます。



▼ SPARC: システムを特定する方法

1. 「システムを確認してください (**Identify This System**)」画面の「**継続 (Continue)**」をクリックします。
「セキュリティポリシーの構成 (Configure Security Policy)」画面が表示されます。



2. システムで **Kerberos** セキュリティの構成を
 - 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択して「**継続 (Continue)**」をクリックします。
「**Kerberos** セキュリティの構成 (Configure Kerberos Security)」画面が表示されます。

Kerberos セキュリティの構成:

Kerberos クライアントとしてシステムを構成するために必要な情報を入力してください。

以下のフィールドには情報を必ず入力してください:
「デフォルトのレルム」「管理サーバー」「一次 KDC」

これらの情報は、ネットワーク管理者に確認してください。

デフォルトのレルム

管理サーバー:

一次 KDC

二次 KDC

二次 KDC

二次 KDC

- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

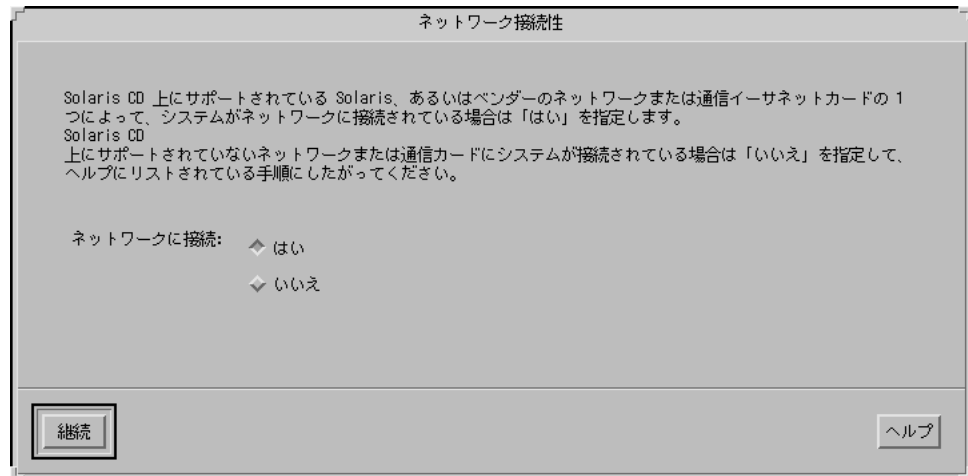
3. 75ページの手順2で **Kerberos** セキュリティの構成を

- 選択しなかった場合は、次の手順に進みます。
- 選択した場合は、「Kerberos セキュリティの構成 (Configure Kerberos Security)」画面に入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

4. 「情報の確認 (**Confirm Information**)」画面の「継続 (**Continue**)」をクリックします。

- システムをすでにネットワークに接続している場合、または第4章の説明に従ってシステム構成情報を事前設定し、Solaris 8 対話式インストールプログラムがシステムを完全に特定できる場合は、「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面が表示されます。
- システムを現在ネットワークに接続していないか、またはシステムを完全に特定できない場合、Solaris 8 対話式インストールプログラムは、情報入力用の画面を表示します。はじめに表示されるのは「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面です。



5. **Solaris** 対話式インストールプログラムがシステムを完全に

- 特定できた場合は、88ページの手順 1 に進みます。
- 特定できなかった場合は、次の手順に進みます。

6. システムをネットワークに

- 接続していない場合は、「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面で「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックし、79ページの手順 9 に進みます。
- 接続している場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。

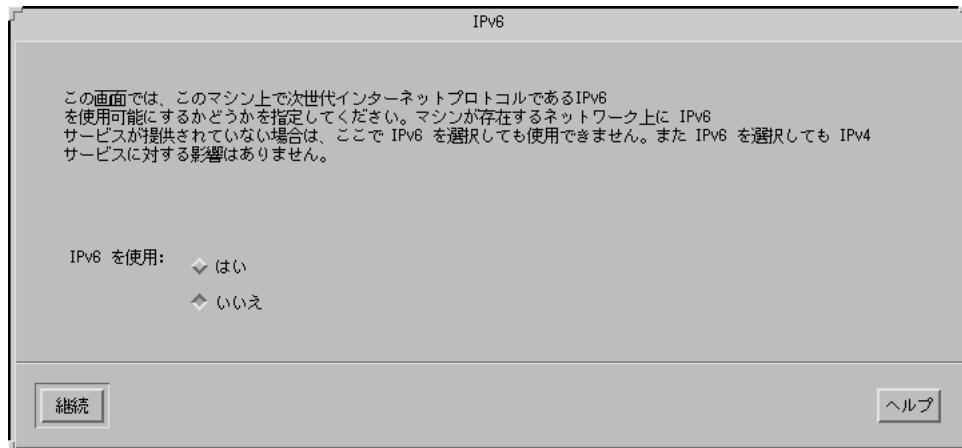
「DHCP」画面が表示されます。



7. DHCP を使用してネットワークインタフェースを

- 構成しない場合は、「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックし、79ページの手順9に進みます。
- 構成する場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。

「IPv6」画面が表示されます。

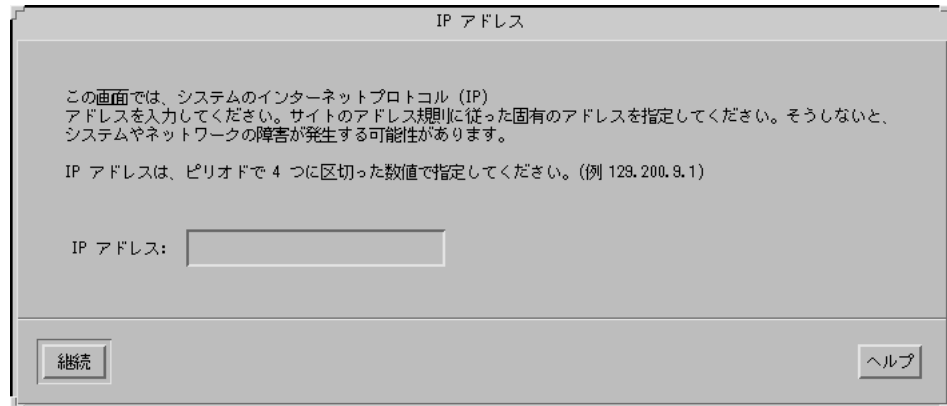


8. IPv6 を

- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックし、80ページの手順 12 に進みます。
- 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックし、80ページの手順 12 に進みます。

9. 「ホスト名 (Host Name)」画面で、ホスト名を入力して「継続 (Continue)」をクリックします。

- システムをネットワークに接続している (つまり、77ページの手順 6 の「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面で「はい (Yes)」を選択した) 場合は、「IP アドレス (IP Address)」画面が表示されます。



- システムをネットワークに接続していない場合は、「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

10. システムをネットワークに

- 接続していない場合は、85ページの手順 19 に進みます。
- 接続している場合、ネットワークインタフェースの構成に DHCP を使用するように指定したか (つまり、78ページの手順 7 の「DHCP」画面で「はい (Yes)」を選択したか) を確認します。
 - DHCP を使用するよう指定した場合は、80ページの手順 12 に進みます。
 - DHCP を使用しないよう指定した場合は、「IP アドレス (IP Address)」画面で、ネットワークに接続したシステムの IP アドレスを入力して「継続 (Continue)」をクリックします。

「IPv6」画面が表示されます。

11. IPv6 を

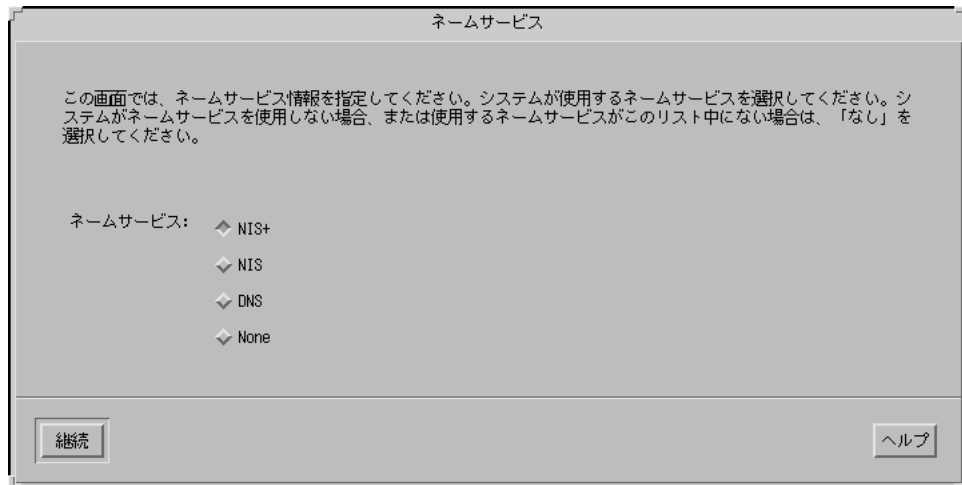
- 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。
- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

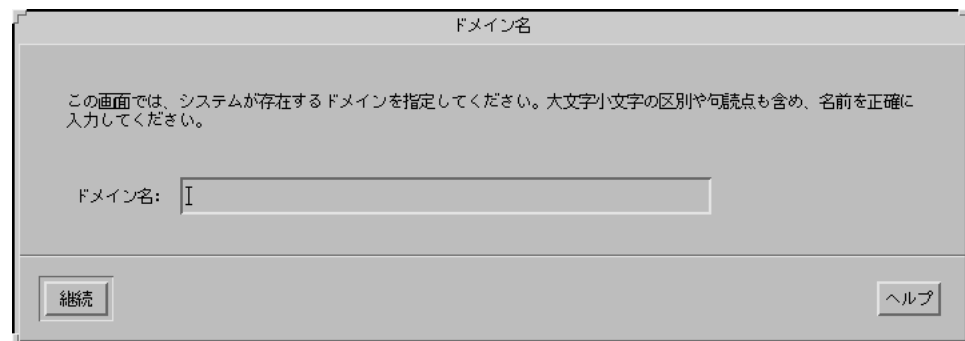
12. 「情報の確認 (Confirm Information)」画面の情報が

- 正しくない場合は、「変更 (Change)」をクリックして情報が正しくなるまで、77ページの手順 6 からの手順を繰り返します。

- 正しい場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。
「ネームサービス (Name Service)」画面が表示されます。



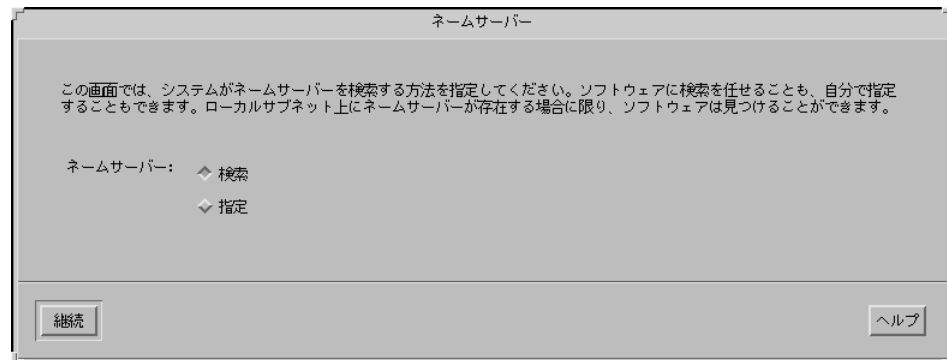
13. 「ネームサービス (Name Service)」画面で、システムが使用するネームサービスまたは「なし (None)」を選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。
 - NIS、NIS+、または DNS を選択した場合は、「ドメイン名 (Domain Name)」画面が表示されます。



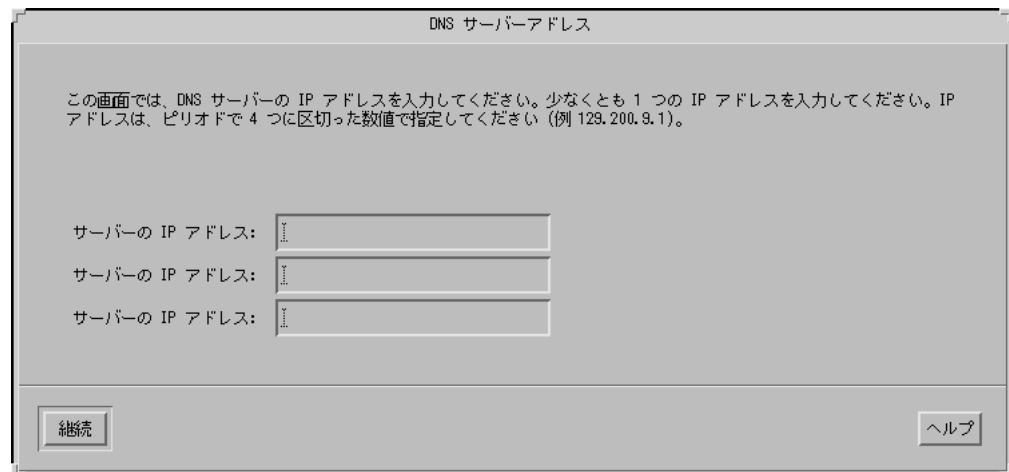
- 「なし (None)」を選択した場合は、「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

14. 81ページの手順 13 で「なし (None)」を

- 選択した場合は、85ページの手順 19 に進みます。
- 選択しなかった場合は、「ドメイン名 (Domain Name)」画面で、システムが存在するドメイン名を入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。
NIS+ または NIS を選択した場合は、「ネームサーバー (Name Server)」画面が表示されます。



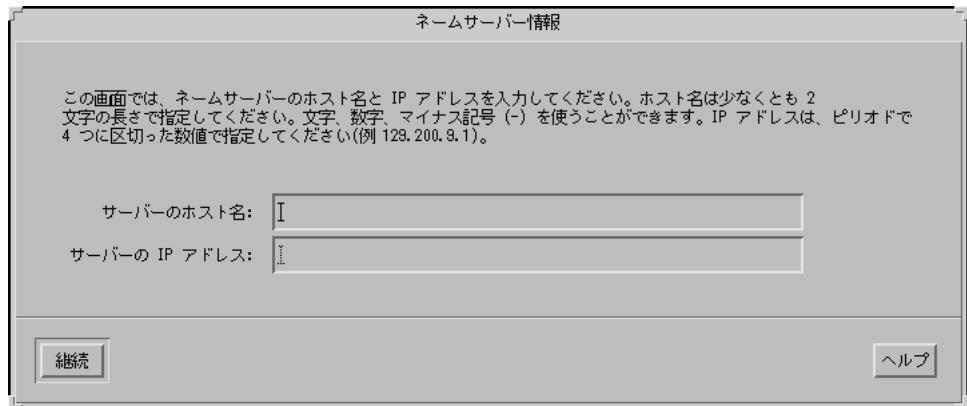
DNS を選択した場合は、「DNS サーバーアドレス (DNS Server Addresses)」画面が表示されます。



15. 使用するネームサービスが

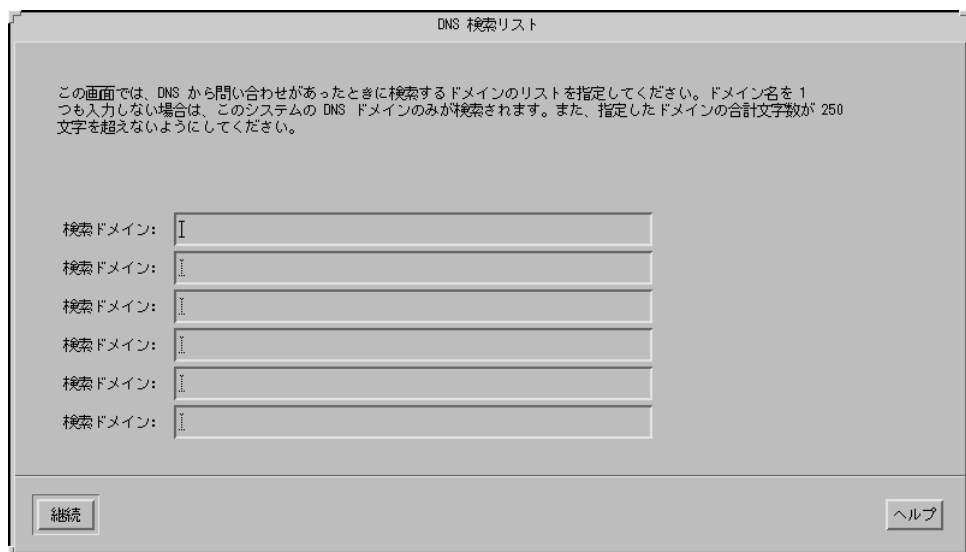
- NIS+ または NIS の場合は、「検索 (Find one)」または「指定 (Specify one)」を選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。
- 「検索 (Find one)」を選択した場合は、「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

- 「指定 (Specify one)」を選択した場合は、「ネームサーバー情報 (Name Server Information)」画面が表示されます。



- DNS の場合は、任意の DNS サーバーの IP アドレスを入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。

「DNS 検索リスト (DNS Search List)」画面が表示されます。

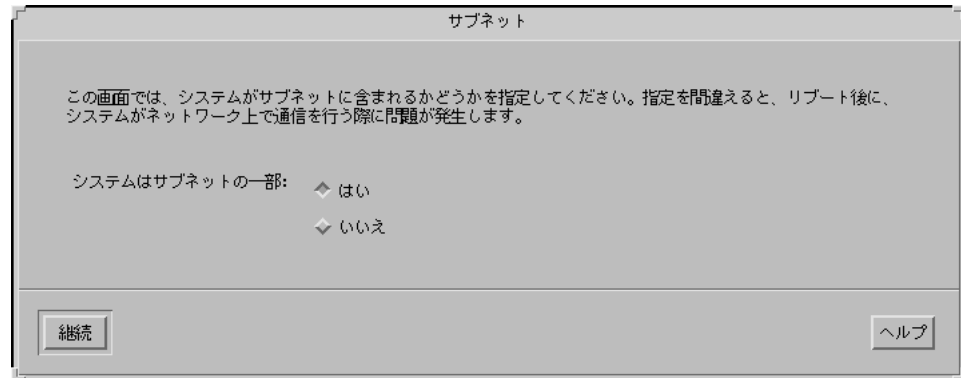


16. 使用するネームサービスが

- NIS+ または NIS の場合、82ページの手順 15 で
 - 「検索 (Find one)」を選択した場合は、85ページの手順 19 に進みます。

- 「指定 (Specify one)」を選択した場合は、サーバーのホスト名と IP アドレスを入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。

「サブネット (Subnets)」画面が表示されます。

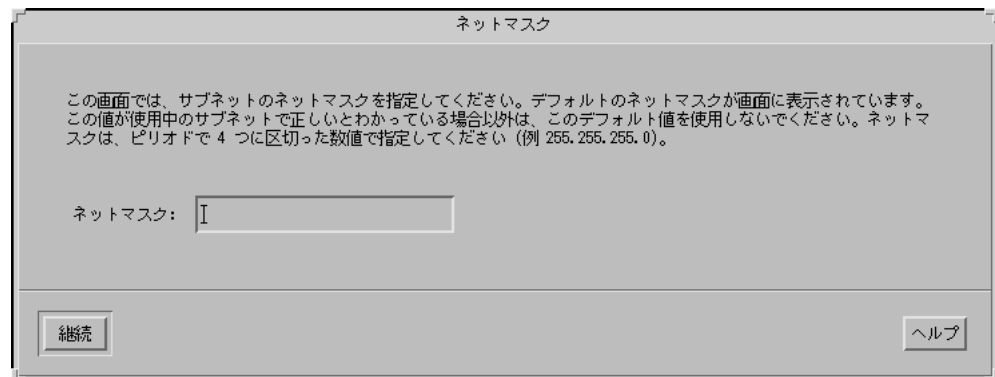


- DNS の場合は、DNS から問い合わせがあった時に検索する 1 つまたは複数のドメイン名を入力して「継続 (Continue)」をクリックし、85 ページの手順 19 に進みます。

17. システムがサブネットの

- 一部である場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。

「ネットマスク (Netmask)」画面が表示されます。



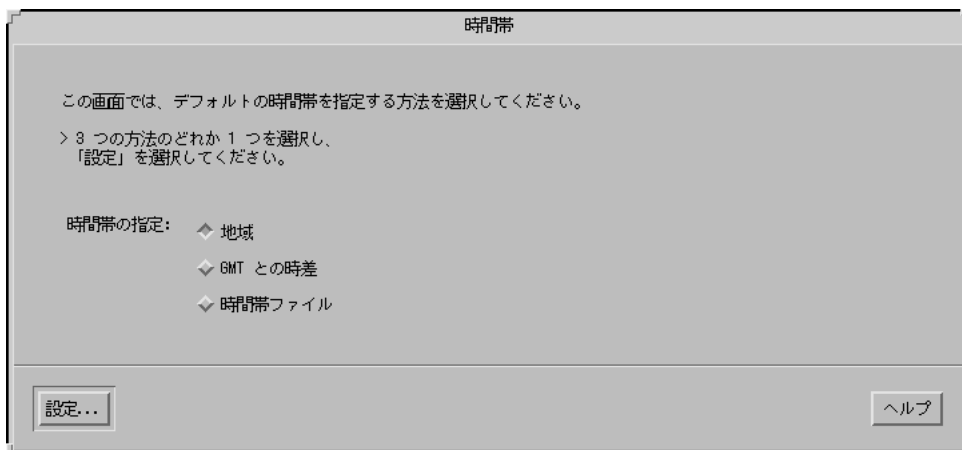
- 一部ではない場合は、「いいえ (No)」を選択して 85 ページの手順 19 に進みます。

18. 任意のネットマスクを入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

19. 「情報の確認 (Confirm Information)」画面に表示された情報が

- 正しくない場合、システムがネットワークに
 - 接続していない場合は、「変更 (Change)」をクリックして情報が正しくなるまで、77ページの手順6からの手順を繰り返します。
 - 接続している場合は、「変更 (Change)」をクリックして情報が正しくなるまで、81ページの手順13からの手順を繰り返します。
- 正しい場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。
「時間帯 (Time Zone)」画面が表示されます。



20. 「時間帯 (Time Zone)」画面で、デフォルトの時間帯を指定する方法を選択して、「設定 (Set)」をクリックします。

選択した方法によって、「地域 (Geographic Region)」、「GMT との時差 (Offset From GMT)」、「時間帯ファイル (Time Zone File)」のいずれかの画面が表示されます。

21. 次の表に従って、次の操作を実行します。

選択した方法	操作
地域	左側のウィンドウで地域を選択し、右側で時間帯を選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。
GMT との時差	スライダを左 (イギリスのグリニッジより西の地域)、または右 (イギリスのグリニッジより東の地域) に移動して、「継続 (Continue)」をクリックします。
時間帯ファイル	/usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリ内のファイル名を指定するか、または「選択 (Select)」をクリックしてこのディレクトリ内のファイルを選択し、「継続 (Continue)」をクリックします。

「日付と時刻 (Date and Time)」画面が表示されます。

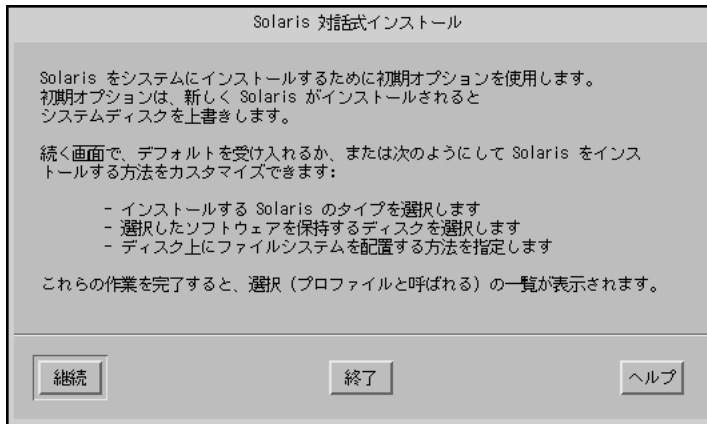
22. 必要であれば、日付と時刻を訂正して、「継続 (Continue)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

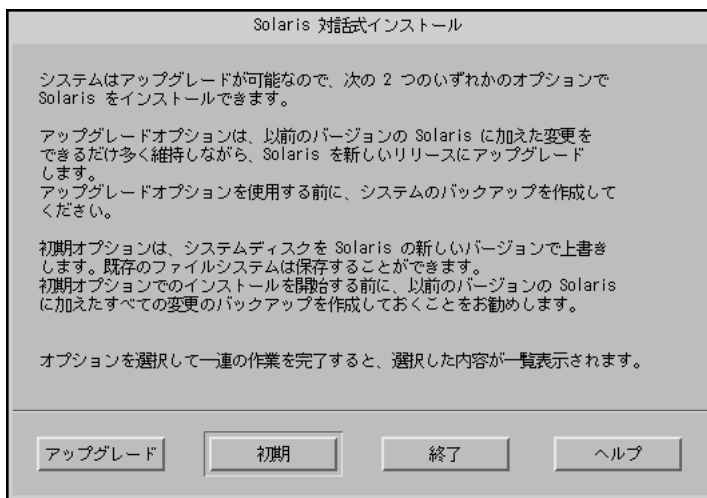
23. 「情報の確認 (Confirm Information)」画面に表示された情報が

- 正しくない場合は「変更 (Change)」をクリックして、情報が正しくなるまで、85ページの手順 20 から始まる手順を繰り返します。
- 正しい場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。

Solaris オペレーティング環境がシステムにインストールされていない場合は、次のような「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面が表示されます。



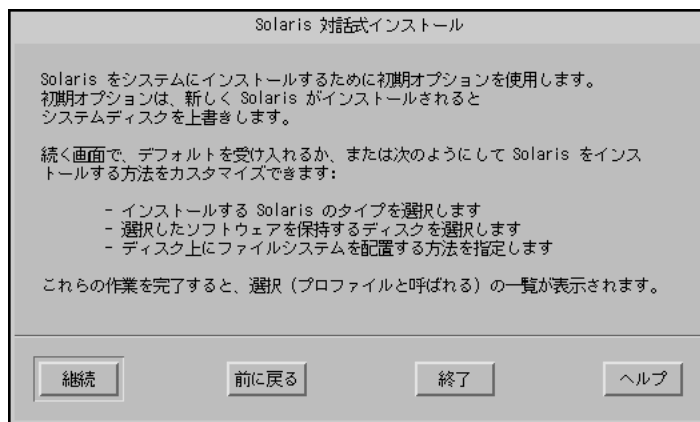
Solaris オペレーティング環境がシステムにすでにインストールされている場合は、次のような「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面が表示されます (表示されない場合は第 12 章を参照)。



▼ SPARC: Solaris 8 ソフトウェアをインストールする方法

1. 「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面で、「初期 (Initial)」、「継続 (Continue)」、または「アップグレード (Upgrade)」を選択します。

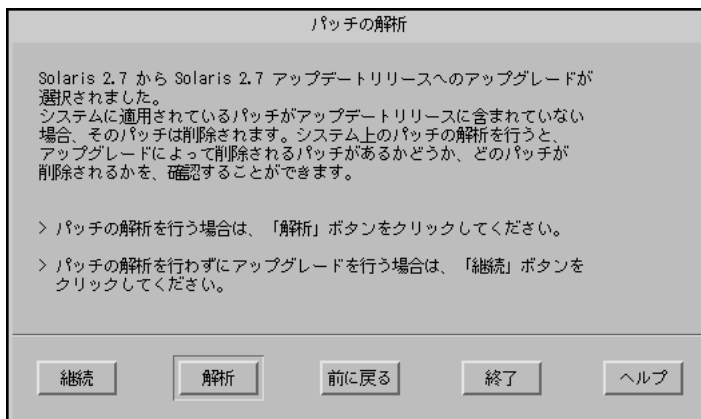
「初期 (Initial)」を選択した場合は、「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面に追加情報が表示されます。



「継続 (Continue)」を選択した場合、または「アップグレード (Upgrade)」を選択して、システムに Solaris 8 Update がインストールされていない場合は、「地域の選択 (Select Geographic Regions)」画面が表示されます。



「アップグレード (Upgrade)」を選択して、システムに Solaris 8 Update をインストールしようとしている場合は、「パッチの解析 (Patch Analysis)」画面が表示されます。



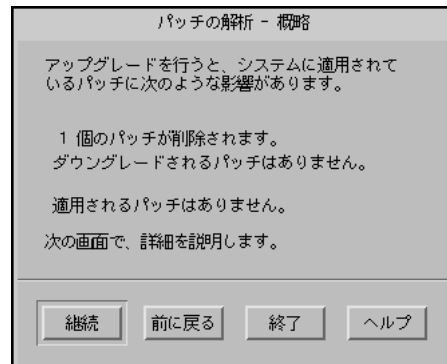
2. 88ページの手順 1 で

- 「初期 (Initial)」を選択した場合は、「継続 (Continue)」をクリックして92ページの手順9に進みます。
- 「継続 (Continue)」を選択した場合は、92ページの手順9に進みます。
- 「アップグレード (Upgrade)」を選択した場合は、次の手順に進みます。

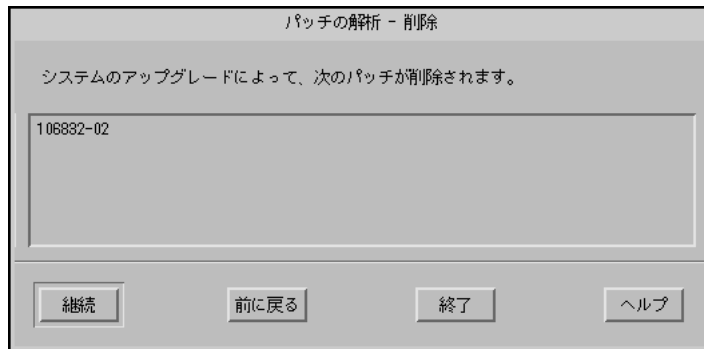
3. Solaris 8 Update を

- 現在インストールしていない場合は、92ページの手順9に進みます。
- 現在インストールしている場合、パッチの解析を
 - 実行しない場合は、「継続 (Continue)」をクリックして92ページの手順9に進みます。
 - 実行する場合、「解析 (Analyze)」をクリックします。

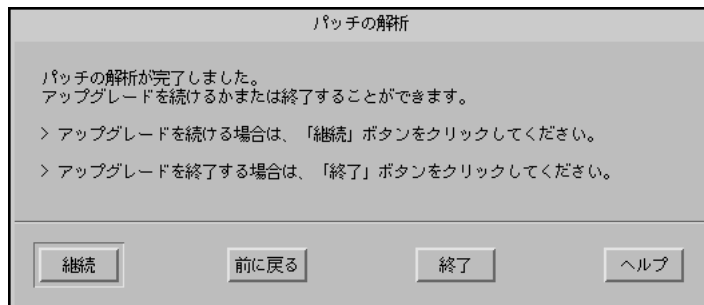
Solaris 8 対話式インストールプログラムは、システムを解析してどのパッチが削除されるかを判断します。プログラムが終了すると、「パッチの解析 - 概略 (Patch Analysis - Summary)」画面が表示されます。



4. 「継続 (Continue)」をクリックします。
「パッチの解析 - 削除 (Patch Analysis - Removals)」画面が表示されます。



5. ダウングレード、置き換えられ削除されるすべてのパッチの表示が終了するまで、「継続 (Continue)」をクリックします。
終了すると、解析情報がクリアされ、「パッチの解析 (Patch Analysis)」画面が表示されます。



6. アップグレードを続けるか、または終了して現在システム上にあるパッチを管理するか、パッチだけを適用するか (したがってアップグレードを終了するか) を決めます。
 - 続ける場合は、「継続 (Continue)」をクリックして 92 ページの手順 9 に進みます。
 - 終了する場合は、「終了 (Exit)」をクリックします。

コンソールウィンドウから Solaris 8 対話式インストールプログラムを再起動できることを知らせる警告画面が表示されます。

7. 「警告 (**Warning**)」画面で「終了 (**Exit**)」をクリックします。
8. 現在システム上にあるパッチを管理するか、または更新されたパッチだけを適用するか (したがってアップグレードを終了するか) を決めます。
 - 現在システム上にあるパッチを管理する場合は、パッチに対して必要な処理を実行します。処理が終了したら、「インストールワークスペース (Install Workspace)」メニューの「インストールの再起動 (Restart Install)」を選択して、インストールを再開または再起動します。
 - 更新されたパッチだけを適用する場合は、Solaris 8 Maintenance Update を使用して、システムに Maintenance Update パッチを適用します。

注 - Solaris 8 Maintenance Update は、Solaris 8 Maintenance Update CD 上にあります。この CD は Solaris 8 Update リリースに含まれます。パッチの適用方法は、Maintenance Update の『ご使用にあたって』に記載されています。

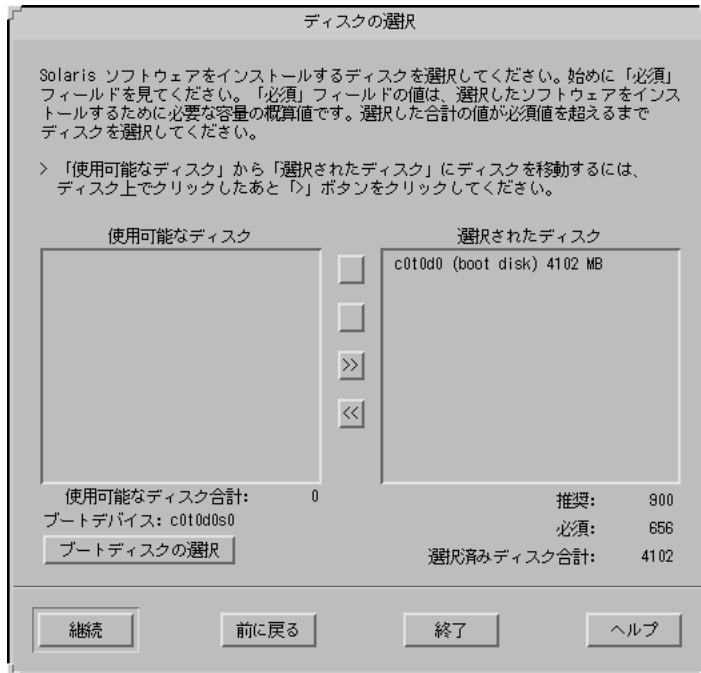
9. 「地域の選択 (**Select Geographic Regions**)」画面で、**Solaris 8** ユーザーインタフェースで使用する 1 つまたは複数の地域を選択して、「継続 (**Continue**)」をクリックします。

注 - デフォルトでは、英語 (米国、en_US) がインストールされます。

「ソフトウェアの選択 (Select Software)」画面が表示されます。



10. インストールするソフトウェアグループを選択します。
11. ソフトウェアクラスタまたはパッケージを追加あるいは削除して、93ページの手順 10 で選択したソフトウェアグループの構成を
 - 変更しない場合は、次の手順に進みます。
 - 変更する場合は、「カスタマイズ (Customize)」をクリックし、「ソフトウェアのカスタマイズ (Customize Software)」画面を使用して、必要なソフトウェアクラスタまたはパッケージを追加または削除します。
12. 「継続 (Continue)」をクリックします。
「ディスクの選択 (Select Disks)」画面が表示されます。

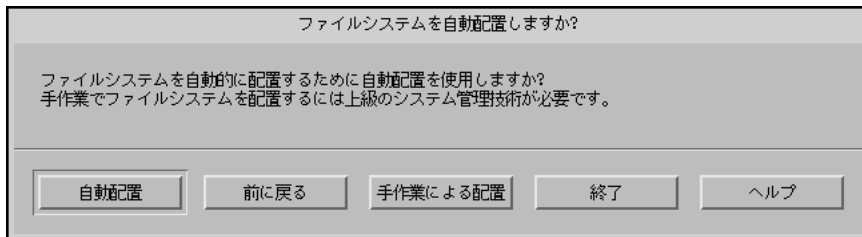


13. 必要なディスクが「**選択されたディスク (Selected Disks)**」ウィンドウに表示されていない場合は、「**使用可能なディスク (Available Disks)**」ウィンドウ上で必要なディスクをクリックした後、「>」ボタンをクリックします。

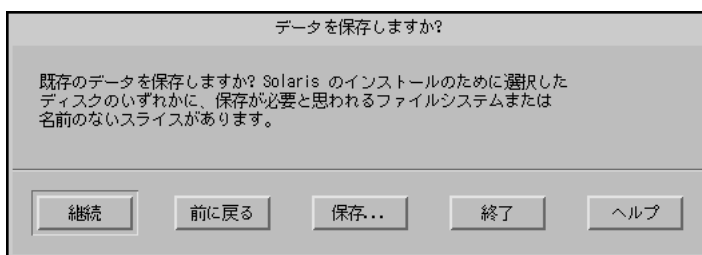
選択したディスクが、「**選択されたディスク (Selected Disks)**」ウィンドウに移動します。

14. 「**継続 (Continue)**」をクリックします。

選択したディスクに既存のデータが含まれていない場合は、「**ファイルシステムを自動配置しますか? (Automatically Layout File Systems?)**」画面が表示されます。



選択したディスクに既存のデータが含まれている場合は、「データを保存しますか? (Preserve Data?)」画面が表示されます。

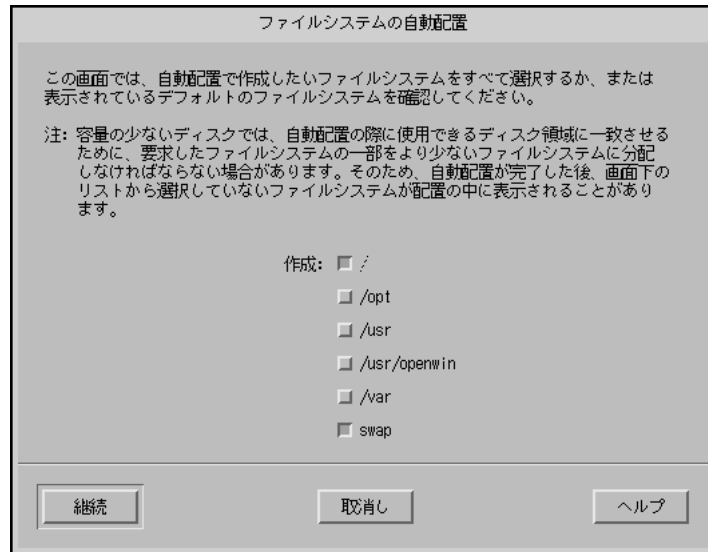


15. 「データを保存しますか? (Preserve Data?)」画面が

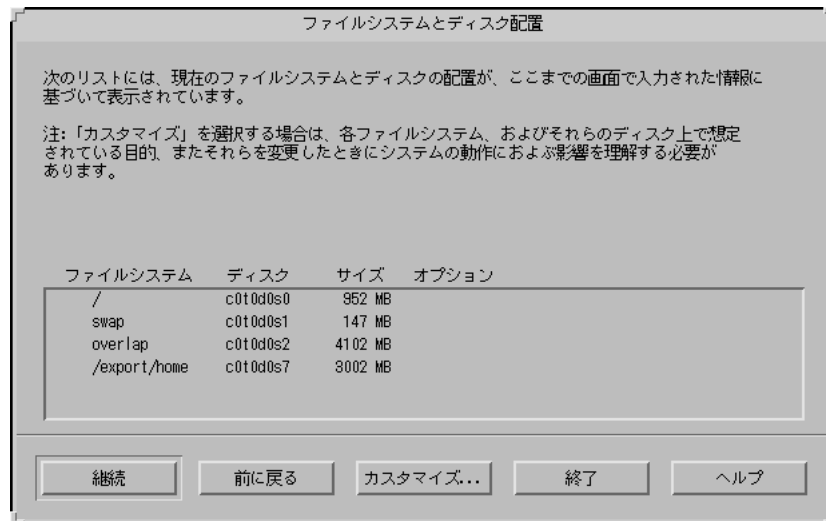
- 表示されていない場合は、次の手順に進みます。
- 表示されている場合、ディスク内のデータを
 - 保持しない場合は、次の手順に進みます。
 - 保持する場合は、「保存 (Preserve)」をクリックして、続いて表示される画面の指示に従います。

16. Solaris 8 対話式インストールプログラムで、ファイルシステムを自動的に

- 配置する場合は、「自動配置 (Auto Layout)」をクリックします。
「ファイルシステムの自動配置 (Automatically Layout File Systems)」画面が表示されます。



- 配置しない場合は、「手作業による配置 (Manual Layout)」をクリックします。「ファイルシステムとディスク配置 (File System and Disk Layout)」画面が表示されます。



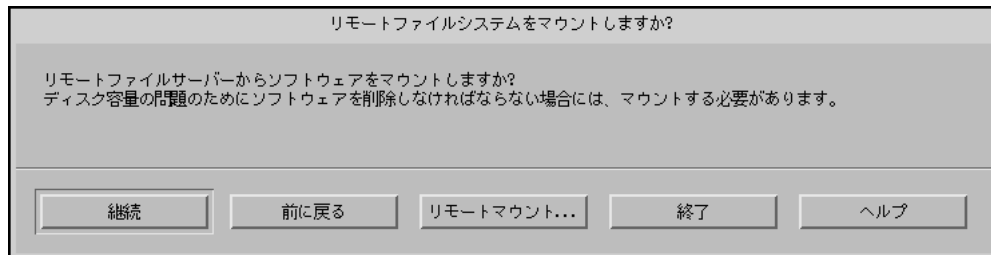
17. ファイルシステムを配置するために

- 「手作業による配置 (Manual Layout)」を選択した場合は、97ページの手順 18に進みます。

- 「自動配置 (Auto Layout)」を選択した場合は、作成するファイルシステムを選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。
「ファイルシステムとディスク配置 (File System and Disk Layout)」画面が表示されます。

18. ファイルシステムおよびディスク配置を

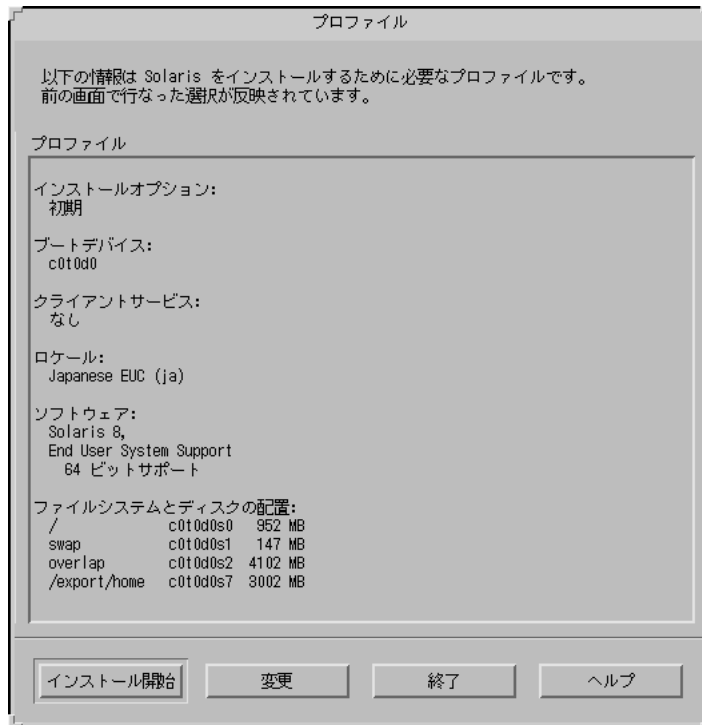
- カスタマイズする場合は、「カスタマイズ (Customize)」をクリックして、続いて表示される画面の指示に従います。
- カスタマイズしない場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。
「リモートファイルシステムをマウントしますか? (Mount Remote File Systems?)」画面が表示されます。



19. リモートファイルサーバーからソフトウェアを

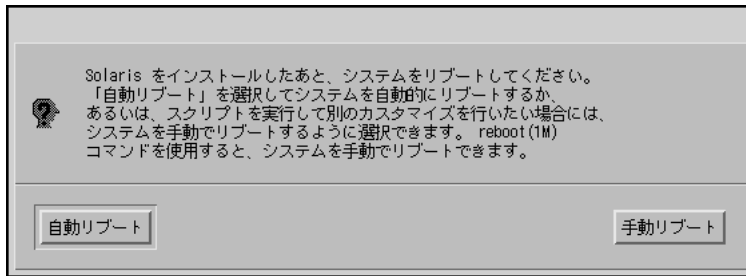
- マウントする場合は、「リモートマウント (Remote Mounts)」をクリックして、続いて表示される画面の指示に従います。
- マウントしない場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。

「プロファイル (Profile)」画面が表示されます。



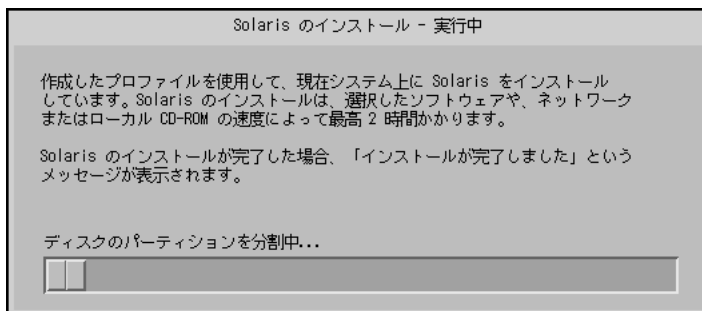
20. 「インストール開始 (Begin Installation)」をクリックします。

「自動リブート (Auto Reboot)」と「手動リブート (Manual Reboot)」の2つのボタンを持つ画面が表示されます。



21. 「自動リブート (Auto Reboot)」または「手動リブート (Manual Reboot)」をクリックします。

「Solaris のインストール - 実行中 (Installing Solaris Software - Progress)」画面が表示されます。



Solaris 8 対話式インストールプログラムによる Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムは自動的にリブートするか、または手動でのリブートが要求されます。

インストールが終了すると、Solaris 8 ソフトウェアがシステムにどのようにインストールされたかを示すログがファイルに保存されます。

表 5-5 SPARC: インストールログの場所

インストール方法	ログファイルの場所
初期	<ul style="list-style-type: none"> ■ システムのリブート前: /a/var/sadm/system/logs/install_log ■ システムのリブート後: /var/sadm/system/logs/install_log
アップグレード	<ul style="list-style-type: none"> ■ システムのリブート前: /a/var/sadm/system/logs/upgrade_log ■ システムのリブート後: /var/sadm/system/logs/upgrade_log

▼ SPARC: pkgadd によってソフトウェアパッケージを追加する方法

1. すでにインストールした **Solaris 8** ソフトウェアにソフトウェアパッケージを
 - 追加しない場合は、停止して終了します。
 - 追加する場合は、100ページの手順 2 に進みます。
2. **Solaris** ソフトウェアをインストールしたシステムにログインして、スーパーユーザーになります。
3. システムの **CD-ROM** ドライブに追加するパッケージを含む **CD** を挿入します。CD は、Solaris ボリュームマネージャによって自動的にマウントされます。
4. pkgadd(1M) コマンドを使用して、必要なパッケージを追加します。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d device_name pkgid
```

ここで、*device_name* は、インストールシステムに追加するパッケージを含む CD へのパス、*pkgid* はインストールシステムに追加するソフトウェアパッケージの名前 (たとえば、SUNWaudio) を示します。

5. パッケージが正しくインストールされたかどうかを確認します。

```
# /usr/sbin/pkgchk -v pkgid
```

パッケージが正しくインストールされた場合は、インストールされたファイルのリストが表示されます。インストールされていない場合は、エラーメッセージが表示されます。

SPARC: 例

次の例は、SUNWaudio パッケージを追加し、インストールの結果を確認する方法を示しています。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d /cdrom/sol_8_sparc/Solaris_8/Product SUNWaudio
.
.
Installation of <SUNWaudio> was successful.
# pkgchk -v SUNWaudio
/usr
/usr/bin
/usr/bin/audioconvert
/usr/bin/audioplay
/usr/bin/audiorecord
#
```

▼ SPARC: アップグレード後に整理する方法

アップグレードが終了後、システムの整理が必要になる場合があります。アップグレード時に、Solaris 8 対話式インストールプログラムは、既存システムのローカルソフトウェアの変更を新しい Solaris ソフトウェアにマージします。ただし、場合によっては、マージできないことがあります。

1. 次のファイルの内容を参照して、**Solaris 8** 対話式インストールプログラムが保存できなかったローカルの変更を修正する必要があるかどうかを確認します。

```
/a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup
```



注意 - upgrade_cleanup のすべての内容を慎重に確認してください。保存されなかったローカルの変更を修正しないと、システムがブートしない場合があります。

2. 必要に応じて、保存されなかったローカルの変更をすべて修正します。
3. システムをリブートします。

```
# reboot
```

IA: システムのアップグレード

Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用して、Intel 32 ビットプロセッサアーキテクチャ (IA) ベースのシステムで Solaris ソフトウェアをアップグレードするには、この項の指示に従ってください。Solaris ソフトウェアだけをインストールする場合は、105ページの「IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法」に進んでください。

▼ IA: 作業を始める方法

1. 下記のマニュアルを調べます。
 - 『Solaris 8 ご使用にあたって (Intel 版)』と製造元のリリースノートで、使用しているソフトウェアが新しいリリースでもサポートされているかどうかを調べます。
 - 『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』で、使用しているハードウェアがまだサポートされているかどうかを調べます。
 - 使用しているシステムのマニュアルで、各自のシステムとデバイスが新しいリリースでもサポートされているかどうかを調べます。
 - 必要となるすべての入手可能なパッチを調べます。最新パッチリストは、<http://sunsolve.sun.com> にあります。

- 表 5-6 で既知の問題を確認します。このリストは完全なものではありません。製造元のソフトウェアマニュアルで、常に追加のアップグレード指示を確認するようにしてください。

表 5-6 IA: アップグレード前に変更が必要なソフトウェア

ソフトウェア	問題の要約
Prestoserve	init 0 を使用してシステムをシャットダウンしてアップグレード処理を開始する場合、データが失われる可能性があります。シャットダウンの方法については、Prestoserve のマニュアルを参照してください。

2. **Solaris** のアップグレードに使用する言語を指定します。次のどれかを選択できます。
 - 日本語
 - 英語
 - 中国語 (簡体字)
 - 中国語 (繁体字)
 - 韓国語
 - フランス語
 - ドイツ語
 - イタリア語
 - スペイン語
 - スウェーデン語
3. 少なくとも次の **CD** があることを確認します。
 - Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) と Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)

■ Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel)

▼ IA: アップグレードを計画する方法

1. ネットワークを介してアップグレードするときに、システム構成情報を事前設定していない場合は、**Solaris** オペレーティング環境をアップグレードするシステムに関する次の情報を収集します。

情報	例	Solaris がインストールされたシステム上で情報を検索するために使用するコマンド
ホスト名	crater	<code>uname -n</code>
ホスト IP アドレス	129.221.2.1	<code>ypmatch system_name hosts</code> または <code>nismatch system_name hosts.org_dir</code>
サブネットマスク	255.255.255.0	<code>more /etc/netmasks</code>
ネームサービスの種類 (DNS、NIS、または NIS+)	<pre>passwd: files nis group: files nis hosts: xfn nis [NOTFOUND=return] files networks: nis [NOTFOUND=return] files protocols: nis [NOTFOUND=return] files rpc: nis [NOTFOUND=return] files ethers: nis [NOTFOUND=return] files netmasks: nis [NOTFOUND=return] files bootparams: nis [NOTFOUND=return] files publickey: nis [NOTFOUND=return] files netgroup: nis automount: files nis aliases: files nis services: files nis sendmailvars: files</pre>	<code>cat /etc/nsswitch.conf</code>
ドメイン名	lbloom.West.Arp.COM	<code>domainname</code>

情報	例	Solaris がインストールされたシステム上で情報を検索するために使用するコマンド
ネームサーバーのホスト名	thor75	ypwhich
ネームサーバーのホスト IP アドレス	129.153.75.20	ypmatch nameserver_name hosts または nismatch nameserver_name hosts.org_dir

IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法

▼ IA: 作業を始める方法

1. 表 5-7 を使用して、**Solaris 8** をインストールするシステムが、対話式インストールを実行する準備ができていることを確認します。

表 5-7 IA: 作業マップ: 対話式インストールのためのシステムの設定

作業	説明	参照箇所
既存の Solaris 1.x (SunOS 4.x) ファイルのバックアップをとる	Solaris 1.x リリース (SunOS 4.x) がシステムにインストールされている場合は、一部の Solaris 1.x ファイルを Solaris 8 ファイルに変換またはマージできます。begin スクリプトおよび finish スクリプトを使用して、ファイルを変換またはマージできます。	『Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)』の「既存のオペレーティングシステムとユーザーデータの保存」
システムがサポートされているかどうかを確認する	ハードウェアのマニュアルで、Solaris 8 でシステムがサポートされているかどうかを調べます。	『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』

表 5-7 IA: 作業マップ: 対話式インストールのためのシステムの設定 続く

作業	説明	参照箇所
旧バージョンの Solaris がインストールされている場合は、システムをアップグレードする方法を決定する	システムに以前の Solaris リリースがインストールされている場合は、システムをどのようにアップグレードするかを決定する必要があります。システムをアップグレードする前と後で何をすべきかを明確にしておいてください。	102ページの「IA: システムのアップグレード」
Solaris 8 ソフトウェアをインストールするための十分なディスク容量がシステムにあるかどうかを確認する	(省略可能) ディスク容量の計画をたてる際には、どのソフトウェアグループをインストールするかなど、さまざまな考慮事項があります。	第 2 章
システム構成情報を事前設定する	(省略可能) sysidcfg ファイルまたはネームサービスを使用して、システムのインストール情報 (たとえばロケール) をあらかじめ設定できるため、インストール作業中にプロンプトに答えて毎回情報を入力する手間が省けます。	第 4 章
ネットワーク上でインストールするようにシステムを設定する	ネットワーク上でのインストールの場合のみ リモートの Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel) イメージからシステムをインストールするには、インストールサーバーまたはブートサーバーからシステムをブートしてインストールを行うように設定する必要があります。	第 9 章

2. システムがネットワークに組み込まれている場合は、**Ethernet** コネクタまたは類
似のネットワークアダプタがそのシステムに接続されていることを確認します。

3. **Linux** オペレーティングシステムを

- 使用しない場合は、次の手順に進みます。
- 使用する場合は、Solaris fdisk パーティションと Linux swap パーティシ
ョンは同じ識別子 (0x83) を使用するため、次の作業が必要です。
 - スワップ領域を使用しないように選択する (十分なメモリーがある場合)
 - Linux swap パーティションを別のドライブにおく
 - 記憶媒体上に保存したい Linux データをバックアップして、Solaris オペ
レーティング環境をインストールした後、Linux を再インストールする



注意 - Solaris オペレーティング環境の後に Linux をインストールする場合、Linux
インストールプログラムで Linux swap パーティション (実際には Solaris fdisk
パーティション) を swap ファイルとしてフォーマットするかどうかを尋ねられた
ら、no と入力します。

4. tip(1) ラインで接続されているシステムに **Solaris** ソフトウェアを

- インストールしない場合は、次の手順に進みます。
- インストールする場合は、ウィンドウ表示が横 80 桁、縦 24 行以上あること
を確認します。

注 - tip ウィンドウの現在のサイズを調べるには、stty(1) コマンドを使用
してください。

5. システムの **CD-ROM** ドライブを使用して、システムに **Solaris 8** のソフ
トウェアを

- インストールしない場合は、108ページの手順 8 に進みます。
- インストールする場合は、次の手順に進みます。

6. システムに **CD** からブートする機能が

- ある場合は、システムの BIOS 設定ツールを使用して機能が有効になっている
ことを確認します。

- ない場合は、Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクをシステムのフロッピードライブに挿入します。

注 [IA] - <http://soldc.sun.com/support/drivers> にある Solaris Driver Connection から Solaris 8 Device Configuration Assistant をダウンロードできます。

注 [IA] - 1997 年以降製造されたほとんどの IA マザーボード上の BIOS は、「El Torito」標準をサポートするため、CD-ROM ドライブをブートデバイスとして認識します。

7. Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) をシステムの CD-ROM ドライブに挿入します。
8. システムをシャットダウンし電源を切ってから、また入れ直してシステムをブートします。
メモリーテストとハードウェア検出が実行されます。画面が再表示されます。
 - Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクを使用してブートした場合、次のメッセージが画面の一番上に表示されます。

Solaris Boot Sector	Version 1
---------------------	-----------

次に下記のような情報が表示されます。

Solaris for x86 - FCS DCB	Version 1.242
loading /solaris/boot.bin	

画面が再表示され、次のような情報が表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00
```

```
Solaris Intel Platform Edition Booting System
```

```
Running Configuration Assistant...
```

- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) と Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) からブートした場合、次のメッセージが画面の一番上に表示されます。

```
SunOS - Intel Platform Edition Primary Boot Subsystem, vsn 2.0
```

次に下記のような情報が表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00
```

```
Solaris Intel Platform Edition Booting System
```

```
Running Configuration Assistant...
```

9. 「**Solaris Device Configuration Assistant**」画面が表示されたら、F2 キーを押します。

「Bus Enumeration」画面が次のメッセージとともに表示されます。

```
Determining bus types and gathering hardware configuration data ...
```

「Scanning Devices」画面が表示され、システムデバイスが走査されます。走査が完了すると、「Identified Devices」画面が表示されます。

10. F2 キーを押します。

「Loading」画面とともに、システムをブートするためにロードされるドライバについてのメッセージが表示されます。数秒後、Boot Solaris 画面が表示されます。

11. 「**Boot Solaris**」画面で「**CD**」を選択し、F2 キーを押します。

「Running Driver」画面が表示され、その後、次のような情報が表示されます。

```
<<< Current Boot Parameters >>>
Boot path: /pci@0,0/pci-ide@7,1/ata@1/sd@0,0:a
Boot args: kernel/unix

Select the type of installation you want to perform:

    1 Solaris Interactive
    2 Custom JumpStart

Enter the number of your choice followed by the <ENTER> key.

If you enter anything else, or if you wait for 30 seconds,
an interactive installation will be started.

Select type of installation:
```

- 12.1 を入力して Enter キーを押すか、または 30 秒ほど待ちます。
次のような情報が表示されます。

```
<<< starting interactive installation >>>

Booting kernel/unix...
SunOS Release 5.8 Version Generic 32-bit
Copyright 1983-2000 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Configuring /dev and /devices
Using RPC Bootparams for network configuration information.
Stand by...
```

数秒後、言語の選択メニューが表示されます。

13. プロンプト、メッセージ、およびその他のインストール情報を表示するための言語を示す番号を入力します。

ロケールのメニューが表示されます。

14. インストールに使用するロケールを示す番号を入力します。

数秒後、「The Solaris Installation Program」画面が表示されます。

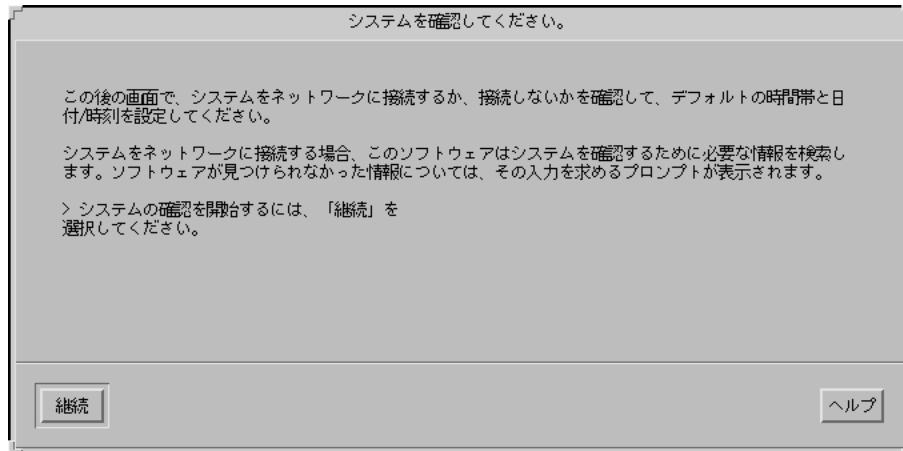
15. F2 キーを押します。

「kdmconfig – Introduction」画面が表示されます。

16. F2 キーを押します。
「kdmconfig - View and Edit Window System Configuration」画面が表示されま
す。
17. 「**kdmconfig - View and Edit Window System Configuration**」画面上の構成情
報を確認し、必要ならば変更を行います。
18. 変更が終了したら「**No changes needed - Test/Save and Exit**」を選択し、F2
キーを押します。
「kdmconfig Window System Configuration Test」画面が表示されます。
19. F2 キーを押します。
画面が再表示され、ウィンドウ構成テスト用パレットとパターン画面が表示され
ます。
20. ポインタを移動したり、ボタンをクリックしたりして、パレットの上に表示され
た色が正しく表示されることを確認します。
21. ウィンドウ構成テスト用のパレットとパターン画面が
 - 正しく表示されなかった場合は、「No」をクリックする(可能な場合)、任意
のキーを押す、あるいは何もしないで、kdmconfig がウィンドウ構成テスト
用の画面を自動的に終了するまで待ちます。次に、111ページの手順 17 から
111ページの手順 21 までを、色が正しく表示されポインタを自由に移動でき
るようになるまで繰り返します。
 - 正しく表示された場合は、「Yes」をクリックします。
OpenWindows™ が起動し、「Solaris インストールコンソール (Solaris Install
Console)」ウィンドウには、次のメッセージが表示されます。

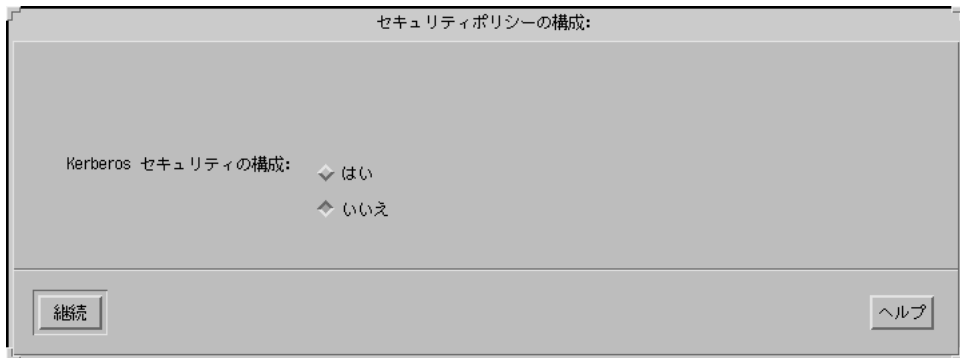
The system is coming up. Please wait.

数秒後、「システムを確認してください (Identify This System)」画面が表示されます。



▼ IA: システムを特定する方法

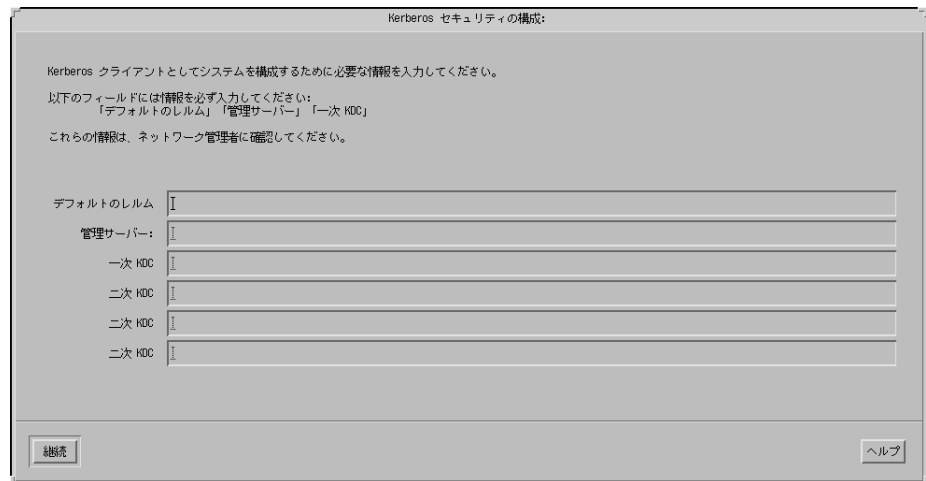
1. 「システムを確認してください (Identify This System)」画面の「継続 (Continue)」をクリックします。
「セキュリティポリシーの構成 (Configure Security Policy)」画面が表示されます。



2. 使用するシステムで **Kerberos** セキュリティの構成を

- 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。

「Kerberos セキュリティの構成 (Configure Kerberos Security)」画面が表示されます。



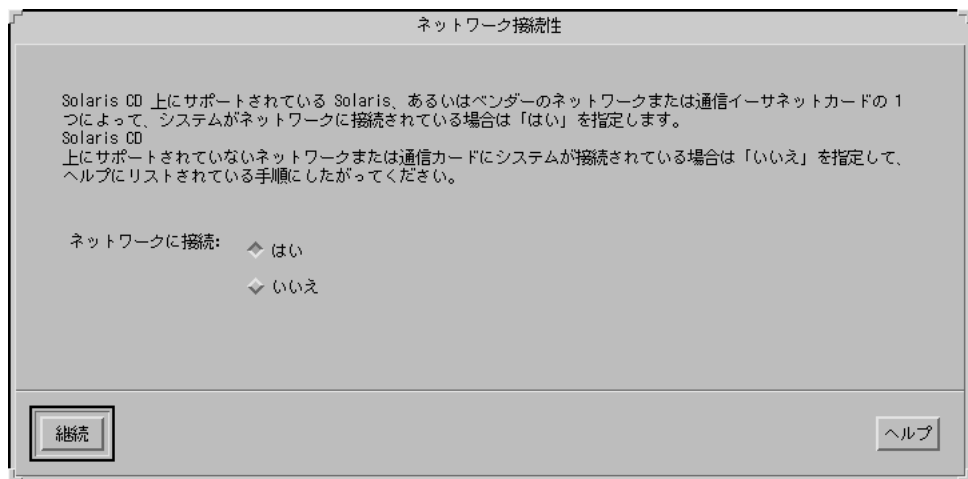
- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

3. 113ページの手順 2 で **Kerberos** セキュリティの構成を

- 選択しなかった場合は、次の手順に進みます。

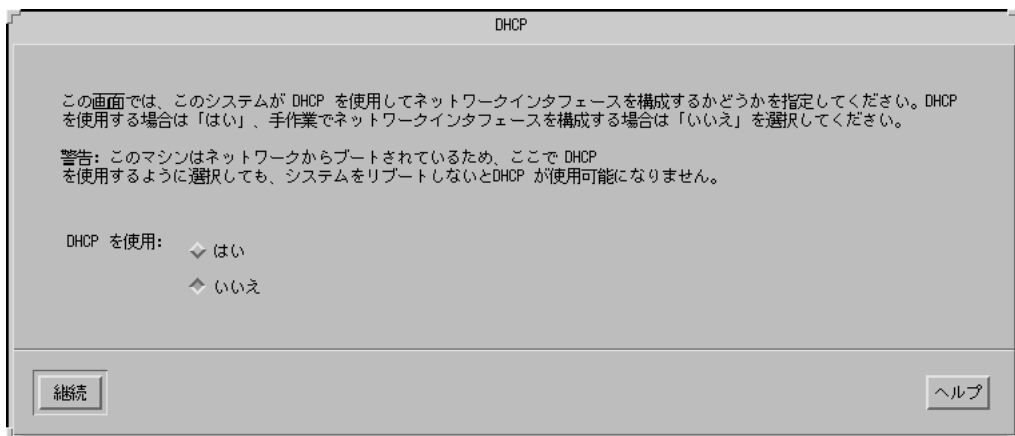
- 選択した場合は、「Kerberos セキュリティの構成 (Configure Kerberos Security)」画面に入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。
「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。
4. 「情報の確認 (Confirm Information)」画面の「継続 (Continue)」をクリックします。
- システムをすでにネットワークに接続している場合、または第 4 章の説明に従ってシステム構成情報を事前設定し、Solaris 8 対話式インストールプログラムがシステムを完全に特定できる場合は、「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面が表示されます。
 - システムを現在ネットワークに接続していないか、またはシステムを完全に特定できない場合、Solaris 8 対話式インストールプログラムは、情報入力用の画面を表示します。はじめに表示されるのは「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面です。



5. **Solaris** 対話式インストールプログラムがシステムを完全に
- 特定できた場合は、124ページの手順 1 に進みます。
 - 特定できなかった場合は、次の手順に進みます。
6. システムをネットワークに
- 接続していない場合は、「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面で「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックし、116ページの手順 9 に進みます。

- 接続している場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。

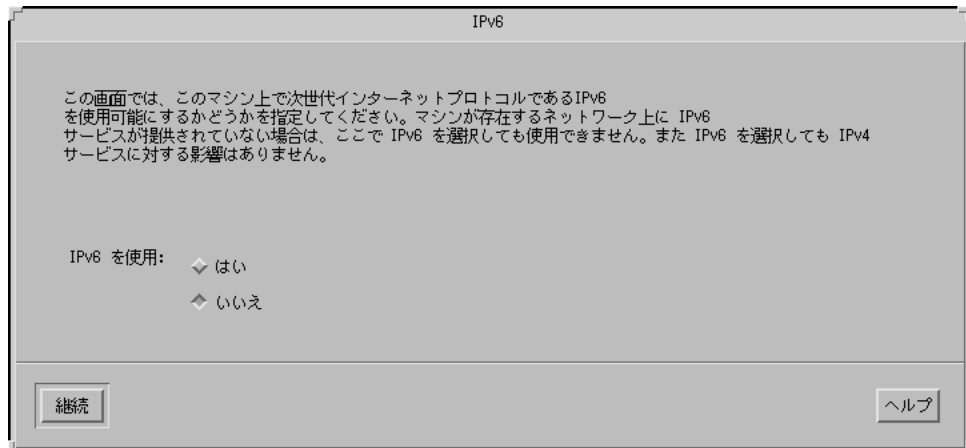
「DHCP」画面が表示されます。



7. DHCP を使用してネットワークインタフェースを

- 構成しない場合は、「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックし、116ページの手順9に進みます。
- 構成する場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。

「IPv6」画面が表示されます。

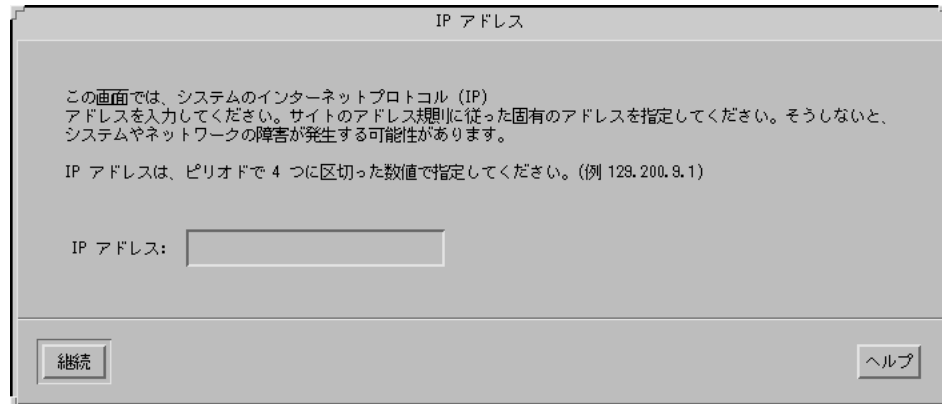


8. IPv6 を

- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックし、117ページの手順 12 に進みます。
- 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックし、117ページの手順 12 に進みます。

9. 「ホスト名 (Host Name)」画面で、ホスト名を入力して「継続 (Continue)」をクリックします。

- システムをネットワークに接続している (つまり、114ページの手順 6 の「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面で「はい (Yes)」を選択した) 場合は、「IP アドレス (IP Address)」画面が表示されます。



- システムをネットワークに接続していない場合は、「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

10. システムをネットワークに

- 接続していない場合は、121ページの手順19に進みます。
- 接続している場合、ネットワークインタフェースの構成に DHCP を使用するように指定した(つまり、115ページの手順7の「DHCP」画面で「はい (Yes)」を選択した)かを確認します。
- DHCP を使用するよう指定した場合は、117ページの手順12に進みます。
- DHCP を使用しないよう指定した場合は、「IP アドレス (IP Address)」画面で、ネットワークに接続したシステムの IP アドレスを入力して「継続 (Continue)」をクリックします。

「IPv6」画面が表示されます。

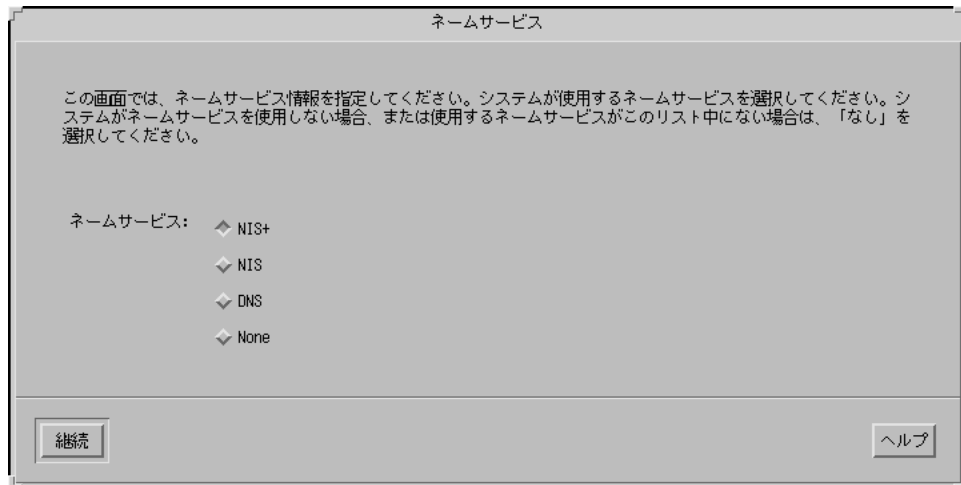
11. IPv6 を

- 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。
 - 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。
- 「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

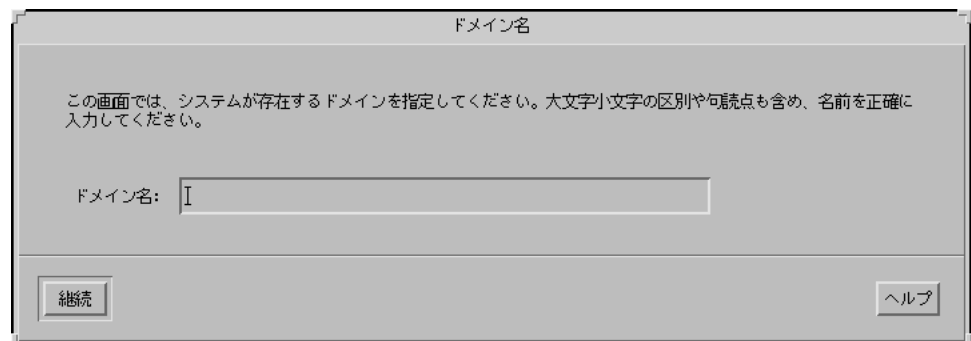
12. 「情報の確認 (Confirm Information)」画面の情報が

- 正しくない場合は、「変更 (Change)」をクリックして情報が正しくなるまで、114ページの手順6からの手順を繰り返します。

- 正しい場合は、「**継続 (Continue)**」をクリックします。
「**ネームサービス (Name Service)**」画面が表示されます。



13. 「**ネームサービス (Name Service)**」画面で、システムが使用するネームサービスまたは「**なし (None)**」を選択して、「**継続 (Continue)**」をクリックします。
- NIS、NIS+、または DNS を選択した場合は、「**ドメイン名 (Domain Name)**」画面が表示されます。



- 「**なし (None)**」を選択した場合は、「**情報の確認 (Confirm Information)**」画面が表示されます。

14. 118ページの手順 13 で「**なし (None)**」を

- 選択した場合は、121ページの手順 19 に進みます。
- 選択しなかった場合は、「ドメイン名 (Domain Name)」画面で、システムが存在するドメイン名を入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。
NIS+ または NIS を選択した場合は、「ネームサーバー (Name Server)」画面が表示されます。

DNS を選択した場合は、「DNS サーバーアドレス (DNS Server Addresses)」画面が表示されます。

15. 使用するネームサービスが

- NIS+ または NIS の場合は、「検索 (Find one)」または「指定 (Specify one)」を選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。
 - 「検索 (Find one)」を選択した場合は、「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。
 - 「指定 (Specify one)」を選択した場合は、「ネームサーバー情報 (Name Server Information)」画面が表示されます。

ネームサーバー情報

この画面では、ネームサーバーのホスト名と IP アドレスを入力してください。ホスト名は少なくとも 2 文字の長さで指定してください。文字、数字、マイナス記号 (-) を使うことができます。IP アドレスは、ピリオドで 4 つに区切った数値で指定してください(例 129.200.9.1)。

サーバーのホスト名:

サーバーの IP アドレス:

- DNS の場合は、任意の DNS サーバーの IP アドレスを入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。

「DNS 検索リスト (DNS Search List)」画面が表示されます。

DNS 検索リスト

この画面では、DNS から問い合わせがあったときに検索するドメインのリストを指定してください。ドメイン名を 1 つも入力しない場合は、このシステムの DNS ドメインのみが検索されます。また、指定したドメインの合計文字数が 250 文字を超えないようにしてください。

検索ドメイン:

検索ドメイン:

検索ドメイン:

検索ドメイン:

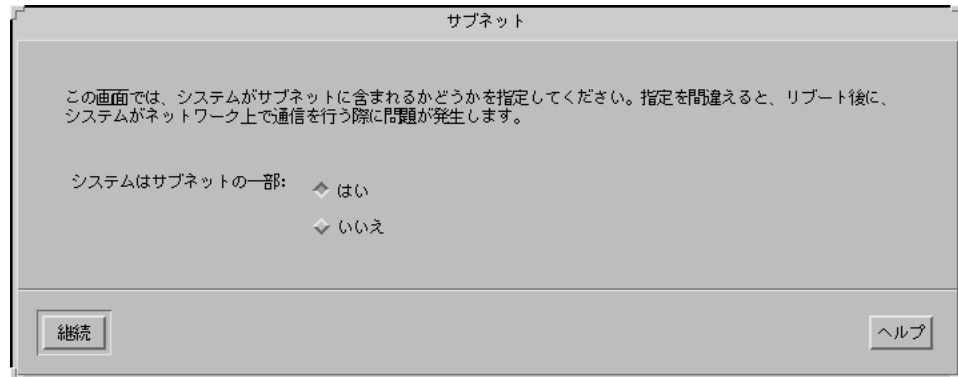
検索ドメイン:

検索ドメイン:

16. 使用するネームサービスが

- NIS+ または NIS の場合、119ページの手順 15 で
 - 「検索 (Find one)」を選択した場合は、121ページの手順 19 に進みます。
 - 「指定 (Specify one)」を選択した場合は、サーバーのホスト名と IP アドレスを入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。

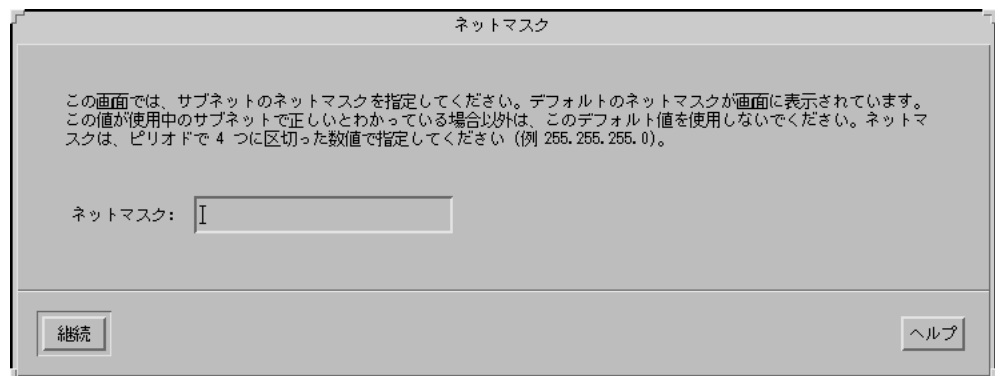
「サブネット (Subnets)」画面が表示されます。



- DNS の場合は、DNS から問い合わせがあった時に検索する 1 つまたは複数のドメイン名を入力して「継続 (Continue)」をクリックし、121 ページの手順 19 に進みます。

17. システムがサブネットの

- 一部である場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。
「ネットマスク (Netmask)」画面が表示されます。



- 一部ではない場合は、「いいえ (No)」を選択して 121 ページの手順 19 に進みます。

18. 任意のネットマスクを入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

19. 「情報の確認 (Confirm Information)」画面に示された情報が

- 正しくない場合、システムがネットワークに

- 接続していない場合は、「変更 (Change)」をクリックして情報が正しくなるまで、114ページの手順 6 からの手順を繰り返します。
- 接続している場合は、「変更 (Change)」をクリックして情報が正しくなるまで、118ページの手順 13 からの手順を繰り返します。
- 正しい場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。
「時間帯 (Time Zone)」画面が表示されます。

20. 「時間帯 (Time Zone)」画面で、デフォルトの時間帯を指定する方法を選択して、「設定 (Set)」をクリックします。

選択した方法によって、「地域 (Geographic Region)」、「GMT との時差 (Offset From GMT)」、「時間帯ファイル (Time Zone File)」のいずれかの画面が表示されます。

21. 次の表に従って、次に実行すべき作業を判断します。

選択した方法	実行すべき作業
地域	左側のウィンドウで任意の地域、右側で時間帯を選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。
GMT との時差	スライダを左 (イギリスより西側の地域)、または右 (イギリスより東側の地域) にドラッグして、「継続 (Continue)」をクリックします。
時間帯ファイル	/usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリ内のファイル名を指定するか、または「選択 (Select)」をクリックしてこのディレクトリ内のファイルを選択し、「継続 (Continue)」をクリックします。

「日付と時刻 (Date and Time)」画面が表示されます。

22. 必要であれば、日付と時刻を訂正して、「継続 (Continue)」をクリックします。

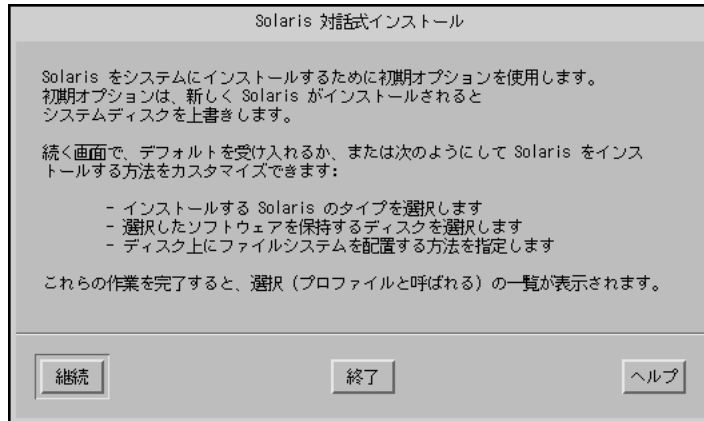
「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

23. 「情報の確認 (Confirm Information)」画面に表示された情報が

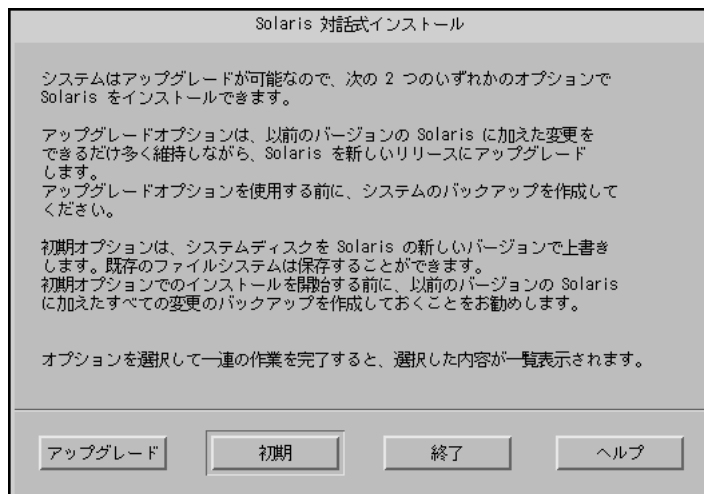
- 正しくない場合は「変更 (Change)」をクリックして、情報が正しくなるまで、122ページの手順 20 から始まる手順を繰り返します。

- 正しい場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。

Solaris オペレーティング環境がシステムにインストールされていない場合は、次のような「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面が表示されます。



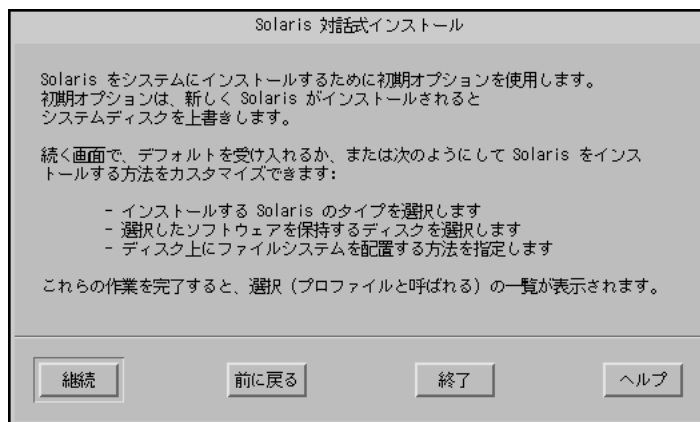
Solaris オペレーティング環境がシステムにすでにインストールされている場合は、次のような「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面が表示されます (表示されない場合は第 12 章を参照)。



▼ IA: Solaris 8 ソフトウェアをインストールする方法

1. 「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面で、「初期 (Initial)」、「継続 (Continue)」、または「アップグレード (Upgrade)」を選択します。

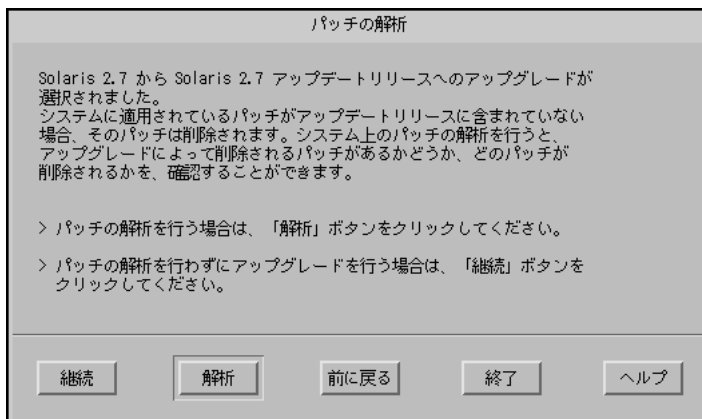
「初期 (Initial)」を選択した場合は、「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面に追加情報が表示されます。



「継続 (Continue)」を選択した場合、または「アップグレード (Upgrade)」を選択して、現在 Solaris 8 Update をインストールしていない場合は、「地域の選択 (Select Geographic Regions)」画面が表示されます。



「アップグレード (Upgrade)」を選択して、システムに Solaris 8 Update をインストールしようとしている場合は、「パッチの解析 (Patch Analysis)」画面が表示されます。



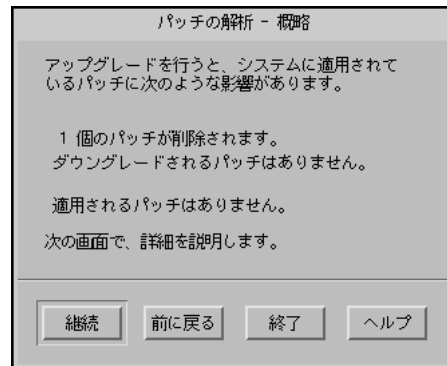
2. 124ページの手順 1 で、

- 「初期 (Initial)」を選択した場合は、「継続 (Continue)」をクリックして128ページの手順9に進みます。
- 「継続 (Continue)」を選択した場合は、128ページの手順9に進みます。
- 「アップグレード (Upgrade)」を選択した場合は、次の手順に進みます。

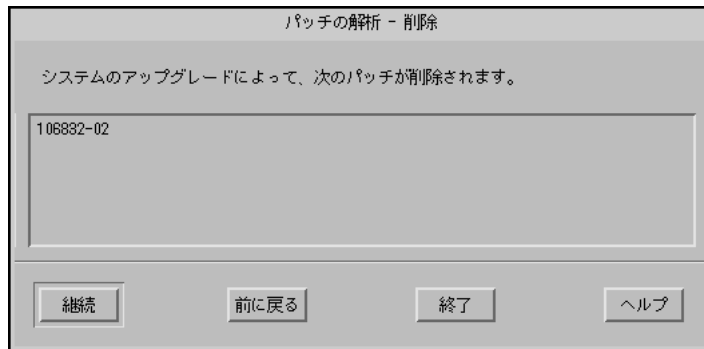
3. Solaris 8 Update を

- 現在インストールしていない場合は、128ページの手順9に進みます。
- 現在インストールしている場合、パッチの解析を
 - 実行しない場合は、「継続 (Continue)」をクリックして128ページの手順9に進みます。
 - 実行する場合は、「解析 (Analyze)」をクリックします。

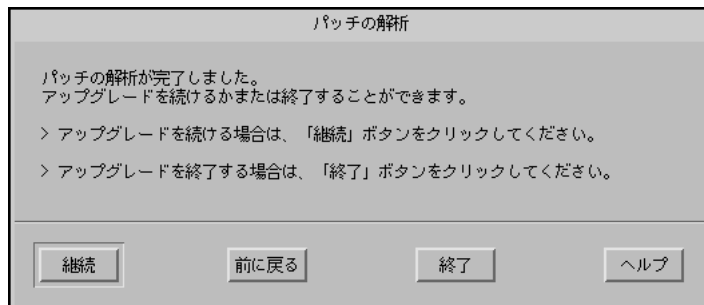
Solaris 8 対話式インストールプログラムは、システムを解析してどのパッチを削除するかを判断します。プログラムが終了すると、「パッチの解析 - 概略 (Patch Analysis - Summary)」画面が表示されます。



4. 「継続 (Continue)」をクリックします。
「パッチの解析 - 削除 (Patch Analysis - Removals)」画面が表示されます。



5. ダウングレード、置き換えられ削除されるすべてのパッチの表示が終了するまで、「継続 (Continue)」をクリックします。
終了すると、解析情報がクリアされ、「パッチの解析 (Patch Analysis)」画面が表示されます。



6. アップグレードを続けるか、または終了して現在システム上にあるパッチを管理するか、パッチだけを適用するか (したがってアップグレードを停止するか) を決めます。
 - 続ける場合は、「継続 (Continue)」をクリックして 128 ページの手順 9 に進みます。
 - 終了する場合は、「終了 (Exit)」をクリックします。

コンソールウィンドウから Solaris 8 対話式インストールプログラムを再起動できることを知らせる警告画面が表示されます。

7. 「警告 (**Warning**)」画面で「終了 (**Exit**)」をクリックします。
8. 現在システム上にあるパッチを管理するか、または更新されたパッチだけを適用するか (したがってアップグレードを停止するか) を決めます。
 - 現在システム上にあるパッチを管理する場合は、パッチに対して必要な処理を実行します。処理が終了したら、「インストールワークスペース (Install Workspace)」メニューの「インストールの再起動 (Restart Install)」を選択して、インストールを再開または再起動します。
 - 更新されたパッチだけを適用する場合は、Solaris 8 Maintenance Update を使用して、システムに Maintenance Update パッチを適用します。

注 - Solaris 8 Maintenance Update は、Solaris 8 Maintenance Update CD 上にあります。この CD は Solaris 8 Update リリースに含まれます。パッチの適用方法は、Maintenance Update の『ご使用にあたって』に記載されています。

9. 「地域の選択 (**Select Geographic Region**)」画面で、**Solaris 8** ユーザーインタフェースで使用する **1** つまたは複数の地域を選択して、「継続 (**Continue**)」をクリックします。

注 - デフォルトでは、英語 (米国、en_US) がインストールされています。

「ソフトウェアの選択 (Select Software)」画面が表示されます。

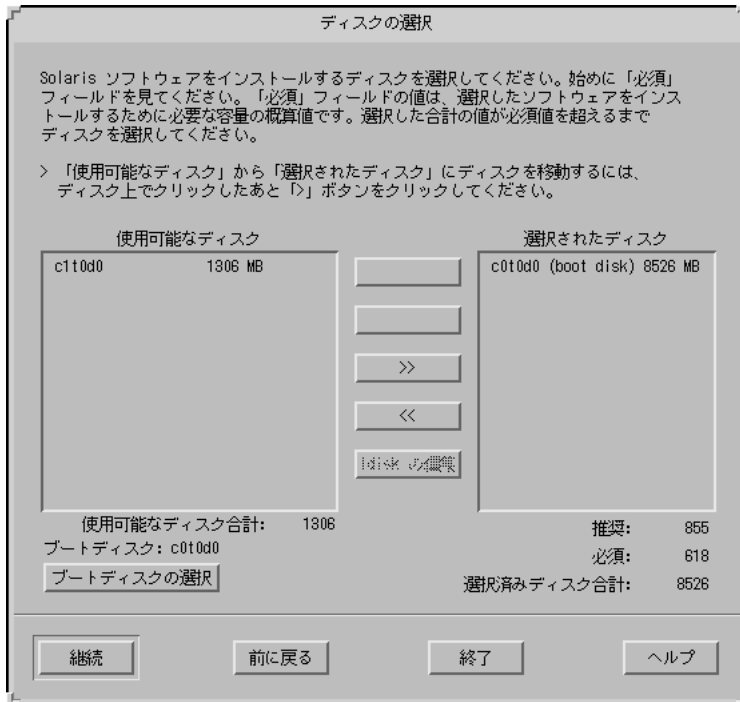


10. インストールするソフトウェアグループを選択します。
11. ソフトウェアクラスタまたはパッケージを追加または削除して、129ページの手順 10 で選択したソフトウェアグループの構成を
 - 変更しない場合は、次の手順に進みます。
 - 変更する場合は、「カスタマイズ (Customize)」をクリックし、「ソフトウェアのカスタマイズ (Customize Software)」画面を使用して、必要なソフトウェアクラスタまたはパッケージを追加または削除します。
12. 「継続 (Continue)」をクリックします。

システムディスクにブートパーティションがある場合は、「x86BOOT パーティションを使用しますか? (Use x86boot partition?)」画面が表示されます。



ブートパーティションがない場合は、「ディスクの選択 (Select Disks)」画面が表示されます。



13. 129ページの手順 12 で、ディスクに

- ブートパーティションがない場合は、次の手順に進みます。
- ブートパーティションがある場合は、再利用するブートディスクを選択するか「上記を使用しない (None of the above)」を選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。

「ディスクの選択 (Select Disks)」画面が表示されます。

14. 必要なディスクが「選択されたディスク (Selected Disks)」ウィンドウに表示されていない場合は、「使用可能なディスク (Available Disks)」ウィンドウで必要なディスクを強調表示して、「>」ボタンをクリックします。

強調表示したディスクは、「選択されたディスク (Selected Disks)」ウィンドウに移動します。

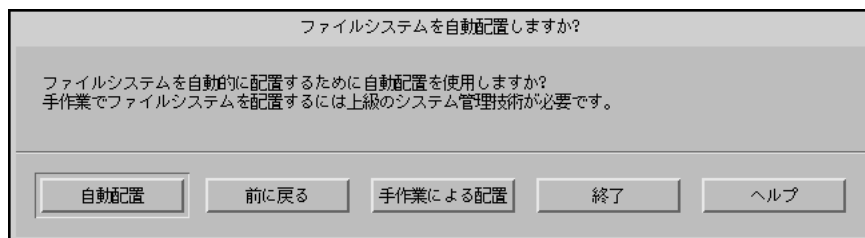
15. **Solaris** ソフトウェアをインストールするために、選択したディスク上に `fdisk` パーティションを

- 作成しない場合は、次の手順に進みます。

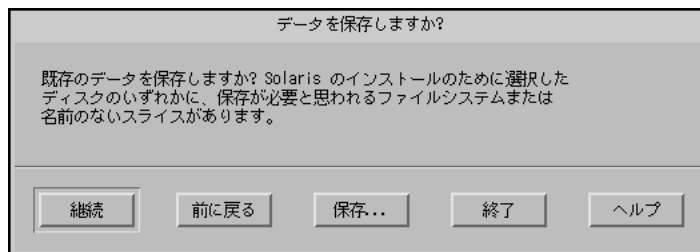
- 作成する場合は、『Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)』の「既存のオペレーティングシステムとユーザーデータの保存」の手順に従ってから、次の手順に進みます。

16. 「**継続 (Continue)**」をクリックします。

ディスクにデータが含まれない場合は、「ファイルシステムを自動配置しますか? (Automatically Layout File Systems?)」画面が表示されます。



選択したディスクにすでにデータが含まれる場合は、「データを保存しますか? (Preserve Data?)」画面が表示されます。

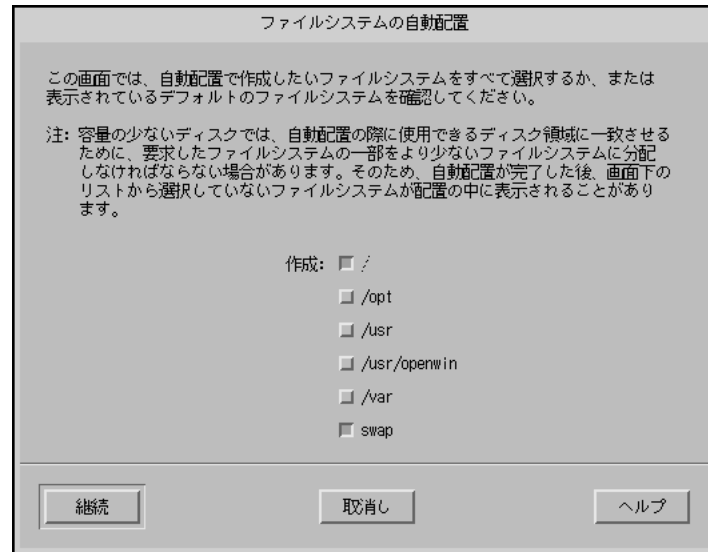


17. 「**データを保存しますか? (Preserve Data?)**」画面が

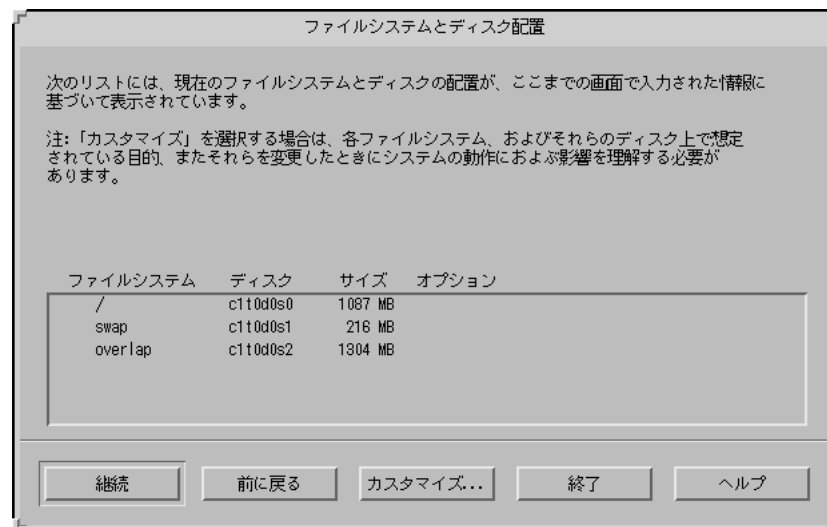
- 表示されていない場合は、次の手順に進みます。
- 表示されている場合、ディスク内のデータを
 - 保持しない場合は、次の手順に進みます。
 - 保持する場合は、「保存 (Preserve)」をクリックして、続いて表示される画面の指示に従います。

18. Solaris 8 対話式インストールプログラムで、ファイルシステムを自動的に

- 配置する場合は、「自動配置 (Auto Layout)」をクリックします。
「ファイルシステムの自動配置 (Automatically Layout File Systems)」画面が表示されます。



- 配置しない場合は、「手作業による配置 (Manual Layout)」をクリックします。
「ファイルシステムとディスク配置 (File System and Disk Layout)」画面が表示されます。

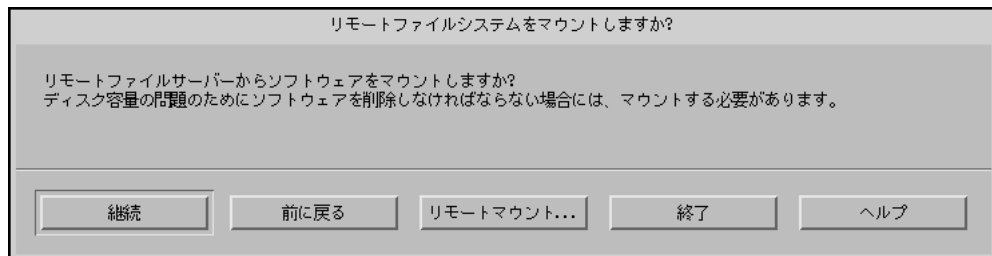


19. ファイルシステムを配置するために

- 「手作業による配置 (Manual Layout)」を選択した場合は、次の手順に進みません。
- 「自動配置 (Auto Layout)」を選択した場合は、作成するファイルシステムを選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。
「ファイルシステムとディスク配置 (File System and Disk Layout)」画面が表示されます。

20. ファイルシステムおよびディスク配置を

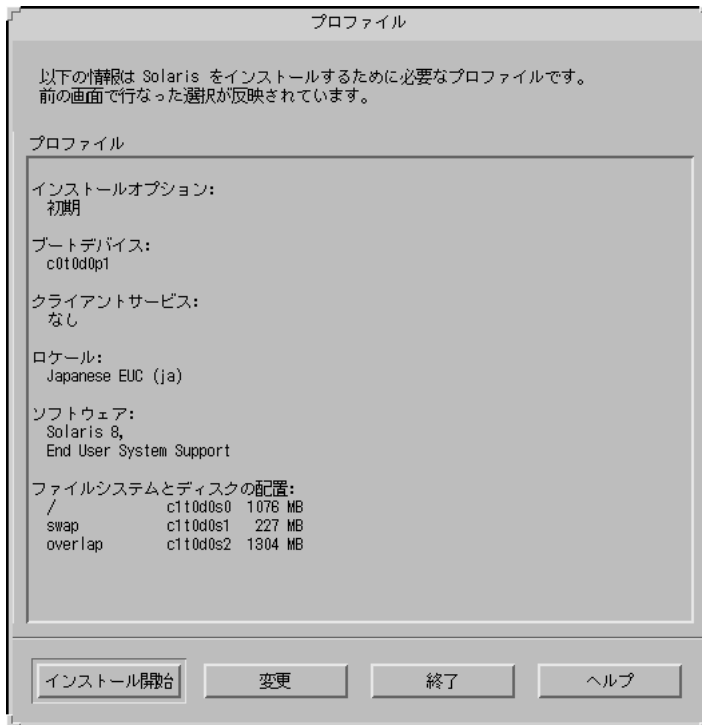
- カスタマイズする場合は、「カスタマイズ (Customize)」をクリックして、続いて表示される画面の指示に従います。
- カスタマイズしない場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。
「リモートファイルシステムをマウントしますか? (Mount Remote File Systems?)」画面が表示されます。



21. リモートファイルサーバーからソフトウェアを

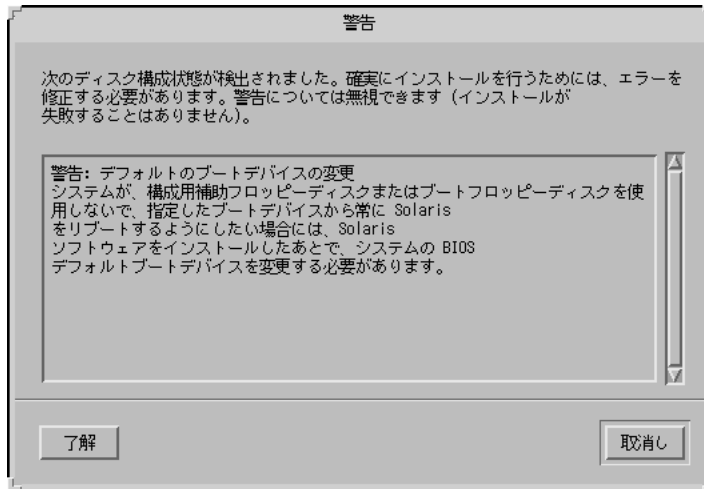
- マウントする場合は、「リモートマウント (Remote Mounts)」をクリックして、続いて表示される画面の指示に従います。
- マウントしない場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。

「プロファイル (Profile)」画面が表示されます。



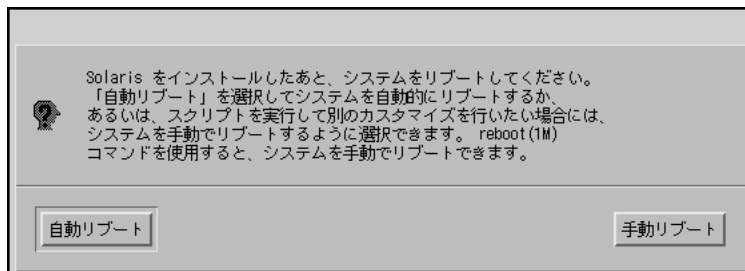
22. 「インストール開始 (Begin Installation)」をクリックします。

「警告 (Warning)」画面が表示され、Solaris ソフトウェアをインストールした後で、システムの BIOS デフォルトブートデバイスを CD-ROM またはフロッピーディスクから、ハードドライブに変更するよう警告します。



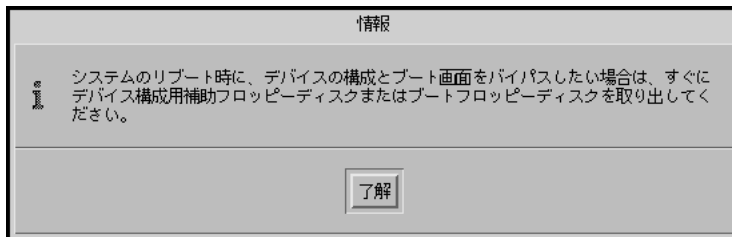
23. 「了解 (OK)」をクリックします。

「自動リブート (Auto Reboot)」と「手動リブート (Manual Reboot)」の 2 つのボタンを示す画面が表示されます。

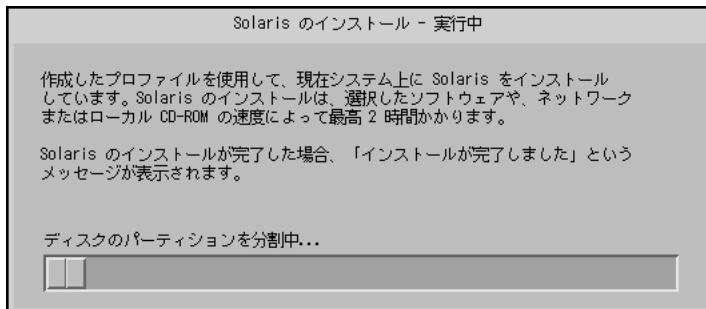


24. 「自動リブート (Auto Reboot)」または「手動リブート (Manual Reboot)」をクリックします。

「情報 (Information)」画面が表示され、場合によっては、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) または Solaris Device Configuration Assistant フロッピーディスクを取り出す必要があることを知らせます。



25. 107ページの手順 6 で **Solaris 8 Device Configuration Assistant** フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに
 - 挿入しなかった場合は、次の手順に進みます。
 - 挿入した場合は、取り出します。
26. **CD-ROM** ドライブから、**Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)** を取り出します。
27. 「情報 (Information)」画面で、「了解 (OK)」をクリックします。
「Solaris のインストール - 実行中 (Installing Solaris Software - Progress)」画面が表示されます。



Solaris 8 対話式インストールプログラムによる Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムは自動的にリブートするか、または手動でのリブートが要求されます。

インストールが終了すると、Solaris 8 ソフトウェアがシステムにどのようにインストールされたかを示すログがファイルに保存されます。

表 5-8 IA: インストールログの位置

システムのインストール方法	ログファイルの位置
初期インストールオプション	<ul style="list-style-type: none">■ システムのリブート前: /a/var/sadm/system/logs/install_log■ システムのリブート後: /var/sadm/system/logs/install_log
アップグレードオプション	<ul style="list-style-type: none">■ システムのリブート前: /a/var/sadm/system/logs/upgrade_log■ システムのリブート後: /var/sadm/system/logs/upgrade_log

28. システムがリブートした後、またはシステムを手動でリブートした後、アクティブなパーティションが **Solaris** オペレーティング環境に設定されていることを確認します。

▼ IA: pkgadd によってソフトウェアパッケージを追加する方法

1. すでにインストールした **Solaris 8** ソフトウェアにソフトウェアパッケージを
 - 追加しない場合は、停止して終了します。
 - 追加する場合は 138 ページの手順 2 に進みます。
2. **Solaris** ソフトウェアをインストールしたシステムにログインして、スーパーユーザーになります。
3. システムの **CD-ROM** ドライブに追加するパッケージを含む **CD** を挿入します。CD は、Solaris ボリュームマネージャによって自動的にマウントされます。
4. `pkgadd(1M)` コマンドを使用して、必要なパッケージを追加します。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d device_name pkgid
```

ここで、*device_name* は、インストールシステムに追加するパッケージを含む CD へのパス、*pkgid* はインストールシステムに追加するソフトウェアパッケージの名前 (たとえば、SUNWaudio) を示します。

5. パッケージが正しくインストールされたかどうかを確認します。

```
# /usr/sbin/pkgchk -v pkgid
```

パッケージが正しくインストールされた場合は、インストールされたファイルのリストが表示されます。インストールされていない場合は、エラーメッセージが表示されます。

IA: 例

次の例は、SUNWaudio パッケージを追加し、インストールの結果を確認する方法を示しています。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d /cdrom/sol_8_ia/s2/Solaris_8/Product SUNWaudio
.
.
Installation of <SUNWaudio> was successful.
# pkgchk -v SUNWaudio
/usr
/usr/bin
/usr/bin/audioconvert
/usr/bin/audioplay
/usr/bin/audiorecord
#
```

▼ IA: アップグレード後に整理する方法

アップグレードが終了後、システムの整理が必要になる場合があります。アップグレード時に、Solaris 8 対話式インストールプログラムは、既存システムのローカルソフトウェアの変更を新しい Solaris ソフトウェアにマージします。ただし、場合によっては、マージできないことがあります。

1. 次のファイルの内容を参照して、**Solaris 8** 対話式インストールプログラムが保存できなかったローカルの変更を修正する必要があるかどうかを確認します。

```
/a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup
```



注意 - upgrade_cleanup のすべての内容を慎重に確認してください。保存されなかったローカルの変更を修正しないと、システムがブートしない場合があります。

2. 必要に応じて、保存されなかったローカルの変更をすべて修正します。
3. システムをリブートします。

```
# reboot
```

カスタム JumpStart インストールの準備

この章では、各サイトでカスタム JumpStart インストール方式を使用して Solaris 8 ソフトウェアをインストールする場合の、インストール元およびインストール先システムを準備する方法について説明します。

- 142ページの「カスタム JumpStart の概要」
- 143ページの「カスタム JumpStart インストール実行時の流れ」
- 146ページの「作業マップ: カスタム JumpStart インストールの準備」
- 148ページの「プロファイルサーバーの作成」
- 150ページの「すべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにする」
- 152ページの「プロファイルフロッピーディスクの作成」
- 158ページの「rules ファイルの作成」
- 167ページの「プロファイルの作成」
- 196ページの「プロファイルのテスト」
- 202ページの「rules ファイルの妥当性を検査する」

注 - 製品名は Solaris 8 ですが、コードと、パス名またはパッケージのパスは、Solaris_2.8 または SunOS_5.8 と示される場合があります。必ず記述どおりのコードまたはパスを使用してください。

カスタム JumpStart の概要

カスタム JumpStart インストールは、システムのグループを自動的にかつ同一的にインストールする方法です。カスタム JumpStart インストールの準備の最初の手順は、どのようにシステムをユーザーのサイトにインストールするかを決定することです。たとえば、次のような場合は、カスタム JumpStart インストールを設定および実行するのに最適です。

- 100 台の新しいシステムに Solaris ソフトウェアをインストールする必要がある。
- 100 台の新しい SPARC 搭載システムのうち 70 台はエンジニアリング部が所有し、そのシステムは「開発者」Solaris オペレーティング環境ソフトウェアグループでスタンドアロンシステムとしてインストールしなければならない。
- 100 台の新しい IA (Intel アーキテクチャ) 搭載システムのうち 30 台はマーケティング部が所有し、そのシステムは「エンドユーザー」Solaris オペレーティング環境ソフトウェアグループでスタンドアロンシステムとしてインストールしなければならない。

どのようにシステムをユーザーのサイトにインストールするかを決定した後、システムのグループごとの `rules` ファイルとプロファイルを作成します。`rules` ファイルは、自動的にインストールするシステムのグループごと (または、1 つのシステム) のルールが入ったテキストファイルです。

各ルールは、1 つまたは複数のシステム属性に基づいて、システムのグループを区別して、各グループをプロファイルにリンクします。プロファイルは、どのように Solaris ソフトウェアがグループ中の各システムにインストールされるかを定義するテキストファイルです。`rules` ファイルとプロファイルは、JumpStart ディレクトリに存在しなければなりません。

サイトのシステム管理者は、2 つの異なるルールで `rules` ファイルを作成します。1 つはエンジニアリンググループ用のルールで、もう 1 つはマーケティンググループ用のルールです。ルールごとに、システムのプラットフォームグループを使用して、グループを区別できます。エンジニアリンググループは SPARC 搭載システムを持っていて、マーケティンググループは IA 搭載システムを持っています。

各ルールには、適切なプロファイルへのリンクも含まれています。たとえば、エンジニアリンググループ用のルールでは、`eng_profile` というエンジニアリンググループ用に作成したプロファイルへのリンクを追加します。マーケティンググループ用のルールでは、`market_profile` というマーケティンググループ用に作成したプロファイルへのリンクを追加します。

rules ファイルとプロファイルを作成した後、check スクリプトを使用して、これらの妥当性を検査しなければなりません。check スクリプトが正常に動作すると、rules.ok ファイルが作成されます。JumpStart はこのファイルを使用して、Solaris ソフトウェアをインストールします。

カスタム JumpStart インストール実行時の流れ

Solaris ソフトウェアのインストール時、JumpStart は rules.ok ファイルを読み取って、定義されたシステム属性がインストール中のシステムと一致する最初のルールを見つけようとします。一致するルールが見つかった場合、インストールプログラムは、ルール内に指定されたプロファイルを使用して、自動的にシステムをインストールします。

図 6-1 はスタンドアロン型、つまりネットワークに接続されていないシステムで、システムのフロッピーディスクドライブを使用してカスタム JumpStart インストールを行う場合を示しています。

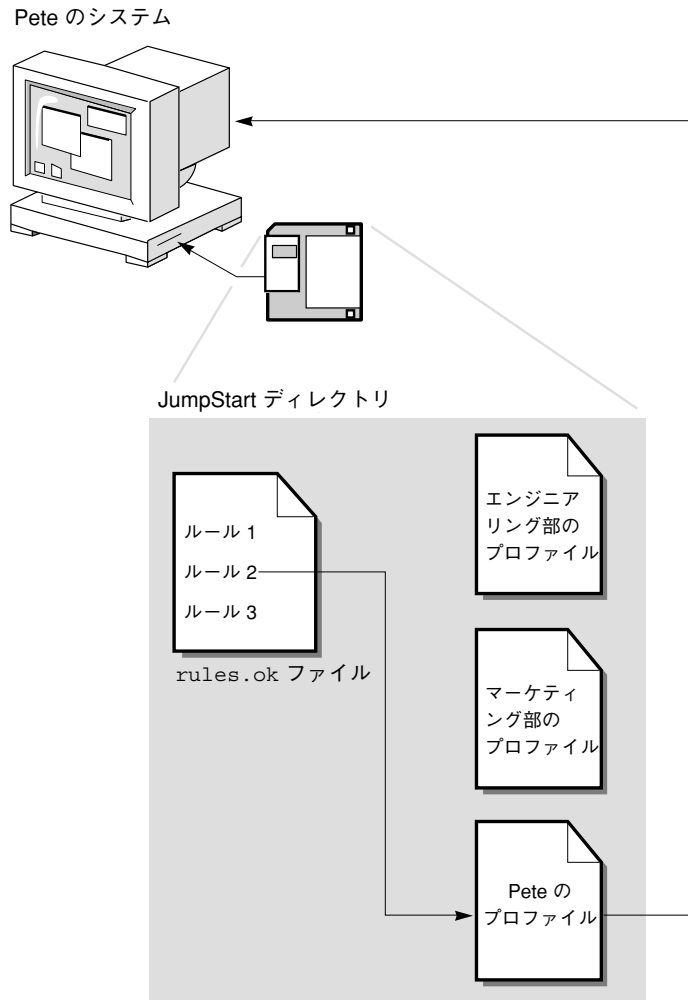


図 6-1 カスタム JumpStart インストールの動作: ネットワークに接続されていないシステムの例

図 6-2 にネットワーク上の複数のシステムに対して、カスタム JumpStart インストールを行う場合を示します。この場合、1つのサーバーからさまざまなプロファイルにアクセスします。

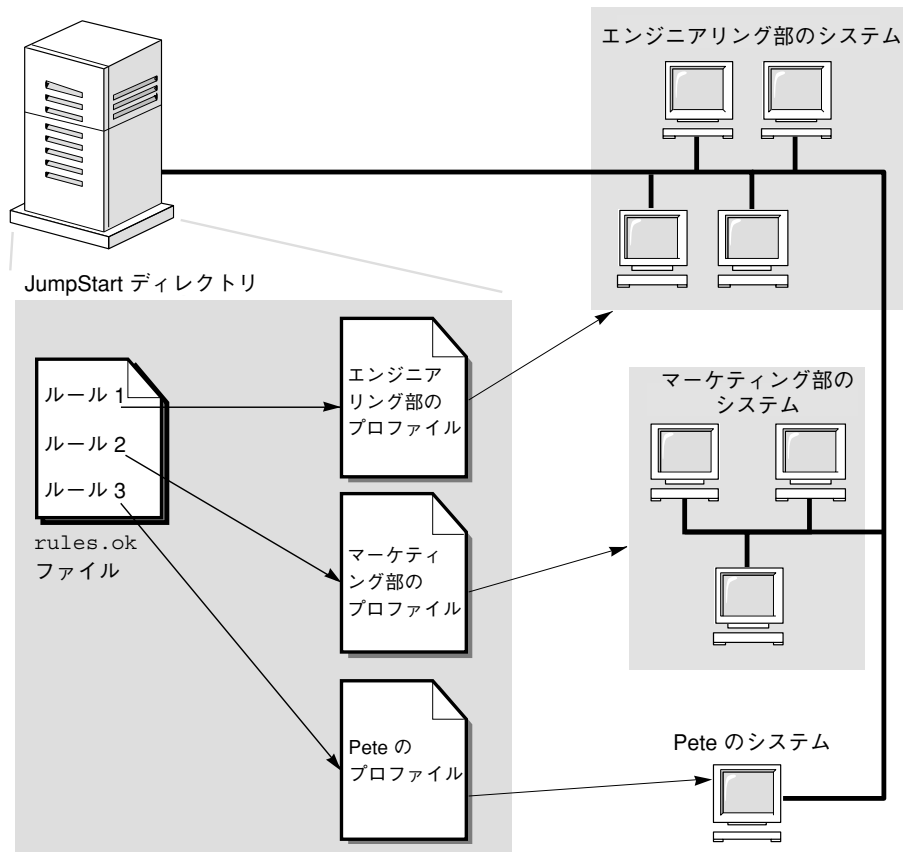


図 6-2 カスタム JumpStart インストールの動作: ネットワークに接続されているシステムの例

図 6-1 と図 6-2 に示すように、設定する必要があるカスタム JumpStart ファイルは、フロッピーディスクとサーバー (それぞれ、プロファイルフロッピーディスクとプロファイルサーバーと呼びます) のどちらにあってもかまいません。

- プロファイルフロッピーディスクは、カスタム JumpStart インストールを、ネットワークに接続されていないスタンドアロンシステムで実行するときに必要です。
- プロファイルサーバーは、カスタム JumpStart インストールを、サーバーにアクセスできるネットワークに接続されたシステムで実行するときに使用します。

図 6-3 は、カスタム JumpStart インストール中のシステムの流れを説明して、JumpStart がカスタム JumpStart ファイルを見つけるのに使用する検索順序を示しています。

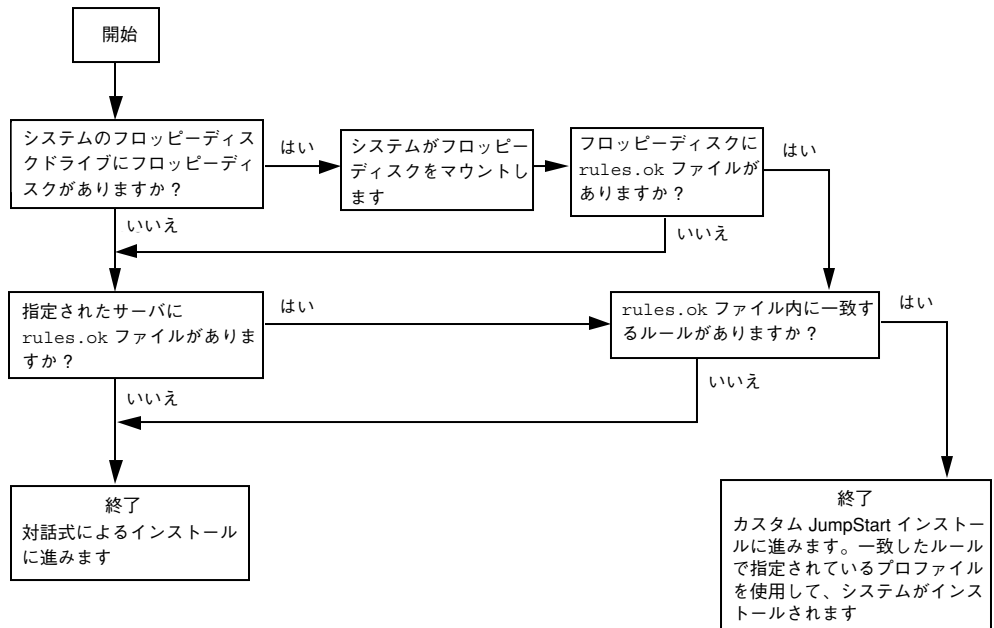


図 6-3 カスタム JumpStart インストール実行時の流れ

作業マップ: カスタム JumpStart インストールの準備

表 6-1 作業マップ: カスタム JumpStart インストールの準備

作業	説明	参照先
JumpStart ディレクトリを作成する	<p>フロッピーディスクの場合</p> <p>カスタム JumpStart インストールをネットワークに接続されていないシステムで実行する場合、プロファイルフロッピーディスクを作成しなければなりません。このフロッピーディスクには、カスタム JumpStart ファイルが入っています。</p> <p>サーバーの場合</p> <p>カスタム JumpStart インストールをネットワークに接続されているシステムで実行する場合、プロファイルサーバーを作成しなければなりません。このサーバーには、カスタム JumpStart ファイル用の JumpStart ディレクトリが入っています。</p>	<p>152ページの「プロファイルフロッピーディスクの作成」</p> <p>148ページの「プロファイルサーバーの作成」</p>
すべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにする	<p>(省略可能) プロファイルサーバーを使用するとき、一度にすべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにできます。個々のシステムをプロファイルサーバー上のプロファイルにアクセスできるようにする必要はありません。</p>	<p>150ページの「すべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにする」</p>
ルールを rules ファイルに追加する	<p>どのようにシステムのグループ (または、個々のシステム) をユーザーのサイトにインストールするかを決定した後は、インストールする特定のグループごとにルールを作成しなければなりません。各ルールは、1つまたは複数のシステム属性に基づいてグループを区別して、各グループをプロファイルにリンクします。</p>	<p>158ページの「rules ファイルの作成」</p>
ルールごとにプロファイルを作成する	<p>プロファイルは、どのように Solaris ソフトウェアをシステムにインストールするか (たとえば、どのソフトウェアグループをインストールするか) を定義するテキストファイルです。すべてのルールはプロファイルを指定して、ルールが一致したときにシステムがどのようにインストールされるかを定義します。通常は、ルールごとに異なるプロファイルを作成しますが、複数のルールで同じプロファイルを使用することも可能です。</p>	<p>167ページの「プロファイルの作成」</p>

表 6-1 作業マップ: カスタム JumpStart インストールの準備 続く

作業	説明	参照先
プロファイル进行测试する	(省略可能) プロファイルの作成後、実際にプロファイルを使用してシステムをインストールまたはアップグレードする前に、 <code>pfinstall(1M)</code> コマンドを使用して、プロファイル进行测试します。	196ページの「プロファイルのテスト」
rules ファイルの妥当性を検査する	rules.ok ファイルは、rules ファイルから生成されたファイルで、JumpStart がプロファイルを使用してインストールするシステムを一致させるために使用します。rules ファイルの妥当性を検査するには、check スクリプトを使用しなければなりません。	202ページの「rules ファイルの妥当性を検査する」

プロファイルサーバーの作成

ネットワーク上のシステム用にカスタム JumpStart インストールを設定する際は、サーバーにディレクトリを作成しなければなりません (JumpStart ディレクトリと呼びます)。JumpStart ディレクトリのルートレベルには、すべての重要なカスタム JumpStart ファイルが入っています (たとえば、rules ファイル、rules.ok ファイル、プロファイルなど)。

JumpStart ディレクトリを持つサーバーは、「プロファイルサーバー」と呼びます。プロファイルサーバーは、インストールサーバーやブートサーバーと同じシステムでも、異なるサーバーでもかまいません。

JumpStart ディレクトリの所有者は `root` で、アクセス権は `755` です。

注 - プロファイルサーバーは、異なるプラットフォームのシステムにも、カスタム JumpStart ファイルを提供できます。たとえば、IA サーバーは、SPARC 搭載システムと IA 搭載システムの両方にカスタム JumpStart ファイルを提供できます。

▼ JumpStart ディレクトリをサーバー上に作成する方法

注 - この手順では、システムがボリュームマネージャを実行していると仮定しています。フロッピーディスクや CD を管理するのにボリュームマネージャを使用していない場合、ボリュームマネージャなしで取り外し可能な媒体を管理する方法の詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』を参照してください。

1. **JumpStart** ディレクトリを作成するサーバーに、スーパーユーザーとしてログインします。

2. サーバーに **JumpStart** ディレクトリを作成します。

```
# mkdir -m 755 jumpstart_dir_path
```

jumpstart_dir_path は、JumpStart ディレクトリの絶対パスです。

たとえば、次のコマンドは、ルートファイルシステムに *jumpstart* というディレクトリを作成し、アクセス権を 755 に設定します。

```
mkdir -m 755 /jumpstart
```

3. */etc/dfs/dfstab* ファイルを編集します。次のエントリを追加してください。

```
share -F nfs -o ro,anon=0 jumpstart_dir_path
```

たとえば、次のエントリは */jumpstart* ディレクトリを共有します。

```
share -F nfs -o ro,anon=0 /jumpstart
```

4. *shareall* と入力して、Return キーを押します。
5. カスタム **JumpStart** ファイルの例を各自の **JumpStart** ディレクトリに
 - コピーしない場合は停止して、プロファイルサーバーでの **JumpStart** ディレクトリの作成を終了します。

- コピーする場合は、次の表から次に実行する作業を判断します。

例のコピー元	実行すべき作業
使用しているプラットフォーム用の Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD	Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) をサーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。 ボリュームマネージャが自動的に CD をマウントします。
ローカルディスク上の使用しているプラットフォーム用の Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージ	ディレクトリを、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) イメージの位置に変更します。次に例を示します。 <code>cd /export/install</code>

6. サンプルのカスタム **JumpStart** ファイルを、プロファイルサーバーの **JumpStart** ディレクトリにコピーします。

```
# cp -r media_path/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample/* jumpstart_dir_path
```

ここで、*media_path* はローカルディスク上の CD またはイメージへのパスを示し、*jumpstart_dir_path* はカスタム **JumpStart** ファイルの例があるプロファイルサーバーのパスを示します。

たとえば、次のコマンドは、*jumpstart_sample* ディレクトリをプロファイルサーバー上の */jumpstart* ディレクトリにコピーします。

```
cp -r /cdrom/cdrom0/s2/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample/* /jumpstart
```

7. **JumpStart** ファイルの例を更新して、サイトの環境内で動作するようにします。

すべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにする

プロファイルサーバーを作成する際に、システムがカスタム **JumpStart** インストール中にプロファイルサーバーにアクセスできるようにしなければなりません。このためには、次の 2 つの方法があります。

- /etc/bootparams ファイルでワイルドカードを使用する
- ネットワークインストールでシステムを追加するたびに、`add_install_client` コマンドの `-c` オプションを使用する

ネットワークインストールでシステムを追加するときに時間を節約するには、次の手順を使用して、すべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにしてください。それ以外の場合は、158ページの「rules ファイルの作成」を参照してください。

▼ すべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにする方法

注 - この手順は、JumpStart ディレクトリとしてフロッピーディスクを使用している場合は必要ありません。

この手順は、ネットワークインストール情報を保存するのに /etc/bootparams ファイルを使用している場合だけで使用できます。NIS または NIS+ の bootparams データベースをネットワークインストール情報用に使用している場合は、151ページの手順3のエントリを使用して、bootparams データベースを更新する必要があります。

1. インストールサーバーまたはブートサーバーにスーパーユーザーとしてログインします。
2. /etc/bootparams ファイルを編集します。
3. 次のエントリを追加します。

```
* install_config=server:jumpstart_dir_path
```

*	すべてのシステムにアクセスできるように指定するワイルドカード文字
<i>server</i>	JumpStart ディレクトリがあるプロファイルサーバーのホスト名
<i>jumpstart_dir_path</i>	JumpStart ディレクトリの絶対パス

たとえば、次のエントリはすべてのシステムが、*sherlock* というサーバーにある */jumpstart* ディレクトリにアクセスできるようにします。

```
* install_config=sherlock:/jumpstart
```



注意 - この手順を使用した場合、インストールクライアントを起動したときに次のエラーメッセージが表示されることがあります。

WARNING: getfile: RPC failed: error 5: (RPC Timed out).

このエラーメッセージの詳細は、278ページの「ネットワーク上のシステムのブート」を参照してください。

これで、すべてのシステムはプロファイルサーバーにアクセスできるようになりました。この後、ネットワークインストールでシステムを追加するときに、`add_install_client` コマンドで `-c` オプションを使用する必要はありません。

プロファイルフロッピーディスクの作成

JumpStart ディレクトリを含むフロッピーディスクは、プロファイルフロッピーディスクと呼ばれます。

条件

システムがネットワークに接続されていない場合、そのシステムはプロファイルサーバーへのアクセス権を持たないため、フロッピーディスクに JumpStart ディレクトリを作成する必要があります。ただし、プロファイルフロッピーディスクを作成するシステムには、フロッピーディスクドライブが必要です。

基本的なカスタム JumpStart ファイル (rules ファイル、rules.ok ファイル、およびプロファイル) は、プロファイルフロッピーディスク上のルート (/) ディレクトリになければなりません。root に JumpStart ディレクトリがあって、そのアクセス権が 755 に設定されていることを確認してください。

▼ SPARC: プロファイルフロッピーディスクを作成する方法

注 - この手順では、システムがボリュームマネージャを実行していると仮定しています。フロッピーディスクや CD を管理するのにボリューム管理を使用していない場合、ボリュームマネージャなしで取り外し可能な媒体を管理する方法の詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』を参照してください。

1. フロッピーディスクドライブマネージャを持つ **SPARC** 搭載システムに、スーパーユーザーとしてログインします。
2. プロファイルフロッピーディスクとして使用できる空の (あるいは、上書きしても大丈夫な) フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
3. フロッピーディスクをマウントします。

```
# volcheck
```

4. フロッピーディスクにすでに **UFS (UNIX ファイルシステム)** が入っているか確認します。
 - わからない場合は、システム上のファイル /etc/mnttab の内容を見て、次のようなエントリがないかを調べます。

```
/vol/dev/diskette0/scrap /floppy/scrap ufs suid,rw,largefiles,dev=1740008 927147040
```

上記のエントリが

- ある場合は、154ページの手順7に進みます。



- ない場合は、次の手順に進みます。

注意 - この手順によって、フロッピーディスク上のすべてのデータは上書きされます。

5. フロッピーディスクをフォーマットします。

```
# fdformat -U
```

6. フロッピーディスクに **UFS** ファイルシステムを作成します。

```
# newfs /vol/dev/aliases/floppy0
```

7. カスタム **JumpStart** ファイルの例を **JumpStart** ディレクトリに

- コピーしない場合は停止して、プロファイルフロッピーディスクでの **JumpStart** ディレクトリの作成を終了します。
- コピーする場合は、次の表を使用して次に実行すべき作業を判断します。

例のコピー元	実行する作業
Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)	Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) をサーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。 ボリュームマネージャが自動的に CD にマウントします。
ローカルディスク上の Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) イメージ	ディレクトリを Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) イメージの位置に変更します。次に例を示します。 <code>cd /export/install</code>

8. サンプルのカスタム **JumpStart** インストールファイルを、プロファイルフロッピーディスクの **JumpStart** ディレクトリにコピーします。

```
# cp -r media_path/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample/* jumpstart_dir_path
```

ここで、*media_path* はローカルディスク上の CD またはイメージへのパスを示し、*jumpstart_dir_path* はカスタム JumpStart ファイルの例があるプロファイルフロッピーディスクへのパスを示します。

注 - すべてのカスタム JumpStart インストールファイルは、フロッピーディスクのルートディレクトリになければなりません。

たとえば、次のコマンドは、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) の *jumpstart_sample* の内容を、プロファイルフロッピーディスク *scrap* のルート (/) ディレクトリにコピーします。

```
cp -r /cdrom/sol_8_sparc/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample/* /floppy/scrap
```

9. プロファイルフロッピーディスク上の **JumpStart** ファイルの例を更新して、サイトの環境内で動作するようにします。

10. フロッピーディスクを取り出します。

```
# eject floppy
```

これで、プロファイルフロッピーディスクの作成が完了しました。rules ファイルを更新して、プロファイルフロッピーディスクにプロファイルを作成して、カスタム JumpStart インストールを実行できます。処理を続けるには、158 ページの「rules ファイルの作成」に進んでください。

▼ IA: プロファイルフロッピーディスクを作成する方法

注 - この手順では、システムがボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャなしでフロッピーディスクと CD を管理する方法の詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』を参照してください。

1. フロッピーディスクドライブを持つ **SPARC** 搭載システムか **IA** 搭載システムにスーパーユーザーとしてログインします。

2. **Solaris 8 Device Configuration Assistant** フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブ (通常はドライブ **A**) に挿入します。このフロッピーディスクは、プロファイルフロッピーディスクとして使用します。

3. フロッピーディスクをマウントします。

```
# volcheck
```

4. **Solaris 8 Device Configuration Assistant** フロッピーディスクイメージをシステムのハードディスクにコピーします。

```
# dd if=/vol/dev/aliases/floppy0 of=boot_image
```

ここで *boot_image* は Device Configuration Assistant フロッピーディスクイメージがコピーされるファイル名です。絶対パスを指定できます。

たとえば次のコマンドは、ブートフロッピーディスクを *boot_save* ファイルにコピーします。

```
dd if=/vol/dev/aliases/floppy0 of=boot_save
```

5. 「ファイル・マネージャ」ウィンドウの「取り出し」をクリックするか、コマンド行に `eject floppy` と入力して、フロッピーディスクを取り出します。
6. 「Removable Media Manager」画面で「OK」をクリックします。
7. **Device Configuration Assistant** フロッピーディスクを手動で取り出します。
8. 空のフロッピーディスク (または上書き可能なディスク) をフロッピーディスクドライブに挿入します。
9. フロッピーディスクをマウントします。

```
# volcheck
```



注意 - この手順によって、フロッピーディスク上のすべてのデータは上書きされます。

10. フロッピーディスクをフォーマットします。

```
# fdformat -d -U
```

11. **Device Configuration Assistant** フロッピーディスクイメージを、システムのハードディスクからフォーマットしたフロッピーディスクにコピーします。

```
# dd if=boot_image of=/vol/dev/aliases/floppy0
```

ここで *boot_image* は、Solaris 8 Device Configuration Assistant のイメージをコピーするファイル名を示します。絶対パス名を指定できます。

12. カスタム **JumpStart** ファイルの例を **JumpStart** ディレクトリに

- コピーしない場合は停止して、プロファイルフロッピーディスクでの **JumpStart** ディレクトリの作成を終了します。
- コピーする場合は、次の表から次に実行する作業を判断します。

例のコピー元	実行すべき作業
Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)	Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) をサーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。 ボリュームマネージャが自動的に CD をマウントします。
ローカルディスク上の Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) のイメージ	ディレクトリを、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) イメージの位置に変更します。次に例を示します。 cd /export/install

13. サンプルのカスタム **JumpStart** ファイルを、プロファイルフロッピーディスクのルートディレクトリ (**JumpStart** ディレクトリ) にコピーします。

```
# cp -r media_path/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample/* jumpstart_dir_path
```

ここで、*media_path* はローカルディスク上の CD またはイメージへのパスを示し、*jumpstart_dir_path* はカスタム **JumpStart** ファイルの例があるプロファイルフロッピーディスクへのパスを示します。

注・プロファイルフロッピーディスクを使用するときは、すべてのカスタム JumpStart インストールファイルは、フロッピーディスクのルートディレクトリになければなりません。

たとえば、次のコマンドは、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) の `jumpstart_sample` の内容を、プロファイルフロッピーディスク `scrap` のルート (/) ディレクトリにコピーします。

```
cp -r /cdrom/sol_8_ia/s2/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample/* /floppy/scrap
```

14. プロファイルフロッピーディスク上の **JumpStart** ファイルの例を更新して、サイトの環境内で動作するようにします。
15. 「ファイル・マネージャ」ウィンドウの「取り出し」をクリックするか、コマンド行に `eject floppy` と入力して、フロッピーディスクを取り出します。
16. 「**Removable Media Manager**」画面で「**OK**」をクリックします。
17. フロッピーディスクを手動で取り出します。

これで、プロファイルフロッピーディスクの作成が完了しました。rules ファイルを更新して、プロファイルフロッピーディスクにプロファイルを作成して、カスタム JumpStart インストールを実行できます。処理を続けるには、158ページの「rules ファイルの作成」に進んでください。

rules ファイルの作成

rules ファイルとは

rules ファイルは、自動的に Solaris オペレーティング環境をインストールを実行したいシステムの各グループ (または単独のシステム) 用のルールを含むテキストファイルです。各ルールは、1 つまたは複数のシステム属性に基づいてシステムのグループを識別し、各グループを 1 つのプロファイルにリンクさせます。このプロファイルは、Solaris ソフトウェアをグループの各システムにインストールする方法を定義するテキストファイルです。

たとえば上記のルールでは、Solaris インストールプログラムが、basic_prof プロファイルにある情報に基づいて、i86pc プラットフォームグループを持つシステムにインストールを実行することを指定します。rules ファイルを使用して、カスタム JumpStart インストールに必要な rules.ok ファイルを作成します。

注 - 152ページの「プロファイルフロッピーディスクの作成」または 148ページの「プロファイルサーバーの作成」の手順にしたがって JumpStart ディレクトリを設定した場合は、JumpStart ディレクトリに rules ファイルのサンプルがあります。rules ファイルのサンプルには、説明といくつかのルール例があります。サンプルの rules ファイルを利用する場合は、使用しないルール例は必ずコメントにしておいてください。

rules ファイルの構文

rules ファイルは、次の条件を満たす必要があります。

- rules という名前を割り当てる
- 少なくとも1つのルールを含む

rules ファイルには、次のものを含めることができます。

- コメント付きテキスト

行の # 記号の後に含まれるテキストは、JumpStart によってコメントとして扱われます。行が # 記号で始まる場合は、行全体がコメントとして扱われます。

- 1つまたは複数のブランク行
- 1つまたは複数の複数行ルール

1つのルールを新しい行に続けるには、Return キーまたは Enter キーを押す直前に、バックスラッシュ文字 (\) を含めます。

ルールの構文

ルールには、少なくとも次のものが含まれていなければなりません。

- キーワード、値、および対応するプロファイル
- エントリがない場合は、開始フィールドと終了フィールドのマイナス符号 (-)

rules ファイル内のルールは、次の構文になっていなければなりません。

```
[!]rule_keyword rule_value [&& [!]rule_keyword rule_value] ... begin profile finish
```

表 6-2 ルールの構文

要素	説明
!	ルールキーワードの前で使用し、否定を示す記号
<i>rule_keyword</i>	ホスト名 (hostname)、メモリーサイズ (memsize) などの一般的なシステム属性を記述する定義済みキーワード。ルール値とともに使用し、同じ属性を持つシステムをプロファイルに一致させる。ルールキーワードの一覧は、表 6-3 を参照
<i>rule_value</i>	対応するルールキーワードに特定のシステム属性を与える値。ルール値の一覧は、表 6-3 を参照
&&	ルールキーワードとルール値のペアを同じルールで結合する (論理積をとる) ときに使用する記号。カスタム JumpStart インストール時に、システムがルール内のすべてのペアに一致しなければ、ルールの一致は成立しない
<i>begin</i>	インストールが開始する前に実行できるオプションの Bourne シェルスクリプト名。 <i>begin</i> スクリプトがない場合、このフィールドにマイナス記号 (-) を指定する必要がある。 <i>begin</i> スクリプトはすべて、JumpStart ディレクトリになければならない。 <i>begin</i> スクリプトの作成方法の詳細は、206ページの「 <i>begin</i> スクリプトの作成」を参照

表 6-2 ルールの構文 続く

要素	説明
<i>profile</i>	<p>テキストファイル名。システムがルールに一致したとき Solaris ソフトウェアがシステムにどのようにインストールされるかを定義している。プロファイル内の情報は、プロファイルキーワードと、それらに対応するプロファイル値から構成される。すべてのプロファイルは JumpStart ディレクトリになければならない。</p> <p>注 - プロファイルフィールドについては、別の使用方法もあります。詳細は、219ページの「サイト固有のインストールプログラムの使用」と 206ページの「begin スクリプトによる動的プロファイルの作成」を参照してください。</p>
<i>finish</i>	<p>インストール終了後に実行できるオプションの Bourne シェルスクリプト名。finish スクリプトがない場合、このフィールドにマイナス記号 (-) を指定する必要がある。finish スクリプトはすべて、JumpStart ディレクトリになければならない。</p> <p>finish スクリプトの作成方法の詳細は、207ページの「finish スクリプトの作成」を参照</p>

ルールキーワードと値の説明

表 6-3 で、rules ファイルで使用できるルールキーワードとルール値について説明します。

表 6-3 ルールキーワードとルール値の説明

ルール キーワード	ルール値	説明
any	マイナス記号 (-)	常に一致する
arch	<p><i>processor_type</i></p> <p><i>processor_type</i> の有効な値</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SPARC: sparc ■ IA: i386 	<p>システムのプロセッサタイプを照合する。</p> <p>システムのプロセッサタイプは、uname -p コマンドで調べることができる</p>

表 6-3 ルールキーワードとルール値の説明 続く

ルール キーワード	ルール値	説明
disksize	<p><i>actual_disk_name size_range</i></p> <p><i>actual_disk_name</i> - cxydz 形式 (たとえば、c0t3d0、c0d0) のディスク名または rootdisk。rootdisk を使用する場合、照合するディスクは次の順番で決定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SPARC: インストール済みのブートイメージを持つディスク (出荷時に JumpStart がインストールされている新しい SPARC 搭載システム) ■ c0t3d0s0 ディスク (存在する場合) ■ 最初に利用可能なディスク (カーネルのプロープ順で検索される) <p><i>size_range</i> - ディスクのサイズ。M バイト単位の範囲 (x-x) で指定する必要がある</p>	<p>システムのディスクの名前とサイズを照合する (M バイト単位)。</p> <p>例:</p> <pre>disksize c0t3d0 250-300</pre> <p>この例は、250~300M バイトの c0t3d0 ディスクを備えるシステムと照合する。</p> <p>例:</p> <pre>disksize rootdisk 750-1000</pre> <p>この例では、まず最初に事前にインストールされたブートイメージを含むシステムディスク、次に c0t3d0s0 ディスク、最後に 750M バイトから 1G バイトの情報を格納できるディスクを探します。</p> <p>注 - <i>size_range</i> を計算するときは、1M バイトが 1,048,576 バイトであることに注意してください。「535M バイト」ディスクと明記されているディスクでも、ディスク空間が 510M バイトしかない場合があります。535,000,000/1,048,576=510 により、JumpStart は「535M バイト」ディスクを実際には 510M バイトのディスクと見なします。したがって、この「535M バイト」ディスクは 530-550 の <i>size_range</i> には一致しません。</p>
domainname	<i>actual_domain_name</i>	<p>システムのドメイン名を照合する。ドメイン名でネームサービスが情報を判別する方法を制御する。</p> <p>システムがインストール済みの場合、domainname コマンドによりシステムのドメイン名を表示できる</p>
hostaddress	<i>actual_IP_address</i>	システムの IP アドレスを照合する
hostname	<i>actual_host_name</i>	<p>システムのホスト名を照合する。</p> <p>システムがインストール済みの場合、uname -n コマンドによりシステムのホスト名を表示できる</p>

表 6-3 ルールキーワードとルール値の説明 続く

ルール キーワード	ルール値	説明
installed	<p><i>slice version</i></p> <p><i>slice - cwtxdysz</i> 形式 (たとえば、c0t3d0s5) のディスクスライス名、または any か rootdisk。any を使用すると、システムに接続されたどのディスクも照合する (カーネルのプロープ順)。rootdisk を使用すると、照合するディスクは次の順番で決定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SPARC: インストール済みのブートイメージを持つディスク (出荷時に JumpStart がインストールされている新しい SPARC 搭載システム) ■ c0t3d0s0 ディスク (存在する場合) ■ 最初に利用可能なディスク (カーネルのプロープ順で検索される) <p><i>version</i> - Solaris_2.x などのバージョン名、または any か upgrade。any を使用すると、Solaris または SunOS リリースのどれとでも照合する。upgrade を使用すると、アップグレード可能な Solaris 2.1 以上のリリースのどれとでも照合する。</p> <p>JumpStart で Solaris リリースが見つかっていても、バージョンが不明な場合は、SystemV をバージョンとして返す</p>	<p>Solaris ソフトウェアの特定バージョンに対応するルートファイルシステムが存在するディスクを照合する。</p> <p>例:</p> <pre>installed c0t3d0s1 Solaris_8</pre> <p>この例では、c0t3d0s1 に Solaris 8 のルートファイルシステムを持つシステムを照合している</p>
karch	<p><i>actual_platform_group</i></p> <p>有効な値は、sun4d、sun4m、sun4u、i86pc (各種システムとそのプラットフォームグループの詳細なリストは、付録 A を参照)</p>	<p>システムのプラットフォームグループを照合する。</p> <p>システムがインストール済みの場合は、arch -k コマンドまたは uname -m コマンドにより、システムのプラットフォームグループを表示できる</p>
memsize	<p><i>physical_mem</i></p> <p>値は M バイト単位の範囲 (<x-x) または 1 つの M バイト値で指定する</p>	<p>システムの物理メモリーサイズを照合する (M バイト単位)。</p> <p>例:</p> <pre>memsize 16-32</pre> <p>この例では、16M~32M バイトの物理メモリーサイズを持つシステムと照合している。</p> <p>システムがインストール済みの場合は、prtconf コマンド (2 行目) によりシステムの物理メモリーサイズを表示できる</p>

表 6-3 ルールキーワードとルール値の説明 続く

ルール キーワード	ルール値	説明
model	<i>actual_platform_name</i>	<p>システムのプラットフォーム名を照合する。有効なプラットフォーム名については、付録 A を参照。</p> <p>インストール済みのシステムのプラットフォーム名を見つけるには、<code>uname -i</code> コマンドか <code>prtconf</code> コマンド (5 行目) の出力を使用する。</p>
network	<i>network_num</i>	<p>システムのネットワーク番号を照合する。これは JumpStart が、システムの IP アドレスとサブネットマスクの論理積をとって判別する。</p> <p>例:</p> <pre>network 193.144.2.8</pre> <p>この例では、IP アドレスが 193.144.2.8 のシステムを照合する (サブネットマスクが 255.255.255.0 の場合)</p>
osname	<i>Solaris_2.x</i>	<p>システムにすでにインストールされている Solaris のバージョンを照合する。</p> <p>例:</p> <pre>osname Solaris_7</pre> <p>この例では、Solaris 7 がすでにインストールされているシステムを照合している</p>

表 6-3 ルールキーワードとルール値の説明 続く

ルール キーワード	ルール値	説明
probe	<i>probe_keyword</i>	<p>有効なプローブまたはカスタムプローブ キーワード</p> <p>例: probe disks</p> <p>この例では、システムのディスクのサイズ がカーネル検索順序 (たとえば、SPARC ベー スシステムで は、c0t3d0s0、c0t3d0s1、c0t4d0s0) で 返され、環境変数 SI_DISKLIST、SI_DISKSIZE、SI_NUMDISKS、およ び SI_TOTALDISK が設定される。</p> <hr/> <p>注 - probe キーワードは、属性を照合せず、 プロファイルを実行しないという特徴があり ます。このキーワードは、値を返すだけ です。したがって、probe ルールキー ワードで、begin スクリプト、プロ ファイル、および finish スクリ プトは指定できません。</p> <hr/> <p>プローブキーワードについては、第 8 章を参 照してください。</p>
totaldisk	<i>size_range</i> 値は M バイト単位の範囲 (x-x) で指定する 必要がある	<p>システムのディスク空間の全体量 (M バイト 単位) を照合する。ディスク空間の全体量に は、システムに接続されている使用可能な ディスクがすべて含まれる。</p> <p>例: totaldisk 300-500</p> <p>この例では、全体として 300M~500M バイト のディスク空間を持つシステムと照合してい る。</p> <hr/> <p>注 - <i>size_range</i> を計算するときは、1M バイト が 1,048,576 バイトであることに注意して ください。「535M バイト」ディスクと明記さ れているディスクでも、ディスク空間が 510M バイトしかない場合があります。 535,000,000/1,048,576=510 により、JumpStart は「535M バイト」ディスクを実際には 510M バイトのディスクと見なします。したがっ て、この「535M バイト」ディスクは 530-550 の <i>size_range</i> には一致しません。</p>

rules ファイル例の内容

次の例は、rules ファイル内のルールをいくつか示しています。各行には、ルールキーワードとそのキーワードに有効な値があります。JumpStart は、rules ファイルを上から下へ走査します。

注 - 左の列に示された数字は挿入しないでください。これらの数字は、例の後に表示される脚注です。

JumpStart は、既知のシステムとルールキーワードおよび値を照合する場合、プロファイルフィールドにリストされたプロファイルによって指定された Solaris ソフトウェアをインストールします。

	# rule keywords and rule values	begin script	profile	finish script
	# -----	-----	-----	-----
1	hostname eng-1	-	basic_prof	-
2	network 192.43.34.0 && !model \ 'SUNW,SPARCstation-20'	-	net_prof	-
3	model SUNW,SPARCstation-LX	-	lx_prof	complete
4	network 193.144.2.0 && karch i86pc	setup	IA_prof	done
5	memsize 16-32 && arch i386	-	prog_prof	-
6	any -	-	generic_prof	-

1. このルールは、システムのホスト名が eng-1 の場合に一致します。basic_prof プロファイルは、このルールに一致するシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするために使用されます。

2. このルールは、システムがサブネット 192.43.34.0 にあって、SPARCstation™ 20 (SUNW, SPARCstation-20) ではない場合に一致します。net_prof プロファイルは、このルールに一致するシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするために使用されます。このルールは、159ページの「rules ファイルの構文」に定義されたルールラップの例にもなっています。

3. このルールは、システムが SPARCstation LX である場合に一致します。lx_prof プロファイルと complete 終了スクリプトは、このルールに一致するシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするために使用されます。

4. このルールは、システムが 193.144.2.0 にあって、IA ベースのシステムである場合に一致します。setup 開始スクリプト、IA_prof プロファイル、および done 終了スクリプトは、このルールに一致するシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするために使用されます。
5. このルールは、システムに 16~32M バイトのメモリーがあって、IA 搭載システムである場合に一致します。prog_prof プロファイルは、このルールに一致するシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするために使用されます。
6. このルールは、上記のルールに一致しなかったすべてのシステムに一致します。generic_prof プロファイルは、このルールに一致するシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするために使用されます。このプロファイルを使用する場合は、any が常に、rules ファイルの最後のルールでなければなりません。

▼ rules ファイルを作成する方法

1. テキストエディタを使用して、作成した **JumpStart** ディレクトリで、テキストファイル rules を作成するか、rules サンプルファイルを開きます。
2. カスタム **JumpStart** を使用した **Solaris** のインストール先のシステムグループごとに 1 つのルールを rules ファイルに追加します。
3. rules ファイルを **JumpStart** ディレクトリに保存します。
root が rules ファイルを所有していて、そのアクセス権が 644 に設定されていることを確認します。

プロファイルの作成

プロファイルとは

プロファイルは、どのように Solaris ソフトウェアをシステムにインストールするか (たとえば、どのソフトウェアグループをインストールするか) を定義するテキストファイルです。すべてのルールはプロファイルを指定して、JumpStart インストール時にルールが一致したときにシステムがどのようにインストールされるかを定義します。通常は、ルールごとに異なるプロファイルを作成します。しかし、複数のルールで同じプロファイルを使用することも可能です。

プロファイルは、1つまたは複数のプロファイルキーワードとそれらの値から構成されます。各プロファイルキーワードは、JumpStart がどのようにしてシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするかを制御するコマンドです。たとえば、次のようなプロファイルキーワードとプロファイル値があります。

```
system_type server
```

これは JumpStart に、システムをサーバーとしてインストールするよう指示します。

注 - 148ページの「プロファイルサーバーの作成」または 152ページの「プロファイルフロッピーディスクの作成」の手順を使用して JumpStart ディレクトリを作成した場合、プロファイルのサンプルが JumpStart ディレクトリにあります。

プロファイルの構文

プロファイルの条件は、次のとおりです。

- 最初のエントリが `install_type` プロファイルキーワードであること
- キーワードは1行に1つだけであること
- アップグレードされるシステムが、アップグレードできるルートファイルシステムを複数持っている場合は、`root_device` キーワード

プロファイルでは、次のことが許可されています。

- コメント

行が # で始まる場合は、その行全体がコメント行になります。行の途中に # が指定されている場合は、# の後のすべてがコメントと見なされます。

- 1行以上の空白行

プロファイルキーワードとプロファイル値の説明

次の節では、プロファイルで使用できるプロファイルキーワードとプロファイル値を説明します。

注 - プロファイルキーワードとプロファイル値には、大文字と小文字の区別があります。

表 6-4 を使用すれば、どのキーワードがユーザーのインストールに適しているかを簡単に決定できます。プロファイルキーワードの説明で特に注記されていないかぎり、プロファイルキーワードは初期インストールオプションだけで使用できます。

表 6-4 プロファイルキーワード

プロファイルキーワード	インストール方法				
	スタンドアロンシステム (ネットワークに接続されていない)	スタンドアロンシステム (ネットワークに接続されている) またはサーバー	OS サーバー	アップグレード	ディスク領域を割り当てし直すアップグレード
backup_media					x
boot_device	x	x	x		
client_arch			x		
client_root			x		
client_swap			x		
cluster (ソフトウェアグループを追加する場合)	x	x	x		
cluster (クラスタを追加または削除する場合)	x	x	x	x	x
dontuse	x	x	x		
fdisk (IA のみ)	x	x	x		
filesys (リモートファイルシステムをマウントする場合)		x	x		
filesys (ローカルファイルシステムを作成する場合)	x	x	x		

表 6-4 プロファイルキーワード 続く

プロファイルキーワード	インストール方法				
	スタンドアロンシステム (ネットワークに接続されていない)	スタンドアロンシステム (ネットワークに接続されている) またはサーバー	OS サーバー	アップグレード	ディスク領域を割り当てし直すアップグレード
geo	x	x	x	x	x
install_type	x	x	x	x	x
isa_bits	x	x	x	x	x
layout_constraint					x
locale	x	x	x	x	x
num_clients			x		
package	x	x	x	x	x
partitioning	x	x	x		
root_device	x	x	x	x	x
system_type	x	x	x		
usedisk	x	x	x		

backup_media プロファイルキーワード

<code>backup_media type path</code>

注 - backup_media は、ディスク領域を割り当てし直すことが必要なアップグレードオプションだけで使用できます。

backup_media は、ディスク容量不足のためにアップグレード中にディスク領域を割り当てし直す必要があるファイルシステムのバックアップをとるために使用する媒体を定義します。バックアップ用に複数のテープまたはフロッピーディスクが必要な場合は、アップグレード中にテープまたはフロッピーディスクの挿入を求めるプロンプトが表示されます。

有効な <i>type</i> 値	有効な <i>path</i> 値	説明
local_tape	/dev/rmt/ <i>n</i>	アップグレードされるシステムのローカルテープドライブを指定する。 <i>path</i> は、テープドライブのキャラクタ型 (raw) デバイスのパスでなければならない。 <i>n</i> はテープドライブの番号
local_diskette	/dev/rdisketten	アップグレードされるシステムのローカルフロッピーディスクドライブを指定する。 <i>path</i> は、フロッピーディスクドライブのキャラクタ型 (raw) デバイスのパスでなければならない。 <i>n</i> はフロッピーディスクドライブの番号
local_filesystem	/dev/dsk/cwtxdysz /file_system	アップグレードされるシステムのローカルファイルシステムを指定する。アップグレードで変更されるローカルファイルシステムは指定できない。 <i>path</i> は、ディスクスライスのブロック型デバイスのパス (/dev/dsk/cwtxdysz 内の tx は必須ではない) か、/etc/vfstab ファイルでマウントされたファイルシステムへの絶対パスのいずれかである

有効な <i>type</i> 値	有効な <i>path</i> 値	説明
<code>remote_filesystem</code>	<code>host:/file_system</code>	リモートシステムの NFS ファイルシステムを指定する。 <i>path</i> は、リモートシステム (<i>host</i>) の名前または IP アドレスと、NFS ファイルシステム (<i>file_system</i>) への絶対パスを含まなければならない。NFS ファイルシステムは、読み取り権と書き込み権を持っている必要がある
<code>remote_system</code>	<code>user@host:/directory</code>	リモートシェル (rsh) で到達できるリモートシステム上のディレクトリを指定する。アップグレードされるシステムは、リモートシステムの <code>.rhosts</code> ファイル経由で、リモートシステムにアクセスできなければならない。 <i>path</i> は、リモートシステム (<i>host</i>) の名前と、そのディレクトリ (<i>directory</i>) への絶対パスを含まなければならない。ユーザーログイン (<i>user</i>) を指定しないと、スーパーユーザーとしてログインされる

例:

```
backup_media local_tape /dev/rmt/0
backup_media local_diskette /dev/rdiskette1
backup_media local_filesystem /dev/dsk/c0t3d0s4
backup_media local_filesystem /export
backup_media remote_filesystem system1:/export/temp
backup_media remote_system user1@system1:/export/temp
```

boot_device プロファイルキーワード

```
boot_device device eeprom
```

`boot_device` は、JumpStart がルート (/) ファイルシステムをインストールするデバイスを (つまり、システムのブートデバイスを) 指定します。

`boot_device` キーワードをプロファイルに指定しない場合、インストール中にデフォルトで次の `boot_device` キーワードが指定されます。

```
boot_device any update
```

device - ブートデバイスにするデバイスを選択します。

- SPARC: *cwtxdysz* または *cxdysz* - JumpStart がルートファイルシステムを格納するディスクスライス。たとえば、*c0t0d0s0*。
- IA: *cwtxdy* または *cxdy* - JumpStart がルートファイルシステムを格納するディスク。たとえば、*c0t0d0*。
- *existing* - JumpStart は、システムの既存のブートデバイスにルート (/) ファイルシステムを格納します。
- *any* - ルートファイルシステムを格納する場所は、JumpStart が選択します。システムの既存のブートデバイスを使用する場合がありますが、必要であれば、異なるブートデバイスを選択する場合があります。

eeprom - システムの EEPROM を変更または保存する場合に選択します。

システムの EEPROM を、指定したブートデバイスに変更または保存する場合に選択します。

preserve 値を指定しなければなりません。

- *update* - JumpStart は、インストールされるシステムが自動的に指定したブートデバイスからブートするように、システムの EEPROM をそのブートデバイスに変更します。
- *preserve* - システムの EEPROM 中のブートデバイス値は変更されません。システムの EEPROM を変更しないで新しいブートデバイスを指定した場合は、システムが新しいブートデバイスから自動的にブートするように、システムの EEPROM を手作業で変更しなければなりません。

注 [SPARC] - SPARC システムでは、システムの現在のブートデバイスを変更する場合、*eeprom* の値でもシステムの EEPROM を変更できます。これにより、システムは新しいブートデバイスから自動的にブートできます。

例:

```
boot_device c0t0d0s2 update
```

注 - *boot_device* は、ルートファイルシステムを指定する *filesys* キーワードと (指定した場合は) *root_device* キーワードに一致しなければなりません。

client_arch プロファイルキーワード

```
client_arch karch_value ...
```

`client_arch` は、OS サーバーが使用するものとは異なるプラットフォームグループをサポートすることを定義します。`client_arch` を指定しない場合、OS サーバーを使用するどのディスクレスクライアントも、サーバーと同じプラットフォームグループでなくてはなりません。OS サーバーがサポートしてほしいプラットフォームグループごとに指定する必要があります。

`karch_value` の有効な値は、`sun4d`、`sun4m`、`sun4u`、`i86pc` です。(各システムのプラットフォーム名については、付録 A を参照してください。)

注 - `client_arch` は、`system_type` に `server` を指定したときだけ使用できます。

client_root プロファイルキーワード

```
client_root root_size
```

`client_root` は、各クライアント用に割り当てるルート領域の大きさ (`root_size`、M バイト単位) を定義します。サーバーのプロファイルに `client_root` の指定がない場合は、1 クライアントあたり 15M バイトのルート領域が自動的に割り当てられます。このクライアント用のルート領域の大きさは、`num_clients` キーワードを組み合わせて、`/export/root` ファイルシステム用に確保する領域の大きさを決定するときに使用されます。

注 - `client_root` は、`system_type` に `server` を指定したときだけ使用できます。

client_swap プロファイルキーワード

```
client_swap swap_size
```

プロファイル内の `client_swap` は、各ディスクレスクライアントに割り当てるスワップ領域の大きさ (`swap_size`、M バイト単位) を定義します。`client_swap` を指定しない場合、32M バイトのスワップ領域がデフォルトで割り当てられます。

例:

```
client_swap 64
```

この例は、各ディスクレスクライアントが 64M バイトのスワップ領域を持つことを定義します。

注 - `client_swap` は、`system_type` に `server` を指定したときだけ使用できません。

cluster プロファイルキーワード (ソフトウェアグループの追加)

<code>cluster group_name</code>

`cluster` は、どのソフトウェアグループをシステムに追加するかを指定します。各ソフトウェアグループの `group_name` 名は次のとおりです。

ソフトウェアグループ	<code>group_name</code>
コアシステムサポート	SUNWCreq
エンドユーザーシステムサポート	SUNWCuser
開発者システムサポート	SUNWCprog
全体ディストリビューション	SUNWCall
全体ディストリビューションと OEM サポート	SUNWCXall

1つのプロファイルに1つのソフトウェアグループだけ指定できます。ソフトウェアグループは、他の `cluster` エントリと `package` エントリの前に指定しなければなりません。プロファイル内の `cluster` でソフトウェアグループを指定しない場合、デフォルトによりエンドユーザーソフトウェアグループ (SUNWCuser) がシステムにインストールされます。

cluster プロファイルキーワード (クラスタの追加または削除)

```
cluster cluster_name add_delete_switch
```

注 - cluster (クラスタの追加または削除) は、初期インストールオプションとアップグレードオプションの両方で使用できます。

cluster は、システムにインストールされるソフトウェアグループにクラスタを追加または削除するかを指定します。

cluster_name は SUNWCname 形式で指定します。インストールが終了したシステムで Admintool を起動し、「ブラウズ」メニューから「ソフトウェア」を選択すると、クラスタの詳細情報とクラスタ名を表示できます。

add_delete_switch はオプションの add または delete を示します。これを使用すると、指定したクラスタを追加または削除できます。add_delete_switch を指定しないと、デフォルトで add が使用されます。

アップグレードの場合

- すでにシステムにあるすべてのクラスタが自動的にアップグレードされます。
- cluster_name add を指定したが、cluster_name がシステムにインストールされていなかった場合、そのクラスタがインストールされます。
- cluster_name delete を指定したが、cluster_name がシステムにインストールされていた場合、アップグレードが開始される前にそのパッケージは削除されます。

dontuse プロファイルキーワード

```
dontuse disk_name ...
```

dontuse は、partitioning default を指定しているときに、JumpStart が使用してはならない 1 つ以上のディスクを指定します (デフォルトでは、システムのすべての使用可能なディスクを使用します)。disk_name は、cxydz または cydz の形式 (たとえば、c0t0d0) で指定する必要があります。

注 - 1 つのプロファイルで、dontuse キーワードと usedisk キーワードを同時に指定することはできません。

IA: fdisk プロファイルキーワード

```
fdisk disk_name type size
```

fdisk は、IA 搭載システムで fdisk パーティションを設定する方法を定義します。fdisk は 2 回以上指定できます。次に、IA 搭載システムでの fdisk パーティションのデフォルトの動作について説明します。

- fdisk キーワードを使って (*size* に delete か 0 を指定して) 削除しないかぎり、ディスク上のすべての fdisk パーティションは保存されます。また、*size* が all の場合は、既存のすべての fdisk パーティションが削除されます。
- ルート (/) ファイルシステムを含む Solaris fdisk パーティションは、そのディスク上でアクティブパーティションとして常に指定されます。

注 [IA] - IA 搭載システムは、デフォルトでアクティブパーティションから起動します。

- プロファイルで fdisk キーワードを指定しないと、インストール時にデフォルトで次の fdisk キーワードが指定されます。

```
fdisk all solaris maxfree
```

- fdisk エントリは、プロファイルに指定されている順序で処理されます。
disk_name - fdisk パーティションを作成または削除する場所を指定します。
- *cxydz* または *cydz* - 特定のディスク。たとえば、c0t3d0
- *rootdisk* - システムのルートディスク値を含む変数。これは JumpStart で決定されます (191 ページの「システムのルートディスクを決定する方法」を参照)。
- *all* - 選択されたすべてのディスク

type - 指定したディスク上で作成または削除する fdisk パーティションのタイプを指定します。

- *solaris* - Solaris fdisk パーティション (SUNIXOS fdisk タイプ)
- *dosprimary* - 1 次 DOS fdisk パーティションの別名 (拡張またはデータ用 DOS fdisk パーティションではない)。fdisk パーティションを削除する場合 (*size* に delete を指定)、*dosprimary* は DOSHUGE、DOSOS12、および DOSOS16 fdisk タイプ (これらはすべて削除される) の別名になります。fdisk パーティションを作成する場合、*dosprimary* は DOSHUGE fdisk パーティション (このパーティションが作成される) の別名になります。

- *DDD* - 整数で表す *fdisk* パーティション (有効な値は 1 から 255 までの整数)

注 [IA] - この値は *size* に *delete* を指定した場合のみ指定できます。

- *0xHH* - 16 進数で表す *fdisk* パーティション (有効な値は 01 から FF までの 16 進数)

注 [IA] - この値は *size* に *delete* を指定した場合のみ指定できます。

いくつかの *fdisk* タイプの整数と 16 進数での表し方を次の表に示します。

<i>fdisk</i> タイプ	<i>DDD</i>	<i>HH</i>
DOSOS12	1	01
PCIXOS	2	02
DOSOS16	4	04
EXTDOS	5	05
DOSHUGE	6	06
DOSDATA	86	56
OTHEROS	98	62
UNIXOS	99	63

size - 次の内から 1 つを指定します。

- *DDD* - サイズが *DDD* (M バイト単位) の *fdisk* パーティションを、指定したディスク上に作成します。*DDD* は整数で指定する必要があります。*Solaris* インストールプログラムは、この数値を一番近いシリンダの境界に自動的に繰り上げます。0 を指定すると、*delete* を指定するのと同じになります。
- *all* - *fdisk* パーティションをディスク全体に作成します (既存のすべての *fdisk* パーティションは削除されます)。

注 [IA] - この値は *type* に *solaris* を指定した場合のみ指定できます。

- **maxfree** - 指定したディスク上の最も大きい連続する空き領域に **fdisk** パーティションを作成します。ディスク上にすでに指定した *type* の **fdisk** パーティションがあると、その既存の **fdisk** パーティションを使用します (新しい **fdisk** パーティションはディスク上に作成されません)。

注 [IA] - ディスクには、空き領域と少なくとも 1 つの未使用の **fdisk** パーティションが必要です。空き領域がない場合は、インストールが失敗します。この値は、*type* が **solaris** または **dosprimary** の場合のみ指定できます。

- **delete** - 指定した *type* のすべての **fdisk** パーティションを指定したディスク上で削除します。

filesystem プロファイルキーワード (リモートファイルシステムのマウント)

```
filesystem server:path server_address mount_pt_name [mount_options]
```

この場合の **filesystem** の例は、インストールしたシステムが起動するときに、自動的にリモートファイルシステムをマウントするよう設定します。2 回以上 **filesystem** を指定できます。

例:

```
filesystem sherlock:/export/home/user2 - /home
```

server: - リモートファイルシステムが存在するサーバー名 (後ろにコロンをつけます)

path - リモートファイルシステムのマウントポイント名。たとえば **/usr** または **/export/home**

server_address - **server:path** で指定するサーバーの IP アドレス。ネットワーク上で実行されているネームサービスがない場合、この値を使用して、サーバーのホスト名と IP アドレスを登録している **/etc/hosts** ファイルを生成できます。サーバーの IP アドレスを指定したくない場合 (ネットワーク上で実行中のネームサービスがある場合) は、マイナス記号 (-) を指定する必要があります。

mount_pt_name - リモートファイルシステムをマウントするマウントポイント名

mount_options - 指定した **mount_pt_name** の **/etc/vfstab** エントリに追加する 1 つ以上のマウントオプション (**mount (1M)** コマンドの **-o** オプションと同じ)

注 - 複数のマウントオプションを指定する場合は、マウントオプションは、スペースではなくコンマで区切ってください。例: ro,quota

filesys プロファイルキーワード (ローカルファイルシステムの作成)

```
filesys slice size [file_system optional_parameters]
```

この場合の filesys は、インストール中にローカルファイルシステムを作成します。filesys は 2 回以上指定できます。

slice - 次のいずれか 1 つを指定します。

- any - JumpStart は、ファイルシステムを任意のディスクに配置します。

注 - size が existing、all、free、start:size、または ignore の場合は、any は指定できません。

- cwtxdysz または cxdysz - JumpStart がファイルシステムを配置するディスクスライス。たとえば、c0t0d0s0、c0d0s0
- rootdisk.sn - システムのルートディスク値が含まれる変数。この値は、Solaris インストールプログラムが決定します (191 ページの「システムのルートディスクを決定する方法」を参照)。拡張子 sn は、ディスク上の特定のスライスを示します。

size - 次のいずれか 1 つを指定します。

- num - ファイルシステムのサイズを num (M バイト単位) で設定します。
- existing - 既存のファイルシステムの現在のサイズを使用します。

注 - existing の値を使用すると、別の mount_pt_name として file_system を指定することによって、既存のスライス名を変更できます。

- auto - 選択したソフトウェアに応じて、ファイルシステムのサイズを自動的に決定します。
- all - 指定した slice は、そのファイルシステム用にディスク全体を使用します。この値を指定すると、指定したディスク上に他のファイルシステムは存在できません。

- `free` - ディスク上の残りの未使用領域をファイルシステム用に使用します。

注 - `fileSYS` に `free` を指定する場合は、プロファイルの最後の `fileSYS` エントリでなければなりません。

- `start:size` - ファイルシステムを明示的にパーティションに分割します。`start` はスライスが始まるシリンダで、`size` はそのスライスのシリンダ数です。

`file_system - slice` に `any` または `cwtxdysz` を指定しているときに、このオプション値を使用できます。この値を指定しないと、デフォルトによって `unnamed` が設定されますが、`optional_parameters` 値を使用できません。次のいずれか 1 つを指定してください。

- `mount_pt_name` - ファイルシステムのマウントポイント名。たとえば `/var`
- `swap` - 指定した `slice` を `swap` として使用します。
- `overlap` - 指定した `slice` をディスク領域 (VTOC の値は `V_BACKUP`) を表すものとして定義します。デフォルトでは、スライス 2 はディスク全体を表すオーバーラップスライスです。

注 - `size` に `existing`、`all`、または `start:size` を指定した場合だけ `overlap` を指定できます。

- `unnamed` - 指定した `slice` は `raw` スライスと定義されるので、`slice` にはマウントポイント名がありません。`file_system` を指定しないと、デフォルトで `unnamed` が設定されます。
- `ignore` - 指定した `slice` を使用しないか、JumpStart で認識しません。これにより、インストール時にディスク上のファイルシステムを無視できるため、JumpStart は同じ名前と同じディスク上に新しいファイルシステムを作成できます。`ignore` は、`partitioning existing` を指定したときだけ使用できます。

`optional_parameters` - 次のいずれか 1 つを指定します。

- `preserve` - 指定した `slice` 上のファイルシステムを保存します。

注 - `size` に `existing`、`slice` に `cwtxdysz` を指定した場合だけ `preserve` を指定できます。

- `mount_options` - 指定した `mount_pt_name` の `/etc/vfstab` エントリに追加する 1 つ以上のマウントオプション (`mount (1M)` コマンドの `-o` オプション)

注 - 複数のマウントオプションを指定する場合は、マウントオプションはスペースではなくコンマで区切ってください。例: ro,quota

geo locale プロファイルキーワード

geo locale

注 - geo は、初期インストールとアップグレードオプションの両方で使用できます。

geo は、システムにインストールする (またはシステムのアップグレード時に追加する) 地域ロケールを指定します。locale に指定できる値は、次のとおりです。

値	説明
N_Africa	北アフリカ。エジプトを含む
C_America	中央アメリカ。コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、ニカラグア、パナマを含む
N_America	北アメリカ。カナダ、アメリカ合衆国を含む
S_America	南アメリカ。アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、エクアドル、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラを含む
Asia	アジア。日本、韓国、中国、台湾、タイを含む
Ausi	オーストラリア。オーストラリア、ニュージーランドを含む
C_Europe	中央ヨーロッパ。オーストリア、チェコ、ドイツ、ハンガリー、ポーランド、スロヴァキア、スイスを含む
E_Europe	東ヨーロッパ。アルバニア、ボスニア、ブルガリア、クロアチア、エストニア、ラトビア、リトアニア、マケドニア、ルーマニア、ロシア、セルビア、スロヴェニア、トルコを含む
N_Europe	北ヨーロッパ。デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデンを含む

値	説明
S_Europe	南ヨーロッパ。ギリシャ、イタリア、ポルトガル、スペインを含む
W_Europe	西ヨーロッパ。ベルギー、フランス、イギリス、アイルランド、オランダを含む
M_East	中近東。イスラエルを含む

上記の各地域ロケールを構成するコンポーネントロケール値の完全なリストは、付録 B に記載されています。

注 - システムに追加する必要がある各ロケールごとに、geo キーワードを指定します。

install_type プロファイルキーワード

`install_type initial_install_upgrade_switch`

`install_type` は、削除してシステムに新しい Solaris オペレーティング環境をインストールするか、または既存の Solaris 環境をアップグレードするかどうかを定義します。

注 - `install_type` は、各プロファイル内で最初のプロファイルキーワードでなければなりません。

`initial_install_upgrade_switch` は、オプションの `initial_install` または `upgrade` を表します。このオプションは、実行するインストールのタイプを指定するために使用します。

`initial_install_upgrade_switch` は指定しなければなりません。

注 - 一部のプロファイルキーワードは、`initial_install` オプションだけで使用できます。これは、`upgrade` オプションでも同様です。

isa_bits プロファイルキーワード

```
isa_bits bit_switch
```

`isa_bits` は、64 ビットまたは 32 ビットの Solaris 8 パッケージをインストールするかどうかを指定します。

`bit_switch` は、オプション 64 または 32 を表します。これは、64 ビットまたは 32 ビットのどちらの Solaris 8 パッケージをインストールするかを指定するために使用します。このキーワードをプロファイルに設定しないと、JumpStart によって、次のものがインストールされます。

- UltraSPARC™ システムの場合は 64 ビットパッケージ
- それ以外のシステムの場合は 32 ビットパッケージ

注 - `isa_bits` キーワードを使用する場合は、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) 上の `Solaris_8/Misc/jumpstart_sample` ディレクトリの最新の `check` スクリプトを使用する必要があります。

layout_constraint プロファイルキーワード

```
layout_constraint slice constraint [minimum_size]
```

注 - `layout_constraint` は、ディスク容量の再割り当てが必要なアップグレードオプションだけで使用できます。

`layout_constraint` は、ファイルシステムがディスク容量不足のためにアップグレード中にディスク容量を再割り当てする必要がある場合に、制約付き自動配置がファイルシステムで行われることを示します。

`layout_constraint` キーワードを指定しないと、次のようになります。

- アップグレード用により多くの容量を必要とするファイルシステムは、`changeable` とマークされます。
- より多くの容量を必要とするファイルシステムと同じディスク上にあるファイルシステム (`/etc/vfstab` ファイルでマウントされる) は、`changeable` とマークされます。

- 残りのファイルシステムは、`fixed` とマークされます (自動配置はこれらのファイルシステムを変更できません)。

1つ以上の `layout_constraint` キーワードを指定すると、次のようになります。

- アップグレード用により多くの容量を必要とするファイルシステムは、`changeable` とマークされます。
- `layout_constraint` キーワードを指定したファイルシステムは、指定した制約がマークされます。
- 残りのファイルシステムは、`fixed` とマークされます。

アップグレード用により多くの容量を必要とするファイルシステムの制約は変更できませんが (`changeable` とマークされなければならない)、このようなファイルシステムに `layout_constraint` を使用すれば、その `minimum_size` 値を変更できます。

注 - 自動配置がディスク容量の再割り当てを行う際には、より多くのファイルシステム、特にアップグレード用により多くの容量を必要とするファイルシステムと同じディスク上にあるファイルシステムを、`changeable` または `movable` であると選択します。

slice - これは、制約を指定するファイルシステムのディスクスライスです。 `cwtxdysz` または `cxdysz` の形式で指定しなければなりません。

constraint - 指定したファイルシステムに対して、次のいずれか1つの制約を選択します。

- `changeable` - 自動配置はファイルシステムを他の場所に移動して、そのサイズを変更できます。この制約は、`/etc/vfstab` ファイルでマウントされるファイルシステムだけに指定できます。 `minimum_size` 値を指定すれば、ファイルシステムのサイズを変更できます。

ファイルシステムを `changeable` とマークして、 `minimum_size` 値を指定しないと、そのファイルシステムの最小サイズは、必要な最小サイズより 10% 大きな値に設定されます。たとえば、ファイルシステムの最小サイズが 100M バイトの場合、変更されるサイズは 110M バイトになります。 `minimum_size` を指定した場合、残りの空き領域 (元のサイズから最小サイズを引いたもの) は他のファイルシステム用に使用されます。

- `movable` - 自動配置はファイルシステムを (同じディスクまたは異なるディスク上の) 他のスライスに移動できますが、サイズは変更しません。
- `available` - 自動配置は、ファイルシステムのすべての領域を使用して領域を割り当てし直します。ファイルシステムのすべてのデータは失われます。この制約

は、`/etc/vfstab` ファイルでマウントされないファイルシステムだけに指定できます。

- `collapse` - 自動配置は、指定したファイルシステムをその親ファイルシステムに移動し(閉じこめ)ます。これは、アップグレードの一部として、システム上のファイルシステム数を減らすために使用できます。たとえば、システムが `/usr` と `/usr/openwin` のファイルシステムを持っている場合、`/usr/openwin` ファイルシステムを閉じ込めると、`/usr/openwin` は `/usr` (その親) に移動されます。この制約は、`/etc/vfstab` ファイルでマウントされるファイルシステムだけに指定できます。

`minimum_size` - この値は、自動配置が領域を再割り当てするときに、ファイルシステムに割り当てる最小サイズを指定します(基本的に、ファイルシステムのサイズを変更します)。ファイルシステムのサイズは、まだ割り当てられていない領域が追加される場合、最終的にはこの指定した値よりは大きくなります。このオプション値は、ファイルシステムを `changeable` とマークした場合のみ使用できます。最小サイズは、ファイルシステムの既存の内容に必要なサイズより小さい値には設定できません。

例:

```
layout_constraint c0t3d0s1 changeable 200
layout_constraint c0d0s4 movable
layout_constraint c0t3d1s3 available
layout_constraint c0t2d0s1 collapse
```

locale *locale_name* プロファイルキーワード

locale <i>locale_name</i>

注 - `locale` は、初期インストールとアップグレードオプションの両方で使用できます。

`locale` は、指定した `locale_name` に対して、どのロケールパッケージをインストール(アップグレードの場合は追加)するかを指定します。`locale_name` 値は、`$LANG` 環境変数で使用されるのと同じです。有効なロケールの値については、付録 B を参照してください。

注・デフォルトロケールを事前設定している場合は、そのロケールは自動的にインストールされます。English 言語パッケージはデフォルトでインストールされます。

注・locale キーワードは、システムに追加するロケールごとに指定できます。

num_clients プロファイルキーワード

num_clients client_num

サーバーがインストールされているときには、各ディスクレスクライアントのルート (/) と swap ファイルシステムにディスク空間が割り当てられます。num_clients は、サーバーがサポートするディスクレスクライアント数 (client_num) を定義します。num_clients を指定しないと、デフォルトで5つのディスクレスクライアントが割り当てられます。

注・num_clients は、system_type が server として指定されているときだけ使用できます。

package プロファイルキーワード

package package_name [add_delete_switch]
--

注・package は、初期インストールとアップグレードオプションの両方で使用できます。

package は、システムにインストールするソフトウェアグループにパッケージを追加または削除するかを指定します。

package_name は、SUNWname の形式で指定する必要があります。pkginfo -l コマンドまたは Admintool (「ブラウズ」メニューから「ソフトウェア」を選択) をインストールシステムに使用して、パッケージとその名前に関する詳しい情報を表示してください。

`add_delete_switch` は、`add` または `delete` オプションを表します。このオプションは、指定のパッケージを追加または削除するかを指定します。`add_delete_switch` を指定しないと、デフォルトによって `add` が使用されます。

アップグレードの場合

- すでにシステム上にあるすべてのパッケージが自動的にアップグレードされます。
- `package_name add` を指定したが、`package_name` がシステムにインストールされていない場合は、そのパッケージがインストールされます。
- `package_name delete` を指定したが、`package_name` がシステムにインストールされていた場合、アップグレードが開始される前にそのパッケージは削除されます。
- `package_name delete` を指定したが、`package_name` がシステムにインストールされていない場合、インストールするように指定したクラスタの一部にそのパッケージが含まれていると、パッケージはインストールされません。

partitioning プロファイルキーワード

<code>partitioning type</code>

`partitioning` は、インストール時にファイルシステム用にディスクをスライスに分割する方法を定義します。

`type` - 次のオプションから 1 つを選択します。

- `default - JumpStart` はディスクを選択して、指定したソフトウェアをインストールするファイルシステムを作成します。ただし、`filesys` キーワードで指定したファイルシステムを除きます。`rootdisk` が最初に選択され、指定したソフトウェアが `rootdisk` に収まらない場合は、さらに別のディスクが使用されます。
- `existing - JumpStart` は、システムのディスク上にある既存のファイルシステムを使用します。`/`、`/usr`、`/usr/openwin`、`/opt`、`/var` を除く、すべてのファイルシステムが保存されます。`JumpStart` は、ファイルシステムのスーパーブロックにある最後のマウントポイントフィールドを使用して、スライスがどのファイルシステムのマウントポイントを表しているかを判断します。

注 - `filesys` プロファイルキーワードと `partitioning existing` を組み合わせる場合、`size` は `existing` である必要があります。

- `explicit - JumpStart` はディスクを使用して、`filesys` キーワードで指定されるファイルシステムを作成します。`filesys` キーワードでルート (/) ファイルシステムだけを指定した場合、すべての Solaris ソフトウェアがルートファイルシステムにインストールされます。

注 - `explicit` プロファイル値を使用するときには、`filesys` プロファイル キーワードを使用して、使用するディスクと作成するファイルシステムを指定してください。

プロファイルで `partitioning` を指定しないと、デフォルトで `default` タイプのパーティションが使用されます。

root_device プロファイルキーワード

<code>root_device slice</code>

注 - `root_device` は、初期インストールとアップグレードオプションの両方で使用できます。

`root_device` は、システムのルートディスクを指定します。詳細は、191ページの「システムのルートディスクを決定する方法」を参照してください。

アップグレードの場合

`root_device` は、アップグレードされるルートファイルシステム (および、その `/etc/vfstab` ファイルでマウントされるファイルシステム) を指定します。システム上で複数のルートファイルシステムがアップグレードできる場合は、`root_device` を指定しなければなりません。`slice` は、`cwtxdysz` または `cxdysz` 形式で指定しなければなりません。

例:

```
root_device c0t0d0s2
```

注 - 1 つだけのディスクを持つシステムで `root_device` を指定する場合、`root_device` とディスクは一致しなければなりません。また、ルートファイルシステムを指定する任意の `filesys` キーワードは、`root_device` と一致しなければなりません。

system_type プロファイルキーワード

```
system_type type_switch
```

`system_type` は、インストールするシステムのタイプを定義します。

`type_switch` は、オプション `standalone` または `server` を表します。このオプションは、Solaris をインストールするシステムのタイプを指定するために使用します。`system_type` をプロファイルに指定しないと、デフォルトによって `standalone` が使用されます。

usedisk プロファイルキーワード

```
usedisk disk_name ...
```

`usedisk` は、`partitioning default` を指定しているときに、JumpStart が使用する 1 つ以上のディスクを指定します (デフォルトではシステム上のすべての使用可能ディスクを使用します)。`disk_name` は、`cxydz` または `cydz` 形式 (たとえば `c0t0d0`、`c0d0s0`) で指定します。

プロファイルで `usedisk` を指定すると、JumpStart は `usedisk` キーワードで指定したディスクだけを使用します。

注 - 同じプロファイルに `usedisk` キーワードと `dontuse` キーワードを同時に指定することはできません。

スワップサイズを決定する方法

プロファイルにスワップサイズが指定されていない場合、JumpStart は、システムの物理メモリーの大きさにしたがってスワップ領域のサイズを決定します。表 6-5 は、カスタム JumpStart インストール時に確保されるスワップのサイズをまとめたものです。

表 6-5 スワップのサイズの決定方法

物理メモリー (M バイト)	スワップのサイズ (M バイト)
16 - 64	32
64 - 128	64
128 - 512	128
512 を超える場合	256

他のファイルシステムを配置した後にディスクに十分な空き容量がない場合、JumpStart は、スワップ領域のサイズが全ディスク容量の 20% を超えないようにします。空き容量が存在する場合は、表 6-5 に示すサイズまでスワップ領域を割り当てます。

注 - 物理メモリーとスワップ領域の合計は、32M バイト以上必要です。

システムのルートディスクを決定する方法

システムのルートディスクは、ルート (/) ファイルシステムを含むシステム上のディスクです。プロファイル内では、Solaris インストールプログラムがシステムのルートディスクを設定するディスク名の代わりに、この `rootdisk` 変数を使用できます。表 6-6 に、インストールプログラムがインストール用にシステムのルートディスクを決定する方法を説明しています。

注 - これは初期インストール時だけに適用されます。アップグレードの場合、システムのルートディスクは変更できません。

表 6-6 JumpStart がシステムのルートディスクを決定する方法 (初期インストールのみ)

手順	動作
1	プロファイル内で <code>root_device</code> キーワードが指定されている場合、インストールプログラムは <code>rootdisk</code> をルートデバイスに設定します。
2	プロファイル内で、 <code>rootdisk</code> が設定されていなくて、 <code>boot_device</code> キーワードが指定されている場合、インストールプログラムは <code>rootdisk</code> をブートデバイスに設定します。
3	プロファイル内で、 <code>rootdisk</code> が設定されていなくて、 <code>filesys cwtxdysz size /</code> エントリが指定されている場合、JumpStart は <code>rootdisk</code> をエントリで指定されたディスクに設定します。
4	プロファイル内で、 <code>rootdisk</code> が設定されていなくて、 <code>rootdisk.sn</code> エントリが指定されている場合、JumpStart はシステムのディスクで、(カーネルのプロープ順で) 指定したスライス上の既存のルートファイルシステムを検索します。ディスクが見つかった場合、JumpStart は見つかったディスクに <code>rootdisk</code> を設定します。
5	プロファイル内で、 <code>rootdisk</code> が設定されていなくて、 <code>partitioning existing</code> が指定されている場合、JumpStart はシステムのディスクで、(カーネルのプロープ順で) 既存のルートファイルシステムを検索します。ルートファイルシステムが見つからなかった場合、あるいは複数のルートファイルシステムが見つかった場合は、エラーが発生します。ルートファイルシステムが見つかった場合、JumpStart は見つかったディスクに <code>rootdisk</code> を設定します。
6	プロファイル内で <code>rootdisk</code> が設定されていない場合、JumpStart は、ルートファイルシステムがインストールされるディスクに <code>rootdisk</code> を設定します。

▼ プロファイルを作成する方法

1. 任意のテキストエディタを使用して、新しいテキストファイルを開いて内容を示す名前を指定するか、作成した **JumpStart** ディレクトリ内のサンプルプロファイルを開きます。

注 - プロファイルには、システムへの Solaris のインストール時にどのように使用するかを示す名前を指定してください (たとえば、`basic_install`、`eng_profile`、または `user_profile` など)。

2. プロファイルにプロファイルキーワードと値を追加します。

3. **JumpStart** ディレクトリにプロファイルを保存します。

root がプロファイルを所有していて、そのアクセス権が 644 に設定されていることを確認します。

4. (省略可能) プロファイルをテストします。

プロファイルのテストに関する情報については、196ページの「プロファイルのテスト」を参照してください。

サンプルプロファイル

次のサンプルプロファイルは、さまざまなプロファイルキーワードとプロファイル値を使用して、Solaris ソフトウェアをシステムにどのようにインストールするかを指定する方法を示しています。168ページの「プロファイルキーワードとプロファイル値の説明」には、プロファイルキーワードと値の説明を示してあります。

注 - 左の列に示された数字は挿入しないでください。これらの数字は、サンプルの説明に使用している番号です。

リモートファイルシステムのマウントとパッケージの追加および削除

#	profile keywords	profile values
1	install_type	initial_install
2	system_type	standalone
3	partitioning	default
	filesystem	any 60 swap # specify size of /swap
	filesystem	s_ref:/usr/share/man - /usr/share/man ro
	filesystem	s_ref:/usr/openwin/share/man - /usr/openwin/share/man ro,quota
4	cluster	SUNWCprog
5	package	SUNWman delete
	package	SUNWolman delete
	package	SUNWxwman delete
	package	SUNWoldem add
	package	SUNWxdem add
	package	SUNWoldim add
	package	SUNWxdim add

1. このプロファイルキーワードは、すべてのプロファイルに必要です。

2. このプロファイルキーワードは、システムをスタンドアロンシステムとしてインストールするように定義します。
3. ファイルシステムスライスは、インストールするソフトウェアによって決定します (default 値)。ただし、swap のサイズは 60M バイトに設定されて、すべてのディスク (any 値) にインストールされます。標準および OpenWindows のマニュアルページは、ネットワーク上のファイルサーバー s_ref からマウントされます。
4. 開発者システムサポートソフトウェアグループ (SUNWCprog) がシステムにインストールされます。
5. マニュアルページはリモートからマウントされるため、これらのパッケージはシステムにインストールされません。ただし、OPEN LOOK および X Window System のデモプログラムとイメージはシステムにインストールされます。

ファイルシステムのインストール場所の指定

#	profile keywords	profile values
#	-----	-----
	install_type	initial_install
	system_type	standalone
1	partitioning	explicit
	filesys	c0t0d0s0 auto /
	filesys	c0t3d0s1 32 swap
	filesys	any auto usr
2	cluster	SUNWCall

1. ファイルシステムスライスは、filesys キーワード (explicit 値) によって指定します。ルート (/) のサイズは選択したソフトウェア (auto 値) に基づき、c0t0d0s0 にインストールされます。swap のサイズは 32M バイトに設定されて、c0t3d0s1 にインストールされます。usr は選択したソフトウェアに基づき、インストールプログラムがそのインストール場所を決定します (any 値)。
2. 全体ディストリビューションソフトウェアグループ (SUNWCall) がシステムにインストールされます。

IA: fdisk キーワードの使用方法

```
# profile keywords      profile values
# -----
install_type           initial_install
system_type            standalone

1 fdisk                 c0t0d0 0x04 delete
2 fdisk                 c0t0d0 solaris maxfree
3 cluster               SUNWCall
4 cluster               SUNWCacc delete
```

1. タイプ DOSOS16 (04 16 進) の fdisk パーティションはすべて、c0t0d0 ディスクから削除されます。
2. Solaris fdisk パーティションが、c0t0d0 ディスク上の最大の連続空き領域に作成されます。
3. 全体ディストリビューションソフトウェアグループ (SUNWCall) がシステムにインストールされます。
4. システムアカウントユーティリティ (SUNWCacc) は、システムにインストールされません。

アップグレード用ディスク領域の再割り当て

```
# profile keywords      profile values
# -----
1 install_type          upgrade

2 root_device           c0t3d0s2

3 backup_media          remote_filesystem timber:/export/scratch
4 layout_constraint     c0t3d0s2 changeable 100
  layout_constraint     c0t3d0s4 changeable
  layout_constraint     c0t3d0s5 movable

5 package               SUNWbcp delete
6 package               SUNWolman add
  package               SUNWxwman add
  cluster               SUNWCumux add

7 locale                de
```

1. このプロファイルは、ディスク領域を再割り当てすることによってシステムをアップグレードします。この例では、システム上のファイルシステムのいくつかに十分なアップグレード用容量がないため、ディスク領域を再割り当てする必要があります。
2. `c0t3d0s2` のルートファイルシステムがアップグレードされます。
3. リモートシステム `timber` が、ディスク領域再割り当て中のデータのバックアップに使用されます。
4. `layout_constraint` キーワードは、自動配置がスライス 2 と 4 を変更できて (スライスを別の位置に移動して、そのサイズを変更できる)、アップグレード用ディスク領域の再割り当て時にスライス 5 を移動できる (スライスを別の場所に移動できるが、サイズはそのままになる) ように指定します。
5. バイナリ互換パッケージ (`SUNWbcp`) は、アップグレード後、システムにインストールされません。
6. このコードは、`OPEN LOOK` と `X Window System` のマニュアルページと汎用マルチプレクサソフトウェアがまだシステムにインストールされていない場合に、インストールされるようにするものです。(すでにシステム上にあるパッケージはすべて、自動的にアップグレードされます。)
7. ドイツ語ローカライズパッケージがシステムにインストールされます。

プロファイルのテスト

プロファイルの作成後、`pfinstall(1M)` コマンドを使用すれば、実際にプロファイルを使用してシステムをインストールまたはアップグレードする前に、プロファイルを検査できます。プロファイルのテストは、特にディスク容量を割り当て直すアップグレードプロファイルを作成するときに便利です。

`pfinstall` が生成するインストール出力を調べることによって、プロファイルが期待どおりのことを実行しようとしているかを簡単に調べることができます。たとえば、実際にシステムでアップグレードを行う前に、そのシステムが Solaris の新しいリリースにアップグレードするための十分なディスク容量を持っているかどうかをプロファイルで調べることができます。

プロファイルのテスト方法

pfinstall を使用すると、次の内容についてプロファイル进行测试できます。

- pfinstall を実行しているシステムのディスク構成
- ディスクの構造 (たとえば、ディスクのバイトまたはセクター、フラグ、スライスなど) を表すディスク構成ファイルを使用して、他のディスク構成に対して。ディスク構成ファイルの作成方法については、次の箇所を参照してください。
 - 213ページの「SPARC: ディスク構成ファイルの作成」
 - 215ページの「IA: ディスク構成ファイルの作成」

注 - ディスク構成ファイルを使用して、システムのアップグレードに使用するプロファイル进行测试することはできません。代わりに、システムの実際のディスク構成およびシステムに現在インストールされているソフトウェアに対して、プロファイル进行测试する必要があります。

プロファイルのテストの概要

特定の Solaris リリースでプロファイルを正常かつ正確にテストするには、同じリリースの Solaris 環境内にあるプロファイル进行测试する必要があります。たとえば、Solaris 8 初期インストールプロファイル进行测试する場合は、Solaris 8 を実行するシステムに対して pfinstall コマンドを実行する必要があります。

ただし、以前のバージョンの Solaris を実行するシステムで Solaris 8 アップグレードプロファイル进行测试する場合、または Solaris 8 初期インストールプロファイル进行测试するための Solaris 8 システムをまだインストールしていない場合は、次のように一時インストール環境を作成する必要があります。

- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) イメージからシステムをブートする
- システムを識別する質問に回答する
- Solaris 8 対話式インストールプログラムを Solaris 8 のインストール用プログラムとして選択する
- 表示された最初の画面を終了する
- シェルから pfinstall コマンドを実行する

pfinstall の構文

次に、プロファイルのテストに使用する pfinstall コマンドの構文を示します。

```
# /usr/sbin/install.d/pfinstall disk_configuration [-c path] profile
```

表 6-7 pfinstall コマンド引数の説明

引数	説明
<i>disk_configuration</i>	<p>-D または <code>-d disk_config_file</code> オプションを表します。これは、pfinstall に対して、現在のシステムのディスク構成を使用してプロファイル进行测试するか (-D)、またはディスク構成ファイル <i>disk_config_file</i> を使用してプロファイル进行测试するかを指示するものです。</p> <p><i>disk_config</i> が pfinstall の実行されているディレクトリにない場合は、パスを指定する必要があります。</p> <p>アップグレードプロファイル (<code>install_type upgrade</code>) で <code>-d disk_config_file</code> オプションを使用することはできません。常に、システムのディスク構成に対してアップグレードプロファイル进行测试する必要があります (つまり、-D オプションを使用する必要があります)。</p>
<code>-c path</code>	<p>Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) イメージへのパスです。このオプションは、たとえば、システムでボリュームマネージャを使用して Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC または Intel) を各自のプラットフォームにマウントする場合に使用します。</p> <p>注 - このオプションは、各自のプラットフォーム用の Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC または Intel) イメージから起動した場合には不要です。これは、この CD イメージが、起動プロセスの一部として /cdrom にマウントされているためです。</p>
<i>profile</i>	<p>テストするプロファイル名。<i>profile</i> が pfinstall が実行されているディレクトリにない場合は、パスを指定する必要があります。</p>

▼ プロファイルをテストする方法

1. プロファイルを作成したシステムと同じプラットフォームタイプ (**SPARC** または **IA**) のシステムであることを確認します。
アップグレードプロファイルをテストする場合、アップグレードしようとしているシステムを使用しなければなりません。
2. 次の表に基づいて、次に進む手順を決定します。

状態	手順
初期インストールプロファイルをテストする必要があり、Solaris 8 が動作しているシステムがある場合	そのシステムでスーパーユーザーになって、200ページの手順 9 に進みます。
アップグレードプロファイルをテストする必要があるか、初期インストールプロファイルをテストするための Solaris 8 が動作しているシステムがない場合	199ページの手順 3 に進みます。

3. **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)** または **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)** からシステムをブートします。このイメージは、システムのローカル **CD-ROM** またはインストールサーバーにあります。
システムのブートの詳細は、第 5 章を参照してください。

注 - アップグレードプロファイルをテストする場合は、アップグレードしようとしているシステムをブートします。

4. プロンプトが表示された場合は、システムを識別する質問に答えます。
5. インストールオプションで、「**Solaris 対話式インストールプログラム (Solaris Interactive Installation program)**」を選択します。
6. **Solaris 8** 対話式インストールプログラムの最初の画面で終了します。

Solaris 8 対話式インストールプログラムが終了すると、シェルプロンプトが表示されます。

7. 一時マウントポイントを作成します。

```
# mkdir /tmp/mnt
```

8. テストするプロファイルが入っているディレクトリをマウントします。

マウントするディレクトリ	コマンド
リモート NFS ファイルシステムをマウントする (ネットワーク上のシステムの場合)	<code>mount -F nfs server_name:path /tmp/mnt</code>
UFS フォーマットのフロッピーディスクをマウントする	<code>mount -F ufs /dev/diskette /tmp/mnt</code>
PCFS フォーマットのフロッピーディスクをマウントする	<code>mount -F pcfs /dev/diskette /tmp/mnt</code>

9. システムのメモリーサイズを指定してプロファイルをテストするには、**SYS_MEMSIZE** に使用するメモリーサイズを **M** バイトで設定します。

```
# SYS_MEMSIZE=memory_size  
# export SYS_MEMSIZE
```

10. 200ページの手順 8 でディレクトリを

- マウントした場合は、/tmp/mnt にディレクトリを変更します。

```
# cd /tmp/mnt
```

- マウントしなかった場合は、プロファイルのある場所にディレクトリを変更します。通常は、JumpStart ディレクトリです。


```
# cd jumpstart_dir_path
```



注意 -d オプションまたは -D オプションを指定しないと、pfinstall は指定したプロファイルを使用して、実際に Solaris ソフトウェアをシステムにインストールします。この結果、そのシステム上のデータは上書きされます。

11. pfinstall (1M) コマンドによってプロファイル进行测试します。

```
# /usr/sbin/install.d/pfinstall disk_configuration [-c path] profile
```

例-プロファイル进行测试する

次の例は、basic_prof プロファイルを、pfinstall を実行している Solaris 8 システム上のディスク構成に対してテストしています。basic_prof プロファイルは、/jumpstart ディレクトリにあります。ボリュームマネージャを使用しているので、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) イメージへのパスが指定されています。

```
# cd /jumpstart  
# /usr/sbin/install.d/pfinstall -D -c /cdrom/pathname basic_prof
```

次の例は、basic_prof プロファイルを、ディスク構成ファイル 535_test と 64M バイトのシステムメモリーに対してテストしています。この例は、/export/install ディレクトリに存在する Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) イメージを使用しています。また、pfinstall は、Solaris 8 システムで実行しています。

```
# SYS_MEMSIZE=64  
# export SYS_MEMSIZE  
# /usr/sbin/install.d/pfinstall -d 535_test -c /export/install basic_prof
```

rules ファイルの妥当性を検査する

rules ファイルとプロファイルは、check スクリプトを実行して、これらのファイルが正しく設定されていることを確認してからでないと使用できません。すべてのルールとプロファイルが有効な場合は、rules.ok ファイルが作成されます。このファイルは、カスタム JumpStart インストールソフトウェアがシステムをプロファイルと照合するために必要です。

表 6-8 に check スクリプトの動作を示します。

表 6-8 check スクリプトの流れ

手順	説明
1	rules ファイルの構文検査を行う。 check スクリプトは、ルールキーワードが正当かどうかと、各ルールに対して、 <i>begin</i> フィールド、 <i>class</i> フィールド、および <i>finish</i> フィールドが指定されているかどうかを確認する。(begin フィールドと finish フィールドは、ファイル名でなくマイナス記号 [-] のこともある。)
2	rules ファイルにエラーがなければ、ルールに指定された各プロファイルの構文検査が行われる。
3	エラーがなければ、check スクリプトは rules ファイルから rules.ok ファイルを作成する。コメントと空白行をすべて削除し、すべてのルールを保持し、終わりに次のコメント行を追加する。 # version=2 checksum=num

注 - rules.ok ファイルの所有者は root で、アクセス権は 644 です。

check の構文

次に、rules ファイルのテストに使用する check スクリプトの構文を示します。

```
$ ./check [-p path] [-r file_name]
```

表 6-9 check スクリプト引数の説明

引数	説明
<code>-p path</code>	<p>使用しているシステムの check スクリプトではなく、指定した Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) イメージの check スクリプトを使用することによって、rules ファイルの妥当性を検査します。<code>path</code> は、ローカルディスクまたはマウント済み Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) 上にある Solaris インストールイメージです。</p> <p>Solaris の旧バージョンが動作しているシステムでは、最新バージョンの check スクリプトを実行するために、このオプションを使用します。</p>
<code>-r file_name</code>	<p>名前が rules 以外の rules ファイル名を指定します。このオプションを使用すると、rules ファイルに組み込む前にルールの妥当性を検査できます。</p>

▼ rules ファイルの妥当性を検査する方法

1. **check** スクリプトが **JumpStart** ディレクトリにあることを確認します。

注 - check スクリプトは、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) の Solaris_8/Misc/jumpstart_sample ディレクトリにあります。

2. **JumpStart** ディレクトリへ移動します。
3. **check** スクリプトを実行して rules ファイルの妥当性を検査します。

```
$ ./check [-p path -r file_name]
```

check スクリプトを実行すると、rules ファイルの有効性と各プロファイルの有効性の検査結果を表示します。エラーが検出されなければ、check スクリプトは「The custom JumpStart configuration is ok」と表示します。

rules ファイルの妥当性検査を終えたら、第 7 章の任意のカスタム JumpStart 機能と、第 10 章のカスタム JumpStart インストールの実行方法について参照してください。

カスタム JumpStart オプション機能の使用

この章では、カスタム JumpStart インストールのオプション機能について説明します。

- 206ページの「begin スクリプトの作成」
- 207ページの「finish スクリプトの作成」
- 213ページの「SPARC: ディスク構成ファイルの作成」
- 215ページの「IA: ディスク構成ファイルの作成」
- 219ページの「サイト固有のインストールプログラムの使用」
- 220ページの「カスタム JumpStart の環境変数」

注 - この章の手順は、カスタム JumpStart ファイルを提供するために使用している SPARC サーバーと IA サーバーの両方で有効です (「プロファイルサーバー」と呼びます)。プロファイルサーバーは、異なるプラットフォームタイプのシステムにカスタム JumpStart ファイルを提供できます。たとえば、SPARC サーバーは、SPARC 搭載システムと IA 搭載システムの両方に、カスタム JumpStart ファイルを提供できます。

begin スクリプトの作成

begin スクリプトとは

「begin スクリプト」とは、ユーザーが定義する Bourne シェルスクリプトで、rules ファイル内で指定し、Solaris ソフトウェアがシステムにインストールされる前に作業を実行します。begin スクリプトは、カスタム JumpStart インストールで Solaris をインストールするときのみ使用できます。

begin スクリプトの使用目的

- 動的プロファイルを作成する
- アップグレード前にファイルのバックアップをとる

begin スクリプトに関する注意事項

- 初期インストールまたはアップグレードインストール時に、/a へのファイルシステムのマウントを妨げるような記述をスクリプトの中に指定しないように注意してください。Solaris インストールプログラムが /a にファイルシステムをマウントできない場合は、エラーが発生してインストールは失敗します。
- begin スクリプトの出力は、/var/sadm/begin.log に保存されます。
- begin スクリプトの所有者は root で、アクセス権は 644 にしてください。

begin スクリプトによる動的プロファイルの作成

「動的プロファイル」とは、カスタム JumpStart インストール時に begin スクリプトが動的に作成するプロファイルです。動的プロファイルは、特定のシステムを 1 つのプロファイルに一致させる rules ファイルを設定できないとき (rules ファイルが持つ柔軟性では十分ではない場合) に必要です。たとえば、異なるハードウェア構成要素を持つ同一システムモデル (たとえば、異なるフレームバッファを持つシステム) に対しては動的プロファイルを使用しなければならない場合があります。

動的プロファイルを使用するルールの設定手順は、次のとおりです。

- プロファイルの代わりに、プロファイルフィールドに等号(=)を指定します。

- インストールされるシステムに応じて、動的プロファイルを作成する **begin** スクリプトを **begin** フィールドに指定します。

システムが、プロファイルフィールドに等号 (=) があるルールと一致すると、**begin** スクリプトは、システムに Solaris ソフトウェアをインストールするのに使用する動的プロファイルを作成します。

毎回同じ動的プロファイルを作成する **begin** スクリプトの例を次に示します。もちろん、ルールの評価に応じて異なる動的プロファイルを生成する **begin** スクリプトを作成することもできます。

```
#!/bin/sh
echo "install_type      initial_install"    > ${SI_PROFILE}
echo "system_type      standalone"      >> ${SI_PROFILE}
echo "partitioning     default"         >> ${SI_PROFILE}
echo "cluster          SUNWCprog"       >> ${SI_PROFILE}
echo "package          SUNWman delete"  >> ${SI_PROFILE}
echo "package          SUNWolman delete" >> ${SI_PROFILE}
echo "package          SUNWxwman delete" >> ${SI_PROFILE}
```

上記のように **begin** スクリプトは、動的プロファイル名に **SI_PROFILE** 環境変数を使用する必要があります。

注 - **begin** スクリプトを使用して動的プロファイルを作成する場合は、スクリプトにエラーがないことを確認してください。動的プロファイルは、**begin** スクリプトが実行されてから作成されるため、**check** スクリプトでは妥当性は検査されません。

finish スクリプトの作成

finish スクリプトとは

「**finish** スクリプト」とは、ユーザーが定義する Bourne シェルスクリプトで、**rules** ファイル内で指定し、Solaris ソフトウェアがシステムにインストールされた後、システムがリブートする前に作業を実行します。**finish** スクリプトは、カスタム JumpStart インストールで Solaris をインストールするときのみ使用できます。

finish スクリプトの使用目的

- ファイルの追加
- パッケージまたはパッチの追加
- ルート環境のカスタマイズ
- システムのルートパスワードの設定

finish スクリプトに関する注意事項

- Solaris 8 インストールプログラムは、システムのファイルシステムを /a にマウントします。ファイルシステムは、システムがリブートするまで /a にマウントされています。したがって、/a にマウントされている新しくインストールされたファイルシステムの階層にファイルを追加、変更、または削除するように finish スクリプトを作成できます。
- finish スクリプトの出力は、/var/sadm/finish.log に保存されます。
- finish スクリプトの所有者は root で、アクセス権は 644 にしてください。

finish スクリプトによるファイルの追加

finish スクリプトにより、JumpStart ディレクトリにあるファイルをインストールされたシステムへ追加できます。JumpStart ディレクトリは、SI_CONFIG_DIR 変数によって指定されたディレクトリ (デフォルトでは /tmp/install_config に設定される) にマウントされるため、このようなスクリプトを作成できます。

注 - インストールされたシステムにすでに存在するファイルに、JumpStart ディレクトリからファイルをコピーして、ファイルを置換することもできます。

次の手順により、Solaris ソフトウェアがインストールされた後、システムにファイルを追加する finish スクリプトを作成できます。

▼ finish スクリプトでファイルを追加する方法

1. インストールされたシステムに追加したいすべてのファイルを **JumpStart** ディレクトリにコピーします。
2. 新しくインストールされたファイルシステムの階層にコピーしたいファイルの **finish** スクリプトごとに次の行を挿入します。


```
cp ${SI_CONFIG_DIR}/file_name /a/path_name
```

たとえば、自分のサイトのすべてのユーザーを対象に開発された特別なアプリケーション `site_prog` があると仮定します。`site_prog` のコピーを `JumpStart` ディレクトリにおいた場合、次の `finish` スクリプトは、カスタム `JumpStart` インストール時に、`JumpStart` ディレクトリからシステムの `/usr/bin` ディレクトリに `site_prog` をコピーします。

```
cp ${SI_CONFIG_DIR}/site_prog /a/usr/bin
```

finish スクリプトによるパッケージとパッチの追加

`finish` スクリプトを作成すると、`Solaris` をシステムにインストールした後に、パッケージやパッチを自動的に追加できます。これは時間を節約するだけでなく、どのパッケージやパッチがユーザーのサイトにあるさまざまなシステムにインストールされているかについての整合性を確保できます。

`pkgadd(1M)` コマンドや `patchadd(1M)` コマンドを `finish` スクリプトで使用するときは、`-R` オプションを使用して、`/a` をルートパスとして指定しなければなりません。

例 7-1 はパッケージを追加する `finish` スクリプトの例を示します。

例 7-1 `finish` スクリプトでパッケージを追加する

```
#!/bin/sh

BASE=/a
MNT=/a/mnt
ADMIN_FILE=/a/tmp/admin

mkdir ${MNT}
1 mount -f nfs sherlock:/export/package ${MNT}
2 cat >${ADMIN_FILE} <<DONT_ASK
mail=root
instance=overwrite
partial=nocheck
runlevel=nocheck
idepend=nocheck
```

(続く)

```
rdepend=nocheck
space=ask
setuid=nocheck
conflict=nocheck
action=nocheck
basedir=default
DONT_ASK
3 /usr/sbin/pkgadd -a ${ADMIN_FILE} -d ${MNT} -R ${BASE} SUNWxyz

umount ${MNT}
rmdir ${MNT}
```

1. インストールするパッケージを含むサーバー上にディレクトリをマウントします。
2. 一時的なパッケージ管理ファイル `admin` を作成し、パッケージのインストール時に `pkgadd(1M)` コマンドがチェックを行わない (および質問を表示しない) ようにします。これにより、パッケージ追加時に自動インストールを実行できます。
3. `-a` オプション (パッケージ管理ファイルを指定) と `-R` オプション (ルートパスを指定) を使用してパッケージを追加します。

注 - 以前は `finish` スクリプト環境では、`pkgadd` コマンドや `patchadd` コマンドとともに `chroot(1M)` コマンドが使用されていました。これは推奨する方法ではありませんが、一部のパッケージやパッチには、`-R` オプションが正しく動作しないものもあります。このような状況では、`chroot` コマンドを使用する前に、仮の `/etc/mnttab` ファイルを `/a` ルートパスに作成しなければなりません。

`/etc/mnttab` ダミーファイルを作成するには、次の行を `finish` スクリプトに追加します。

```
cp /etc/mnttab /a/etc/mnttab
```

finish スクリプトによるルート環境のカスタマイズ

`finish` スクリプトを使って、システムにインストールされたファイルをカスタマイズできます。たとえば、例 7-2 の `finish` スクリプトは、ルートディレクトリ内の

.cshrc ファイルに情報を追加することによって、ルート環境をカスタマイズします。

例 7-2 finish スクリプトによるルート環境のカスタマイズ

```
#!/bin/sh
#
# Customize root's environment
#
echo "***adding customizations in /.cshrc"
test -f a/.cshrc || {
cat >> a/.cshrc <<EOF
set history=100 savehist=200 filec ignoreeof prompt="\$user@`uname -n`> "
alias cp cp -i
alias mv mv -i
alias rm rm -i
alias ls ls -FC
alias h history
alias c clear
unset autologout
EOF
}
```

finish スクリプトによるシステムのルートパスワードの設定

Solaris ソフトウェアがシステムにインストールされると、そのシステムはリブートします。ブートプロセス終了前に、システムはルートパスワードを入力するように求めてきます。パスワードを入力するまで、システムはブート処理を終了できません。

例 7-3 に、auto_install_sample ディレクトリにルートパスワードを自動設定する set_root_pw という名前の finish スクリプトを示します。このスクリプトを使えば、ルートパスワードの入力を待たずに、システムの最初のブートを終了できます。

例 7-3 finish スクリプトによるシステムのルートパスワードの設定

```
#!/bin/sh
#
#      @(#)set_root_pw 1.4 93/12/23 SMI
#
# This is an example Bourne shell script to be run after installation.
# It sets the system's root password to the entry defined in PASSWD.
# The encrypted password is obtained from an existing root password entry
# in /etc/shadow from an installed machine.
```

(続く)

```

echo "setting password for root"

1 # set the root password
PASSWD=dKO5IBkSF42lw
2 #create a temporary input file
cp /a/etc/shadow /a/etc/shadow.orig

mv /a/etc/shadow /a/etc/shadow.orig
3 nawk -F: '{
    if ( $1 == "root" )
        printf"%s:%s:%s:%s:%s:%s:%s:%s:%s\n", $1,passwd,$3,$4,$5,$6,$7,$8,$9
    else
        printf"%s:%s:%s:%s:%s:%s:%s:%s:%s\n", $1,$2,$3,$4,$5,$6,$7,$8,$9
    }' passwd="$PASSWD" /a/etc/shadow.orig > /a/etc/shadow
4 #remove the temporary file
rm -f /a/etc/shadow.orig
5 # set the flag so sysidroot won't prompt for the root password
sed -e 's/0 # root/1 # root/' ${SI_SYS_STATE} > /tmp/state.$$
mv /tmp/state.$$ ${SI_SYS_STATE}

```

1. PASSWD 変数に、システムの /etc/shadow ファイルの既存のエントリから取得した暗号化されたルートパスワードを設定します。

2. /a/etc/shadow の一時入力ファイルを作成します。

3. \$PASSWD をパスワードフィールドとして使用して、新しくインストールしたシステム用の /etc/shadow ファイルにあるルートエントリを変更します。

4. 一時的な /a/etc/shadow ファイルを削除します。

5. 状態ファイルのエントリを 0 から 1 へ変更します。これによりユーザーはルートパスワードの入力を求められません。この状態ファイルには、SI_SYS_STATE 変数(現在の値は /a/etc/.sysIDtool.state)を使用してアクセスします。(この値を変更することによってスクリプトで問題が発生しないようにするには、このファイルを参照するのに必ず \$SI_SYS_STATE を使用してください。)ここで示す sed コマンドには、0 の後と 1 の後にタブ文字が入っています。

注 - finish スクリプトを使用してルートパスワードを設定した場合は、finish スクリプトの暗号化されたパスワードからルートパスワードを解読されないようにしてください。

SPARC: ディスク構成ファイルの作成

この節では、SPARC 搭載システム用の単一ディスク構成ファイルまたは複数ディスク構成ファイルを作成する方法について説明します。ディスク構成ファイルを使用すると、実際に Solaris ソフトウェアをインストールする前に、異なるディスク構成に対してプロファイルをテストできます。

▼ SPARC: ディスク構成ファイルを作成する方法

ディスク構成ファイルを作成すると、単一のシステムから `pfinstall(1M)` を使用して、異なるディスク構成に対してプロファイルをテストできます。単一ディスク構成ファイルまたは複数ディスク構成ファイルを作成するには、次の手順に従ってください。

1. テストするディスクを持つ **SPARC** 搭載システムを決定します。
2. スーパーユーザーになります。
3. 単一ディスク構成ファイルを作成するには、`prtvtoc(1M)` コマンドの出力をファイルに保存します。

```
# prtvtoc /dev/rdisk/device_name >disk_config
```

`/dev/rdisk/device_name` はシステムディスクのデバイス名です。`device_name` は `cwtxdys2` または `cxdys2` の形式でなければなりません。`disk_config` は、ディスク構成ファイル名です。

4. **Solaris** ソフトウェアを複数のディスクにインストールするテストを
 - 実行しない場合は、ここで作業は終了です。
 - 実行する場合は、各ディスク構成ファイルを結合し、その出力を新しいファイルに保存します。

```
# cat disk_file1 disk_file2 >multi_disk_config
```

新しいファイルは、複数ディスク構成ファイルになります。たとえば、次のように入力します。

```
# cat 104_disk2 104_disk3 104_disk5 >multi_disk_test
```

5. 前の手順で作成した複数のディスク構成ファイルにおいて、ディスクデバイス名のターゲット番号がそれぞれ

- 固有な場合は、ここで作業は終了です。
- 固有でない場合は、テキストエディタでファイルを開き、固有にします。
たとえば、次に示すように、異なるディスクデバイス名について同じターゲット番号 (t0) がファイルに含まれているとします。

```
* /dev/rdisk/c0t0d0s2 partition map  
...  
* /dev/rdisk/c0t0d0s2 partition map
```

この場合は次のように、2番目のターゲット番号を t2 に設定します。

```
* /dev/rdisk/c0t0d0s2 partition map  
...  
* /dev/rdisk/c0t2d0s2 partition map
```

SPARC: 例

次の例では、104M バイトのディスクを持つ SPARC 搭載システムで、単一ディスク構成ファイル 104_test を作成します。

prtvtoc コマンドの出力を 104_test という単一ディスク構成ファイルに保存します。

```
# prtvtoc /dev/rdisk/c0t3d0s2 >104_test
```

104_test ファイルは、次のようになります。

```

* /dev/rdisk/c0t3d0s2 partition map
*
* Dimensions:
*   512 bytes/sector
*   72 sectors/track
*   14 tracks/cylinder
*   1008 sectors/cylinder
*   2038 cylinders*   2036 accessible cylinders
* Flags:
*   1: unmountable
*   10: read-only
*
*
*
* Partition  Tag  Flags      First      Sector      Last
* Partition  Tag  Flags      Sector      Count      Sector  Mount Directory
*   1         2    00           0      164304     164303    /
*   2         5    00           0     2052288     2052287
*   3         0    00     164304     823536     987839    /disk2/b298
*   5         0    00     987840     614880     1602719   /install/298/sparc/work
*   7         0    00     1602720     449568     2052287   /space

```

これで SPARC システム用のディスク構成ファイルの作成が終了しました。ディスク構成ファイルを使用してプロファイル进行测试する詳細は、196ページの「プロファイルのテスト」を参照してください。

IA: ディスク構成ファイルの作成

この節では、Intel 32 ビットプロセッサアーキテクチャ (IA) 搭載システム用の単一ディスク構成ファイルまたは複数ディスク構成ファイルを作成する方法について説明します。ディスク構成ファイルを使用すると、実際に Solaris ソフトウェアをインストールする前に、異なるディスク構成に対してプロファイル进行测试できます。

▼ IA: ディスク構成ファイルを作成する方法

ディスク構成ファイルを作成すると、単一のシステムから `pfinstall(1M)` を使用して、異なるディスク構成に対してプロファイル进行测试できます。単一ディスク構成ファイルまたは複数ディスク構成ファイルを作成するには、次の手順に従ってください。

1. テストするディスクを持つ IA 搭載システムを決定します。
2. スーパーユーザーになります。

3. 単一ディスク構成ファイルを作成するには、`fdisk(1M)` コマンドの出力をファイルに保存します。

```
# fdisk -R -W disk_config /dev/rdisk/device_name
```

`disk_config` は、ディスク構成ファイル名です。`/dev/rdisk/device_name` は、ディスク全体の `fdisk` レイアウトのデバイス名です。`device_name` は `cwtxdyp0` または `cxdyp0` 形式でなければなりません。

4. `prtvtoc(1M)` コマンドの出力をディスク構成ファイルに追加します。

```
# prtvtoc /dev/rdisk/device_name >>disk_config
```

`/dev/rdisk/device_name` は、システムディスクのデバイス名です。`device_name` は `cwtxdys2` または `cxdys2` 形式でなければなりません。`disk_config` は、ディスク構成ファイル名です。

5. 複数のディスクで **Solaris** ソフトウェアのインストールテストを

- 実行しない場合は、作業はここで終了です。
- 実行する場合は、各ディスク構成ファイルを結合し、その出力を新しいファイルに保存します。

```
# cat disk_file1 disk_file2 >multi_disk_config
```

新しいファイルは、複数ディスク構成ファイルになります。たとえば、次のように入力します。

```
# cat 104_disk2 104_disk3 104_disk5 >multi_disk_test
```

6. 前の手順で作成した複数のディスク構成ファイルにおいて、ディスクデバイス名のターゲット番号がそれぞれ

- 固有な場合は、ここで作業は終了です。
- 固有でない場合は、テキストエディタでファイルを開き、固有にします。たとえば、次に示すように、異なるディスクデバイス名について同じターゲット番号 (`t0`) がファイルに含まれているとします。

```
* /dev/rdisk/c0t0d0s2 partition map  
...
```


続き

```
* /dev/rdisk/c0t0d0s2 partition map
```

この場合は次のように、2番目のターゲット番号をt2に設定します。

```
* /dev/rdisk/c0t0d0s2 partition map
...
* /dev/rdisk/c0t2d0s2 partition map
```

IA: 例

次の例では、500M バイトのディスクを持つ IA 搭載システムで、単一ディスク構成ファイル 500_test を作成します。

最初に、fdisk コマンドの出力を 500_test という名前のファイルに保存します。

```
# fdisk -R -W 500_test /dev/rdisk/c0t0d0p0
```

500_test ファイルは、次のようになります。

```
* /dev/rdisk/c0t0d0p0 default fdisk table
* Dimensions:
*   512 bytes/sector
*   94 sectors/track
*   15 tracks/cylinder
* 1455 cylinders
*
* HBA Dimensions:
*   512 bytes/sector
*   94 sectors/track
*   15 tracks/cylinder
* 1455 cylinders
*
* systid:
* 1:  DOSOS12
* 2:  PCIXOS
* 4:  DOSOS16
* 5:  EXTDOS
* 6:  DOSBIG
```

(続く)

続き

```
* 86:  DOSDATA
* 98:  OTHEROS
* 99:  UNIXOS
* 130: SUNIXOS
*
* Id  Act  Bhead Bsect   Bcyl  Ehead  Esect  Ecyl  Rsect  Numsect
 130 128  44    3     0    46    30    1001 1410  2050140
```

次に、prtvtoc コマンドの出力を 500_test ファイルに追加します。

```
# prtvtoc /dev/rdisk/c0t0d0s2 >>500_test
```

これで 500_test ファイルは、完全なディスク構成ファイルになりました。

```
* /dev/rdisk/c0t0d0p0 default fdisk table
* Dimensions:
*   512 bytes/sector
*   94 sectors/track
*   15 tracks/cylinder
*   1455 cylinders
*
* HBA Dimensions:
*   512 bytes/sector
*   94 sectors/track
*   15 tracks/cylinder
*   1455 cylinders
*
* systid:
* 1:  DOSOS12
* 2:  PCIXOS
* 4:  DOSOS16
* 5:  EXTDOS
* 6:  DOSBIG
* 86: DOSDATA
* 98: OTHEROS
* 99: UNIXOS
* 130: SUNIXOS
*
* Id  Act  Bhead Bsect   Bcyl  Ehead  Esec  Ecyl  Rsect  Numsect
 130 128  44    3     0    46    30    1001 1410  2050140
* /dev/rdisk/c0t0d0s2 partition map
*
* Dimensions:
*   512 bytes/sector
*   94 sectors/track
*   15 tracks/cylinder
```

(続く)

```

*      1110 sectors/cylinder
*      1454 cylinders
*      1452 accessible cylinders
*
* Flags:
*      1: unmountable
*     10: read-only
*
*      First      Sector      Last
* Partition Tag  Flags  Sector      Count      Sector  Mount Directory
*      2      5    01    1410    2045910    2047319
*      7      6    00    4230    2043090    2047319  /space
*      8      1    01         0      1410      1409
*      9      9    01    1410      2820    422987

```

これで IA システム用のディスク構成ファイルの作成が終了しました。ディスク構成ファイルを使用してプロファイル进行测试する詳細は、196ページの「プロファイルのテスト」を参照してください。

サイト固有のインストールプログラムの使用

`begin` スクリプトと `finish` スクリプトを使用すると、独自のインストールプログラムにより Solaris ソフトウェアをインストールできます。

プロファイルフィールドにマイナス記号 (-) が指定されているときには、`begin` スクリプトと `finish` スクリプトが、プロファイルや Solaris 8 対話式インストールプログラムの代わりに、システムのインストール方法を制御します。

たとえば次のルールに一致した場合は、`begin` スクリプト `x_install.beg` と `finish` スクリプト `x_install.fin` が、`sherlock` という名前のシステムに Solaris ソフトウェアをインストールします。

```
hostname sherlock x_install.beg - x_install.fin
```

カスタム JumpStart の環境変数

begin および finish スクリプトには、いくつかの便利な環境変数を使用できます。たとえば、begin スクリプトは、ディスクサイズ (SI_DISKSIZE) を抽出して、実際のディスクサイズに基づいてシステムに特定のパッケージをインストールするか、またはインストールしないでおくことができます。

システムについて収集された情報は、これらの環境変数に格納されます。これらの変数は、通常、rules ファイルに使用するルールキーワードと値によって設定するかどうかが決まります。

たとえば、システムにすでにインストールされているオペレーティングシステムについての情報は、installed キーワードを使用した後でのみ (SI_INSTALLED で) 入手できます。

表 7-1 は、これらの変数とその値を説明しています。

表 7-1 インストール環境変数

環境変数	説明
SI_ARCH	インストールクライアントのハードウェアアーキテクチャー。この変数は、rules ファイルで arch キーワードを使用する場合に設定します。
SI_BEGIN	begin スクリプトを使用している場合は、その名前
SI_CLASS	インストールクライアントをインストールするために使用されるプロファイルの名前
SI_DISKLIST	コマンドで区切られた、インストールクライアント上のディスク名のリスト。この変数は、rules ファイルで disksize キーワードを使用して照合する場合に設定します。SI_DISKLIST および SI_NUMDISKS 変数は、rootdisk (191ページの「システムのルートディスクを決定する方法」を参照) に使用する物理ディスクを判断するために使用します。
SI_DISKSIZE	コマンドで区切られた、インストールクライアント上のディスクサイズのリスト。この変数は、rules ファイルで disksize キーワードを使用して照合する場合に設定します。

表 7-1 インストール環境変数 続く

環境変数	説明
SI_DOMAINNAME	ドメイン名。この変数は、rules ファイルで domainname キーワードを使用して照合する場合に設定します。
SI_FINISH	finish スクリプトを使用する場合は、その名前
SI_HOSTADDRESS	インストールクライアントの IP アドレス
SI_HOSTNAME	インストールクライアントのホスト名。この変数は、rules ファイルで hostname キーワードを使用して照合する場合に設定します。
SI_INSTALLED	特定のオペレーティングシステムが入っているディスクのデバイス名 (Solaris、SunOS、または System V)。この変数は、rules ファイルで installed キーワードを使用して照合する場合に設定します。SI_INST_OS と SI_INST_VER は、SI_INSTALLED の値を決定するために使用します。
SI_INST_OS	オペレーティングシステムの名前。SI_INST_OS と SI_INST_VER は、SI_INSTALLED の値を決定するために使用します。
SI_INST_VER	オペレーティングシステムのバージョン。SI_INST_OS と SI_INST_VER は、SI_INSTALLED の値を決定するために使用します。
SI_KARCH	インストールクライアントのカーネルアーキテクチャ。この変数は、rules ファイルで karch キーワードを使用して照合する場合に設定します。
SI_MEMSIZE	インストールクライアントの物理メモリーの量。この変数は、rules ファイルで memsize キーワードを使用して照合する場合に設定します。
SI_MODEL	インストールクライアントのモデル名。この変数は、rules ファイルで model キーワードを使用して照合する場合に設定します。
SI_NETWORK	インストールクライアントのネットワーク番号。この変数は、rules ファイルで network キーワードを使用して照合する場合に設定します。

表 7-1 インストール環境変数 続く

環境変数	説明
SI_NUMDISKS	インストールクライアントのディスク数。この変数は、rules ファイルで <code>disksize</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。SI_NUMDISKS および SI_DISKLIST 変数は、rootdisk に使用する物理ディスクを決定するために使用します (191ページの「システムのルートディスクを決定する方法」)。
SI_OSNAME	Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) イメージのオペレーティングシステムのリリース。この変数は、たとえば、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) のオペレーティングシステムのバージョンに基づいてシステムに Solaris をインストールする場合に使用できます。
SI_ROOTDISK	論理名 rootdisk によって表されるディスクのデバイス名。この変数は、rules ファイルで <code>disksize</code> または <code>installed</code> キーワードを rootdisk に設定した場合に設定します。
SI_ROOTDISKSIZE	論理名 rootdisk によって表されるディスクのサイズ。この変数は、rules ファイルで <code>disksize</code> または <code>installed</code> キーワードを rootdisk に設定した場合に設定します。
SI_TOTALDISK	インストールクライアント上のディスク領域の合計量。この変数は、rules ファイルで <code>totaldisk</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。

カスタムルールおよびプローブキーワードの作成方法

この章では、独自のカスタムルールとプローブキーワードを作成するための情報と手順を示します。

- 223ページの「プローブキーワード」
- 226ページの「custom_probes ファイルの作成」
- 230ページの「custom_probes ファイルの妥当性検査」

注 - 製品名は Solaris 8 ですが、コードと、パス名またはパッケージのパス名は、Solaris_2.8 または SunOS_5.8 と示される場合があります。必ず記述どおりのコードまたはパスを使用してください。

プローブキーワード

プローブキーワードとは

プローブキーワードを理解するには、まずルールキーワードが何であるかを思い出してください。これは、ホスト名 (hostname) やメモリーサイズ (memsize) などの一般的なシステム属性を記述する事前定義された字句単位または語です。ルールキーワードとそれに関連する値を使用すると、プロファイルと同じ属性を持つシステムを照合できます。プロファイルには、グループ内の各システムに Solaris ソフトウェアをどのようにインストールするかが定義されています。

カスタム JumpStart の環境変数は、begin および finish スクリプトで使用しますが、必要に応じて設定します。たとえば、すでにシステムにインストールされているオペレーティングシステムに関する情報は、installed ルールキーワードを使用した場合にのみ (SI_INSTALLED で) 入手できます。

ただし場合によっては、システムの照合とプロファイルの実行以外の目的で、これと同じ情報を begin および finish スクリプトで抽出する必要があります。プローブキーワードは、この解決方法となります。これらのキーワードを使用すると、照合条件を設定してプロファイルを実行しなくても、同じ属性情報を抽出できます。

プローブキーワードと値

表 8-1 は、各ルールキーワードと対応するプローブキーワードを説明しています。

注 - プrobeキーワードは、rules ファイルの最初、またはその近くに指定してください。

表 8-1 プrobeキーワードの説明

ルール キーワード	対応するブ ローブ キーワード	プローブキーワードの説明
any	なし	
arch	arch	カーネルアーキテクチャー (i386 または SPARC) を判断して SI_ARCH を設定します。
disksize	disks	システムのディスクサイズ (MB) をカーネルプローブ順序 (c0t3d0s0、c0t3d0s1、c0t4d0s0) で返し、SI_DISKLIST、SI_DISKSIZE、SI_NUMDISKS、および SI_TOTALDISK を設定します。
domainname	domainname	システムの NIS または NIS+ ドメイン名、あるいは (もしなければ) 空白を返して、SI_DOMAINNAME を設定します (このキーワードは、実際には domainname (1M) の出力を返します)。
hostaddress	hostaddress	システムの IP アドレス (lo0 ではない ifconfig (1M) -a の出力にリストされた最初のアドレス) を返して、SI_HOSTADDRESS を設定します。
hostname	hostname	システムのホスト名 (uname (1) -n からの出力) を返して、SI_HOSTNAME を設定します。

表 8-1 プローブキーワードの説明 続く

ルール キーワード	対応するブ ローブ キーワード	プローブキーワードの説明
installed	installed	システムにインストールされた Solaris オペレーティング環境のバージョン名、Solaris_2.x または Solaris_x を返して、SI_ROOTDISK と SI_INSTALLED を設定します。 JumpStart で Solaris リリースが検出されたが、バージョンを判別できない場合、返されるバージョンは SystemV になります。
karch	karch	システムのプラットフォームグループ (たとえば、i86pc、sun4m、および sun4u) を返して、SI_KARCH を設定します。付録 A には、プラットフォーム名のリストを記載してあります。
memsize	memsize	システム上の物理メモリーのサイズ (MB) を返して、SI_MEMSIZE を設定します。
model	model	システムのプラットフォーム名を返して、SI_MODEL を設定します。付録 A に、プラットフォーム名のリストを記載してあります。
network	network	システムのネットワーク番号を返します。この番号は、JumpStart でシステムの IP アドレスとサブネットマスク (lo0 ではない ifconfig(1M) -a の出力にリストされた最初のアドレスから抽出されたもの) の論理積をとって判断されます。SI_NETWORK も設定します。
osname	osname	CD で検出された Solaris オペレーティング環境のバージョンおよびオペレーティングシステム名、Solaris_2.x または Solaris_x を返して、SI_OSNAME を設定します。 JumpStart で Solaris リリースが検出されたが、バージョンを判別できない場合、返されるバージョンは SystemV になります。
	rootdisk	システムのルートディスクの名前とサイズ (MB) を返して、SI_ROOTDISK を設定します。
totaldisk	totaldisk	システム上のディスク領域の合計 (MB) を返して、SI_TOTALDISK を返します。ディスク領域の合計には、システムに接続された操作可能なディスクすべてが含まれます。

カスタムキーワード

カスタムキーワードとは

表 6-3 と表 8-1 で説明したルールおよびプローブキーワードでは不十分な場合は、`custom_probes` ファイルを作成して、独自のカスタムルールまたはプローブキーワードを定義できます。

`custom_probes` ファイルの作成

`custom_probes` ファイルとは

`custom_probes` ファイルは、`rules` ファイルと同じ `JumpStart` ディレクトリになければなりません。このファイルは、次の 2 つのタイプの関数を含む Bourne シェルスクリプトです。

表 8-2 `custom_probes` に定義する関数のタイプ

関数のタイプ	説明
プローブ	必要な情報を収集するか、または実際の作業を実行して、定義された対応する <code>SI_</code> 環境変数を設定します。プローブ関数はプローブキーワードになります。
比較	対応するプローブ関数を呼び出して、プローブ関数の出力を比較し、キーワードが一致する場合は 0、キーワードが一致しない場合は 1 を返します。比較関数はルールキーワードになります。

`custom_probes` ファイルの構文

`custom_probes` ファイルには、任意の有効な Bourne シェルコマンド、変数、またはアルゴリズムを含めることができます。

注・`custom_probes` ファイルで単一の引数を必要とするプローブおよび比較関数を定義できます。`rules` ファイルで、結果的に対応するカスタムプローブキーワードを使用する場合、このキーワードの後に続く引数が (\$1 として) 解釈されます。

`rules` ファイルで、結果的に対応するカスタムルールキーワードを使用する場合、引数はこのキーワードの後から解釈され、次の `&&` または `begin` スクリプトのどちらか最初にきた方の前で解釈が終了します。

`custom_probes` ファイルは、次のとおりでなければなりません。

- `custom_probes` という名前を使用する
- `root` が所有する
- 実行可能である (アクセス権を 755 に設定する)
- 少なくとも 1 つのプローブ関数と対応する比較関数を含む

より明確で効果的な構成にするために、最初にすべてのプローブ関数をファイルの一番上に定義してから、比較関数を続けて定義してください。

custom_probes の関数名の構文

プローブ関数名は、`probe_` で始める必要があります。比較関数名は、`cmp_` で始める必要があります。

`probe_` から始まる関数は、新しいプローブキーワードを定義します (たとえば関数 `probe_tcx` は、新しいプローブキーワード `tcx` を定義します)。`cmp_` で始まる関数は、新しいルールキーワードを定義します (たとえば `cmp_tcx` は、新しいルールキーワード `tcx` を定義します)。

custom_probes ファイルの例

この `custom_probes` ファイルには、TCX グラフィックカードがあるかどうかをテストするプローブおよび比較関数が含まれます。

注 - プローブおよび比較関数の追加例は、次の場所にあります。

- Solaris がインストールされたシステムの /usr/sbin/install.d/chkprobe
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) 上の /Solaris_8/Tools/Boot/usr/sbin/install.d/chkprobe

```
#!/bin/sh
#
# custom_probe script to test for the presence of a TCX graphics card.
#
#
# PROBE FUNCTIONS
#
probe_tcx() {
    SI_TCX=`modinfo | grep tcx | nawk '{print $6}'`
    export SI_TCX
}

#
# COMPARISON FUNCTIONS
#
cmp_tcx() {
    probe_tcx

    if [ "X${SI_TCX}" = "X{1}" ]; then
        return 0
    else
        return 1
    fi
}
```

rules ファイルで使用されるカスタムプローブキーワードの例

この例の rules ファイルは、以前の例 (tcx) で定義されたプローブキーワードの使用法を示しています。TCX グラフィックスカードがシステムにインストールされていて検出されると、profile_tcx が実行されます。そうでない場合は、profile が実行されます。

注 - プローブキーワードは、rules ファイルの最初またはその近くに指定して、プローブキーワードに依存する可能性がある他のルールキーワードより前に読み取られて実行されるようにしてください。

```
probe tcx
tcx    tcx    -    profile_tcx    -
any    any    -    profile        -
```

▼ custom_probes ファイルを作成する方法

1. 選択したテキストエディタを使用して、**Bourne** シェルスクリプトのテキストファイル `custom_probes` を作成します。
2. `custom_probes` テキストファイルで、必要なプローブ関数と比較関数を定義します。

注 - `custom_probes` ファイルには、引数を必要とするプローブおよび比較関数を定義できます。rules ファイルで、結果的に対応するカスタムプローブキーワードを使用する場合、このキーワードの後に続く引数は順番に (`$1`、`$2` などとして) 解釈されます。

rules ファイルで、結果的に対応するカスタムルールキーワードを使用する場合、引数はこのキーワードの後から解釈され、次の `&&` または `begin` スクリプトのどちらか最初に来た方の前で解釈が終了します。

3. `custom_probes` ファイルを **JumpStart** ディレクトリに保存します (rules ファイルと同じ)。

`root` が rules ファイルを所有し、そのアクセス権が 644 に設定されていることを確認します。

custom_probes ファイルの妥当性検査

プロファイル、rules、および custom_probes ファイルを使用するには、check スクリプトを実行して、これらのファイルの設定が正しいかどうかを検査する必要があります。すべてのプロファイル、ルール、およびプローブ関数と比較関数が正しく設定されている場合は、rules.ok ファイルと custom_probes.ok ファイルが作成されます。表 8-3 は、check スクリプトの実行内容を説明しています。

表 8-3 check を使用した場合の動作

段階	説明
1	check は、custom_probes ファイルを検索します。
2	ファイルが存在する場合、check は、custom_probes ファイルから custom_probes.ok ファイルを作成して、すべてのコメントと空白行を削除し、すべての Bourne シェルコマンド、変数、およびアルゴリズムを保存して、次のコメント行を最後に追加します。 # version=2 checksum=num

注 - root が custom_probes.ok ファイルを所有し、そのアクセス権が 644 に設定されていることを確認してください。

check の構文

次に、custom_probes ファイルの検査に使用する check スクリプトの構文を示します。

```
$ ./check [-p path -r file_name]
```

表 8-4 check スクリプトの引数の説明

引数	説明
<code>-p path</code>	<p>使用しているシステムの check スクリプトではなく、プラットフォームの Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージの check スクリプトを使用して、<code>custom_probes</code> ファイルを妥当性検査します。</p> <p>システムが以前のバージョンの Solaris を実行している場合、このオプションを使用して、一番新しい check バージョンを実行します。</p>
<code>-r file_name</code>	<p><code>custom_probes</code> 以外のファイル名を指定します。このオプションを使用すると、一連の関数の妥当性を検査してから、<code>custom_probes</code> ファイルに統合できます。</p>

▼ custom_probes ファイルを妥当性検査する方法

1. **check** スクリプトが **JumpStart** ディレクトリにあることを確認します。

注 - check スクリプトは、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) および Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) の `Solaris_8/Misc/jumpstart_sample` ディレクトリにあります。

2. **JumpStart** ディレクトリに移動します。
3. **check** スクリプトを実行して、`rules` および `custom_probes` ファイルの妥当性を検査します。

```
$ ./check [-p path -r file_name]
```

check スクリプトを実行すると、`rules` および `custom_probes` ファイルと各プロファイルの妥当性が表示されます。エラーが検出されない場合は、「The custom JumpStart configuration is ok」と表示されて、JumpStart ディレクトリに `rules.ok` および `custom_probes.ok` ファイルが作成されます。

4. `custom_probes.ok` ファイルが
 - 実行可能な場合は、ここで作業は終了です。

- 実行可能でない場合は、次のコマンドを入力します。

```
chmod +x custom_probes
```


ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備

Solaris ソフトウェアをシステムにインストールする方法としては、システムの CD-ROM ドライブを使用する方法が一般的です。しかしシステムがネットワーク上にある場合は、ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをシステムにインストールできます。

ネットワークインストールを使用すれば、Solaris 8 CD イメージにアクセスできるシステム (インストールサーバーと呼びます) から、ネットワーク上の他のシステムへ、Solaris ソフトウェアをインストールできます。Solaris 8 CD イメージは、インストールサーバーのハードディスクにコピーすることができます。

この章の内容は、次のとおりです。

- 234ページの「作業マップ: ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備」
- 235ページの「ネットワークインストールに必要なサーバー」
- 237ページの「ネットワークインストールコマンド」
- 239ページの「インストールサーバーとブートサーバーの作成」
- 248ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」

注 - 製品名は Solaris 8 ですが、コードと、パス名またはパッケージのパス名は、Solaris_2.8 または SunOS_5.8 と示される場合があります。必ず記述どおりのコードまたはパスを使用してください。

作業マップ: ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備

表 9-1 作業マップ: ネットワーク上で Solaris をインストールする準備

作業	説明	参照先
<p>インストールサーバーを作成する</p>	<p>Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を (<code>setup_install_server(1M)</code> コマンドを使用して) サーバーのハードディスクにコピーしてから、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) を (<code>add_to_install_server(1M)</code> コマンドを使用して) サーバーのハードディスクにコピーすると、インストールサーバーを作成できます。</p> <p>必要であれば、<code>modify_install_server(1M)</code> コマンドを使用して、Solaris Web Start ユーザーインタフェースソフトウェアをネットインストールイメージに追加することもできます。</p>	<p>239ページの「インストールサーバーを作成する方法」</p>
<p>ブートサーバーを作成する</p>	<p>インストールサーバーと異なるサブネット上にあるシステムをネットワーク上でインストールする場合は、システムをブートするためのブートサーバーをサブネットに作成しなければなりません。ブートサーバーを作成するには、<code>setup_install_server(1M) -b</code> コマンドと <code>add_to_install_server(1M)</code> および <code>modify_install_server(1M)</code> コマンドを使用します。</p>	<p>244ページの「ブートサーバーをサブネット上で作成する方法」</p>

表 9-1 作業マップ: ネットワーク上で Solaris をインストールする準備 続く

作業	説明	参照先
<p>ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定</p>	<p><code>add_install_client(1M)</code> コマンドは、コマンド行インタフェースで、システムをネットワーク上でインストールできるように、システムについてのネットワークインストール情報をインストールサーバーかブートサーバーの <code>/etc</code> 内のファイルに追加できます。</p>	<p>249ページの 「<code>add_install_client</code> を使用して、ネットワーク上でインストールするためにシステムを設定する方法」</p>

ネットワークインストールに必要なサーバー

ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールするシステムには、次のものがが必要です。

- インストールサーバー – インストールのためにネットワーク上のシステムに Solaris 8 CD イメージを提供する、ネットワークに接続されたシステム。インストールサーバーを作成するには、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD、および Solaris 8 LANGUAGES CD のイメージをサーバーのハードディスクにコピーします。

CD のイメージをサーバーのハードディスクにコピーすることによって、1 台のインストールサーバーで、複数のリリースの Solaris 8 CD イメージ (異なるプラットフォームの Solaris 8 CD イメージも含む) を提供できます。

たとえば、SPARC インストールサーバーは次のものを提供できます。

- Solaris 7 CD イメージ
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) イメージ
- Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) イメージ
- Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) イメージ

同様に、次のものも提供できます。

- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) イメージ
- Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) イメージ

- Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) イメージ

- ネームサーバー – ネットワーク上のユーザーやその他のシステムに関する情報が収められている分散型ネットワークデータベース (NIS や NIS+ など) を管理するシステム

注 - インストールサーバーとネームサーバーは、同じシステムであっても別のシステムであってもかまいません。

- ブートサーバー – ネットワーク上でインストールされるシステムをブートするためのシステム。ブートサーバーとインストールサーバーは、通常は同じシステムです。ただし、インストールされるシステムがインストールサーバーとは「異なる」サブネット上にある場合、そのサブネットではブートサーバーが必要です。

1 台のブートサーバーで、複数のリリースの Solaris ブートソフトウェア (異なるプラットフォームの Solaris 8 ブートソフトウェアも含む) を提供できます。たとえば、SPARC ブートサーバーは、SPARC システムに Solaris 7 と Solaris 8 のブートソフトウェアを提供できますが、同時に IA システムに Solaris 8 のブートソフトウェアを提供することもできます。

- OS サーバー – サービスやファイルシステムなどからなる Solaris オペレーティング環境ソフトウェアを提供するシステム

OS サーバーは、それぞれが別々のサブネットとして機能する複数の LAN インタフェースを提供することもできます。

図 9-1 に、ネットワークインストールに必要なサーバーを示します。

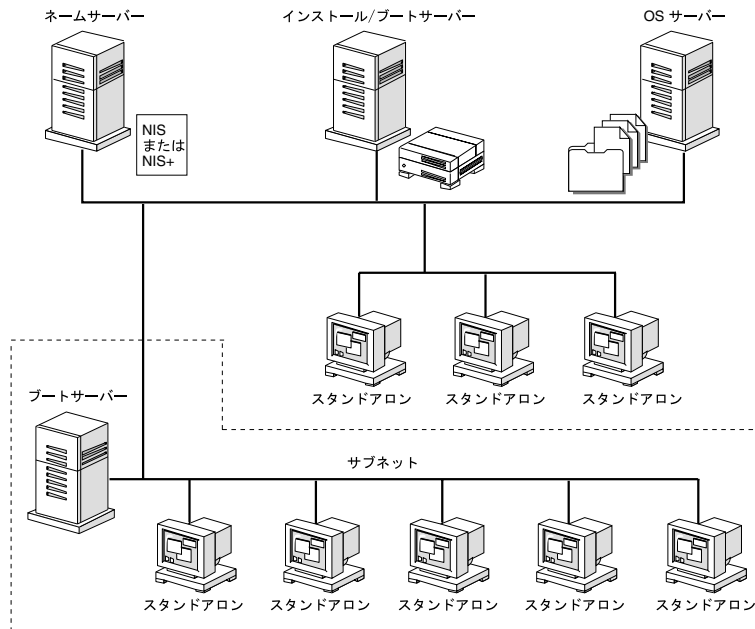


図 9-1 ネットワークインストールサーバー

ネットワークインストールコマンド

ネットワークインストール用の設定を行うときに使用できるコマンドを表 9-2 に示します。

表 9-2 ネットワークインストールコマンド

コマンド	プラットフォーム	説明
<code>add_install_client</code>	SPARC/ IA	システムがネットワーク上でインストールできるように、システムについてのネットワークインストール情報をインストールサーバーまたはブートサーバーの <code>/etc</code> ファイルに追加するコマンド
<code>setup_install_server</code>	SPARC/ IA	Solaris 8 CD をインストールサーバーのローカルディスクにコピーするか、ブートソフトウェアをブートサーバーにコピーするスクリプト。詳細は、 <code>setup_install_server(1M)</code> のマニュアルページを参照

表 9-2 ネットワークインストールコマンド 続く

コマンド	プラットフォーム	説明
<code>add_to_install_server</code>	SPARC/ IA	Solaris 8 SOFTWARE CD および Solaris 8 LANGUAGES CD 上のプロダクトツリー内の追加パッケージを、既存のインストールサーバー上のローカルディスクにコピーするスクリプト。詳細は、 <code>add_to_install_server(1M)</code> のマニュアルページを参照
<code>modify_install_server</code>	SPARC/ IA	Solaris Web Start ユーザーインタフェースソフトウェアを、既存のインストールサーバー上の Solaris 8 SOFTWARE CD と Solaris 8 LANGUAGES CD イメージに追加して、ユーザーが Solaris Web Start によってシステムをブートし、Solaris 8 ソフトウェアをネットワークからインストールできるようにするスクリプト。詳細は、 <code>modify_install_server(1M)</code> のマニュアルページを参照
<code>mount</code>	SPARC/ IA	Solaris CD ファイルシステムを含む、マウントされたファイルシステムを表示するコマンド。詳細は、 <code>mount(1M)</code> のマニュアルページを参照
<code>uname -i</code>	SPARC/ IA	システムのプラットフォーム名 (SUNW,SPARCstation-5、i86pc など) を調べるコマンド。この情報はインストール時に必要な場合がある。詳細は、 <code>uname(1)</code> のマニュアルページを参照
<code>patchadd -C net_install_image</code>	SPARC/ IA	<code>setup_install_server</code> により作成されるインストーリイメージ上にあるミニルート (つまり、 <code>Solaris_8/Tools/Boot</code>) にあるファイルにパッチを追加するコマンド。これにより、Solaris インストールコマンドと他のミニルート固有のコマンドにパッチを適用できる。 <code>net_install_image</code> はネットワークインストールイメージの絶対パス名である。詳細は、 <code>patchadd(1M)</code> のマニュアルページを参照
<code>reset</code>	SPARC	端末設定とディスプレイを再設定するコマンド。ブートする前に <code>reset</code> を使用すると便利な場合がある。また、ブート時に入出力割り込みに関するエラーメッセージが表示された場合は、L1 または STOP キーと A キーを同時に押し、その後 <code>ok</code> または <code>>PROM</code> プロンプトで <code>reset</code> と入力する。詳細は、 <code>reset(1F)</code> のマニュアルページを参照
<code>banner</code>	SPARC	モデル名、Ethernet アドレス、インストールされているメモリーなどのシステム情報を表示させるコマンド。 <code>ok</code> または <code>>PROM</code> プロンプトでのみ使用可能。詳細は、 <code>banner(1)</code> のマニュアルページを参照

インストールサーバーとブートサーバーの作成

ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをシステムにインストールするには、インストールサーバーを (ほとんどの場合はブートサーバーも) 作成しなければなりません。この節では、次の方法について説明します。

- Solaris 8 CD をサーバーのハードディスクにコピーすることによって、インストールサーバーを作成する方法

注 [SPARC] - SunOS 4.1.x システムは、インストールサーバーとしては使用できません。

- サブネットごとに異なるブートサーバーを作成する方法 (システムがインストールサーバーと異なるサブネット上にあるときだけ必要)。異なるブートサーバーを作成する代わりに、サブネットごとにインストールサーバーを作成することもできます。ただし、この方法には、より多くのディスク容量が必要です。

▼ インストールサーバーを作成する方法

1. インストールサーバーにするシステムにログインして、スーパーユーザーになります。

このシステムは、CD-ROM ドライブを持っていて、サイトのネットワークに接続されていて、ネームサービスに登録されていなければなりません。また、NIS ネームサービスか NIS+ ネームサービスに登録されていなければなりません。(NIS ネームサーバーか NIS+ ネームサーバーを使用していない場合は、サイトのポリシーに従って、このシステムについての情報を配布しなければなりません。)

注 - この手順では、システムがボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャなしでフロッピーディスクや CD を管理する方法の詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』でボリュームマネージャなしで取り外し可能媒体を管理する方法に関する説明を参照してください。

2. **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)** または **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)** をドライブに挿入します。

3. 必要であれば、**CD** をマウントします。

CD は、ボリュームマネージャによって自動的にマウントされます。

4. マウントされた **CD** の **Tools** ディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/sol_8_sparc#2/s0/Solaris_8/Tools
```

```
# cd /cdrom/sol_8_ia#1/s2/Solaris_8/Tools
```

5. `setup_install_server` コマンドを使用して、**CD** をインストールサーバーのハードディスクにコピーします。

```
# ./setup_install_server install_dir_path
```

`install_dir_path` は、CD イメージのコピー先となるディレクトリを指定します。
このディレクトリは空でなければなりません。

注 - `setup_install_server` コマンドは、Solaris 8 SOFTWARE CD イメージのためのディスク容量が十分あるかどうかを教えてください。利用できるディスク容量を調べるには、`df -k1` コマンドを使用します。

6. **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)** または **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)** を取り出します。

7. **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)** または **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)** をシステムの **CD-ROM** ドライブに挿入します。

8. 必要であれば、**CD** をマウントします。

CD は、ボリュームマネージャによって自動的にマウントされます。

9. マウントされた **CD** の **Tools** ディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/sol_8_sparc_2#1/Solaris_8/Tools
```



```
# cd /cdrom/sol_8_ia_2#1/Solaris_8/Tools
```

10. `add_to_install_server` コマンドを使用して、**CD-ROM** ドライブ内の **CD** をインストールサーバーのハードディスクにコピーします。

```
# ./add_to_install_server install_dir_path
```

`install_dir_path` は、CD イメージのコピー先となるディレクトリを指定します。

11. **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)** または **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)** を取り出します。

12. **Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC)** または **Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel)** をシステムの **CD-ROM** ドライブに挿入します。

13. 必要であれば、**CD** をマウントします。

CD は、ボリュームマネージャによって自動的にマウントされます。

14. マウントされた **CD** の `Tools` ディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/sol_8_lang_sparc#2/Tools
```

```
# cd /cdrom/sol_8_lang_ia#1/Tools
```

15. `add_to_install_server` コマンドを使用して、**CD-ROM** ドライブ内の **CD** をインストールサーバーのハードディスクにコピーします。

```
# ./add_to_install_server install_dir_path
```

`install_dir_path` には、CD イメージのコピー先となるディレクトリを指定します。

16. ユーザーが **Solaris Web Start** を使用してシステムをブートし、ネットワークで **Solaris 8** ソフトウェアを

- インストールできるようにしない場合は、**Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC)** または **Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel)** を取り出して、243ページの手順 21 に進みます。

- インストールできるようにする場合は、Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) または Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) を取り出します。

17. **Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (SPARC)** または **Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel)** をシステムの **CD-ROM** ドライブに挿入します。

18. 必要であれば、**CD** をマウントします。

CD は、ボリュームマネージャによって自動的にマウントされます。

19. マウントされた **CD** の `modify_install_server` を含むディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/en_icd_sol_8_sparc/s0
```

```
# cd /cdrom/en_icd_sol_8_ia/s2
```

または

```
# cd /cdrom/multi_icd_sol_8_sparc/s0
```

```
# cd /cdrom/multi_icd_sol_8_ia/s2
```

20. `modify_install_server` コマンドを使用して、**Solaris Web Start** インタフェースソフトウェアをインストールサーバーにコピーします。

注 **[IA]** - `modify_install_server` は、Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) 上の `s2` ディレクトリにあります。

```
# ./modify_install_server install_dir_path installer_miniroot_path
```

`install_dir_path` は、Solaris Web Start インタフェースのコピー先となるディレクトリを指定し、`installer_miniroot_path` は、Solaris Web Start インタフェースのコピー元となる CD-ROM ドライブ内の CD 上のディレクトリを指定します。

21. `setup_install_server` によって作成されたネットインストールイメージ上のミニルート (`Solaris_8/Tools/Boot`) にあるファイルにパッチを

- 適用しない場合は、次の手順に進みます。
- 適用する場合は、`patchadd -C` コマンドを使用して、ミニルートにあるファイルにパッチを適用します。

22. インストールされるシステムと同じサブネット上にインストールサーバーがあるかどうかによって、次の手順を決定します。

インストールサーバーが同じサブ ネット上にあるかどうか	次の手順
--------------------------------	------

インストールされるシステムと同 じサブネット上にある場合	ブートサーバーを作成する必要はありません。248 ページの「ネットワーク上でインストールするた めのシステムの設定」に進みます。
---------------------------------	--

インストールされるシステムと同 じサブネット上にない場合	244ページの「ブートサーバーをサブネット上で作 成する方法」の手順に従います。
---------------------------------	---

SPARC: 例 — インストールサーバーの作成

次の例は、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)、Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC)、および Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (SPARC) をインストールサーバーの `/export/install` ディレクトリにコピーしてインストールサーバーを作成する方法を示しています。

```
# cd /cdrom/sol_8_sparc#2/s0/Solaris_8/Tools
# ./setup_install_server /export/install
# cd /cdrom/sol_8_sparc_2#1/Solaris_8/Tools
# ./add_to_install_server /export/install
# cd /cdrom/sol_8_lang_sparc#2/Tools
# ./add_to_install_server /export/install
# cd /cdrom/multi_icd_sol_8_sparc/s0
# ./modify_install_server /export/install /cdrom/multi_icd_sol_8_sparc/s2
```

注 - この例では、各 CD が挿入されて、上記の各コマンドの前に自動的にマウントされ、コマンドの後で取り出しています。

▼ ブートサーバーをサブネット上で作成する方法

ネットワーク上の任意のインストールサーバーから、ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールできます。ただし、他のサブネット上のインストールサーバーを使用する場合は、そのシステムがあるサブネットにブートサーバーが必要です。ブートサーバーは、ネットワーク上でシステムをブートするためのブートソフトウェアを持っています。一方、インストールサーバーは、Solaris ソフトウェアをインストールします。

1. サブネット内でブートサーバーとするシステムにログインして、スーパーユーザーになります。

このシステムは、ローカルの CD-ROM ドライブまたはリモートの Solaris 8 CD イメージを使用できる必要があります。また、このシステムは NIS または NIS+ のネームサービスに登録されていなければなりません。(NIS または NIS+ のネームサービスを使用していない場合、そのサイトでのポリシーに従って、このシステムについての情報を配布しなければなりません。)

注 - この手順では、システムがボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャなしでフロッピーディスクや CD を管理する方法の詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』でボリュームマネージャなしで取り外し可能媒体を管理する方法に関する説明を参照してください。

2. 次の表から、次に実行すべき作業を判断します。

5. **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)** または **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)** を取り出します。

6. **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)** または **SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)** をシステムの **CD-ROM** ドライブに挿入します。

7. 必要であれば、**CD** をマウントします。

CD は、ボリュームマネージャによって自動的にマウントされます。

8. マウントされた **CD** の **Tools** ディレクトリに移動します。

```
# cd Solaris_8/Tools
```

9. `add_to_install_server` コマンドを使用して、**CD-ROM** ドライブ内の **CD** イメージをインストールサーバーのハードディスクにコピーします。

```
# ./add_to_install_server install_dir_path
```

install_dir_path は、CD イメージのコピー先となるディレクトリを指定します。

10. **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)** または **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)** を取り出します。

11. **Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC)** または **Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel)** をシステムの **CD-ROM** ドライブに挿入します。

12. 必要であれば、**CD** をマウントします。

CD は、ボリュームマネージャによって自動的にマウントされます。

13. マウントされた **CD** の **Tools** ディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/sol_8_lang_sparc#2/Tools
```

```
# cd /cdrom/sol_8_lang_ia#1/Tools
```

14. `add_to_install_server` コマンドを使用して、**CD-ROM** ドライブ内の **CD** イメージをインストールサーバーのハードディスクにコピーします。

```
# ./add_to_install_server install_dir_path
```

install_dir_path には CD イメージがコピーされるディレクトリを指定します。

15. ユーザーが **Solaris Web Start** を使用してシステムをブートし、ネットワークに **Solaris 8** ソフトウェアを

- インストールできるようにしない場合は、Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) または Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) を取り出して、243ページの手順 21 に進みます。
- インストールできるようにする場合は、Solaris 8 Languages CD (SPARC) または Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) を取り出します。

16. **Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (SPARC)** または **Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel)** をシステムの **CD-ROM** ドライブに挿入します。

17. 必要であれば、**CD** をマウントします。

CD は、ボリュームマネージャによって自動的にマウントされます。

18. `modify_install_server` コマンドを使用して、**Solaris Web Start** インタフェースソフトウェアをインストールサーバーにコピーします。

注 **[IA]** - `modify_install_server` は、Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) 上の `s2` ディレクトリにあります。

```
# ./modify_install_server install_dir_path installer_miniroot_path
```

install_dir_path は、Solaris Web Start インタフェースのコピー先となるディレクトリを指定し、*installer_miniroot_path* は、Solaris Web Start インタフェースのコピー元となる CD-ROM ドライブ内の CD 上のディレクトリを指定します。

SPARC: 例 — サブネット上にブートサーバーを作成する

次の例は、サブネット上にブートサーバーを作成する方法を示します。ブートソフトウェアを Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) イメージからシステムのローカルディスク上の `/export/install/boot` にコピーして、次に、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)、Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC)、および

Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (SPARC) をインストールサーバーの /export/install/boot ディレクトリにコピーします。

```
# cd /cdrom/sol_8_sparc#2/s0/Solaris_8/Tools
# ./setup_install_server -b /export/install/boot
# cd /cdrom/sol_8_sparc_2#1/Solaris_8/Tools
# ./add_to_install_server /export/install/boot
# cd /cdrom/sol_8_lang_sparc#2/Tools
# ./add_to_install_server /export/install/boot
# cd /cdrom/multi_icd_sol_8_sparc/s0
# ./modify_install_server /export/install/boot /cdrom/multi_icd_sol_8_sparc/s2
```

注 - この例では、各 CD は上記に示す各コマンドの実行前に挿入され、自動的にマウントされ、また各コマンドの実行後に取り出しています。

ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定

インストールサーバーと(必要な場合は)ブートサーバーを作成したので、ネットワーク上で Solaris ソフトウェアを他のシステムにインストールするための準備ができました。ただし、ネットワーク上でインストールするには、システムは次の情報を知る必要があります。

- どこからインストールするか(インストールサーバー)
- どこからブートするか(インストールサーバーまたはブートサーバー)
- カスタム JumpStart インストール中にプロファイルを取得する場所(プロファイルサーバー上の JumpStart ディレクトリ)

ネットワーク上でのインストール時、システムはこの情報をネームサービス (/etc ファイルの bootparams データベース、NIS、または NIS+) で調べるため、ネットワーク上でインストールされるシステムごとに、この情報をネームサービスに追加しなければなりません。この作業を行うには、add_install_client コマンドを使用します。

注 - /etc ファイルを使用してネットワークインストール情報を保存する場合、その情報はインストールサーバーか (ブートサーバーが必要な場合は) ブートサーバー上に存在しなければなりません。

▼ add_install_client を使用して、ネットワーク上でインストールするためにシステムを設定する方法

add_install_client (1M) コマンドを使用して、ネットワーク上でインストールするシステムを設定できます。

注 - add_install_client は、/etc ファイルだけを更新します。

1. インストールサーバー (システムがブートサーバーを必要とする場合はブートサーバー) で、スーパーユーザーになります。
2. インストールされるシステムについて、次の情報がネームサービス (/etc ファイル、NIS、または NIS+) に追加されていることを確認します。
 - ホスト名
 - IP アドレス
 - Ethernet アドレス
3. インストールサーバーの **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)** または **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)** イメージ上またはブートサーバーのブートディレクトリ上の Tools ディレクトリに移動します。

```
# cd Solaris_8/Tools
```

4. add_install_client コマンドを使用して、ネットワーク上でインストールされるシステムを設定します。

```
# ./add_install_client [-d] [-c server:jumpstart_dir_path] [-s install_server:install_dir_path] \  
[-p server:path] host_name platform_group
```

<code>-d</code>	クライアントは DHCP を使用してネットワークインストールパラメータを取得することを指定する
<code>-c server:jumpstart_dir_path</code>	カスタム JumpStart インストール用の JumpStart ディレクトリを指定する。このオプションと引数は、カスタム JumpStart インストールの場合にだけ必要。 server は、JumpStart ディレクトリが置かれているサーバーのホスト名。jumpstart_dir_path は、JumpStart ディレクトリの絶対パス
<code>-s install_server:install_dir_path</code>	インストールサーバーを指定する。このオプションは、add_install_client をブートサーバーで使用するときだけ必要。 install_server は、インストールサーバーのホスト名。install_dir_path は、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージの絶対パス名
<code>-p server:path</code>	システムの構成情報を事前設定するための sysidcfg ファイルを指定する。server は、このファイルを含んでいるサーバーの有効なホスト名または IP アドレス。path は、sysidcfg ファイルへの絶対パス
<code>host_name</code>	ネットワーク上でインストールされるシステムのホスト名 (インストールサーバーのホスト名ではない)。このコマンドが機能するためには、ホストがネームサービスに登録されている必要がある
<code>platform_group</code>	インストールするシステムのプラットフォームグループ。プラットフォームグループの詳細は、付録 A を参照

SPARC: 例 – add_install_client を使用して、ネットワーク上でインストールされるシステムを追加する

次の例は、ネットワーク上でインストールされる basil という名前のシステム (SPARCstation 10) を追加します。このシステムにはブートサーバーが必要なので、コマンドはブートサーバー上で実行します。-s オプションを使用して、install_server1 という名前のインストールサーバー (/export/install に Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) イメージを持っている) を指定しています。

```
# cd /export/boot/Solaris_8/Tools  
# ./add_install_client -s install_server1:/export/install basil sun4m
```


カスタム JumpStart インストールの実行

この章では、SPARC または IA システムでカスタム JumpStart インストールを実行する手順を説明します。これらの手順は、Solaris 8 ソフトウェアをインストールしようとするシステム上で実行してください。

- 253ページの「SPARC: カスタム JumpStart インストールの実行手順」
- 258ページの「IA: カスタム JumpStart インストールの実行手順」

注 - 『Solaris 8 インストールの手引き』および『Solaris 8 インストールガイド (SPARC 版)』または『Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)』では、ローカル CD-ROM から単一のシステム上に Solaris をインストールする方法を説明しています。Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用して Solaris 8 をインストールする方法は、第 5 章で説明しています。

カスタム JumpStart による Solaris のインストール

▼ SPARC: カスタム JumpStart インストールの実行手順

1. 表 10-1 を使って、**Solaris 8** のインストール先のシステムでカスタム **JumpStart** インストールを実行する準備ができていることを確認します。

表 10-1 SPARC: 作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定

作業	説明	参照先
既存の Solaris 1.x (SunOS 4.x) ファイルのバックアップをとる	システムに以前の Solaris 1.x (SunOS 4.x) リリースがインストールされている場合は、一部の Solaris 1.x ファイルは Solaris 8 ファイルに変換またはマージできます。begin スクリプトと finish スクリプトを使って、この作業を実行できます。	『Solaris 移行ガイド』
システムがサポートされているか確認する	ハードウェアのマニュアルで、そのシステムで Solaris 8 リリースがサポートされているか調べます。	『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』
旧バージョンの Solaris がインストールされている場合は、システムをアップグレードする方法を決定する	システムに以前の Solaris リリースがインストールされている場合は、システムをどのようにアップグレードするかを決める必要があります。システムをアップグレードする前と後で何をすべきかを明確にしておいてください。こうすると、プロファイル、begin スクリプト、finish スクリプトなどの設定が容易になります。	第 5 章
Solaris ソフトウェアをインストールするための十分なディスク容量が、システムにあるか確認する	(省略可能) ディスク容量の計画をたてる時には、どのソフトウェアグループをインストールするかなど、さまざまな考慮事項があります。	第 2 章
システム構成情報を事前設定する	(省略可能) sysidcfg ファイルまたはネームサービスを使って、システムのインストール情報 (たとえば locale など) をあらかじめ設定できるため、インストール作業中にプロンプトに答えて毎回情報を入力する手間が省けます。	第 4 章
カスタム JumpStart インストールするようにシステムを準備する	カスタム JumpStart を使って Solaris 8 ソフトウェアをインストールするには、あらかじめ初期設定作業を行う必要があります。	第 6 章

表 10-1 SPARC: 作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定 続く

作業	説明	参照先
ネットワーク上でインストールするようにシステムを設定する	ネットワーク上でのインストールの場合のみ リモート Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC) イメージからシステムをインストールするには、インストールサーバーまたはブートサーバーからブートとインストールを行うようにシステムを設定する必要があります。	第 9 章

2. システムがネットワークの一部に組み込まれている場合は、そのシステムに **Ethernet** コネクタまたは類似のネットワークアダプタが接続されていることを確認します。
3. tip(1) ラインで接続されているシステムをインストールする場合は、ウィンドウ表示が横 **80** 桁、縦 **24** 行以上あることを確認します。
この大きさがないと、キャラクタベースのインストールインタフェースは正しく表示されません。stty(1) コマンドを使うと、tip ウィンドウの現在のサイズを調べることができます。
4. システムの **CD-ROM** ドライブを使ってシステムに **Solaris 8** ソフトウェアをインストールする場合は、システムの **CD-ROM** ドライブに **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)** を挿入します。
5. プロファイルフロッピーディスクを使ってカスタム **JumpStart** インストールを
 - 実行しない場合は、次の手順に進みます。
 - 実行する場合は、プロファイルフロッピーディスクをシステムのフロッピーディスクドライブに挿入します。
6. システムをブートします。

新規または既存システム	サーバーまたはローカル	操作
新規 (梱包から取り出したばかり)	—	システムの電源を入れる。
既存	ネットワーク上のインストールサーバーからインストールする場合	ok プロンプトで次のように入力する。 ok boot net - install
	システムのローカル CD-ROM ドライブからインストールする場合	ok プロンプトで次のように入力する。 ok boot cdrom - install 注 - 古い EEPROM をもつシステムの場合、システムの CD-ROM からブートするには <code>cdrom</code> の代わりに <code>sd(0,6,2)</code> と入力してください。

注 [SPARC] - ハードウェアおよびシステムコンポーネントがシステムによって検査されて、SPARC システムがブートします。ブートには数分間かかります。

ok プロンプトを表示する方法については、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』を参照してください。

7. システムの構成情報を

- 事前設定した場合は、次の手順に進みます。
- 事前設定しなかった場合は、プロンプトに応じて、システム構成に関する質問に答えます。

ブート後、Solaris 8 対話式インストールプログラムから、システムに関する構成情報を入力するよう要求される場合があります。

8. 画面上の指示に従って、ソフトウェアをインストールします。

インストールが終了すると、表 10-2 に示すように、Solaris 8 ソフトウェアがシステムにどのようにインストールされたかを示すログがファイルに保存されます。

表 10-2 SPARC: インストールログの保存場所

システムのインストール方法	ログの保存先
初期インストールオプション	<ul style="list-style-type: none"> ■ システムをリブートする前: /a/var/sadm/system/logs/install_log ■ システムをリブートした後: /var/sadm/system/logs/install_log
アップグレードオプション	<ul style="list-style-type: none"> ■ システムをリブートする前: /a/var/sadm/system/logs/upgrade_log ■ システムをリブートした後: /var/sadm/system/logs/upgrade_log

9. すでにインストールしてある **Solaris 8** ソフトウェアにパッケージを

- 追加しない場合は、ここで作業は終了です。
- 追加する場合は、次の手順に進みます。

10. インストールシステムにログインして、スーパーユーザーになります。

11. システムの **CD-ROM** ドライブに追加するパッケージを含む **CD** を挿入します。
CD は、Solaris ボリュームマネージャによって自動的にマウントされます。

12. `pkgadd (1M)` コマンドを使用して必要なパッケージを追加します。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d device_name pkgid
```

`device_name` はインストールシステムに追加するソフトウェアを含む CD へのパスを示し、`pkgid` はインストールシステムに追加するソフトウェアパッケージ名 (たとえば SUNWaudio) を示します。

13. パッケージが正常にインストールされたことを確認します。

```
# /usr/sbin/pkgchk -v pkgid
```

パッケージが正常にインストールされると、インストールされたファイルのリストが表示されます。インストールされなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。

SPARC: システムとルールが照合される場合

カスタム JumpStart のインストール時、JumpStart は、インストール中のシステムと rules.ok ファイル内のルールを、最初のルールから最後のルールへという順序で照合します。インストール中のシステムがルールに定義されたすべてのシステム属性に一致するかどうか検査されます。システムがルールと一致すると同時に、JumpStart による rules.ok ファイルの読み取りが停止して、一致したルールのプロファイルに基づいてシステムのインストールが開始されます。

▼ IA: カスタム JumpStart インストールの実行手順

1. 表 10-3 を使って、インストール先のシステムでカスタム JumpStart インストールを実行する準備ができていることを確認します。

表 10-3 IA: 作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定

作業	説明	参照先
既存のオペレーティングシステムとユーザーデータを保存する必要があるか決定する	システムにディスク全体を使用している既存のオペレーティングシステムがある場合は、そのシステムと Solaris 8 ソフトウェアを共存させるために既存のオペレーティングシステムを保存する必要があります。この決定により、システムのプロファイル内の fdisk(1M) キーワードをどのように指定するかが決まります。	『Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)』の「既存のオペレーティングシステムとユーザーデータの保存」
システムがサポートされているか確認する	ハードウェアのマニュアルで Solaris 8 がサポートされているか調べます。	『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』
旧バージョンの Solaris がインストールされている場合は、システムをアップグレードする方法を決定する	システムに以前の Solaris リリースがインストールされている場合は、システムをどのようにアップグレードするかを決める必要があります。システムをアップグレードする前と後で何をすべきかを明確にしておいてください。こうすると、プロファイル、begin スクリプト、finish スクリプトなどの設定が容易になります。	第 5 章

表 10-3 IA: 作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定 続く

作業	説明	参照先
Solaris ソフトウェアをインストールするための十分なディスク容量がシステムにあるか確認する	(省略可能) ディスク容量の計画をたてる時には、どのソフトウェアグループをインストールするかなど、さまざまな考慮事項があります。	第 2 章
システム構成情報を事前設定する	(省略可能) sysidcfg ファイルまたはネームサービスを使って、システムのインストール情報 (たとえば locale など) をあらかじめ設定できるため、インストール作業中にプロンプトに答えて毎回情報を入力する手間が省けます。	第 4 章
カスタム JumpStart インストールを行うようにシステムを準備する	カスタム JumpStart を使って Solaris 8 ソフトウェアをインストールするには、あらかじめ初期設定作業を行う必要があります。	第 6 章
ネットワーク上でインストールするようにシステムを設定する	ネットワーク上でのインストールの場合のみ リモート Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel) イメージからシステムをインストールするには、インストールサーバーまたはブートサーバーからブートとインストールを行うようにシステムを設定する必要があります。	第 9 章

2. システムがネットワークの一部に組み込まれている場合は、そのシステムに **Ethernet** コネクタまたは類似のネットワークアダプタが接続されていることを確認します。
3. tip(1) ラインで接続されているシステムをインストールする場合は、ウィンドウ表示が横 **80** 桁、縦 **24** 行以上あることを確認します。

この大きさがないと、キャラクタベースのインストールインタフェースは正しく表示されません。stty(1) コマンドを使うと、tip ウィンドウの現在のサイズを調べることができます。

4. プロファイルフロッピーディスクを使用して、カスタム **JumpStart** インストールを

- 実行する場合は、プロファイルフロッピーディスクをシステムのプロッピーディスクドライブ (通常は A: ドライブ) に挿入します。

注 **[IA]** - プロファイルフロッピーディスクには、プロファイル情報だけでなく、Solaris 8 Device Configuration Assistant のコピーも含まれます。

- 実行しない場合は、Solaris Device Configuration Assistant フロッピーディスクを、システムのプロッピーディスクドライブ (通常は A: ドライブ) に挿入します。

5. システムの **CD-ROM** ドライブを使ってシステムに **Solaris 8** ソフトウェアをインストールする場合は、**CD-ROM** ドライブに **CD-ROM** を挿入します。

6. システムの電源が切れている場合は電源を入れます。システムの電源が入っている場合は、システムをリブートします。

Device Configuration Assistant プログラムがシステムのデバイスを調べます。

7. 「**Boot Solaris**」画面が表示されたら、システムをブートするデバイスを選択します (システムの **CD-ROM** ドライブ (**CD**) またはネットワーク上のインストールサーバー (**NET**))。

8. 次のプロンプトに対して **2** と入力し、Enter キーを押します。

```
Select the type of installation you want to perform:

    1 Solaris Interactive
    2 Custom JumpStart

Enter the number of your choice followed by the <ENTER> key.

If you enter anything else, or if you wait for 30 seconds,
```

(続く)

```
an interactive installation will be started.
```

これにより、カスタム JumpStart インストール方式が選択されます。

注 - 30 秒以内に 2 と入力して Enter キーを押す必要があります。

9. システムの構成情報を

- 事前設定した場合は、次の手順に進みます。
- 事前設定しなかった場合は、プロンプトに応じて、システム構成に関する質問に答えます。

10. 画面の指示に従って、ソフトウェアをインストールします。

インストールが終了すると、表 10-4 に示すファイルに Solaris 8 ソフトウェアのインストールに関するログが保存されます。

表 10-4 IA: インストールログの保存場所

システムのインストール方法	ログの保存先
初期インストールオプション	<ul style="list-style-type: none"> ■ システムをリポートする前: /a/var/sadm/system/logs/install_log ■ システムをリポートした後: /var/sadm/system/logs/install_log
アップグレードオプション	<ul style="list-style-type: none"> ■ システムをリポートする前: /a/var/sadm/system/logs/upgrade_log ■ システムをリポートした後: /var/sadm/system/logs/upgrade_log

11. すでにインストールしてある Solaris 8 ソフトウェアにパッケージを

- 追加しない場合は、ここで作業は終了です。

- 追加する場合は、次の手順に進みます。

12. インストールシステムにログインして、スーパーユーザーになります。
13. システムの **CD-ROM** ドライブに追加するパッケージを含む **CD** を挿入します。
CD は、Solaris ボリュームマネージャによって自動的にマウントされます。
14. `pkgadd(1M)` コマンドを使用して必要なパッケージを追加します。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d device_name pkgid
```

`device_name` はインストールシステムに追加するソフトウェアを含む CD へのパスを示し、`pkgid` はインストールシステムに追加するソフトウェアパッケージ名 (たとえば `SUNWaudio`) を示します。

15. パッケージが正常にインストールされたことを確認します。

```
# /usr/sbin/pkgchk -v pkgid
```

インストールされなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。

IA: システムとルールが照合される場合

カスタム JumpStart のインストール時、JumpStart は、インストール中のシステムと `rules.ok` ファイル内のルールを、最初のルールから最後のルールへという順序で照合します。インストール中のシステムがルールに定義されたすべてのシステム属性に一致するかどうか検査されます。システムがルールと一致すると同時に、JumpStart による `rules.ok` ファイルの読み取りが停止して、一致したルールのプロファイルに基づいてシステムのインストールが開始されます。

カスタム JumpStart による Solaris ソフトウェアの設定とインストール例

この章では、カスタム JumpStart による Solaris を設定し、インストールする方法を示しています。この例には、SPARC 搭載システムと IA 搭載システムの両方が含まれています。

- 264ページの「サイトの設定例」
- 265ページの「インストールサーバーの作成」
- 265ページの「マーケティングシステム用のブートサーバーの作成」
- 266ページの「JumpStart ディレクトリの作成」
- 266ページの「JumpStart ディレクトリの共有」
- 267ページの「SPARC: エンジニアリンググループのプロファイルの作成」
- 267ページの「IA: マーケティンググループのプロファイルの作成」
- 268ページの「rules ファイルの更新」
- 269ページの「rules ファイルのチェック」
- 269ページの「SPARC: ネットワーク上でインストールするためのエンジニアリングシステムの設定」
- 270ページの「IA: ネットワーク上でインストールするためのマーケティングシステムの設定」
- 271ページの「SPARC: エンジニアリングシステムのブートと Solaris 8 ソフトウェアのインストール」
- 271ページの「IA: マーケティングシステムのブートと Solaris 8 ソフトウェアのインストール」

注 - 製品名は Solaris 8 ですが、コードと、パス名またはパッケージのパス名は、Solaris_2.8 または SunOS_5.8 と示される場合があります。必ず記述どおりのコードまたはパスを使用してください。

サイトの設定例

この例で使用するサイトの設定を図 11-1 に示します。

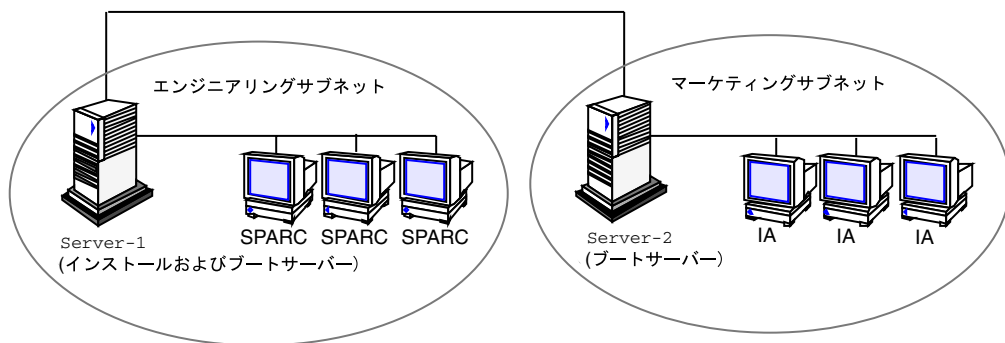


図 11-1 サイトの設定例

このサイトの状況を次に説明します。

- **SPARC:** エンジニアリンググループは、それ自身のサブネット上にあります。このグループでは、ソフトウェア開発用に SPARCstation システムを使用しています。
- **IA:** マーケティンググループも、それ自身のサブネット上にあります。このグループでは、文書処理、表計算、およびその他のオフィスツールを実行するために IA 搭載システムを使用しています。
- このサイトでは NIS を使用しています。システムの Ethernet アドレス、IP アドレス、およびホスト名は NIS マップに事前設定されています。サイトのサブネットマスク、日付と時刻、および地域の情報も NIS マップに事前設定されています。

注 - マーケティングシステムの周辺装置は、sysidcfg ファイルに事前設定されています。

- エンジニアリングシステムとマーケティングシステムの両方とも、Solaris 8 ソフトウェアをネットワーク上でインストールします。

インストールサーバーの作成

これらのグループは Solaris ソフトウェアをネットワーク上でインストールする必要があるため、server-1 を両方のグループのインストールサーバーにします。setup_install_server(1M) コマンドを使用して、Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC)、Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel)、Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC)、および Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) を (/export/install ディレクトリの) server-1 のローカルディスクにコピーします。

なお、Solaris 8 CD イメージは空のディレクトリにコピーしなければならないため、SPARC 版と Intel 版のイメージは別のディレクトリ (sparc_8 ディレクトリと ia_8 ディレクトリ) にコピーします。

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) を server-1 の CD-ROM ドライブに挿入します。

```
server-1# cd /CD_mount_point/Solaris_8/Tools
server-1# ./setup_install_server /export/install/sparc_8
```

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を server-1 の CD-ROM ドライブに挿入します。

```
server-1# cd /CD_mount_point/Solaris_8/Tools
server-1# ./setup_install_server /export/install/ia_8
```

マーケティングシステム用のブートサーバーの作成

システムは、異なるサブネット上のインストールサーバーからはブートできません。したがって、server-2 をマーケティンググループのサブネット上のブートサーバーにします。setup_install_server(1M) コマンドを使用して、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) から (/export/boot ディレクトリの) server-2 のローカルディスクにブートソフトウェアをコピーします。

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を server-2 の CD-ROM ドライブに挿入します。

```
server-2# cd /CD_mount_point/Solaris_8/Tools
server-2# ./setup_install_server -b /export/boot
```

setup_install_server コマンドの -b オプションは、setup_install_server が Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) から /export/boot ディレクトリにブート情報をコピーするよう指定します。

JumpStart ディレクトリの作成

これでインストールサーバーとブートサーバーを設定しました。次に、JumpStart ディレクトリを server-1 に設定します (ネットワーク上の任意のシステムを使用できます)。このディレクトリには、Solaris ソフトウェアのカスタム JumpStart インストールに必要なファイルが入っています。このディレクトリを設定するには、/export/install にある Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージの 1 つからサンプルディレクトリをコピーします。

```
server-1# mkdir /jumpstart
server-1# cp -r /export/install/sparc_8/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample /jumpstart
```

JumpStart ディレクトリの共有

ネットワーク上のシステムが rules ファイルやプロファイルをアクセスできるようにするために、/jumpstart ディレクトリを共有します。このためには、/etc/dfs/dfstab ファイルに次の行を追加します。

```
share -F nfs -o ro,anon=0 /jumpstart
```

次に、コマンド行で shareall コマンドを使用します。

```
server-1# shareall
```

SPARC: エンジニアリンググループのプロファイルの作成

エンジニアリングシステムの場合、eng_prof ファイルを /jumpstart ディレクトリに作成します。eng_prof ファイルのエントリは次のようになっています。エンジニアリンググループのシステムにインストールされる Solaris 8 ソフトウェアを定義しています。

```
1 install_type  initial_install
2 system_type   standalone
3 partitioning  default
4 cluster       SUNWCprog
5 fileys        any 50 swap
```

1. アップグレードではなく、初期インストールによりインストールするよう指定します。
2. エンジニアリングシステムが、スタンドアロンシステムであることを指定します。
3. JumpStart ソフトウェアが、デフォルトのディスクパーティションを使用して、エンジニアリングシステムに Solaris をインストールするよう指定します。
4. 開発者ソフトウェアグループをインストールするよう指定します。
5. エンジニアリンググループの各システムが、50M バイトのスワップ領域を持つよう指定します。

IA: マーケティンググループのプロファイルの作成

マーケティングシステムの場合、marketing_prof ファイルを /jumpstart ディレクトリに作成します。marketing_prof ファイルのエントリは次のようになっています。マーケティンググループのシステムにインストールされる Solaris 8 ソフトウェアを定義しています。

```
1 install_type  initial_install
2 system_type  standalone
3 partitioning  default
4 cluster      SUNWCuser
5 package      SUNWaudio
```

1. アップグレードではなく、初期インストールによりインストールするよう指定します。
2. マーケティングシステムが、スタンドアロンであることを指定します。
3. JumpStart ソフトウェアが、デフォルトのディスクパーティションを使用して、マーケティングシステムに Solaris をインストールするよう指定します。
4. エンドユーザーソフトウェアグループをインストールするよう指定します。
5. オーディオツールのデモソフトウェアパッケージを各システムに追加するよう指定します。

rules ファイルの更新

次に、rules ファイルにルールを追加しなければなりません。Solaris インストールプログラムは、カスタム JumpStart インストール中、これらのルールを使用して、各システムに正しいインストール (プロファイル) を選択します。

このサイトでは、各部署は独自のサブネットとネットワークアドレスを持っています。エンジニアリング部はサブネット 255.222.43.0、マーケティング部はサブネット 255.222.44.0 にあります。この情報を使用すれば、エンジニアリングシステムとマーケティングシステムのインストール方法を制御できます。/jumpstart ディレクトリ中の rules ファイルを編集して、サンプルのルールをすべて削除し、次のように入力します。

```
network 255.222.43.0 - eng_prof -
network 255.222.44.0 - marketing_prof -
```

これらのルールは、基本的に、255.222.43.0 ネットワーク上のシステムが eng_prof プロファイルを使用してインストールされることと、255.222.44.0 ネットワーク上の

システムが marketing_prof プロファイルを使用してインストールされることを示しています。

注 - サンプルのルールでは、どのシステムが eng_prof または marketing_prof を使用してインストールされるかをネットワークアドレスを使用して識別できます。この他にも、ホスト名、メモリーサイズ、またはモデルタイプをルールのキーワードとして使用できます。rules ファイルで使用できるキーワードのリストについては、表 6-3 を参照してください。

rules ファイルのチェック

rules ファイルとプロファイルを適切に設定した後は、check スクリプトを実行して、これらのファイルを確認します。

```
server-1# cd /jumpstart
server-1# ./check
```

エラーが見つからなければ、check スクリプトは rules.ok ファイルを作成します。

SPARC: ネットワーク上でインストールするためのエンジニアリングシステムの設定

/jumpstart ディレクトリと必要なファイルを設定した後は、インストールサーバー (server-1、エンジニアリンググループのサブネットにとってはブートサーバー) で add_install_client コマンドを使用して、インストールサーバーから Solaris 8 をインストールできるようにエンジニアリングシステムを設定します。

```
server-1# cd /export/install/sparc_8/Solaris_8/Tools
server-1# ./add_install_client -c server-1:/jumpstart host-eng1 sun4m
server-1# ./add_install_client -c server-1:/jumpstart host-eng2 sun4m
.
.
```

(続く)

続き

```
.  
.
```

add_install_client コマンドの指定項目

-c	サーバー (server-1) と JumpStart ディレクトリへのパス (/jumpstart) を指定する
host-eng1	エンジニアリンググループのシステム名
host-eng2	エンジニアリンググループの別のシステム名
sun4m	server-1 をインストールサーバーとして使用するシステムのアーキテクチャを指定する (この場合は、SPARCstation 5 システム用のプラットフォームグループ)

IA: ネットワーク上でインストールするためのマーケティングシステムの設定

次に、ブートサーバー (server-2) で add_install_client コマンドを使用して、ブートサーバーからブートして、インストールサーバー (server-1) から Solaris 8 をインストールするようにマーケティングシステムを設定します。

```
server-2# cd /marketing/boot-dir/Solaris_8/Tools  
server-2# ./add_install_client -s server-1:/export/install/ia_8 \  
-c server-1:/jumpstart host-mkt1 i86pc  
server-2# ./add_install_client -s server-1:/export/install/ia_8 \  
-c server-1:/jumpstart host-mkt2 i86pc  
.  
.  
.
```

add_install_client コマンドの指定項目

-s	インストールサーバー (server-1) と Solaris ソフトウェアへのパス (/export/install/ia_8) を指定する
-c	サーバー (server-1) と JumpStart ディレクトリへのパス (/jumpstart) を指定する
host-mkt1	マーケティンググループのシステム名
host-mkt2	マーケティンググループの別のシステム名
i86pc	このブートサーバーを使用するシステムのプラットフォームグループを指定する (この場合は IA システムのプラットフォーム名)

SPARC: エンジニアリングシステムのブートと Solaris 8 ソフトウェアのインストール

サーバーとファイルの設定が完了した後は、各システムの ok (PROM) プロンプトで次の boot コマンドを使用して、エンジニアリングシステムをブートできます。

```
ok boot net
```

システムは自動的に Solaris オペレーティング環境をエンジニアリンググループのシステムにインストールします。

IA: マーケティングシステムのブートと Solaris 8 ソフトウェアのインストール

CD-ROM からシステムをブートできない場合、Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクを挿入し、各システムの電源を入れることによってマーケティングのシステムをブートできます。Solaris 8 はマーケティンググループのシステムに自動的にインストールされます。

問題発生時の解決方法

この章では、Solaris 8 ソフトウェアをインストールする際に発生する可能性のあるエラーメッセージと一般的な問題および解決方法を示します。まず、次のリストを使用して、インストールプロセスのどこで問題が発生したか確認してください。

- 273ページの「ネットワークインストールの設定」
- 274ページの「システムのブート」
- 278ページの「ネットワーク上のシステムのブート」
- 283ページの「Solaris 8 のインストール (初期インストール)」
- 286ページの「Solaris 8 のインストール (アップグレード)」

ネットワークインストールの設定

```
Error: Unknown client ``host_name``
```

問題	解決方法
<code>add_install_client</code> コマンドの <code>host_name</code> 引数は、ネームサービス内のホストでなければならない。	ホストの <code>host_name</code> を NIS または NIS+ のネームサービスに追加してください。その後 <code>add_install_client</code> コマンドを再実行してください。

システムのブート

エラーメッセージ

```
le0: No carrier - transceiver cable problem
```

問題	解決方法
このシステムはネットワークに接続されていない。	ネットワークに接続されていないシステムの場合は、このメッセージは無視してください。ネットワークに接続されているシステムの場合は、Ethernet がしっかり接続されているかどうか確認してください。

```
The file just loaded does not appear to be executable
```

問題	解決方法
ブート用の適切な媒体が見つからない。	インストールサーバーからネットワークを介して Solaris 8 をインストールするように正しく設定されているか確認します。たとえば、設定時のシステムのプラットフォームグループの指定が正しいか確認します。また、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2、および Solaris 8 LANGUAGES CD のイメージをコピーしなかった場合、インストールサーバー上の Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD がマウントされていて、アクセスできることを確認します。

```
boot: cannot open /kernel/unix
```

問題**解決方法**

SPARC 搭載システムのみ。
ブートファイルの格納場所を /kernel/unix に変更したときに発生するエラー。Solaris 2.6 およびその互換バージョンでは、カーネルは /kernel/unix でなく、/platform/arch/kernel/unix に置かれる。

PROM のブートファイルを “ ” (無指定) に設定変更します。

```
Can't boot from file/device
```

問題**解決方法**

JumpStart または Solaris 8 対話式インストールプログラムが、システムの CD-ROM ドライブ中に Solaris 8 Software 1 of 2 CD を見つけることができない。

次の項目を確認してください。

- CD-ROM ドライブが適切にインストールされているか、または CD-ROM ドライブの電源が入っているか
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD が CD-ROM ドライブに挿入されているか

```
WARNING: clock gained xxx days -- CHECK AND RESET  
DATE!
```

問題**解決方法**

SPARC 搭載システムのみ。
これは通知用メッセージです。

メッセージは無視して、インストールを継続してください。

```
Not a UFS filesystem
```

問題	解決方法
IA 搭載システムのみ。 Solaris 8 ソフトウェアをインストールしたとき (対話式またはカスタム JumpStart を使って)、デフォルトのブートドライブを選択しなかった。別のブートディスクを選択した場合、Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクを使用して、システムをブートしなければならない。	Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクをそのシステムのブートディスクドライブ (通常は A:) に挿入します。

一般的な問題

問題	解決方法
IA 搭載システムのみ。 メモリー増設用以外の PC カードを挿入すると、システムがハングまたはパニックを起こす。	メモリー増設用以外の PC カードは、他のデバイスが使用している同じメモリーリソースを使用できません。これを修正するには、DOS のデバッグを使用して、デバイスのメモリー使用状況を調べます。次に、下記の手順に従って、手作業で PC カードデバイス用にメモリーリソースを予約します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクを使用して、システムをブートします。 2. 「デバイスタスク (Device Tasks)」メニューに移動します。 3. 「デバイスの検査/編集 (Review/Edit Devices)」を選択します。 4. 「デバイスの追加 (Add Device)」を選択します。 5. 「デバイスの定義 (Define Device)」を選択します。 6. EISA ID 命名規約に従った一意の名前 (たとえば、ITD4001) を入力して、「継続 (Continue)」を選択します。 7. リソースのリストから「メモリーアドレス (Memory Address)」を選択して、「継続 (Continue)」を選択します。 8. 予約するアドレスの範囲 (たとえば、CA800-CFFFF) を入力して、「継続 (Continue)」を選択します。 9. 「デバイスタスク (Device Tasks)」メニューに戻って、「構成を保存 (Save Configuration)」を選択します。 10. システムをリブートします。

問題**解決方法**

IA 搭載システムのみ。

事前ブート段階では、Solaris 8 Device Configuration Assistant プログラムが、システム上の IDE BIOS 一次ドライブを検出できなかった。

- 古いドライブを使用している場合、サポートされていないことがあります。『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』で確認してください。
- リボンと電源ケーブルが正しく接続されているか確認します。ハードウェアのマニュアルで確認してください。
- 1 台のドライブだけがコントローラに接続されている場合、ジャンパを設定して、そのドライブをマスタードライブとして指定します。一部のドライブでは、単一マスター用のジャンパ設定が、スレーブといっしょに動作するマスター用のジャンパ設定と異なる場合があります。未使用のコネクタがケーブルの終端にあるときに発生する信号障害を抑制するために、ケーブルの終端にあるコネクタにドライブを接続します。
- 2 台のドライブがコントローラに接続されている場合、1 台目のドライブをマスター (またはスレーブといっしょに動作するマスター) としてジャンパを設定して、2 台目のドライブをスレーブとしてジャンパを設定します。
- 1 台目のドライブがハードディスクで、2 台目のドライブが CD-ROM ドライブの場合、ジャンパを設定して、そのドライブをスレーブドライブとして指定します。ドライブがケーブルのどのドライブコネクタに接続されていてもかまいません。
- 1 つのコントローラと 2 台のドライブの組み合わせで問題が残る場合、1 台ずつドライブを接続して、各ドライブが動作していることを確認します。ドライブをマスターまたは単一マスターとしてジャンパを設定して、IDE リボンケーブルの終端にあるドライブコネクタを使用してドライブを接続します。各ドライブが動作することを確認して、次にドライブをもう一度マスターとスレーブの構成にジャンパを設定します。
- ドライブがディスクドライブの場合、BIOS 設定画面を使用して、ドライブタイプ (シリンダ、ヘッド、セクターの数を示す) が正しく構成されていることを確認します。一部の BIOS ソフトウェアは、ドライブタイプを自動的に検出する機能を持っています。
- ドライブが CD-ROM ドライブの場合、BIOS 設定画面を使用して、ドライブタイプを CD-ROM ドライブとして構成します (BIOS ソフトウェアがこの機能を持っている場合のみ)。
- MS-DOS がドライブを認識しない場合、ハードウェアまたは BIOS 構成の問題が考えられます。ほとんどのシステムでは、MS-DOS CD-ROM ドライバがインストールされている場合、IDE の CD-ROM ドライブは MS-DOS でしか認識されません。

問題	解決方法
IA 搭載システムのみ。 事前ブートの段階で、Solaris 8 Device Configuration Assistant プログラムがシステム上の IDE または CD-ROM ドライブを見つけることができない。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディスクが BIOS で無効にされている場合は、Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクを使用して、ハードディスクからブートします。 ■ システムがディスクを持っていない場合は、ディスクレスクライアントにします。

問題	解決方法
IA 搭載システムのみ。 システムがプロンプトを出す前にハングする。	『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』を参照してください。

ネットワーク上のシステムのブート

エラーメッセージ

```
WARNING: getfile:
RPC failed: error 5 (RPC Timed out).
```

問題**解決方法**

インストールクライアントのブート要求に対して、ネットワーク上の複数のサーバーが応答したときに発生するエラー。インストールクライアントの接続先のブートサーバーが間違っているため、インストールは停止する。考えられる原因は次の通り。

原因 1: /etc/bootparams ファイルに、このインストールクライアントが登録されているサーバーが複数存在する。

原因 2: このインストールクライアントが、複数の /tftpboot または /rplboot ディレクトリに登録されている。

原因 3: サーバーの /etc/bootparams ファイルにこのインストールクライアントのエントリがあり、また別の /etc/bootparams ファイルに、全システムのプロファイルサーバーへのアクセスを可能にする登録がある。後者の登録は、次のようになっている。

```
* install_config=profile_server:path
```

このエラーは、NIS または NIS+ bootparams テーブルに、このような行が存在していても発生する。

原因 1 の対処方法: ネットワーク上の複数のサーバーの /etc/bootparams ファイルにインストールクライアントが登録されていないか調べます。登録されている場合は、インストールクライアントに使用させたいインストールサーバーまたはブートサーバー以外のサーバーの /etc/bootparams ファイルから登録を削除します。

原因 2 の対処方法: インストールクライアントが、複数の /tftpboot または /rplboot ディレクトリに登録されていないか調べます。登録されている場合は、インストールクライアントに使用させたいインストールサーバーまたはブートサーバー以外のサーバーの /tftpboot または /rplboot ディレクトリから登録を削除します。

原因 3 の対処方法: ネームサービスの bootparams マップまたはテーブルに * install_config= などのワイルドカードを使った登録がある場合は、その登録を削除し、削除したのと同じ行をブートサーバーの /etc/bootparams ファイルに追加します。

```
No network boot server. Unable to install the system.  
See installation instructions.
```

問題	解決方法
<p>SPARC 搭載システムのみ。</p> <p>このエラーは、ネットワーク上でインストールしようとしているシステムで発生する。このシステムは、適切に設定されていない。</p>	<p>ネットワーク上でインストールするようにシステムを設定していることを確認します。詳細は、248ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」を参照してください。</p>
<pre>prom_panic: Could not mount filesystem</pre>	

問題	解決方法
<p>SPARC 搭載システムのみ。</p> <p>ネットワークを介して Solaris 8 のインストールを行なっているときに、ブートソフトウェアが Solaris 8 の CD イメージ (Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD またはインストールサーバー上にある Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージのコピー) を見つけることができない。</p>	<p>インストール用のソフトウェアがマウントされ共有されるように設定してあることを確認します。</p> <p>インストールサーバーの CD-ROM ドライブから Solaris 8 をインストールしている場合、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD が CD-ROM ドライブに挿入されてマウントされている状態で、<code>/etc/dfs/dfstab</code> ファイルで共有されるように設定してあることを確認します。インストールサーバーのディスク上にある Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージのコピーからインストールしている場合、そのコピーへのディレクトリパスが <code>/etc/dfs/dfstab</code> ファイルで共有されていることを確認します。</p>
<pre>Timeout waiting for ARP/RARP packet...</pre>	

問題**解決方法**

SPARC 搭載システムのみ。

クライアントはネットワークを介してブートしようとしているが、認識してくれるシステムを見つけない。

システムのホスト名が NIS または NIS+ のネームサービスに登録されていることを確認します。また、ブートサーバーの `/etc/nsswitch.conf` ファイル内の `bootparams` の検索順序を確認します。

たとえば、`/etc/nsswitch.conf` ファイル内にある次の行は、JumpStart または Solaris 8 対話式インストールプログラムが最初に NIS マップから `bootparams` 情報を探すことを示しています。ここで見つからなかった場合、JumpStart または Solaris 8 対話式インストールプログラムはブートサーバーの `/etc/bootparams` ファイルを調べます。

```
bootparams: nis files
```

```
ip: joining multicasts failed on tr0 - will use link layer broadcasts for multicast
```

問題**解決方法**

IA 搭載システムのみ。

トークンリングカードを使用してシステムをブートすると、このエラーメッセージが表示される。Ethernet のマルチキャストとトークンリングのマルチキャストの動作は異なる。ドライバはこのエラーメッセージを返して、マルチキャストアドレスが無効なことを知らせる。

このエラーメッセージは無視してください。マルチキャストがうまく動作しなければ、IP は代わりにレイヤープロードキャストを使用し、インストールは失敗しません。

```
Requesting Internet address for Ethernet_Address
```

問題**解決方法**

IA 搭載システムのみ。

クライアントはネットワークを介してブートしようとしているが、認識してくれるシステムを見つけない。

システムのホスト名が NIS または NIS+ のネームサービスに登録されているのに、システムがこのエラーメッセージを表示し続ける場合は、レポートしてください。

```
RPC: Timed out
No bootparams (whoami) server responding; still trying...
```

問題	解決方法
IA 搭載システムのみ。 クライアントはネットワークを介してブートしようとしているが、インストールサーバー上の /etc/bootparams ファイルにエントリを持つシステムを見つけることができない。	インストールサーバー上で <code>add_install_client</code> を実行します。これにより /etc/bootparams ファイルに適切なエントリが追加され、クライアントはネットワークを介してブートできます。

```
Still trying to find a RPL server...
```

問題	解決方法
IA 搭載システムのみ。 システムはネットワークを介してブートしようとしているが、サーバーではこのシステムをブートするように設定されていない。	インストールサーバー上で、インストールするシステム用に <code>add_install_client</code> を実行します。 <code>add_install_client</code> コマンドは、必要なネットワークブートプログラムを含む /rplboot ディレクトリを設定します。

一般的な問題

問題	解決方法
システムはネットワークを介してブートされるが、指定したインストールサーバー以外のシステムからブートされる。	ネームサーバー上で、インストール中のシステムに対する /etc/bootparams エントリを更新します。このエントリは、次の構文に従う必要があります。 <code>install_system root=boot_server:path install=install_server:path</code> また、サブネット中で bootparams ファイルに対するインストールクライアントの登録を 1 つだけにします。

問題**解決方法**

SPARC 搭載システムのみ。

インストールサーバーを設定して、ネットワークを介して Solaris 8 をインストールするようにシステムを構成しても、システムをブートできない。

tftpd デーモンがインストールサーバーで実行されていることを確認します。次のコマンドを入力して Return キーを押します。

```
# ps -ef | grep tftpd
```

このコマンドを入力しても tftpd デーモンが実行されていることを示す行が表示されない場合は、`/etc/inetd.conf` ファイルを編集して、次に示す行からコメント文字 (#) を削除します。

```
# tftp dgram udp
wait root /usr/sbin/in.tftpd
in.tftpd -s /tftpboot
```

この変更を行なったあと、システムをリブートしてください。

問題**解決方法**

IA 搭載システムのみ。

ネットワークを介してインストールするため、インストールサーバーを設定してシステムを構成しても、システムをブートできない。

tftpd デーモンがインストールサーバーで実行されていることを確認します。次のコマンドを入力して Return キーを押します。

```
# ps -ef | grep rpld
```

このコマンドを入力しても、rpld デーモンが実行されていることを示す行が表示されない場合は、次のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/rpld
```

この変更を行なったあと、システムをリブートしてください。

Solaris 8 のインストール (初期インストール)

```
/cdrom/Solaris_2.x/SUNWxxx/reloc.cpio: Broken pipe
```

問題

解決方法

バグ ID: 1212370

このエラーメッセージはインストールには影響しない。

このメッセージは無視して、インストールを続けてください。

IA 搭載システムのみ。

IDE ディスクドライブは、Solaris ソフトウェアがサポートする他のドライブのように、不良ブロックを自動的に無効にしません。IDE ディスク上に Solaris 8 をインストールする前に、ディスクの検査を行なってください。

IDE ディスクの検査を行うには、次の手順に従います。

1. 105ページの「IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法」の説明に従って、Solaris 8 対話式インストールプログラムを起動します。この対話式インストールプログラムは、グラフィックスモニターであるかどうかによって、グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) か、キャラクタユーザーインタフェース (CUI) のどちらかを起動します。
2. GUI または CUI プログラムが起動したら、最初の 2、3 の画面で情報を入力し、「継続 (Continue)」オプションを選択します。
3. 「Solaris 8 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面が表示されたら、「終了 (Exit)」オプションを選択して、インストールを終了します。
4. GUI インストールプログラムを使用している場合は、この後の手順のためにコマンドツールウィンドウを開きます。また、CUI インストールプログラムを使用している場合は、システムのシェルを使用します。
5. **format** と入力して、format プログラムを起動します。
6. ディスク面の検査をする IDE ディスクドライブを指定します。

注 - IDE ドライブはターゲット番号を含みません。IDE ドライブ名は `cxidy` 形式です。cx はコントローラ番号、dy はデバイス番号です。

7. `format>` プロンプトで、**fdisk** と入力します。fdisk プログラムを使用して、ディスク上に Solaris パーティションを作成します (Solaris fdisk パーティションがすでに存在する場合は、そのまま残しておいてください)。
8. `format>` プロンプトで、**analyze** と入力します。
9. `analyze>` プロンプトで、**config** と入力します。ディスク検査の現在の設定が表示されます。設定を変更するには、**setup** と入力します。
10. `analyze>` プロンプトで、実行する検査内容によって **read**、**write**、**compare** のいずれかを入力します。format が不良ブロックを発見すると、それらの再マッピングを実行します。
11. `analyze>` プロンプトで、**quit** と入力します。
12. 再マップするブロックを指定する場合は、`format>` プロンプトで **repair** と入力します。
13. **quit** と入力して、format プログラムを終了します。
14. GUI インストールを再開するには、ワークスペースメニューから「インストールの再起動 (Restart Install)」を選択し、CUI インストールを再開するには、**suninstall** と入力します。

Solaris 8 のインストール (アップグレード)

一般的な問題

問題	解決方法
Solaris 8 対話式インストールプログラムが、メタデバイスをシステムにマウントできないため、アップグレードに失敗する。	メタデバイスは自動的にアップグレードできません。詳細は、『 <i>Solstice DiskSuite 4.2.1</i> リファレンス』の「Solaris のアップグレード」を参照してください。
電源の切断やネットワークの接続障害など、ユーザーの管理の及ばない理由によって、アップグレードオプションによるインストールが失敗し、システムがソフトブート不可能な状態になることがある。	<ol style="list-style-type: none">1. システムを Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD またはネットワーク上からリポートします。2. インストール用のアップグレードオプションを選択します。 Solaris 8 対話式インストールプログラムは、システムが部分的にアップグレードされているか判断し、アップグレードを継続します。
Solaris 8 対話式インストールプログラムがファイルシステムをマウントできないため、アップグレードに失敗する。アップグレード中、インストールプログラムは、システムの <code>/etc/vfstab</code> ファイルにリストされているすべてのファイルシステムを、アップグレードしようとしているルートファイルシステムにマウントしようとする。インストールプログラムがファイルシステムをマウントできない場合、失敗して終了する。	システムの <code>/etc/vfstab</code> ファイル内のすべてのファイルシステムがマウントできることを確認します。 <code>/etc/vfstab</code> ファイル内のマウントできない、あるいは問題の原因になっている可能性があるファイルシステムは、すべてコメントにします。このため、Solaris 8 対話式インストールプログラムはアップグレード中、コメントにしたファイルシステムをマウントしません。 注 - アップグレードされるソフトウェアを含む、システムベースのファイルシステム (たとえば <code>/usr</code>) はコメントにできません。

問題**解決方法**

アップグレードするための十分な領域がシステムにない。次の原因を確認して、自動レイアウトを使用して領域を再配置しなくても、この問題を修正できるか調べてください。

原因 1: オートマウントはアップグレード中は有効ではないため、Solaris 8 対話式インストールプログラムは、オートマウントされていないファイルシステムに向けてシンボリックリンクされたパッケージのディレクトリやファイルをインストールしようとする。シンボリックリンクが上書きされると、ディスク容量が十分ではないために、アップグレードは失敗する。

注 - 通常、/var/mail と /var/news ディレクトリは、オートマウントされたファイルシステムであり、アップグレードの影響を受けません。

原因 2: アップグレードしているソフトウェアグループに新しいソフトウェアが追加されたか、既存のソフトウェアのサイズが増えた。アップグレード中、Solaris 8 対話式インストールプログラムは、以前システムにインストールしたソフトウェアグループの一部であるかぎり、どのような新しいソフトウェアでもインストールする。そして、システム上の既存のパッケージもアップグレードする。

原因 1 の対処方法: アップグレード中、「ソフトウェアのカスタマイズ (Customize Software)」画面を利用して、オートマウントされるファイルシステムにファイルまたはディレクトリを作成するソフトウェアパッケージを削除します。これにより、Solaris インストールプログラムは、シンボリックリンクをパッケージのファイルまたはディレクトリで上書きしません。

原因 2 の対処方法: アップグレード中、「ソフトウェアのカスタマイズ (Customize Software)」画面を利用して、多くの領域を必要とするソフトウェアパッケージを削除します。特に、Solaris リリースに追加されているものの、システムに不要なパッケージを調べます。

問題**解決方法**

アップグレードの間、パッケージに関するメッセージが表示される (SUNWolrte, SUNWoldcv, SUNWoldte, SUNWolaud を含む)。

メッセージの例

Doing pkgadd of SUNWolrte to /

このメッセージは、すでにインストールされているパッケージと同じアーキテクチャとバージョンをインストールしようとしていることを示します。

```
Installation of SUNWolrte was  
successful...
```

操作は必要ありません。このメッセージは、情報を伝えるだけのものです。

プラットフォーム名とグループ

各種のハードウェアのプラットフォーム名とグループを表 A-1 に示します。Solaris 8 ソフトウェアをインストールする場合、この情報が必要になることがあります。

注 - システムが動作している場合、システムのプラットフォーム名は `uname -i`、システムのプラットフォームグループは `uname -m` でそれぞれ調べることができます。

表 A-1 プラットフォーム名とグループ

システム	プラットフォーム名	プラットフォームグループ
IA	i86pc	i86pc
SPARCserver 1000	SUNW,SPARCserver-1000	sun4d
SPARCcenter 2000	SUNW,SPARCcenter-2000	sun4d
SPARCstation 5	SUNW,SPARCstation-5	sun4m
SPARCstation 10	SUNW,SPARCstation-10	sun4m
SPARCstation 10SX	SUNW,SPARCstation-10,SX	sun4m
SPARCstation 20	SUNW,SPARCstation-20	sun4m
SPARCstation LX	SUNW,SPARCstation-LX	sun4m

表 A-1 プラットフォーム名とグループ 続く

システム	プラットフォーム名	プラットフォームグループ
SPARCstation LX+	SUNW,SPARCstation-LX+	sun4m
SPARCclassic	SUNW,SPARCclassic	sun4m
SPARCclassic X	SUNW,SPARCclassic-X	sun4m
SPARCstation 4	SUNW,SPARCstation-4	sun4m
Ultra 1 システム	SUNW,Ultra-1	sun4u
Sun Enterprise 1 システム	SUNW,Ultra-1	sun4u
Ultra 30	SUNW,Ultra-30	sun4u
Ultra 2 システム	SUNW,Ultra-2	sun4u
Sun Enterprise 2 システム	SUNW,Ultra-2	sun4u
Sun Enterprise 150	SUNW,Ultra-1	sun4u
Sun Enterprise 250	SUNW,Ultra-2	sun4u
Ultra 450	SUNW,Ultra-4	sun4u
Sun Enterprise 450	SUNW,Ultra-4	sun4u
Sun Enterprise 3000, 3500, 4000, 4500, 5000, 5500, 6000, 6500, 10000	SUNW,Ultra-Enterprise	sun4u
Ultra 5	SUNW,Ultra-5/10	sun4u
Ultra 10	SUNW,Ultra-5/10	sun4u
Ultra 60	SUNW,Ultra-60	sun4u
Ultra 80	SUNW,Ultra-80	sun4u

言語とロケールの値

「ロケール」によって、特定の言語と地域についてのオンライン情報を表示する方法が決定されます。1つの言語でも、日付と時間の表記、綴り、通貨など、地域によって異なるロケールが含まれます。

たとえば、英国綴りの英語を使用する場合は英国用英語 (en_GB) を、米国綴りの英語を使用する場合は米国用英語 (en_US) を選択します。表 B-1 に、プロファイルに locale キーワードを設定するときの値またはロケールを事前設定するときの値を示します。

特定のロケールを使用するには、Solaris 8 の地域対応化バージョンをインストールする必要があります。Solaris 8 ソフトウェアのロケールの詳細は、『国際化対応言語環境の利用ガイド』を参照してください。

表 B-1 ロケールの値

地域	ロケール名	コードセット	説明
日本	ja	eucJP	日本語 EUC コードセット。JIS X0201-1976、JIS X0208-1983、JIS X0212-1990 を含む
	ja_JP.PCK	PCK	PCK。シフト JIS (SJIS) と呼ぶ
	ja_JP.UTF-8	UTF-8	
アルバニア	sq_AL	ISO8859-2	

表 B-1 ロケールの値 続く

地域	ロケール名	コードセット	説明
アルゼンチン	es_AR	ISO8859-1	
オーストラリア	en_AU	ISO8859-1	
オーストリア	de_AT	ISO8859-15	
ベルギー	fr_BE	ISO8859-1	フランス語
	fr_BE.ISO8859-15	ISO8859-15	フランス語。ユーロ通貨をサポート
	nl_BE	ISO8859-1	オランダ語
	nl_BE.ISO8859-15	ISO8859-15	オランダ語。ユーロ通貨をサポート
ボリビア	es_BO	ISO8859-1	
ボスニア	nr	ISO8859-2	
ブラジル	pt_BR	ISO8859-1	
ブルガリア	bg_BG	ISO8859-5	
カナダ	en_CA	ISO8859-1	英語
	fr_CA	ISO8859-1	フランス語
チリ	es_CL	ISO8859-1	
中国	zh	gb2312	簡体字 EUC コードセット。GB 1988-80 と GB 2312-80 を含む

表 B-1 ロケールの値 続く

地域	ロケール名	コードセット	説明
	zh.GBK	GBK	GB 拡張付き簡体字。すべての GB 2312-80 文字、ISO/IEC 10646-1 のすべての Unified Han 文字、日本語ひらがなおよびカタカナ文字、中国語と日本語と韓国語文字セットの記号文字、および ISO/IEC 10646-1 に含まれる文字
コロンビア	es_CO	ISO8859-1	
コスタリカ	es_CR	ISO8859-1	
クロアチア	hr_HR	ISO8859-2	
チェコ共和国	cz	ISO8859-2	
デンマーク	da	ISO8859-1	
	da.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
エクアドル	es_EC	ISO8859-1	
エストニア	et	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
ヨーロッパ	en_EU.ISO8859-15	ISO8859-15	ヨーロッパカルチャーデータを使用し、デフォルトの通貨記号として「ユーロ」を返す。英語
	en_EU.UTF-8	UTF-8	ヨーロッパカルチャーデータを使用し、デフォルトの通貨記号として「ユーロ」を返す。英語

表 B-1 ロケールの値 続く

地域	ロケール名	コードセット	説明
フィンランド	fi	ISO8859-1	
	fi.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
フランス	fr	ISO8859-1	
	fr.ISO8859--15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
	fr.UTF-8	UTF-8	
ドイツ	de	ISO8859-1	
	de.ISO8859--15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
	de.UTF-8	UTF-8	
英国	en_GB	ISO8859-1	
	en_GB.ISO8859--15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
ギリシャ	el.sun_eu_greek	ISO8859-7 (modified)	ユーロ通貨をサポート
グアテマラ	es_GT	ISO8859-1	
ハンガリー	hu	ISO8859-2	
アイルランド	en_IE	ISO8859-1	
	en_IE.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
イスラエル	he	ISO8859-8	
	he_IL	ISO8859-8	

表 B-1 ロケールの値 続く

地域	ロケール名	コードセット	説明
イタリア	it	ISO8859-1	
	it.ISO8859--15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
	it.UTF-8	UTF-8	
韓国語	ko	5601	
	ko.UTF-8	UTF-8	韓国語 EUC コードセット。KS C 5636 と KS C 5601-1987 を含む
ラトビア	lv	ISO8859-13	
リトアニア	lt	ISO8859-13	
ルクセンブルグ	lu	ISO8859-15	
マケドニア	mk_MK	ISO8859-5	
オランダ	nl	ISO8859-1	
	nl.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
ニュージーランド	en_NZ	ISO8859-1	
ニカラグア	es_NI	ISO8859-1	
ノルウェー	no	ISO8859-1	ブークモール (bokmål) ノルウェー語をサポート
	no_NY	ISO8859-1	ニーノシク (nynorsk) ノルウェー語をサポート

表 B-1 ロケールの値 続く

地域	ロケール名	コードセット	説明
パナマ	es_PA	ISO8859-1	
パラ グアイ	es_PY	ISO8859-1	
ペルー	es_PE	ISO8859-1	
ポーランド	pl	ISO8859-2	
ポルトガル	pt	ISO8859-1	
	pt.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
ルーマ ニア	ro_RO	ISO8859-2	
ロシア	ru	ISO8859-5	
	ru.KOI8-R	KOI8-R	
エルサル バドル	es_SV	ISO8859-1	
サウジア ラビア	ar	ISO8859-6	
セルビア	sr_SP	ISO8859-5	
スロバ キア	sk_SK	ISO8859-2	
スロベ ニア	sl_SI	ISO8859-2	
スペイン	es	ISO8859-1	
	es.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート

表 B-1 ロケールの値 続く

地域	ロケール名	コードセット	説明
	es.UTF-8	UTF-8	
スウェーデン	sv	ISO8859-1	
	sv.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
	sv.UTF-8	UTF-8	
スイス	fr_CH	ISO8859-1	フランス語
	de_CH	ISO8859-1	ドイツ語
台湾	zh_TW	cns11643	繁体字
	zh_TW.BIG5	BIG5	繁体字
タイ	th_TH	TIS 620-2533	
トルコ	tr	ISO8859-9	
米国	en_US	ISO8859-1	
	en_US.UTF-8	UTF-8	
	C	ISO/IEC 646 (US-ASCII)。8ビット文字はサポートしない	
ウルグアイ	es_UY	ISO8859-1	
ベネズエラ	es_VE	ISO8859-1	

用語集

begin スクリプト	ユーザーが定義する Bourne シェルスクリプト。rules ファイル内で指定され、Solaris ソフトウェアがシステムにインストールされる前に作業を実行する。このスクリプトはカスタム JumpStart インストールでのみ使用できる。
DHCP	動的ホスト構成プロトコルは、アプリケーション層プロトコルであり、TCP/IP ネットワーク上の個々のコンピュータつまりクライアントが、中央管理を行なっている指定の DHCP サーバーから IP アドレスなどのネットワーク構成情報を抽出できるようにする。この機能は、大規模な IP ネットワークの保持、管理によるオーバーヘッドを削減する。
/etc	重要なシステム構成ファイルや保守コマンドが収められているディレクトリ
/export	OS サーバー上のファイルシステムで、ネットワーク上の他のシステムと共有される。たとえば、/export ファイルシステムには、ディスクレスクライアント用のルートファイルシステムとスワップ、それにネットワーク上のユーザーのホームディレクトリを収めることができる。ディスクレスクライアントは、起動と実行のために OS サーバー上の /export ファイルシステムに依存する。
fdisk パーティション	IA 搭載システムにある特定のオペレーティングシステム専用のディスクドライブの論理パーティション。Solaris 8 対話式インストールプログラムの実行時には、IA 搭載システム上に 1 つ以上の Solaris 8 fdisk パーティションを設定する必要がある。IA 搭載システムは、各ドライブで最高 4 つまでの異なるオペレーティングシステム

をサポートするよう設計されている。各オペレーティングシステムは、独自の fdisk パーティション上に存在しなければならない。

finish スクリプト

ユーザーが定義する Bourne シェルスクリプト。rules ファイル内で指定され、Solaris ソフトウェアがシステムにインストールされてから、システムがリブートされるまでの間に作業を実行する。このスクリプトは、カスタム JumpStart インストールでのみ使用できる。

IPv6

IPv6 は、現在のバージョン IPv4 (バージョン 4) から拡張されたインターネットプロトコル (IP) の新しいバージョン (バージョン 6) である。これは、IPv4 を強化したものである。定義された移行方法を使用して IPv6 を採用すると、現在の運用を中断する必要はない。また、IPv6 には、新しいインターネット機能用のプラットフォームも用意されている。

IPv6 の詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 3 巻)』を参照。

IP アドレス

インターネットプロトコル (Internet Protocol, IP) アドレス。インターネットプロトコルを介して通信するためにネットワークシステムを識別する一意な番号で、ピリオドによって区切られた 4 つの数字 (例: 192.9.9.1) から構成される。通常、IP アドレスの各部は 0~225 の番号であるが、最初の番号は 224 未満とし、最後の番号は 0 以外にする必要がある。

IP アドレスは論理的には、ネットワーク (市外局番のようなもの) とネットワーク上のシステム (電話番号のようなもの) の 2 つの部分に分割される。たとえば、クラス A の IP アドレスは「network.local.local.local」となり、クラス C の IP アドレスは「network.network.network.local」となります。

クラス	範囲 (xxx は 0 から 255 までの数字)	使用できる IP アドレス数
クラス A	1.xxx.xxx.xxx - 126.xxx.xxx.xxx	1600 万以上
クラス B	128.0.xxx.xxx - 191.255.xxx.xxx	65,000 以上
クラス C	192.0.0.xxx - 223.255.255.xxx	256

ISA	Industry Standard Architecture の略。IA 搭載システムのバスタイプの 1 つ。ISA バスシステムは「ダム (dumb)」タイプで、システムがデバイスを自動的に検出して構成できるようなメカニズムは提供していない。
JumpStart インストール	インストール方法の 1 つ。出荷時にインストールされている JumpStart ソフトウェアを使用することによって、Solaris ソフトウェアがシステムに自動インストールされる。
JumpStart ディレクトリ	カスタム JumpStart インストール用にプロファイルフロッピーディスクを使用するときのフロッピーディスク上のルートディレクトリ。このディレクトリには、必要なカスタム JumpStart ファイルがすべて含まれる。カスタム JumpStart インストール用にプロファイルサーバーを使用する場合は、サーバー上のディレクトリで、必要なカスタム JumpStart ファイルがすべて含まれる。
Kerberos	強力な秘密鍵暗号方式を使用して、クライアントとサーバーが、セキュリティ保護されていないネットワーク接続で相互を認識できるようにするネットワーク認証プロトコル
NIS	Network Information Service (ネットワーク情報サービス) の略。SunOS 3.x、4.x、および Solaris 1.x システムで標準のネームサービス
NIS+	Network Information Service Plus (ネットワーク情報サービスプラス) の略。NIS に代わるもので、情報を自動更新し、承認や認証などのセキュリティ機能が追加されている。NIS+ は Solaris 2.x、Solaris 7 および Solaris 8 システムでは標準のネームサービス
/opt	Sun 以外のソフトウェア製品や別製品のソフトウェア用のマウントポイントが取められているファイルシステム
OS サーバー	ネットワーク上のシステムにサービスを提供するシステム。ディスククライアントにサービスを提供するには、OS サーバーは、各ディスククライアントごとに、ルートファイルシステムとスワップ領域 (/export/root、/export/swap) 用のディスク空間が必要である。

rules ファイル	自動的にインストールしたいシステムの各グループ (または、単一のシステム) のルールを含んでいるテキストファイル。各ルールは、1 つ以上のシステム属性に基づいてシステムのグループを区別し、各グループをプロファイルにリンクする。プロファイルは、Solaris 8 ソフトウェアのグループ内の各システムへのインストール方法を定義するテキストファイル。「プロファイル」も参照。
rules.ok ファイル	rules ファイルから生成されたファイル。カスタム JumpStart インストールソフトウェアがシステムをプロファイルに一致させるために必要である。 check スクリプトを使用して rules.ok ファイルを作成しなくてはならない。
Solaris 8 CD イメージ	システムにインストールされた Solaris 8 ソフトウェア。Solaris CD、または Solaris 8 CD イメージからコピーしたインストールサーバーのハードディスク上から利用できる。
Solaris 8 対話式インストールプログラム	グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) またはキャラクターユーザーインターフェース (CUI) ベースのメニュー方式対話スクリプト。これによりシステムを設定し、Solaris 8 ソフトウェアをインストールできる。
sysidcfg ファイル	システムを事前設定する特殊な一連のシステム構成キーワードを指定するファイル
/usr	スタンドアロンシステムまたはサーバー上のファイルシステム。標準 UNIX プログラムの多くが収められている。ローカルコピーを保持する代わりに、大きな /usr ファイルシステムをサーバーと共有することにより、システム上で Solaris 8 ソフトウェアをインストールおよび実行するために必要なディスク容量を最小限に抑えることができる。
/var	システムの存続期間にわたって変更または増大が予想されるシステムファイルが収められている (スタンドアロンシステム上の) ファイルシステムまたはディレクトリ。これらのファイルには、システムログ、 vi ファイル、メールファイル、 uucp ファイルなどがある。
アップグレードオプション	Solaris 8 対話式インストールプログラムのオプションの 1 つ。アップグレードでは、新しいバージョンの Solaris がディスク上の既存

のファイルと結合され、前回 Solaris がインストールされてから加えられたローカルでの変更内容をできるかぎり残す。

インストールサーバー	インストール用に、Solaris 8 CD イメージをネットワーク上の他のシステムに提供するサーバー（「メディアサーバー」とも呼ばれる）。Solaris 8 CD イメージをサーバーのハードディスクにコピーすることによってインストールサーバーを作成できる。
エンドユーザーシステムサポート	コアソフトウェアグループの他に、エンドユーザーに推奨するソフトウェアが収められているソフトウェアグループ。これには OpenWindows または共通デスクトップ環境 (CDE) や DeskSet などが含まれる。
開発者システムサポート	エンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループの他に、ソフトウェア開発用ライブラリ、インクルードファイル、マニュアルページ、およびプログラミングツールが収められているソフトウェアグループ
カスタム JumpStart	ユーザーが定義するプロファイルに基づいて、Solaris ソフトウェアがシステムに自動的にインストールされるようなインストール方法。ユーザーやシステムの種類が異なるごとに、カスタマイズされたプロファイルを作成できる。カスタム JumpStart インストールは、ユーザーが作成する JumpStart インストールである。
カスタムプローブファイル	rules ファイルと同じ JumpStart ディレクトリに存在しなければならないファイルで、プローブと比較という 2 つのタイプの関数を含む Bourne シェルスクリプト。プローブ関数は、必要な情報を収集するかまたは実際の作業を実行して、定義された対応する SI_環境変数を設定する。プローブ関数は、プローブキーワードになる。比較関数は、対応するプローブ関数を呼び出してプローブ関数の出力を比較し、キーワードが一致する場合は 0、キーワードが一致しない場合は 1 を返す。比較関数はルールキーワードになる。「rules ファイル」も参照。
クライアント	ネットワークに接続されているシステム
クラスタ	ソフトウェアパッケージを論理的にグループ化したもの。Solaris ソフトウェアは 4 つの「ソフトウェアグループ」に分割され、それぞれがクラスタと「パッケージ」から構成されている。

コア	システムで Solaris オペレーティング環境を起動して実行するのに必要な最小限のソフトウェアが収められているソフトウェアグループ。これには共通デスクトップ環境 (CDE) または OpenWindows 環境を実行するために必要ないくつかのネットワーク用ソフトウェアとドライバが含まれるが、CDE または OpenWindows ソフトウェア自体は含まれない。
サーバー	「OS サーバー」を参照
サブネット	単一の論理ネットワークをより小さな物理ネットワークに分割して、経路指定を簡素化する方式
サブネットマスク	32 ビット長のビットマスク。IP アドレスから必要なネットワーク情報やシステム情報を判定するために使用される。
時間帯	グリニッジ標準時間を基準に地球の表面を 24 の地域に経度分割したもの
システムタイプ	システムの設定方法の種別。どのタイプであるかによって、システムの実行する Solaris 8 ソフトウェアが異なる。有効なシステムタイプは、スタンドアロンシステム、ディスクレスクライアント、OS サーバー。ただし、このマニュアルでは、Solaris 8 対話式インストールプログラムでインストールできる、スタンドアロンシステムと OS サーバーのみを説明している。
初期インストールオプション	Solaris 8 対話式インストールプログラムの実行時に提示される、新バージョンの Solaris でディスクを上書きするオプション。初期インストールオプションはアップグレード可能なシステムでも表示されるが、初期インストールオプションを選択した場合、旧バージョンの Solaris ソフトウェア (ローカルの変更内容も含めて) が含まれているディスクは上書きされる。
スタンドアロン	自分のルート (/) ファイルシステム、スワップ領域および /usr ファイルシステムをローカルディスクに備えたシステム。OS サーバーからのブートサービスやソフトウェアサービスを必要としない。スタンドアロンシステムはネットワークに接続できる。
スライス	1 つの連続したブロックの範囲で構成されるディスク上の領域。スライスはディスクの物理的なサブセットである。ディスク上に

	ファイルシステムを作成する前に、ディスクをスライスにフォーマットしなければならない。
スワップ領域	システムに現在のプロセスを処理できるだけの十分なシステムメモリーがない場合に、仮想記憶領域として使用されるディスク空間
全体ディストリビューション	Solaris 8 のリリース全体が含まれているソフトウェアグループ
全体ディストリビューションと OEM サポート	Solaris 8 のリリース全体と、OEM のための追加ハードウェアサポートを含むソフトウェアグループ。Solaris を SPARC 搭載サーバーシステムにインストールする場合は、このソフトウェアグループを推奨する。
ソフトウェアグループ	Solaris ソフトウェアの論理グループ (クラスタとパッケージ)。Solaris のインストール時には、コア、エンドユーザーシステムサポート、開発者システムサポート、全体ディストリビューションの各ソフトウェアグループから 1 つをインストールできる。
対話式インストール	インストールの 1 つの形式で、対話式インストールプログラムと対話を行うことによって Solaris 8 ソフトウェアをシステムにインストールする。
ディスク構成ファイル	ディスクの構造 (たとえば、バイト/セクター、フラグ、スライス) を表現するファイル。ディスク構成ファイルにより、単一システムから <code>pfinstall</code> を使用して、サイズの異なるディスクについてのプロファイルをテストできる。
ディスクレスクライアント	自分のディスクを持たずに、ソフトウェアやファイルの格納についてサーバーに完全に依存する、ネットワークに接続されたシステム。ディスクレスクライアントは、ファイルサーバーにすでにインストールされているソフトウェアを使用するため、Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用する必要はない。
電源管理システム	システムの状態を自動的に保存し、30 分間アイドル状態が続くと電源を切断するソフトウェア。米国 Environmental Protection Agency's Energy Star ガイドラインのバージョン 2 に準拠するシステム (たとえば sun4u SPARC システム) に Solaris ソフトウェアをインストールする場合、電源管理システムはデフォルトでインストールされて、再起動後、電源管理ソフトウェアを有効または無効にするかを尋ねられる。

Energy Star ガイドラインでは、システムまたはモニターを使用していない場合は、自動的に「休眠状態」(30 ワット以下の消費)に入ることが要求される。

動的プロファイル	カスタム JumpStart インストール時に、begin スクリプトによって動的に作成されるプロファイル
ドメイン	インターネットのネーミング階層の一部。管理ファイルを共有する、ローカルネットワーク上のシステムグループを表す。
ドメイン名	ローカルネットワーク上のシステムグループの識別名。ドメイン名は、ピリオドで区切られた一連の構成要素名から構成される (たとえば、tundra.mpk.ca.us)。ドメイン名は、右側ほど構成要素名は全体的な (通常はリモートな) 管理権限領域を表す。
ネームサーバー	ネットワーク上のシステムに対してネームサービスを提供するサーバー
ネームサービス	ネットワーク上のシステムが互いに通信できるよう、ネットワーク上の全システムについての重要なシステム情報が取められている分散型ネットワークデータベース。ネームサービスを使用することによって、ネットワーク全域にわたるシステム情報を保守、管理、またはアクセスできる。Sun では NIS と NIS+ のネームサービスをサポートしている。ネームサービスを使用しないと、各システムは (ローカルの /etc ファイルに) システム情報のコピーを保持しなければならない。
ネットワークインストール	ネットワーク上でソフトウェアをインストールする方法。ネットワークインストールを行うには、「ネームサーバー」と「インストールサーバー」が必要。
ネットワークに接続されていないシステム	ネットワークに接続されていない、または他のシステムに依存しないシステム
ネットワークに接続されているシステム	ハードウェアとソフトウェアによって接続されているシステムのグループ (ホストと呼ばれる)。通信と情報の共用が可能。通常、ローカルエリアネットワーク (LAN) とも呼ばれる。システムをネットワークに接続するには、通常、1 台以上のサーバーが必要。

パッケージ	ソフトウェアアプリケーションを形成する、機能的にグループ化されたファイルとディレクトリ。Solaris ソフトウェアは4つの「ソフトウェアグループ」に分類され、それぞれが「クラスタ」とパッケージで構成される。
パッチアナライザ	手動で、または Solaris 8 対話式インストールプログラムの一部として実行するスクリプトで、システムの解析を実行して、Solaris 8 Update へのアップグレードによってどのパッチが削除されるかを判断する。
ファイルサーバー	ネットワーク上のシステムに対して、ソフトウェアやファイルの記憶領域を提供するサーバー
ファイルシステム	ファイルとディレクトリの集合で、論理階層に組み立てられた場合には、組織化され構造化された情報のセットを構成する。ファイルシステムは、ユーザーのローカルシステムやリモートシステムからマウントできる。
ブートサーバー	同じサブネット上のシステムとディスクレスクライアントにブートサービスを提供するサーバー。インストールサーバーの存在するサブネットが、Solaris ソフトウェアをインストールする必要があるシステムと異なる場合は、ブートサーバーが必要。
プラットフォームグループ	特定のソフトウェア用にベンダーが定義するハードウェアプラットフォームのグループ。たとえば i86pc や sun4c など
プラットフォーム名	uname -i コマンドによって出力される情報。たとえば Ultra 60 のプラットフォーム名は、SUNW,Ultra-60
プローブキーワード	ルールの場合のように照合条件を設定してプロファイルを実行せずに、システムに関する属性情報を抽出するための構文要素。「ルール」も参照。
プロファイル	Solaris ソフトウェアのシステムへのインストール方法 (たとえば、どのソフトウェアグループをインストールするか) を定義するテキストファイル。各ルールは、そのルールが一致したときにシステムがインストールされる方法を定義してあるプロファイルを指定する。通常はルールごとに異なるプロファイルを作成するが、複数の

	ルールで同じプロファイルを使用することも可能。「rules ファイル」を参照。
プロファイルサーバー	すべての重要なカスタム JumpStart ファイルを JumpStart ディレクトリに持つサーバー
プロファイルフロッピーディスク	すべての重要なカスタム JumpStart ファイルを、そのルートディレクトリ (JumpStart ディレクトリ) に持つフロッピーディスク
ホスト名	システムがネットワーク上の他のシステムから識別される名前。この名前は、所定のドメイン (通常、これは 1 つの組織内にあることを意味する) 内にある全システム間で固有でなければならない。ホスト名は、文字、数字、マイナス符号 (-) を任意に組み合わせて作成できるが、先頭と末尾にマイナス符号は使用できない。
ボリュームマネージャ	CD-ROM やフロッピーディスク上のデータへのアクセスを管理および実行するための手段を提供するプログラム
マウント	mount コマンドを実行することによって、リモートまたはローカルのファイルシステムをアクセス可能にするプロセス。ファイルシステムをマウントするには、ローカルシステム上のマウントポイントと、マウントするファイルシステム名 (たとえば /usr) が必要。
マウントポイント	システム上のディレクトリ。ローカルシステムやリモートシステムに存在するファイルシステムをマウントできる。
ミニルート	起動可能な最小の Solaris root ファイルシステム。ミニルートには、カーネルと、Solaris 環境をハードディスクにインストールするために必要な最小限のソフトウェアが含まれる。ミニルートは、初期インストールでマシンにコピーされるファイルシステム
メディアサーバー	「インストールサーバー」を参照
/ (ルート)	システムの階層型ファイルツリーの最上位にあるファイルシステム。ルートディレクトリには、カーネル、デバイスドライバ、システムの起動 (ブート) に使用されるプログラムなど、システム操作に不可欠なディレクトリやファイルが含まれている。
ルール	1 つ以上のシステム属性をプロファイルに割り当てる一連の値
ロケール	ある地域または地方に関連する特定の言語

索引

記号

#

rules ファイル内の 159
プロファイル内の 168

A

add_install_client コマンド
JumpStart ディレクトリのアクセス 151
インストールサーバーの設定 249
構文 249
例 250
AND ルールフィールド 160
any
プローブキーワード 225
ルールキーワード 161, 224
arch プローブキーワード 224
arch ルールキーワード 161, 224
auto_install_sample ディレクトリ
check スクリプト 203, 231
JumpStart ディレクトリへファイルをコピー 154, 157
set_root_pw finish スクリプト 211, 212
ファイルを JumpStart ディレクトリへコピーする 150

B

backup_media キーワード 170
banner コマンド 238
begin.log ファイル 206
begin スクリプト
アクセス権 206

概要 206

サイト固有のインストールプログラム 219

動的プロファイルの作成 206, 207
ルールフィールド 160

begin ルールフィールド

説明 160

boot: cannot open /kernel/unix メッセージ 275

bootparams ファイル

JumpStart ディレクトリへのアクセスを有効にする 151

更新 282

boot_device キーワード 172

Bourne シェルスクリプト、ルールフィールド内の 160

-b オプション、setup_install_server コマンドの 245, 266

C

cannot open /kernel/unix メッセージ 275
Can't boot from file/device メッセージ 275
CD-ROM ドライブ
インストール 235
問題の解決 280
check スクリプト
custom_probes.ok ファイルの作成 230
custom_probes ファイルの妥当性検査 230, 231
rules.ok ファイルの作成 202
rules の妥当性検査 203

- rules ファイルの妥当性検査 202, 203, 231
 - 動的プロファイル 207
 - ルールの検査 231
- client_arch キーワード 174
- client_root プロファイルキーワード 174
- clock gained xxx days メッセージ 275
- cluster プロファイルキーワード
 - 説明と値 175, 176
 - 例 193
- Could not mount filesystem メッセージ 280
- CPU (プロセッサ)
 - プローブキーワード 224
 - ルールキーワード 161, 224
- .cshrc ファイル 211
- custom_probes.ok ファイル
 - 作成 230
 - 説明 230
- custom_probes ファイル
 - check による検証 231
 - check による妥当性検査 230
 - custom_probes の検査 231
 - 名前の指定 227
 - 要件 227
- c オプション
 - add_install_client コマンド 250, 270, 271
 - pfinstall コマンド 198

D

- dd コマンド 156
- default
 - partitioning 188, 190
- dfstab ファイル 149, 266
- DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol)
 - の事前設定 44
- disksize ルールキーワード
 - 説明と値 162, 224
- disks プロブキーワード
 - 説明と値 224
- domainname プロブキーワード 224
- domainname ルールキーワード 162, 224
- dontuse プロファイルキーワード 176, 190
- d オプション
 - add_install_client コマンド 250
- D オプション、pfinstall コマンドの 198
- d オプション、pfinstall コマンドの 198

E

- eng_profile の例 267
- /etc/bootparams ファイル
 - JumpStart ディレクトリへのアクセスを有効にする 151, 282
- /etc/dfs/dfstab ファイル 149, 266
- /etc/locale ファイル 54
- /etc/mnttab ファイル 153
- existing
 - partitioning の値 188
- explicit
 - partitioning の値 189
- /export ファイルシステム 25

F

- fdformat コマンド 154, 157
- fdisk コマンド 216
- fdisk プロファイルキーワード
 - 説明と値 177
 - 例 193
- file just loaded does not appear to be
 - executable メッセージ 274
- filesys キーワード 180
- filesys プロファイルキーワード
 - 説明と値 179
 - 例 193
- finish.log ファイル 208
- finish スクリプト
 - システムの root パスワードを設定する 211
 - パッケージとパッチの追加 209
 - ファイルの追加 208
 - ルート環境のカスタマイズ 211
 - ルールフィールド 161
- finish ルールフィールド
 - 説明 161

G

- geo キーワード 182
- getfile: RPC failed: error 5: RPC Timed out
 - メッセージ 152, 279

H

- hostaddress プロブキーワード 224

hostaddress ルールキーワード 162, 224
hostname プローブキーワード
説明と値 224
hostname ルールキーワード
説明と値 162, 224
例 161

I

IDE インタフェース
表面検査 285
不良ブロックのマッピング 285
installed プローブキーワード
説明と値 225
installed ルールキーワード
説明と値 163, 225
install_config コマンド 151, 152
install_type キーワード 183
install_type プロファイルキーワード
プロファイルのテスト 199, 201
要件 168, 193
例 193
Internet Protocol アドレス
事前設定 44
ip: joining multicasts failed メッセージ 281
IPv6 の事前設定 44
IP アドレス
プローブキーワード 224
ルールキーワード 162, 224
IRQ レベルの事前設定 45
isa_bits キーワード 184

J

joining multicasts failed メッセージ 281
JumpStart インストール 23
JumpStart ディレクトリ
finish スクリプトによりファイルを追加 208
finish スクリプトによるファイルの追加 209
rules ファイルの例 159
アクセス権 148, 153
共有 148, 266
作成 148, 153, 155, 266
ファイルのコピー 150, 154, 157, 208

K

karch プローブキーワード 225
karch ルールキーワード 163, 225
Kerberos
事前設定 44

L

layout_constraint キーワード 184
le0: No carrier - transceiver cable problem
メッセージ 274
Linux オペレーティングシステム 107
locale.org_dir テーブルエントリの追加 55
locale キーワード 186

M

Makefile ファイル 52
marketing_profile の例 268
memsize プローブキーワード
説明と値 225
memsize ルールキーワード
説明と値 163, 225
mnttab ファイル 153
model プローブキーワード
説明と値 225
model ルールキーワード
説明と値 164, 225
mount コマンド 238
multicasts failed メッセージ 281

N

netmask の事前設定 44
network プローブキーワード
説明と値 225
network ルールキーワード
説明と値 164, 225
nistbladm コマンド 55, 56
No carrier - transceiver cable problem メッセージ 274
No network boot server メッセージ 280
Not a UFS filesystem メッセージ 276
num_clients プロファイルキーワード 187

O

osname プローブキーワード 225

osname ルールキーワード 164, 225
OS サーバー
説明 236
ネットワークインストールの要件< 236

P

package プロファイルキーワード
説明と値 187
partitioning
fdisk パーティション 177, 193
使用しないディスク 176
プロファイルキーワード 188, 190
例 193
partitioning キーワード 188
pfinstall コマンド 61, 196
probe ルールキーワード
説明と値 165
prom_panic: Could not mount filesystem メッセージ 280
prtvtoc コマンド
IA: ディスク構成ファイルの作成 215
SPARC: ディスク構成ファイルの作成 213
-p オプション、check スクリプトの 203, 231

R

Requesting Internet address メッセージ 281
reset コマンド 238
rootdisk
fileys のスライス値 180
JumpStart で設定される値 191
定義 191
root_device キーワード 189
root パスワード
事前設定 44
root パスワードを finish スクリプトで設定する 211
RPC failed: error 5: RPC Timed out メッセージ 152, 279
RPC Timed out メッセージ 152, 279, 282
rules.ok ファイル
作成 202
説明 202, 230
ルールの照合順序 166, 258, 262
rules ファイル
check による妥当性検査 202, 231

check を使用して検査する 269
check を使用する妥当性検査 203, 207
rules の妥当性検査 203
カスタム JumpStart の例 268, 269
構文 160
コメント 159
作成 158
説明 158
名前 167
名前の割り当て 159
複数行のルール 159
ルールの追加 160, 167
例 159
rule_keyword ルールフィールド 160
rule_value ルールフィールド 160
-r オプション、check スクリプトの 203, 231

S

setup_install_server コマンド
インストールサーバーの設定 240, 241, 245, 246
説明 237
ブートサーバーの設定 245
set_root_pw finish スクリプト 211, 212
shareall コマンド 149, 266
share コマンド
JumpStart ディレクトリの共有 266
共有 JumpStart ディレクトリ 149
size
fdisk パーティション 178
ローカルファイルシステム 180
SI_CONFIG_DIR 変数 208
SI_PROFILE 環境変数 207
slices
fileys の値 180
プロファイルの例 193
ルールキーワード 163
Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスク 156
Solaris 8 DOCUMENTATION ASIAN CD 構成 40
Solaris 8 DOCUMENTATION EUROPEAN CD 構成 41
Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) 構成 33

- Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (SPARC)
 - 構成 33
- Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel)
 - インストールサーバーのローカルディスクへコピーする 241, 246
 - 構成 38
 - マウント 241, 246
- Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC)
 - インストールサーバーのローカルディスクへコピーする 241, 246
 - 構成 38
 - マウント 241, 246
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)
 - CD-ROM ドライブがないシステムでのインストール 235
 - インストールサーバーのローカルディスクへコピーする 237, 240, 245
 - マウント 240
 - マウントされたファイルシステムの表示 238
 - ローカルディスク上のイメージ 150, 157
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)
 - CD-ROM ドライブがないシステムでのインストール 235
 - インストールサーバーのローカルディスクへコピーする 237, 240, 245
 - マウント 240
 - マウントされたファイルシステムの表示 238
 - ローカルディスク上のイメージ 150, 154
- Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)
 - CD-ROM ドライブがないシステムでのインストール 235
 - インストールサーバーのローカルディスクへコピーする 237, 240, 246
 - マウント 240, 246
 - マウントされたファイルシステムの表示 238
- Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)
 - CD-ROM ドライブがないシステムでのインストール 235
 - インストールサーバーのローカルディスクへコピーする 237, 240, 246
 - マウント 240, 246
 - マウントされたファイルシステムの表示 238
- Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel)
 - 構成 36
 - マウント 245
- Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC)
 - 構成 34
 - マウント 245
- Solaris 8 インストールの準備
 - ネットワークでの準備 235
- Solaris 8 ソフトウェア
 - グループ 175, 176, 187, 193
 - リリースまたはバージョン 163, 225
- Solaris 8 ソフトウェアのバージョン
 - installed プロンプトキーワード 225
 - installed ルールキーワード 163, 225
- Solaris 8 ソフトウェアのリリース
 - installed プロンプトキーワード 225
 - installed ルールキーワード 163, 225
 - osname プロンプトキーワード 225
 - osname ルールキーワード 164, 225
- Solaris Web Start
 - 説明 24
- Solaris ソフトウェア
 - リリースまたはバージョン 164, 225
- Solaris ソフトウェアのバージョン
 - osname プロンプトキーワード 225
 - osname ルールキーワード 164, 225
- Still trying to find a RPL server メッセージ 282
- stty コマンド 72, 107, 255, 260
- subnet
 - インストールサーバーと 243
- SunOS 4.x システム
 - アップグレード 65, 102
- SUNWCall グループ 175
- SUNWCprog グループ 175
- SUNWCreq グループ 175
- SUNWCuser グループ 175
- SUNWCXall グループ 175
- sysidcfg ファイル
 - ガイドラインと要件 45
 - キーワード 47
 - 構文規則 47
 - 作成方法 51
- system_type プロファイルキーワード
 - 説明と値 190
 - 例 193
- s オプション、add_install_client コマンド 250, 271

T

fttpd デーモン 283
timed out RPC エラー 279, 282
Timeout waiting for ARP/RARP packet メッセージ 281
tip ライン接続とカスタム JumpStart インストール 255, 260
tip ライン接続と対話式インストール 72, 107
totaldisk プロンプトキーワード 225
totaldisk ルールキーワード 165, 225
transceiver cable problem メッセージ 274

U

UFS 154
Unable to install the system メッセージ 280
uname コマンド 238
Unknown client error メッセージ 273
upgrade_cleanup ファイル 102, 140
upgrade_log ファイル 62
usedisk プロファイルキーワード
説明と値 190
/usr/sbin/rpld コマンド 283

V

/var/sadm/begin.log ファイル 206
/var/sadm/finish.log ファイル 208
/var/sadm/install_data/upgrade_log ファイル 62
/var/yp/Makefile ファイル 52
/var/yp/make コマンド 55
/var ファイルシステム 25
volcheck コマンド 153, 156

W

WARNING: clock gained xxx days メッセージ 275

あ

アクセス権
begin スクリプト 206
finish スクリプト 208
JumpStart ディレクトリ 148, 153

新しい行に続ける、rules ファイル内で 159
アップグレード
後の整理 139
アップグレードインストール
SunOS 4.x システム 65, 102
アップグレードの失敗 286, 287
インストールパッチ 61
カスタム JumpStart インストール 253
準備 65, 102
初期インストールとの比較 65, 102
頻繁に寄せられる質問 61
ブートファイルの位置の変更 275
プロファイルキーワード 176, 183, 188
ログファイル 62
アップグレードオプション 60
アップグレード後の整理 101
アップグレードの計画 69, 104
アップグレードの失敗
リポートの問題 286, 287
アンパサンド (&&) ルールフィールド 160

い

依存型キーワード 46
インストールサーバー
Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) を
ローカルディスクへコピーする 241, 246
Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) を
ローカルディスクへコピーする 241, 246
Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を
ローカルディスクへコピーする 237, 240, 245
Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)
をローカルディスクへコピーする 237, 240, 245
Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) を
ローカルディスクへコピーする 237, 240, 246
Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)
をローカルディスクへコピーする 237, 240, 246

作成 239
サブネット上の 243
使用可能なシステムタイプ 239
説明 235

- ネットワークインストールの設定 249
- ネットワークインストールの要件 235
- ローカルディスクへ Solaris 8 SOFTWARE
1 of 2 CD (SPARC) をコピー
する 237
- ローカルディスクへ Solaris 8 SOFTWARE
2 of 2 CD (SPARC) をコピー
する 237
- インターネットアドレス要求 281

え

- エンドユーザーシステムサポートソフト
ウェアグループ 175

か

- カーネルの位置とアップグレードインストー
ル 275

開始

- check スクリプト 203, 204
- 開発者システムサポートソフトウェア
プロファイルの例 193
- 開発者システムサポートソフトウェアグル
ープ 175

カスタム JumpStart

- アップグレード時 61

カスタム JumpStart インストール 253

- tip ライン接続 255, 260
- オプション機能 206, 207, 212, 219
- 概要 146
- 準備 146, 204
- 説明 146
- ブートとインストール 253
- 要件 24
- 例 143, 144, 264 - 269, 271

画面

- tip ライン接続と対話式インストール 72,
107

- 画面サイズの事前設定 45
- カラー深度の事前設定 45
- 代替のインストールプログラム 219
- 完全バックアップコマンド 68
- 感嘆符 (!) ルールフィールド 160

き

- キーボード言語、配置の事前設定 45

キーワード

- 依存型 46
- 種類 46
- 非依存型 46
- ブローブ 224

起動

- rpld デーモン 283
- tftpd デーモン 283

共有

- JumpStart ディレクトリ 149, 266

く

- グラフィックスカードの事前設定 45

け

- 計画、ディスク容量 25

検査

- custom_probes ファイルの検査 231
- rules ファイルの妥当性検査 202, 203, 207
- プロファイル 61, 199, 213, 215

検証

- custom_probes ファイル 231
- rules ファイル 204
- プロファイル 199

こ

- コアシステムサポートソフトウェア 175

構成 24

- ディスク構成ファイルの作成 213, 215
- ユーザーの介入なしにネットワークでイン
ストールする場合の要件 24

- 構成、Solaris 8 DOCUMENTATION ASIAN
CD の 40

- 構成、Solaris 8 DOCUMENTATION
EUROPEAN CD の 41

- 構成、Solaris 8 INSTALLATION
MULTILINGUAL CD (Intel)
の 33

- 構成、Solaris 8 INSTALLATION
MULTILINGUAL CD
(SPARC) の 33

- 構成、Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel)
の 38

構成、Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) の 38

構成、Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel) の 36

構成、Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC) の 34

コスト効率の高いインストール方法 23

コピー

- CD の JumpStart インストールファイル 154, 157
- JumpStart ディレクトリファイル 208
- Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスク 156
- Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) をインストールサーバーのローカルディスクへ 246
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) の JumpStart インストールファイル 150
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) の JumpStart インストールファイル 150
- Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) をインストールサーバーのローカルディスクへ 240
- インストールサーバーのローカルディスクへ Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) を 241
- インストールサーバーのローカルディスクへ Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) を 241, 246
- インストールサーバーのローカルディスクへ Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を 245
- インストールサーバーのローカルディスクへ Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を 237, 240
- インストールサーバーのローカルディスクへ Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) を 237, 240, 245
- インストールサーバーのローカルディスクへ Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) を 237, 246
- インストールサーバーのローカルディスクへ Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) を 237, 240, 246

コメント

- rules ファイル内の 159
- プロファイル内の 168

さ

サーバー

- JumpStart ディレクトリの作成 148
- ネームサーバー 236
- ネットワークインストールの設定 248
- ネットワークインストールの要件 235
- ルート空間 174

サイズ

- tip ウィンドウの大きさ 255, 260
- tip ウィンドウのサイズ 72, 107
- スワップ空間 146, 174, 190
- ハードディスク 162, 165, 174, 224, 225, 240, 245
- メモリー 163, 225

再設定する、入出力割り込みの後にディスプレイと端末を 238

サイト固有のインストールプログラム 219

削除

- アップグレード時にクラスタを 176
- ソフトウェアグループからパッケージを 187

作成

- custom_probes.ok ファイル 230
- /etc/locale ファイル 54
- JumpStart ディレクトリ 148
- rules.ok ファイル 202, 230
- rules ファイル 158
- sysidcfg ファイル 51
- UFS 154
- インストールサーバー 239
- サブネット上にブートサーバーを 244
- ディスク構成ファイル 213, 215
- プロファイル 167, 206, 207
- ローカルファイルシステム 180

サブネット

- ブートサーバーを作成 244

し

時間帯の事前設定 45

システム構成情報の事前設定

- NIS+ による言語またはロケール 55

- NIS による言語またはロケール 52
- 長所 44
- 電源管理 56
- ネームサービスの使用 52
- 方法の選択 44
- システム情報 104
- システム情報の表示 238
- システムタイプ 21
- 事前設定、システム構成情報の
 - sysidcfg ファイルを使用する 44
 - ネームサービスを使用する 44
- 自動配置 60
- 出力ファイル
 - begin スクリプトログ 206
 - finish スクリプトログ 208
 - アップグレードログ 62
- 準備、Solaris 8 をインストールする
 - JumpStart インストール 23
 - Solaris Web Start 24
 - アップグレードインストール 65, 102
 - カスタム JumpStart インストール 146, 204
 - 対話式インストール 23
- 照合
 - rootdisk の値 191
 - 動的プロファイル 207
 - ルールでの順序 166
 - ルールの順序 258, 262
- 情報 69
- 初期インストールオプション 60
- す
- スクリプト
 - begin スクリプト 206, 207, 219
 - Bourne シェルスクリプト、ルールファイル内での 160
 - finish スクリプト 207, 212, 219
 - ネットワークインストールコマンド 237
- スタンドアロンシステム
 - カスタム JumpStart インストールの例 143
 - ネットワークに接続されているシステムとネットワークに接続されていないシステム 22
 - プロファイルの例 193
- スライス
 - プローブキーワード 225

- プロファイルの例 193
- ルールキーワード 225
- スワップファイルシステム
 - サイズの決定 190
 - ディスクレスクライアントのスワップ空間 174
 - プロファイルの例 146
 - メモリーサイズ 190

せ

整理

- アップグレードの後 139
- セキュリティ
 - root パスワード 211, 212
- セキュリティポリシー
 - 事前設定 44
- 全体ディストリビューションソフトウェアグループ 175
- 全体ディストリビューションと OEM サポートソフトウェアグループ 175

そ

ソフトウェアグループ

- アップグレード 176
- アップグレード時 61
- サイズ 26
- パッケージの指定 187
- プロファイル 175
- プロファイルの例 193
- プロファイル用 175, 176

た

- 対話式インストール 23
 - tip ライン接続 72, 107
 - 利点 23
- 妥当性検査
 - custom_probes ファイル 230, 231
 - custom_probes ファイルの妥当性検査 230
 - rules ファイル 202, 203, 207, 231, 269
- 端末
 - 入出力割り込みの後で再設定する 238
- 端末タイプの事前設定 44

つ

追加

- finish** スクリプトによりパッケージとパッチを 209
- finish** スクリプトによりファイルを 208
- locale.org_dir** テーブルエントリ 55
- OS** サーバー 248
- rules** ファイルにルールを 160, 167
 - アップグレード時にクラスタを 176
 - インストールサーバーの構成情報 249
 - スタンドアロンシステム 248
 - ソフトウェアグループのパッケージ 187
 - データレスクライアント 248

て

- ディスク構成ファイル
 - 作成 213, 215
 - 説明 197, 213, 215
- ディスク容量の計画 25
- ディスクレスクライアント
 - スワップ空間 174
 - プラットフォーム 174
- ディスプレイ
 - 入出力割り込みの後で再設定する 238
- ディレクトリ
 - JumpStart** 148 - 150, 153, 154, 157, 159, 208, 209, 266
 - 変更 150, 154, 157, 203, 231
- ディレクトリの変更
 - ローカルディスクの Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) のイメージへ 150
 - ローカルディスクの Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) のイメージへ 150
- デーモン 283
- テスト
 - rules** ファイルの妥当性検査 269
 - プロファイル 197, 201
- デフォルト
 - partitioning** 176
 - SI_CONFIG_DIR** 変数 208
 - インストールされるソフトウェアグループ 175
 - 動的プロファイル名 207
- 電源管理 45, 56

と

- 等号 (=)、プロファイルフィールドの 207
- 動的プロファイル 206, 207
- トークンリングカードでのブートエラー 281
- ドメイン
 - プローブキーワード 224
 - ルールキーワード 162, 224
- ドメイン名の事前設定 44

な

名前の指定

- custom_probes** ファイル 227
- システムプラットフォーム名 238
- ホスト名 250

名前の割り当て

- rules** ファイル 159, 167
- システムのモデル名 164, 225
- ソフトウェアグループ 175, 176
- 動的プロファイル名 207
- ホスト名 162, 224

に

- 入出力割り込みエラーメッセージ 238

ね

- ネームサーバー 236
- ネームサーバーの事前設定 44
- ネームサービス
 - 事前設定 44
- ネットワークインストール
 - 準備 235
 - 説明 235
- ネットワークインタフェース 44
- ネットワーク上のインストール
 - カスタム **JumpStart** インストール 144
- ネットワーク番号 164, 225

は

- ハードディスク
 - IDE** ドライブの表面検査 285
 - partitioning** 176, 188, 190, 193
 - rootdisk** の値 191

- Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) をインストールサーバーへコピーする 241, 246
- Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) をインストールサーバーへコピーする 241, 246
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) をインストールサーバーへコピーする 240, 245
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) をインストールサーバーへコピーする 240, 245
- Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) をインストールサーバーへコピーする 240, 246
- Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) をインストールサーバーへコピーする 240, 246
- サイズ 162, 165, 174, 224, 225, 240, 245
- スワップ空間 146, 174, 190, 193
- マウント 179
- パス
 - check スクリプト 203, 231
 - インストールサーバーの設定 250
- パスワード、root の 211, 212
- バックスラッシュ、rules ファイル内の 159
- パッケージ
 - chroot により追加 210
 - finish スクリプトによる追加 209
 - 管理ファイル 206
- パッチ 66, 103
 - chroot により追加 210
 - finish スクリプトによる追加 209
 - アップグレードオプションの使用時 61
- ひ
- 非依存型キーワード 46
- 日付の事前設定 45
- 表記上の規則
- 表示
 - tip ライン接続とカスタム JumpStart インストール 255, 260
 - システム情報 239
 - プラットフォーム名 238
 - マウントされたファイルシステム 238
- 表示解像度の事前設定 45
- 表面検査、IDE ドライブの 285

- ふ
- ファイルとファイルシステム
 - begin スクリプト出力 206
 - finish スクリプト出力 208
 - UFS の作成 154
 - コピー 150, 154, 156, 157, 208
 - マウントされたファイルシステムの表示 238
 - リモートファイルシステムのマウント 179
 - ローカルファイルシステムの作成 180
- ブートサーバー
 - サブネット上に作成 244
 - 説明 236
 - ネットワークインストールの要件< 236, 239
- ブート、システムの
 - 端末とディスプレイを再設定する 238
 - 入出力割り込みエラーメッセージ 238
- 複数行のルール、rules ファイル内の 159
- プラットフォーム
 - インストールサーバーの設定 250
 - システム属性とプロファイルの一致 258, 262
 - システム属性とプロファイルの照合 166
 - システムのモデル名 164, 225
 - ディスクレスクライアント 174
 - 名前の決定 238
 - プロンプトキーワード 225
 - ルールキーワード 163, 225
- 不良ブロック 285
- プロンプトキーワード
 - arch 224
 - disks 224
 - domainname 224
 - hostaddress 224
 - hostname 224
 - installed 225
 - karch 225
 - memsize 225
 - model 225
 - network 225
 - osname 225
 - rootdisk 225
 - totaldisk 225
- プロセッサ

- プローブキーワード 224
- ルールキーワード 161, 224
- フロッピーディスク
 - JumpStart ディレクトリ 151, 153
 - Solaris 8 Device Configuration Assistant
フロッピーディスクのコ
ピー 156
 - フォーマット 154, 157
- フロッピーディスクのフォーマット 154
- プロファイル
 - 検査 61, 199
 - コメント 168
 - 作成 167
 - システムとの照合 258, 262
 - システムの照合 166
 - 説明 167, 168
 - テスト 201
 - 動的プロファイル 206, 207
 - 名前の指定 192
 - 要件 159, 168
 - ルールフィールド 161
 - 例 193, 267, 268
- プロファイルキーワード 169, 190
 - backup_media 170
 - boot_device 172
 - client_arch 174
 - client_root 174
 - client_swap 174
 - cluster 175, 176, 193
 - dontuse 176, 190
 - fdisk 177, 193
 - fileys 179, 180, 193
 - geo 182
 - install_type 168, 183, 193
 - isa_bits 184
 - layout_constraint 184
 - locale 186
 - num_clients 187
 - package 187
 - partitioning 176, 188, 190, 193
 - root_device 189
 - system_type 190, 193
 - usedisk 190
 - 大文字と小文字の区別 169

へ

変更、ディレクトリの

- JumpStart ディレクトリへ 203, 231
- ローカルディスクの Solaris 8 SOFTWARE
1 of 2 CD (Intel) のイメージ
へ 157
- ローカルディスクの Solaris 8 SOFTWARE
1 of 2 CD (SPARC) のイメ
ージへ 154

変数

- SI_CONFIG_DIR 208
- SI_PROFILE 207
- SYS_MEMSIZE 200

ほ

- ポインティングデバイスの事前設定 45
- ホスト
 - 名前 162, 224, 250
- ホスト名の事前設定 44
- ボリュームマネージャ
 - Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) ファイ
ルパスと 241, 246
 - Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC)
ファイルパスと 241, 246
 - Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)
ファイルパスと 240
 - Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)
ファイルパスと 240
 - Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)
ファイルパスと 240, 246
 - Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)
ファイルパスと 240, 246
- コピー 153, 156, 157

ま

- マイクロプロセッサ
 - プローブキーワード 224
 - ルールキーワード 161, 224
- マウント
 - begin スクリプトの注意事項 206
 - Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) 241,
246
 - Solaris 8 LANGUAGES CD
(SPARC) 241, 246
 - Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD
(Intel) 240

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD
(SPARC) 240
Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD
(Intel) 240, 246
Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD
(SPARC) 240, 246
Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel) 245
Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC) 245
Solaris 8 インストールによる 208
マウントされたファイルシステムの表
示 238
リモートファイルシステムの 179
マッピング、IDE ドライブの不良ブロック
の 285

め

メモリー
インストール量の表示 239
スワップ空間のサイズ 190
プローブキーワード 225
ルールキーワード 163, 225

も

モデル名 239
モニタータイプの事前設定 45
問題の解決
一般的なインストールの問題 282
入出力割り込みメッセージ 238
間違ったサーバーからのブート 282

ゆ

ユーザーが介入しないインストール
要件 24
ユーザーロケールの値(表) 291

よ

要件
custom_probes ファイル 227
ネットワークインストール 235, 239
ネットワークでのインストール 24
プロファイル 159, 168

り

リモートファイルシステム
マウント 179

る

ルート (/) ファイルシステム
JumpStart で設定される値 191
プロファイルの例 146
ルート環境を finish スクリプトでカスタマイ
ズする 211

ルール

rootdisk 照合ルール 191
構文 160
照合順序 166, 258, 262
妥当性の検査 203, 231
動的プロファイル 206, 207
フィールドの説明 160, 161
複数行のルール 159
例 166
ルールキーワード 161
any 161, 224
arch 161, 224
disksize 162, 224
domainname 162, 224
hostaddress 162, 224
hostname 161, 162, 224
installed 163, 225
karch 163, 225
memsize 163, 225
model 164, 225
network 164, 225
osname 164, 225
probe 165
totaldisk 165, 225

ろ

ログファイル
begin スクリプト出力 206
finish スクリプト出力 208
アップグレードインストール 62
ロケールファイル 54
論理積ルールフィールド 160